

佐賀市文化財調査報告書第32集

むら とく なが 遺 跡
村 徳 永

— E ・ F ・ G ・ H 地区の調査 —

平成2年3月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

この報告書は、農業基盤整備事業の施工に先がけて、佐賀市教育委員会が平成元年度に発掘調査を実施した村徳永遺跡（E・F・G・H地区）の発掘調査報告書であります。

昭和63年度に引き続いて行なった調査により、この村徳永遺跡は、縄文時代から鎌倉、室町時代にかけての遺跡であることが新たに明らかになりました。

特に弥生時代の集落跡は広い範囲にわたって確認されており、検出した遺構や遺物も貴重なものが多く得られています。遺構は掘立柱建物、竪穴住居、井戸、土壇、周溝状遺構、溝など多数を検出しており、その中でも掘立柱建物は検出した棟数の多さもさることながら、柱穴の多くから柱が出土しており、弥生時代の建築技術を考えるうえで興味深い資料であると思われます。遺物は鐔形土製品や木製農耕具をはじめとして、多くの土器・木器が出土しています。

これらの資料は佐賀市における弥生時代の人々の生活を知るうえで欠かすことの出来ない貴重なものであり、この発掘調査報告書とともに、郷土の文化財に対する認識と理解に少しでも役立てば幸甚に存じます。

なお、調査に際しまして、ご協力いただきました佐賀県農林部、佐賀県教育委員会、並びに地元の方々に対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

平成2年3月

佐賀市教育委員会

教育長 山 田 清 人

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成元年度に実施した村徳永遺跡E・F・G・H地区の発掘調査報告書である。
2. 調査は佐賀県農林部の委託を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在および規模などは以下のとおり。

遺跡登録番号	2037・3054・5023	遺跡略号	MTN-E・F・G・H
調査地	佐賀市久保泉町大字上和泉字徳永	開発面積	220,000m ²
調査対象面積	64,500m ²	調査実施面積	9,417m ²
遺跡調査番号	0106	調査期間	平成元年6月7日～同年12月20日

4. 発掘作業・整理事業・報告書作成の分担は以下のとおり。

表土除去	有限会社 江下建設
空中写真	有限会社 空中写真企画
遺構実測	新九州測量設計株式会社（現 埋蔵文化財サポートシステム）
個別遺構実測	木島慎治・加藤元信・西田巖・友添丸子・龍由美子・副島カスミ・原京子
遺構・遺物写真	木島慎治・加藤元信・西田巖
遺物復元	島京子・新郷クニ子・吉田典子
遺物実測	木島慎治・加藤元信・西田巖・島京子・新郷クニ子・吉田典子
製図	福田義彦・前田達男・木島慎治・西田巖

5. 調査・整理記録及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町大字本庄1121）で一括保管している。巻末の収蔵品目録を参照されたい。
6. 本書の執筆・編集は、西田の支援を受け、木島がこれにあたった。

凡 例

1. 遺構については略記号を用いる。調査区ごとに連番号をつけ、番号の前に遺構分類記号をつけた。分類は以下のとおり。

SA：柵列	SB：掘立柱建物	SC：箱式石棺墓・石蓋土墳墓	SD：溝	SE：井戸	SH：竪穴住居	SJ：甕棺墓
SK：土墳	SP：土墳墓・木棺墓	SR：周溝状遺構	SS：支石墓	ST：古墳	SX：不明遺構	P：小穴・柱穴

2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはcm単位とした。
3. 特に注記のないかぎり、表示した方位はすべて座標北（G.N.）である。遺構の方位角を表示する場合は1°単位でこれを行なう。

本文目次

I. 序 説	1	(3) 竪穴住居と出土遺物	41
1. 調査に至る経過	1	(4) 井戸と出土遺物	42
2. 調査の組織	1	(5) 土壌と出土遺物	55
II. 遺跡の位置と環境	2	(6) 溝と出土遺物	58
1. 地理的環境	2	3. 古墳時代の遺構と遺物	63
2. 歴史的環境	2	(1) 土壌と出土遺物	63
III. 調査の概要	4	4. 平安時代の遺構と遺物	64
IV. 調査の記録 - E地区 -	6	(1) 土壌と出土遺物	64
1. 弥生時代の遺構と遺物	6	VI. 調査の記録 - G地区 -	67
(1) 井戸と出土遺物	6	1. 弥生時代の遺構と遺物	67
(2) 土壌と出土遺物	7	(1) 掘立柱建物と出土遺物	67
(3) 甕棺墓と出土遺物	7	(2) 竪穴住居と出土遺物	71
2. 平安時代以降の遺構と遺物	9	(3) 井戸と出土遺物	79
(1) 井戸と出土遺物	9	(4) 土壌と出土遺物	79
(2) 土壌と出土遺物	9	(5) 溝と出土遺物	84
(3) 溝と出土遺物	12	VII. 調査の記録 - H地区 -	89
(4) 掘立柱建物と出土遺物	14	1. 弥生時代の遺構と遺物	89
V. 調査の記録 - F地区 -	16	(1) 掘立柱建物と出土遺物	89
1. 縄文時代の遺構と遺物	16	(2) 竪穴住居と出土遺物	89
(1) 土壌と出土遺物	16	(3) 井戸と出土遺物	90
2. 弥生時代の遺構と遺物	18	(4) 甕棺墓と出土遺物	91
(1) 掘立柱建物と出土遺物	18	VIII. その他の出土遺物	94
(2) 周溝状遺構と出土遺物	34	IX. 小 結	99

挿図目次

Fig. 1 村徳永遺跡周辺遺跡分布図	3	Fig. 16 S K021出土遺物実測図	12
Fig. 2 村徳永遺跡E・F・G・H地区調査区配置図及びグリッド設定図	5	Fig. 17 S D024出土遺物実測図	13
Fig. 3 S E044井戸実測図	6	Fig. 18 S D040出土遺物実測図	14
Fig. 4 S E044出土遺物実測図	6	Fig. 19 S B134掘立柱建物実測図	14
Fig. 5 S K039土壌実測図	7	Fig. 20 村徳永遺跡E地区遺構配置図	15
Fig. 6 S K039出土遺物実測図	7	Fig. 21 S K024土壌実測図	16
Fig. 7 S J036・037・038甕棺墓実測図	8	Fig. 22 S K024出土遺物実測図	17
Fig. 8 S J036・037・038甕棺実測図	8	Fig. 23 S B010掘立柱建物実測図	18
Fig. 9 S E002井戸実測図	9	Fig. 24 S B011掘立柱建物実測図	19
Fig. 10 S E002出土遺物実測図	9	Fig. 25 S B011出土遺物実測図	19
Fig. 11 S K008土壌実測図	10	Fig. 26 S B012・S B013掘立柱建物実測図	20
Fig. 12 S K008出土遺物実測図	10	Fig. 27 S B012・S B013出土遺物実測図	21
Fig. 13 S K009土壌実測図	11	Fig. 28 S B015掘立柱建物実測図	22
Fig. 14 S K009出土遺物実測図	11	Fig. 29 S B015出土遺物実測図	23
Fig. 15 S K021土壌実測図	12	Fig. 30 S B017掘立柱建物実測図	23

Fig. 31	S B019・S B025掘立柱建物実測図	24	Fig. 83	S D081・S D103出土遺物実測図	62
Fig. 32	S B044・S B069掘立柱建物実測図	25	Fig. 84	S K152土壌実測図	63
Fig. 33	S B044出土遺物実測図	26	Fig. 85	S K152出土遺物実測図	63
Fig. 34	S B070出土遺物実測図	26	Fig. 86	S K003土壌実測図及び出土遺物実測図	64
Fig. 35	S B070・S B071掘立柱建物実測図	27	Fig. 87	村徳永遺跡F地区遺構配置図(1)	64
Fig. 36	S B072掘立柱建物実測図	28	Fig. 88	村徳永遺跡F地区遺構配置図(2)	65
Fig. 37	S B073掘立柱建物実測図	28	Fig. 89	村徳永遺跡F地区遺構配置図(3)	66
Fig. 38	S B075出土遺物実測図	29	Fig. 90	S B331・S B332掘立柱建物実測図	67
Fig. 39	S B074・S B075掘立柱建物実測図	29	Fig. 91	S B331出土遺物実測図	68
Fig. 40	S B079掘立柱建物実測図	30	Fig. 92	S B333掘立柱建物実測図	69
Fig. 41	S B083・S B085・S B086・S B087掘立柱建物実測図	31	Fig. 93	S B333出土遺物実測図	70
Fig. 42	S B088掘立柱建物実測図	32	Fig. 94	S B335・S B339掘立柱建物実測図	70
Fig. 43	S B128掘立柱建物実測図	32	Fig. 95	S B335・S B339出土遺物実測図	71
Fig. 44	S B129掘立柱建物実測図	33	Fig. 96	S H102竪穴住居実測図	71
Fig. 45	S B137掘立柱建物実測図	33	Fig. 97	S H102出土遺物実測図	72
Fig. 46	S B137出土遺物実測図	34	Fig. 98	S H307竪穴住居実測図	73
Fig. 47	S R045周溝状遺構実測図	34	Fig. 99	S H308・S H309竪穴住居実測図	74
Fig. 48	S R046周溝状遺構実測図	35	Fig. 100	S H308・S H309,その他出土遺物実測図	75
Fig. 49	S R046出土遺物実測図	35	Fig. 101	S H310竪穴住居実測図	76
Fig. 50	S R047周溝状遺構実測図	36	Fig. 102	S H310出土遺物実測図	77
Fig. 51	S R047出土遺物実測図	37	Fig. 103	S H312・S H313竪穴住居実測図	78
Fig. 52	S R065・S R066・S R067周溝状遺構実測図	38	Fig. 104	S H312出土遺物実測図	78
Fig. 53	S R066出土遺物実測図(1)	39	Fig. 105	S E353井戸実測図	79
Fig. 54	S R066出土遺物実測図(2)	40	Fig. 106	S E353出土遺物実測図	80
Fig. 55	S R113周溝状遺構実測図	40	Fig. 107	S K320・S K326土壌実測図	80
Fig. 56	S R113出土遺物実測図	41	Fig. 108	S K320・S K326出土遺物実測図	81
Fig. 57	S H051竪穴住居実測図	41	Fig. 109	S K355・S K356土壌実測図	82
Fig. 58	S H051出土遺物実測図	42	Fig. 110	S K355出土遺物実測図	82
Fig. 59	S E002井戸実測図	42	Fig. 111	S K356出土遺物実測図	83
Fig. 60	S E002出土遺物実測図(1)	43	Fig. 112	S K354・S K370土壌実測図	84
Fig. 61	S E002出土遺物実測図(2)	44	Fig. 113	S D321溝実測図及び出土遺物実測図	85
Fig. 62	S E021井戸実測図	45	Fig. 114	村徳永G地区遺構配置図(1)	86
Fig. 63	S E021出土遺物実測図(1)	46	Fig. 115	村徳永G地区遺構配置図(2)	87
Fig. 64	S E021出土遺物実測図(2)	47	Fig. 116	村徳永G地区遺構配置図(3)	88
Fig. 65	S E021出土遺物実測図(3)	48	Fig. 117	S B044掘立柱建物実測図	89
Fig. 66	S E022井戸実測図	49	Fig. 118	S H004竪穴住居実測図及び出土遺物実測図	90
Fig. 67	S E022出土遺物実測図	49	Fig. 119	S E001井戸実測図及び出土遺物実測図	90
Fig. 68	S E023井戸実測図	50	Fig. 120	S J005甕棺墓実測図	91
Fig. 69	S E023出土遺物実測図	51	Fig. 121	S J006・S J007甕棺墓実測図及び出土甕棺実測図	92
Fig. 70	S E054井戸実測図	52	Fig. 122	村徳永遺跡H地区遺構配置図	93
Fig. 71	S E109・133井戸実測図	53	Fig. 123	その他の出土遺物実測図(1)	95
Fig. 72	S E054・S E109・S E133出土遺物実測図	54	Fig. 124	その他の出土遺物実測図(2)	96
Fig. 73	S K041土壌実測図	55	Fig. 125	その他の出土遺物実測図(3)	97
Fig. 74	S K041出土遺物実測図	55	Fig. 126	その他の出土遺物実測図(4)	98
Fig. 75	S K094土壌実測図	56			
Fig. 76	S K131土壌実測図	56			
Fig. 77	S K094出土遺物実測図	57			
Fig. 78	S K131出土遺物実測図	58			
Fig. 79	S D001・S D040・S D081・S D103溝土層断面図	58			
Fig. 80	S D001出土遺物実測図	59			
Fig. 81	S D040出土遺物実測図(1)	60			
Fig. 82	S D040出土遺物実測図(2)	61			

I. 序 説

1. 調査にいたる経過

平成元年度の久保泉西部地区における農業基盤整備事業は、22ha という広域な範囲にわたってその工事計画がなされた。これに伴い、昭和63年11月に当該地区の埋蔵文化財確認調査を実施した。調査は、削平を免れない水路計画部分や高畑部分を中心に行ない、遺構面までの深さが浅く削平を受けることが予想された地域についても試掘坑を設定した。試掘坑の掘削は機械力及び人力で行なった。この調査の結果、75,400㎡に及ぶ遺跡（村徳永遺跡・古村遺跡）の存在が確認された。この調査結果をもとに佐賀県農林部、佐賀県文化課、佐賀市土地改良課、佐賀市教育委員会の四者で埋蔵文化財の保護に関する協議を実施した。協議を重ねた結果、水路建設により掘削を受ける部分と工事の切り土により削平を受ける部分12,556㎡について発掘調査を実施することとなった。このうち、村徳永遺跡については9,417㎡を農林部委託事業として発掘調査を実施し、記録保存を図ることとした。

発掘調査地が広域にわたるため、便宜的に調査区をE・F・G・H地区に分けた。発掘調査は平成元年6月7日から開始した。調査地は水位が高いせいか、湧水が激しく、水はけもよくない地域であり、そのうえ、調査時期が田植えの時期と部分的に重なったことから、調査は困難をきわめた。水の問題もさることながら、検出遺構・出土遺物も当初の予想をはるかに越えたものとなったため、調査期間を延長し、平成元年12月20日にすべての現場作業を終了した。出土遺物の整理作業及び発掘調査報告書作成は佐賀市文化財資料館で行なった。

2. 調査の組織

調査主体 佐賀市教育委員会

事務局 佐賀市教育委員会 社会教育課

社会教育課長 古川靖邦

課長補佐兼文化係長 中野和彦

事務吏員 甲木亮一（庶務担当）

木島慎治（調査担当）

嘱託員 加藤元信（調査担当）

西田 巖（調査担当）

発掘作業員 生田美代子・大野ユキエ・後藤美智江・成富寿子・原ミチエ・広瀬八重子・広瀬幸子・宮地峰子・村川キクエ・内村美里・小出賀澄・角田絹子・角田千代乃・富永ツヤ子・杉町スミ子・野中津多江・松林喜美子・荒巻勝代・今泉テル子・今泉富美枝・緒方道江・金崎タキヨ・福田スマ子・内田和子・西原和子・納富ミサオ・中牟田テル子・中島文子・野田セキ子・野田富子・野田美智子・野中ツルヨ・広

重サナエ・古川クラ・納富直子・平原ヒロミ・杉町英子・友添丸子・原京子・副島カスミ・龍由美子・原ケサ代・武藤ツルヨ・木塚トシ子・亀川すえみ・宮地富子・中尾清子・松本のり子・緒方敏子・原ナミ子・小林澄子・山木江美子・畑瀬弘・下村保枝・森田ツルヨ・千住フジ子・深町俊子・小山和枝・江口淳子・石橋由美子・三位保子・高蔵公子・大木和子・千布フミエ・副島克代・小柳恵子・香月ミツコ

調査協力 佐賀県教育委員会・佐賀県農林部・中部農林事務所・佐賀市土地改良課・久保泉土地改良区・地元各位

II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置 (Fig. 1)

佐賀市は佐賀県の東南部に位置し、東は神埼・千代田・諸富町、西は大和・三日月町、北は大和町と接している。市の北部には脊振山系が連なっており、その南麓には舌状丘陵が形成され、それより南には沖積平野が広がっている。

遺跡はこのような平野部に位置しており、標高5.5～7.0mを測る。調査区の西方約200mには巨勢川がほぼ南北にその流路をとり、南には県道小城・北茂安線が東西に走っており、調査区に北隣して金泉中学校がある。周辺は水田あるいは畑として利用されている。一帯に広がる水田に大きな起伏はないものの、わずかに認められる比高差から旧地形を推察することができる。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

佐賀市内には数多くの遺跡が存在し、その中心地域となるのが脊振山麓部一帯及びそこから南へ広がる平野部であり、遺跡の分布密度は非常に高い。以下、Fig. 1内の地域に限って周辺遺跡を概観する。縄文時代では、前期・後期・晩期土器を出土した大門遺跡^{註1}、中期・後期の土器・石器を出土した来迎寺遺跡^{註2}、晩期支石墓が検出された丸山遺跡^{註3}・黒土原遺跡^{註4}がある。支石墓については村徳永遺跡^{註5}においても近年まで存在していたという地元の話がある。弥生時代の集落遺跡としては、琵琶原遺跡^{註6}・立野遺跡^{註7}・泉三本栗遺跡^{註8}の調査が行なわれており、特に琵琶原遺跡では後期から終末期にかけての竪穴住居が53軒検出されている。東千布遺跡^{註9}では前期から中期にかけての甕棺墓群が調査されている。古墳時代においては銚子塚や関行丸古墳^{註10}などの前方後円墳をはじめとして、大門・金立・西原古墳群、丸山古墳など数多くの古墳が存在する。しかし、集落遺跡の調査はほとんど行なわれておらず、琵琶原遺跡・西原遺跡^{註11}・泉三本栗遺跡^{註12}などで数軒の住居が調査された程度である。奈良・平安時代においては大日遺跡^{註13}・上和泉遺跡^{註14}・泉三本栗遺跡^{註15}・古村遺跡などで集落の一部が調査されている。中世においては年々調査例がふえており、村徳永遺跡・立野遺跡、地域外ではあるが本村遺跡などの調査例がある。

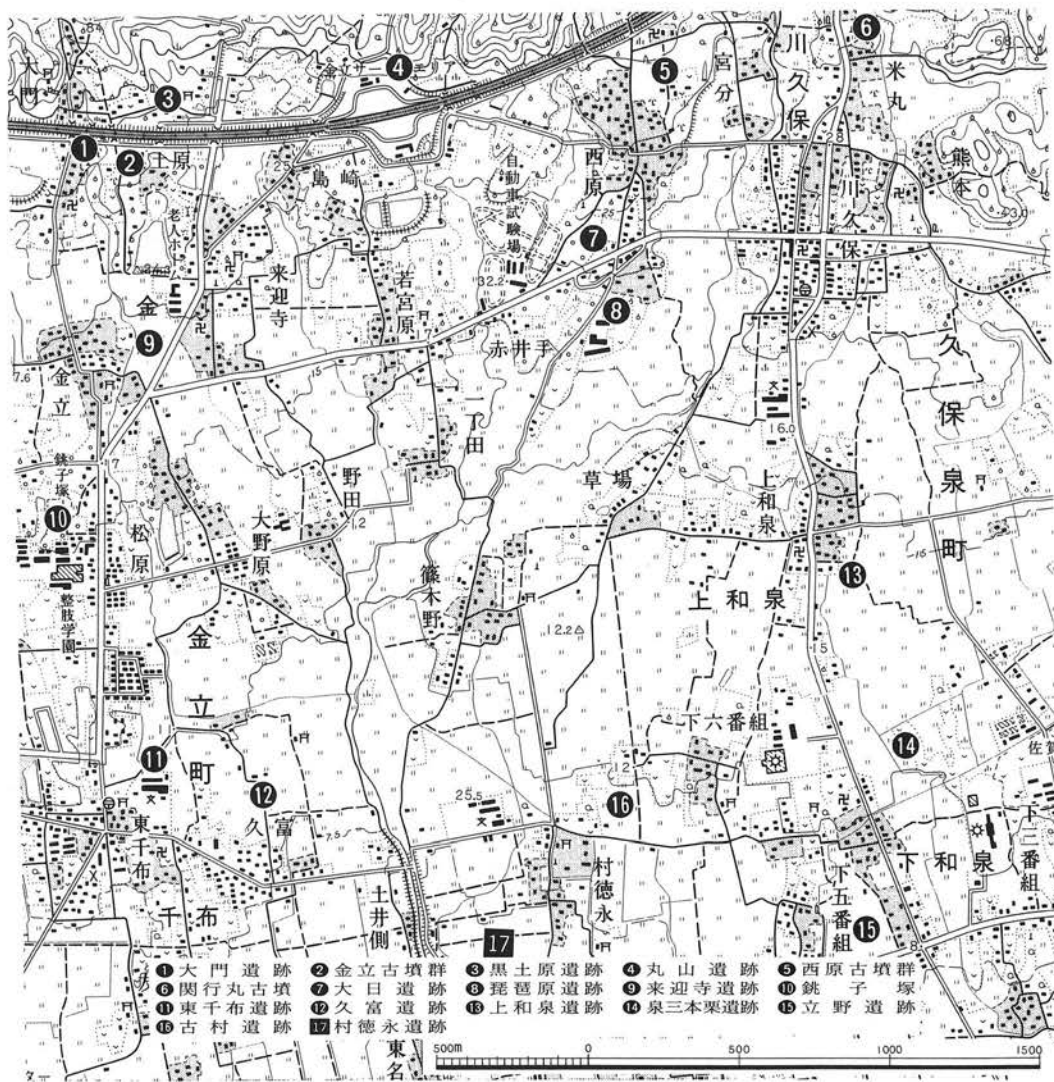


Fig. 1 村徳永遺跡周辺遺跡分布図 (S = 1/25,000)

註

- 註1) 木下之治編『大門遺跡』佐賀市文化財調査報告書第9集 佐賀市教育委員会 昭和48年
 註2) 加藤元信『来迎寺遺跡』佐賀市文化財調査報告書第27集 佐賀市教育委員会 平成2年
 註3) 東中川忠美『丸山遺跡』九州横断自動車道関保埋蔵文化財発掘調査報告書(5) 佐賀県教育委員会 昭和61年
 註4) 福田義彦『黒土原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第19集 佐賀市教育委員会 昭和62年
 註5) 福田義彦『琵琶原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第13集 佐賀市教育委員会 昭和56年
 註6) 福田義彦『立野遺跡』佐賀市文化財調査報告書第24集 佐賀市教育委員会 平成元年
 註7) 福田義彦『泉三本栗遺跡』佐賀市文化財調査報告書第18集 佐賀市教育委員会 昭和62年
 註8) 福田義彦『東千布遺跡』佐賀市文化財調査報告書第15集 佐賀市教育委員会 昭和60年
 註9) 木下之治編『銚子塚』佐賀市教育委員会 昭和60年
 註10) 渡辺正気『佐賀市関行丸古墳』佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯 佐賀県教育委員会 昭和60年
 註11) 木島慎治『大日遺跡』佐賀市文化財調査報告書第25集 佐賀市教育委員会 平成元年
 註12) 福田義彦『上和泉遺跡』佐賀市文化財調査報告書第20・21集 佐賀市教育委員会 昭和63年
 註13) 木島慎治『古村遺跡』佐賀市文化財調査報告書第28集 佐賀市教育委員会 平成2年
 註14) 木島慎治『村徳永遺跡』佐賀市文化財調査報告書第26集 佐賀市教育委員会 平成元年
 註15) 前田達男『本村遺跡』佐賀市文化財調査報告書第29集 佐賀市教育委員会 平成2年

III. 調査の概要

調査は機械力による表土除去作業から開始した。20～90cmの現水田耕作土を除去すると、直下はすぐに遺構面であり、遺物包含層は存在しない。遺構面は若干削平を受けているものの残存状態は比較的良好であった。地山は黄褐色～暗黄褐色の砂質土ないしはやや粘性のある土であり、50～70cm以下は淡灰色砂層に変化している。遺構埋土は、黒褐色土を基本とする。

表土除去後、国土座標にあわせてグリッドを設定し、人力による遺構検出後に、このグリッドを利用して遺構配置図を作成した。遺構検出及び遺構掘り方作業は原則としてこのグリッドに沿って行なうこととした。

グリッドは今後の調査にも対応できるように、村徳永遺跡全体を包括する形で5 m 方眼を設定した。国土座標 $X = +33K400$ 、 $Y = -63K900$ の交点を基準とし、そこから北にAA、AB、AC…、東に1、2、3…と名称を与え、各グリッドの呼び名はAA-1、AA-2と表示することとした。

E地区において検出した遺構は掘立柱建物1棟、井戸5基、土壇104基、溝21条で、その殆どが平安時代から中世にかけてのものである。弥生時代のものとしては甕棺墓3基、土壇2基、井戸2基が確認されている。

今回の調査で主要をなすのはF・G・H地区で検出された弥生時代の遺構・遺物である。

掘立柱建物は不確実なものも含めて、約70棟を確認した。すべて弥生時代のものと考えられ、F地区の東西部分とG地区の西端部分に集中する。確認した棟数の多さもさることながら、特筆すべきは柱穴の大部分から柱根が検出されたことである。柱の下部構造はバラエティーに富み、建物の構造や弥生時代の建築技術を考えるうえで非常に興味深いものがある。その中でも特にF地区とG地区で検出した布掘り状（誤解を招きやすく、適切な表現ではないが）とでも呼べるような平面正形状の建物の存在は注目される。

竪穴住居はその多くがG地区に集中し、22軒を検出した。隅丸方形ないしは隅丸長方形を基調とし、二本柱構造のものがその大部分を占める。円形炉跡、方形炉跡を持ち、ベッド状遺構を持つものもある。調査区が狭いため完全に検出したのは3軒のみである。

検出した土壇の殆どは弥生時代のものであるが、中には縄文晩期の土器・石器とともに梯子を伴った土壇も存在する。

井戸は13基を検出した。井戸では弥生土器とともに木製農具、その他木器・木器未製品が数多く出土しており、保存状態も比較的良好であった。

溝は数状を検出したが、調査区が狭小なため全容は掴めなかった。

今回の発掘調査では、開発事業の性格上全面発掘には至らず、その全容を掴むことはできなかったが、集落を構成する遺構群はかなり豊富であり、弥生時代の集落形態を考えるうえでかなり重要な資料を提供している。

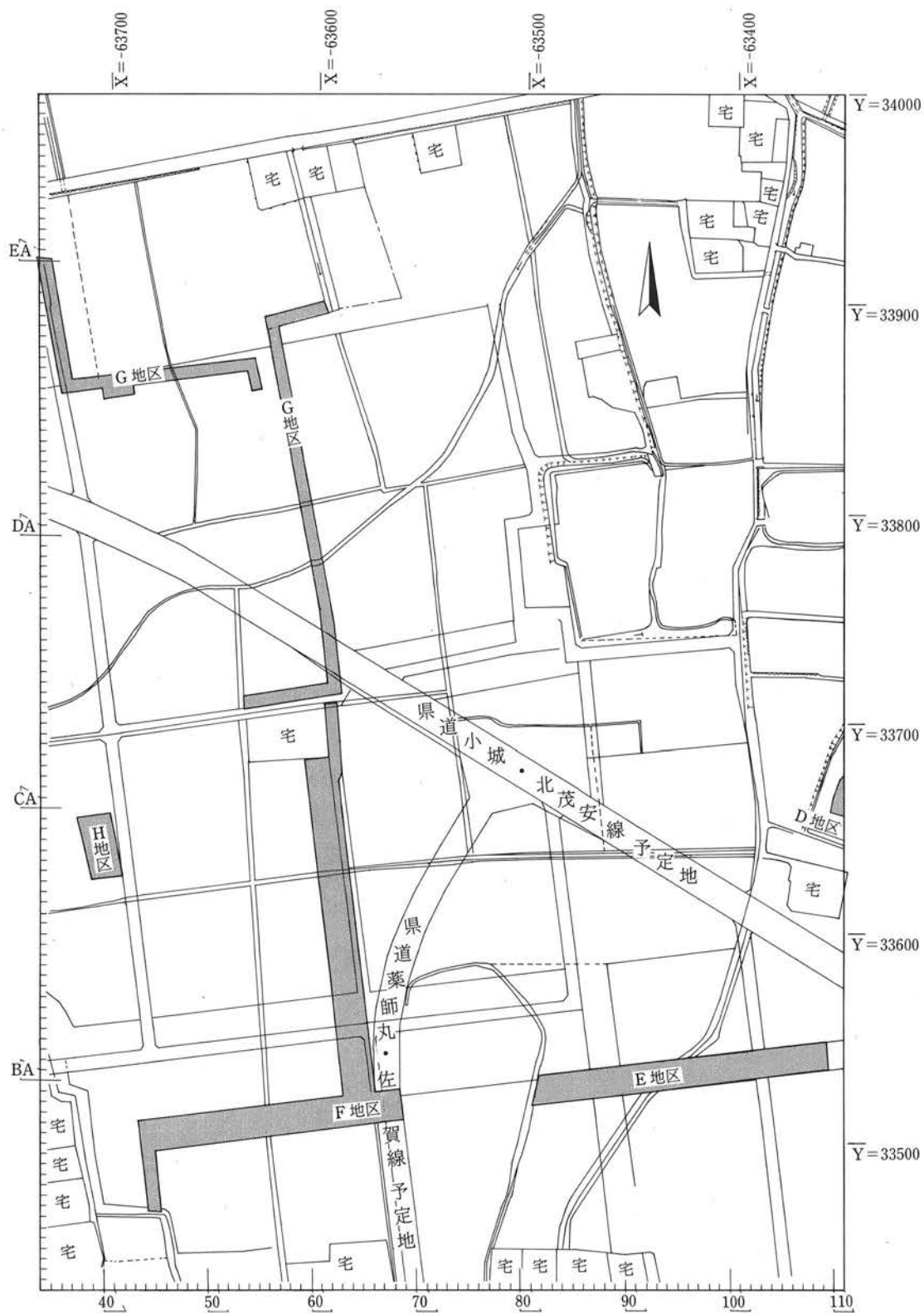


Fig. 2 村徳永遺跡E・F・G・H地区調査区配置図及びグリッド設定図(S=1/3,000)

IV. 調査の記録 — E 地区 —

1. 弥生時代の遺構と遺物

(1) 井戸と出土遺物

S E 044井戸 (Fig. 3)

AZ-84・85、BA-84・85グリッドで検出した。平面形は長径1.5m、短径1.2mのやや歪んだ楕円形を呈し、深さ0.95mを測る。素掘りの井戸で、遺構底面は平坦である。深さが浅いことから土壌である可能性も考えられるが、ここでは井戸として報告する。

S E 044出土遺物 (Fig. 4)

甕 (1・3) 1は復元口径31.6cmを測る。口縁部には横ナデ調整、胴部外面にはハケ目調整を行なう。3は底部で、底径8.2cmを測る。外器面にはハケ目調整、内器面及び外底部にはナデ調整を行なう。1・3ともに黄褐色を呈し、外器面の一部に黒斑が見られる。

高坏 (2) 口縁部片である。復元口径30.8cmを測る。口縁部は幅広く内面へ発達し、口縁直下に稜を有する。器面全体に横ナデ調整を行なう。淡黄褐色を呈する。

鉢 (4・5) 4は復元口径13.8cm、器高6.8cm、復元底径5.2cmを測る。内・外器面ともに上半部には横ナデ調整、下半部にはナデ調整を行なう。胴部内面中位に指頭圧痕を有する。5は復元口径12.5cm、器高8.3cm、底径5.6cmを測る。口縁部は屈曲し上方に立ち上がる。口縁部には横ナデ調整、内器面上位には指押さえ、下位にはケズリ痕が認められる。外器面は器面の剝離が著しいが、ナデ調整を行ない、黒斑が認められる。2点とも黄褐色を呈する。

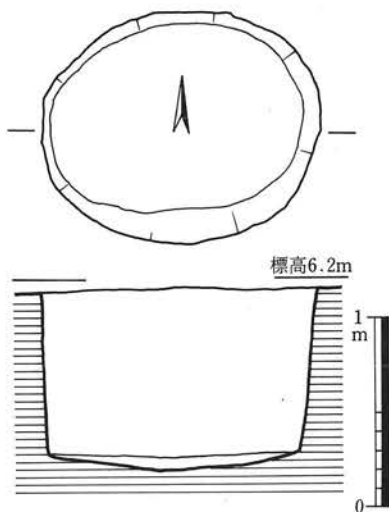


Fig. 3 S E 044井戸実測図
(S = 1/40)

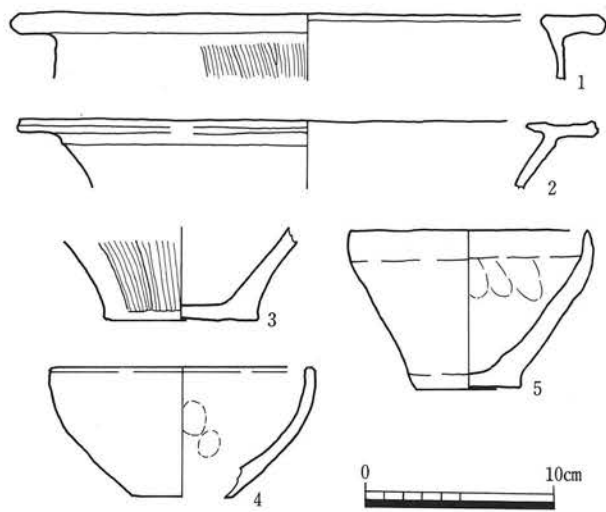


Fig. 4 S E 044出土遺物実測図
(S = 1/4)

(2)土壌と出土遺物

S K 039土壌 (Fig. 5)

BA-87グリッドで検出した。平面形は長径1.06m、短径0.67mの不整楕円形を呈し、深さ0.4mを測る。西側に平坦面をもつ。遺構底面は西側に傾斜している。埋土は黒褐色である。

S K 039出土遺物 (Fig. 6)

甕 (6・7) 6は復元口径26.6cm。胴部外面にはハケ目調整、内面にはナデ調整を行なう。口縁部は基本的には横ナデ調整だが、上面にはハケ目調整の後にナデ調整を行なう。口縁直下もハケ目調整の後に横ナデ調整を行なう。外器面全面に煤の付着が著しい。7は復元口径18.6cm、器高18.3cm、底径8.4cmを測る。胴部外面にはハケ目調整、口縁部には横ナデ調整、胴部内面にはナデ調整を行なう。外器面にはかすかに丹の付着が認められ、部分的に黒斑を有する。

(3)甕棺墓と出土遺物

3基を検出したが、いずれも激しい削平を受け、遺構上面を欠失している。

S J 036甕棺墓 (Fig. 7)

BA-88グリッドで検出した。平面形は長径0.64m、短径0.48mの楕円形で深さ0.4mを測る。掘方断面はU字状を呈する。埋土は黒褐色。小児棺である。

S J 037甕棺墓 (Fig. 7)

AZ-88・89グリッドで検出した。平面形は、長軸0.51m、短軸0.38mの隅丸長方形で、深さ0.31mを測る。掘方断面はU字状を呈する。埋土は黒褐色。小児棺である。

S J 038甕棺墓 (Fig. 7)

BB-88グリッドで検出した。平面形は、長径0.66m、短径0.52mの楕円形で、深さ0.22mを測る。掘方断面はやや扁平なU字状を呈する。埋土は黒褐色。小児棺である。

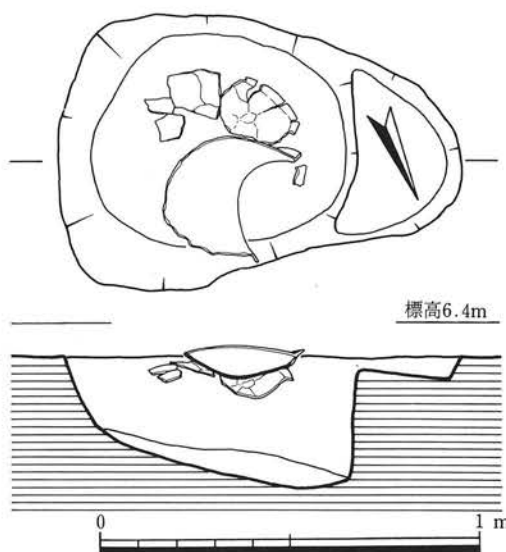


Fig. 5 S K 039土壌実測図 (S = 1/20)

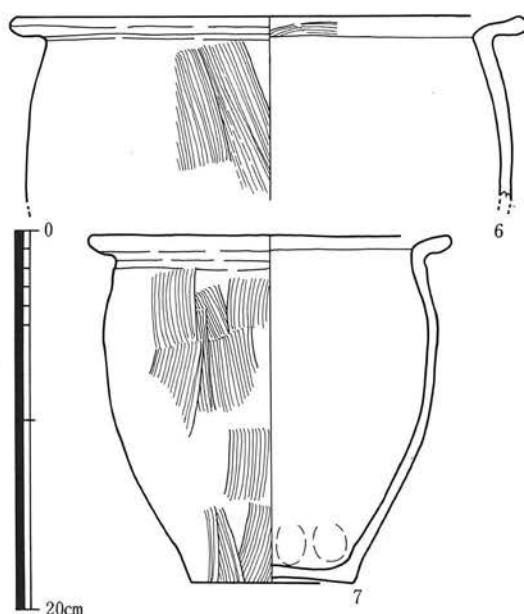


Fig. 6 S K 039出土遺物実測図 (S = 1/4)

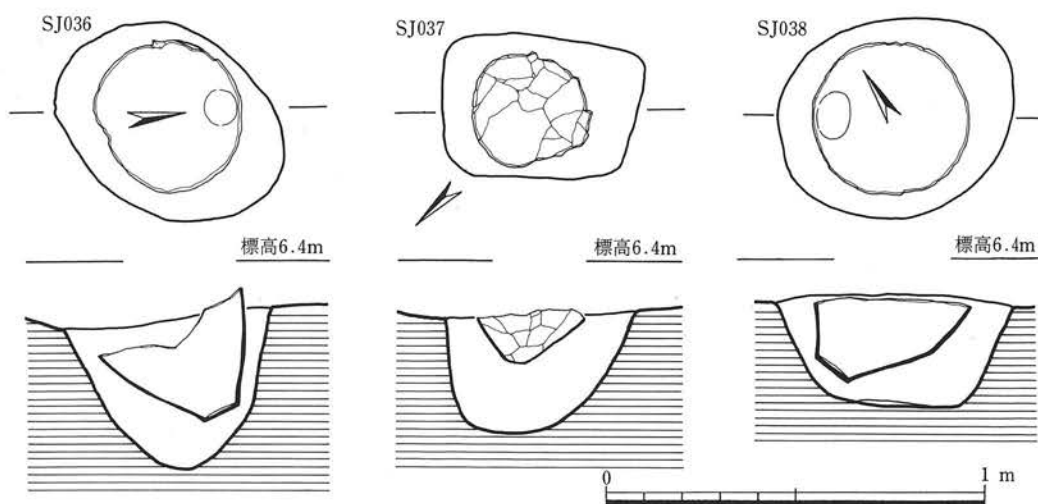


Fig. 7 S J 036・037・038甕棺墓実測図 (S = 1/20)

S J 036・037・038出土甕棺 (Fig. 8)

3点とも胴部上半を欠失する。8は底径9.5cmを測り、胴部中位に突帯をもつ。外器面にはハケ目調整、外器面にはナデ調整を行なう。丹塗りである。9は底径11.6cmを測る。外器面にはハケ目調整、内器面にはナデ調整を行なう。底部内面には指頭圧痕を残す。10は底径11.8cmで、外器面にはハケ目調整、内器面にはナデ調整を行なう。底部内面には指頭圧痕を残す。

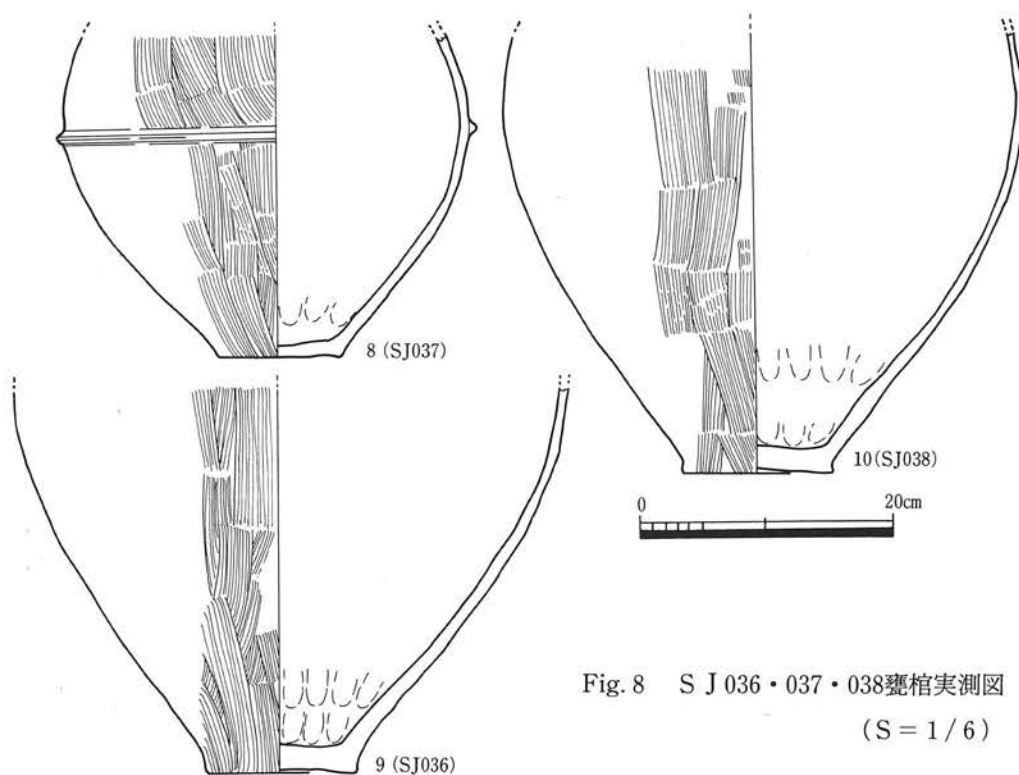


Fig. 8 S J 036・037・038甕棺実測図
(S = 1 / 6)

2. 平安時代以降の遺構と遺物

(1) 井戸と出土遺物

S E 002井戸 (Fig. 9)

BB-106、BC-106グリッドで検出した。平面形は長径1.8cm、短径1.53cmの楕円形を呈する。湧水のため、完掘できなかった。素掘りの井戸で、二段掘りになっている。

S E 002出土遺物 (Fig.10)

青磁碗 (11~14) 11は復元口径16.0cm、器高6.7cm、高台径5.7cmを測る。外面には蓮弁文を有し、高台畳付部にまで施釉が及ぶ。内・外面ともに細かい貫入が入る。灰緑色を呈する。12は復元口径15.6cm、器高6.3cm、高台径5.5cmを測る。外面には蓮弁文を有し、高台外面まで施釉が及ぶ。淡緑色を呈する。13・14は復元口径15.8cmを測る。13は外面に蓮弁文を有し、淡緑色を呈する。14は無文であり、淡暗灰緑色を呈する。

土師器小皿 (15) 糸切りの小皿である。復元口径8.8cm、復元底径7.7cm、器高1.1cmを測る。体部には横ナデ調整、内底部にはナデ調整を行なう。 (S = 1/40)

瓦器碗 (16) 復元口径16.2cmを測る。器面調整は磨耗のため不明瞭である。暗灰色ないしは灰白色を呈する。

(2) 土壌と出土遺物

S K 008土壌 (Fig.11)

BB-103・104グリッドで検出した。平面形は長軸2.75m、短軸1.7mの不整楕円形を呈し、深さ0.4mを測る。南北両側に平坦面をもち、二段の掘り込みになっている。床面はほぼ平坦である。埋土は黒色ないしは黒褐色土である。S K 005・009土壌に切られる。

S K 008出土遺物 (Fig.12)

瓦器碗 (17・18) 17は復元口径17cm、復元高台径4.6cm、器高7.0cmを測る。器面の磨耗が

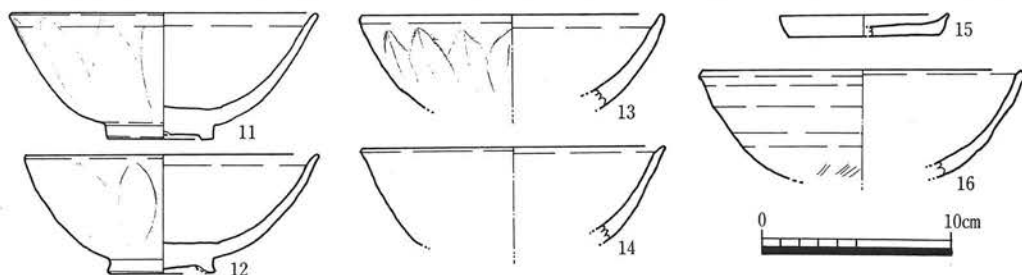


Fig. 10 S E 002出土遺物実測図 (S = 1/4)

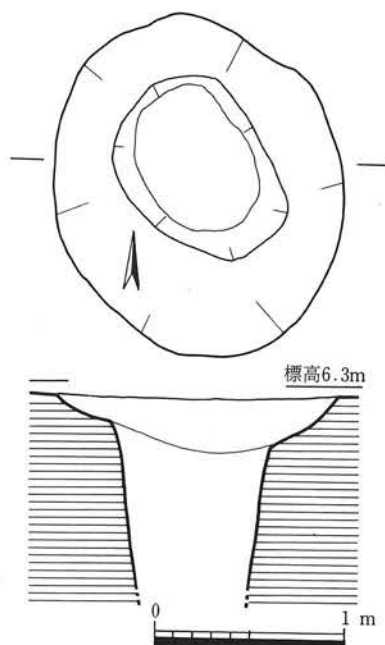


Fig. 9 S E 002井戸実測図

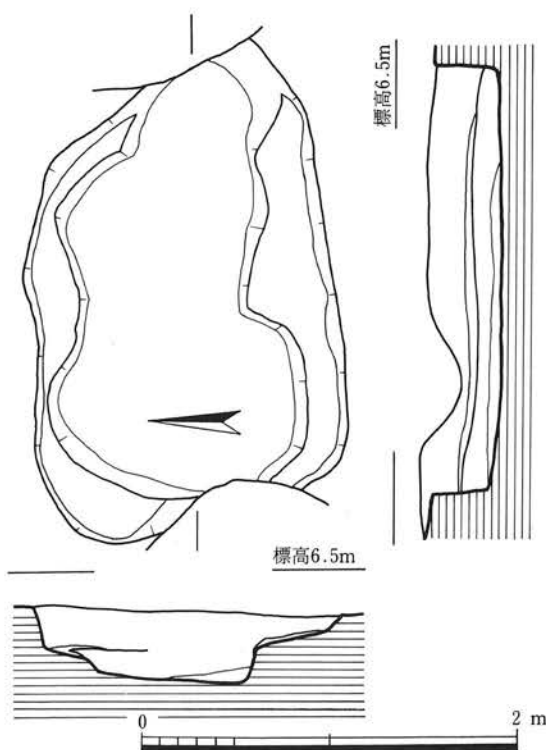


Fig. 11 SK008土壌実測図 (S = 1/40)

SK009土壌 (Fig.13)

BB-103・104グリッドで検出した。平面形は、長径3.25m、短軸2.05mの楕円形で、深さは0.5mを測る。遺構東部から南部にかけて平坦面をもち、二段の掘り込みになっている。床面はほぼフラットである。遺構床面付近及び平坦部分で完形に近い瓦器碗、土師器小皿などが出土している。埋土は黒色から黒褐色を呈する。SK008・011土壌と切り合い関係をもち、両遺構を切っている。

SK009出土遺物 (Fig.14)

土師器小皿 (19・20) 19・20はそれぞれ口径8.9・8.4cm、底径7.0・6.8cm、器高1.6・1.9cmを測る。2点ともに糸切り底で、板状圧痕を有する。体部には横ナデ調整、内低にはナデ調整を行なう。19は黄褐色、20は赤褐色を呈する。

土師器坏 (21) 口径12.5cm、底径8.8cm、器高3.5cmを測る。糸切り底で板状圧痕を有する。体部には横ナデ調整、内低にはナデ調整を行なう。赤褐色を呈する。

瓦器碗 (22~26) 口径16.3~17.2cm、高台径5.9~7.4cm、器高6.1~7.3cmを測る。器面の荒れが激しく器面調整はあまりはっきりしないが、外器面にはミガキ調整がかすかに認められる。23~26にはコテあて痕が認められる。26は高台部に板状圧痕を有する。いずれも明灰色ないしは暗灰色を呈する。

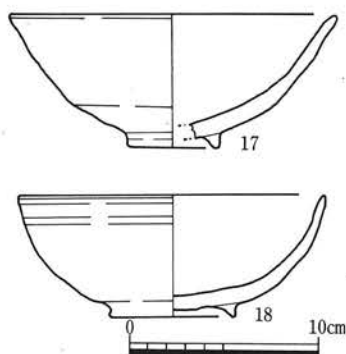


Fig. 12 SK008出土遺物
実測図 (S = 1/4)

激しく調整は不明である。18は復元口径15.8cm、復元高台径6.4cm、器高6.4cmを測る。調整は全体的に不明瞭であるが、体部内外にはヘラミガキ調整、底部内外にはナデ調整を行なっているようである。17・18ともに基本的には明灰色、口縁部・底部は暗灰色を呈する。

鍋 (27・28) 破片のため器形は不明だが、外面・内面ともにハケ目調整を行なっている。
胎土には1～2mmの砂粒、ウンモを含む。口縁平坦部には縄目押圧文を施している。27の外器
面には、口縁直下から胴部に至って煤が付着しており黒褐色を呈する。その他の部分は暗褐色
である。

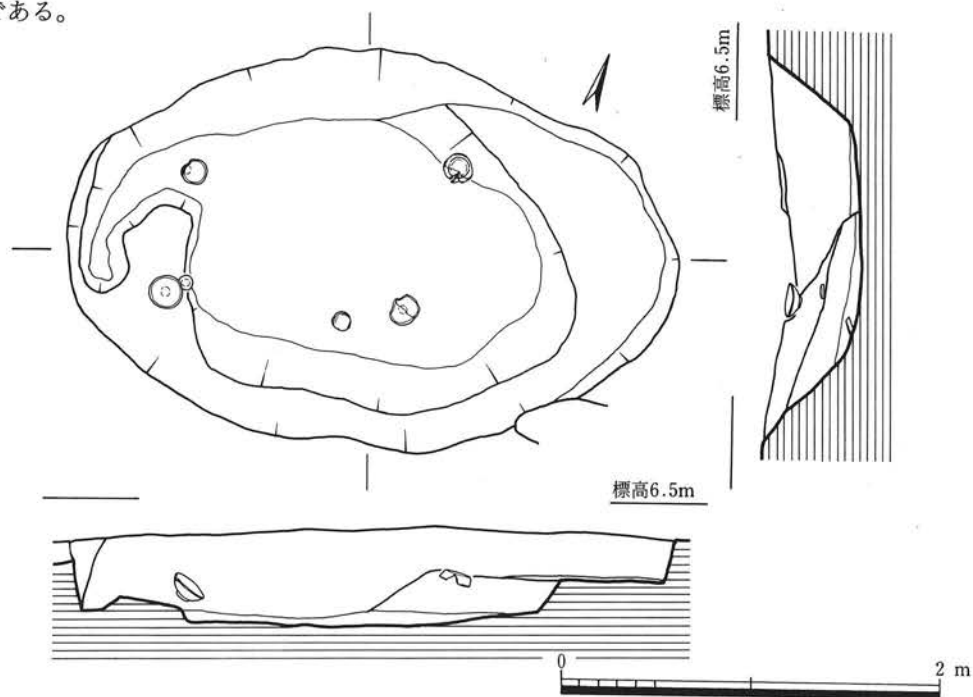


Fig. 13 S K009土壌実測図 (S = 1/40)

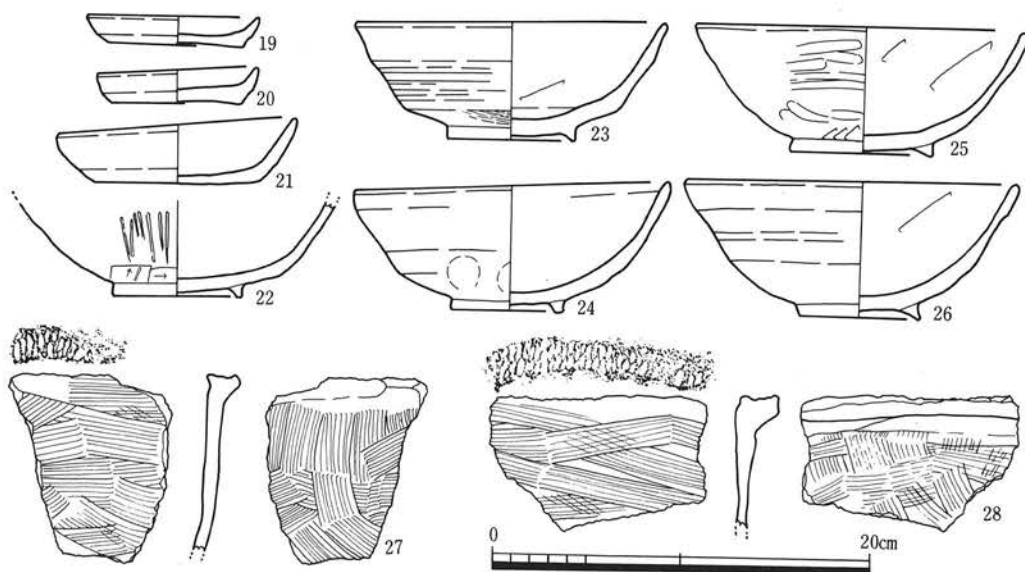


Fig. 14 S K009出土遺物実測図 (S = 1/4)

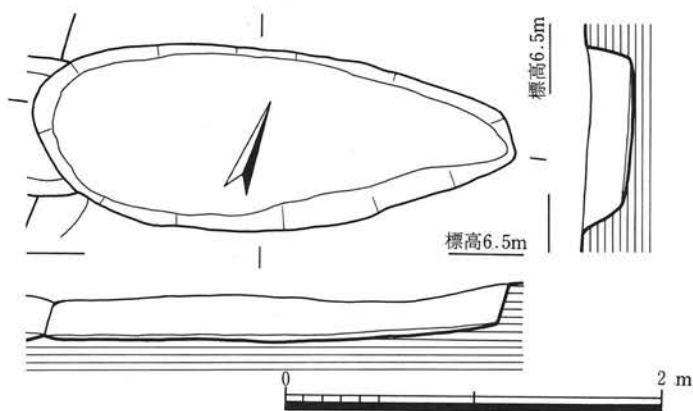


Fig. 15 S K 021土坑実測図(S = 1/40)

S K 021土坑 (Fig.15)

BC-97・98グリッドで検出した。平面形は、長軸2.55m、短軸1.0mの長楕円形を呈し、深さ0.25mを測る。断面は浅いU字状を呈し、床面はほぼ平坦である。S D 024溝を切っている。

S K 021出土遺物 (Fig.16)

青磁碗 (29) 復元口径16.2cm、高台径5.3cm、器高6.9cmを測る。施釉は高台部には及ばない。内面には櫛描文をもつ。全体に細かい貫入が入る。施釉部分は淡青灰色、胎土は明灰色を呈する。

瓦器碗 (30) 復元口径17cm、高台径6.6cm、器高6.8cmを測る。器面の荒れが激しく調整は不明瞭であるが、口縁部内外面の一部にかすかにミガキ調整が認められる以外はナデ調整である。暗灰色ないしは黒色を呈する。

(3)溝と出土遺物

S D 024溝 (Fig.20)

AZ-92、BA-92・93、BB-94~96、BC-96・97グリッドで検出した。幅0.5~0.95m、深さ約0.3mを測る。断面は扁平なU字状を呈する。緩やかな弧を描きながら南西部に延び、AZ-92グリッドで急激に屈曲し南に延びる。BC-97グリッドで二又に分岐しているが、同一遺構か否かは確認できなかった。溝底にはほとんど傾斜はない。埋土は暗褐色である。S K 021に切られ、S D 015を切っている。

S D 024出土遺物 (Fig.17)

土師器小皿 (31~33) 復元口径8.2~9.4cm、復元底径6.0~7.4cm、器高1.0~1.5cmを測る。3点とも糸切り底で、体部には横ナデ調整、内底はナデ調整である。31は外底に板状圧痕を残す。黄褐色を呈する。

土師器杯 (34) 復元口径15.8cm、復元底径10.5cm、器高3.0cmを測る。体部は横ナデ調整、内底はナデ調整である。底部は糸切り底で、板状圧痕を有する。黄褐色を呈する。

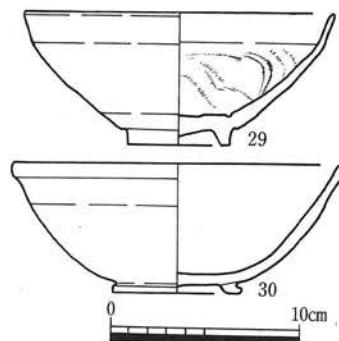


Fig. 16 S K 021出土遺物
実測図 (S = 1 / 4)

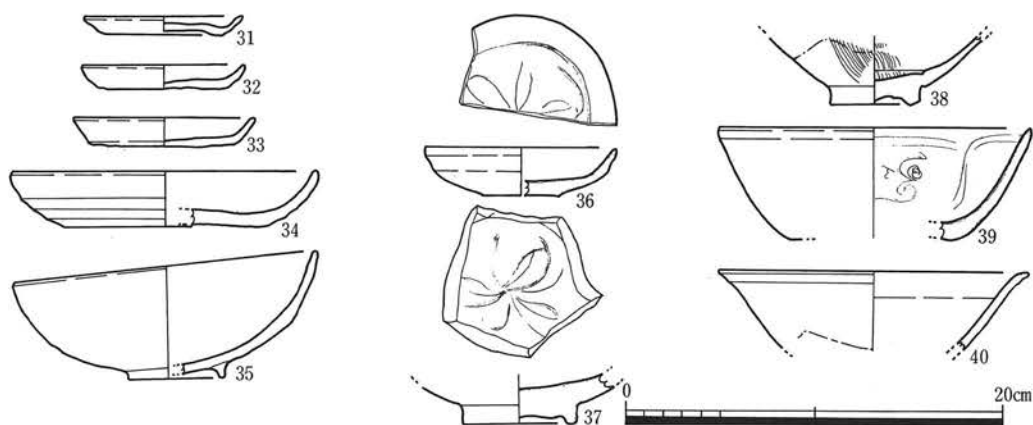


Fig. 17 S D024出土遺物実測図 (S = 1/4)

瓦器碗 (35) 口径15.9cm、高台径5.1cm、器高6.6cmを測る。外器面にかすかにミガキ調整が認められるが、器面の荒れが激しく、その他の部分については調整不明である。

青磁小皿 (36) 復元口径10cm、復元底径4.0cm、器高2.5cmを測る。内面見込に花文を有し、底部には目跡を有する。器面は灰緑色、胎土は明灰色である。

青磁碗 (37~39) 37・38は底部である。高台径はそれぞれ5.9cm、4.0cmである。37は内面見込に花文を有し、高台畳付部まで施釉が及ぶ。灰緑色を呈する。38は櫛描文を内外面にもち、体部中位までの施釉である。灰緑色を呈する。39は復元口径16.2cmを測る。内面に花文をもつ。灰緑色を呈する。

白磁碗 (40) 復元口径16cmを測る。口縁外面に段がついている。灰白色を呈する。

S D040溝 (Fig.20)

AY-85、AZ-85・86、BA-85・86、BB-86で検出した。幅1.0~1.3m、深さ0.4mのほぼ平坦な溝である。両側に平坦面をもち、二段掘りの溝になっている。溝の中央部分は他の遺構に切られているようであるが、その切り合い関係は把握できなかった。S D042・S B134と切り合い関係にあり、本遺構が切っている。

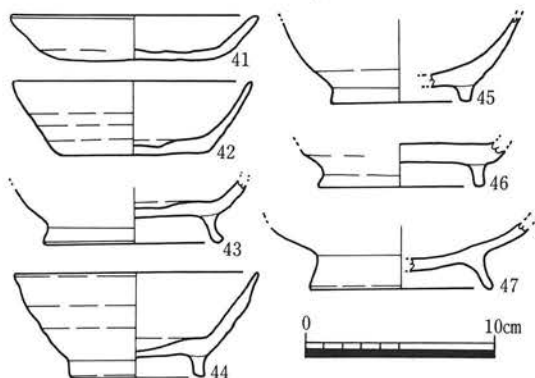
S D040出土遺物 (Fig.18)

土師器皿 (41) 復元口径12.8cm、復元底径8.2cm、器高2.3cmを測る。体部内外面は横ナデ調整、内底はナデ調整である。底部はヘラ切り離しで、板状圧痕をもつ。淡赤褐色を呈する。

土師器杯 (42) 復元口径12.4cm、底径7.8cm、器高3.9cmを測る。体部内外面は横ナデ調整、内底はナデ調整である。底部はヘラ切り離しで、板状圧痕をもつ。淡赤褐色を呈する。

土師器碗 (43・44) 43は復元底径9.0cm、44は復元口径12.7cm、復元高台径6.9cm、器高5.5cmを測る。体部は横ナデ調整、内底はナデ調整を行なう。底部はヘラ切り離しの後に高台を貼りつけており、板状圧痕を残す。

黒色土器碗 (45~47) 3点ともA類の底部片である。復元底径は8.4~9.4cmを測る。45・



46は内外面は横ナデ調整、47は外面が横ナデ調整、内面はヘラミガキ調整である。3点ともに底部はヘラ切り離しの後に高台を貼りつけており、板状圧痕を有する。45は外面褐色、内面黒色、46は外面淡赤褐色、内面黒色、47は外面黄褐色、内面黒色である。

(4)掘立柱建物と出土遺物

S B 134掘立柱建物 (Fig.19)

Fig. 18 S D 040出土遺物実測図(S=1/4) AY-84・85、AZ-84・85グリッドで検出した。他の遺構との切り合いにより柱穴がかなり欠失しているが、本来は2×6間の建物と考える。東西棟建物で、主軸をN-7°30'-Eにとる。桁行5.5m、梁行2.8mを測る。柱間は図中のとおり。柱穴掘方は径0.2~0.5mの円形で深さ0.15~0.45mを測る。柱根はもとより柱痕跡も確認できなかった。S D 040・042と重複関係にあり、いずれの遺構からも切られている。埋土は黒褐色である。

S B 134出土遺物

いずれの柱穴からも遺物は出土しなかった。

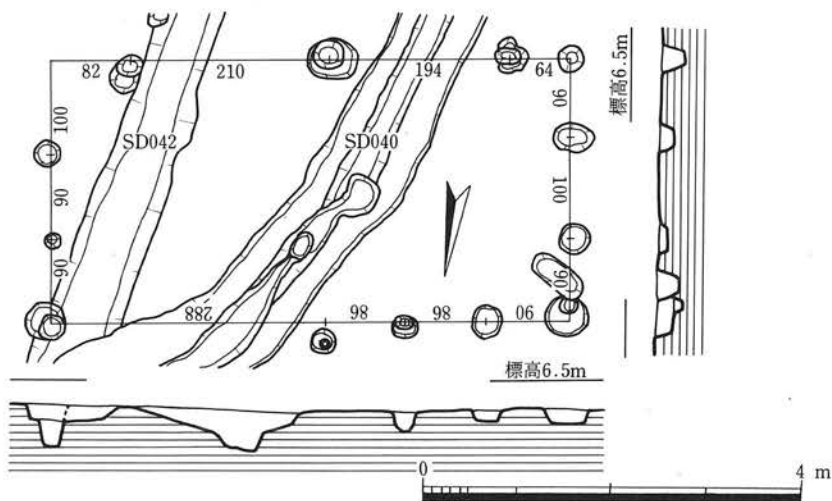


Fig. 19 S B 134掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

V. 調査の記録 — F 地区 —

F地区は今次の調査区の南半部を占めており、最も幅の広い調査区である。本地区で検出した遺構は縄文時代から平安時代にわたるが、主となる遺構は弥生時代のものである。以下、時代別に遺構及び出土遺物について述べることとする。

1. 縄文時代の遺構と遺物

(1) 土壌と出土遺物

S K 024土壌 (Fig.21)

AU-56、AV-56グリッドで検出した。遺構の南西部を弥生時代の土壌であるS K050に切られている。平面形は軸長約2.0mの隅丸方形状を呈するものと思われ、深さ約1.4mを測る。断面は逆台形状を呈し、遺構底面はほぼ平坦をなす。埋土は褐色粘質土を基調とし、その堆積は自然堆積の状況を呈している。遺構からは縄文晩期の土器とともに梯子が検出されている。梯子は、S K050の削平により上部を欠失する。直径10cm程度の丸木に足架部の挟り込みを造っている。足架部を内側に向け、遺構壁面に立て架けた状態で検出された。梯子の存在を考えると貯蔵穴である可能性が高い。

S K 024出土遺物 (Fig.22)

甕 (1~4) 1は口径20.1cm、残存器高17.9cmを測る。底部のみを欠失し、それ以外はほぼ完存する。口縁端部より若干下がったところと屈曲する肩に突帯を貼りつけ、やや雑な刻目を施している。内面は横ナデ調整で、口縁部に指頭圧痕を残す。屈曲部には特に強い横ナデ調整を行なう。外面は突帯間に条痕文が認められる以外は、調整不明瞭である。刻目突帯間に煤が付着する。

胎土には砂粒を混入する。2は復元口径21.8cm、残存器高19.8cmを測る。口縁端部よりやや下がったところと屈曲する肩に突帯を貼りつけ刻目を施す。内面は横方向のハケ目状の擦過が認められ、接合痕が明確にわかる。外面は突帯間にわずかに条痕が認められる。胎土には砂粒を含み、暗赤褐色を呈する。比較的精製である。3は底径10.4cmの底部。外面は縦方向のナデ調整、張り出し部は横ナデ調

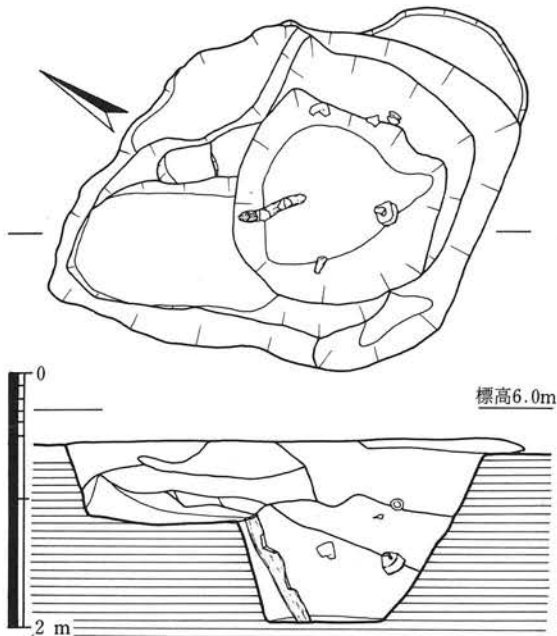


Fig. 21 S K024土壌実測図 (S = 1/60)

整、外底はナデ調整。内面はナデ調整。内面黒褐色、外面暗褐色。4は底径7.4cmの底部。外面に条痕を施し、張り出し部には横ナデ調整を行なう。外底は工具によるナデ調整か。内面はナデ調整を行なう。暗黄褐色を呈する。

浅鉢（5） 口縁部片で、内外面ともに横ナデ調整を行なう。胎土に砂粒を含む。内面黒色、外面黄褐色を呈する。

壺（6・7） 6は復元口径15.5cm。外面は不明瞭であるが横方向のミガキ調整と思われる。内面も横方向のミガキ調整である。黄褐色を呈する。7は復元口径19.0cm。内外面ともに不明瞭ながら横方向のミガキ調整。丹塗りの痕跡をとどめており、丹塗り磨研壺と思われる。

石斧（8・9） 8は扁平な石斧で刃部を完全に欠失する。残存長17.2cm、最大幅7.4cm、最大厚2.7cm、重量600gを測る。器面の荒れが著しいが、一部に磨き痕がかすかに認められる。砂岩系の石材か。9は方柱状片刃石斧であり、一部器面が剝落するがほぼ完形である。全長17cm、最大幅2.1cm、最大厚3.8cm、重量302gを測る。全体に丁寧な研磨を施しており、刃部もきれいに研ぎあがっている。淡緑青色を呈する。

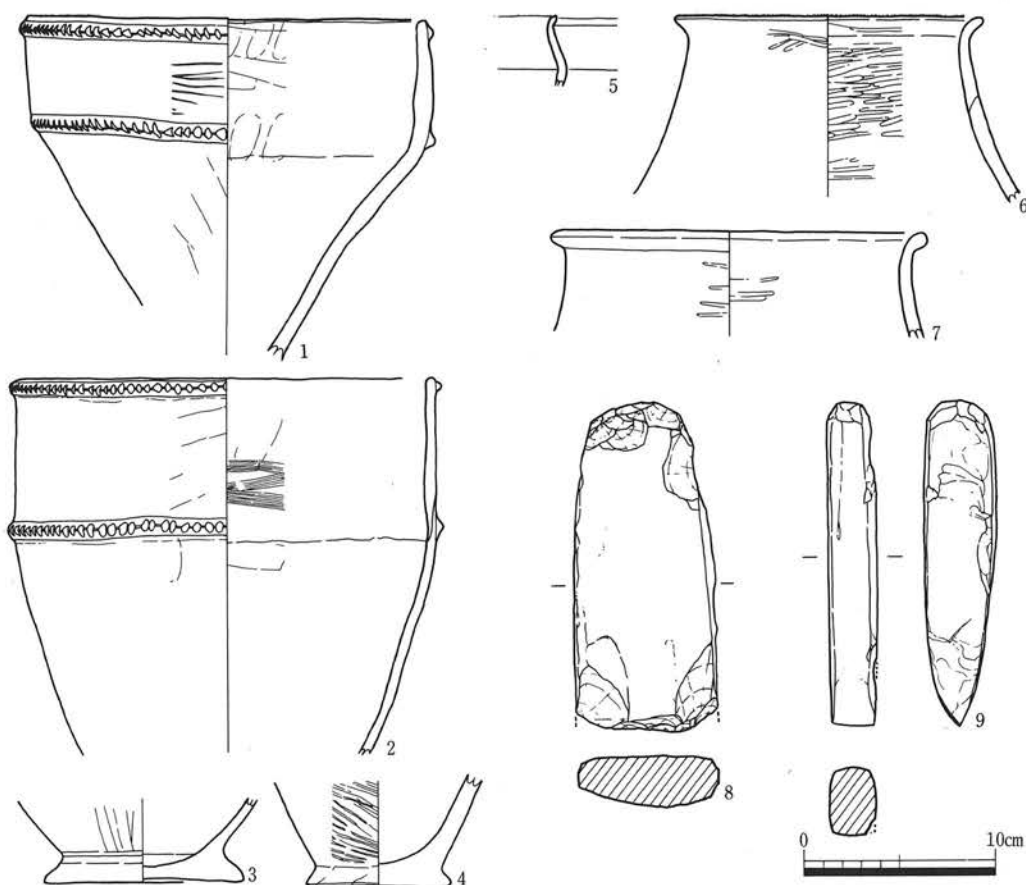


Fig. 22 SK024出土遺物実測図（S = 1/4）

2. 弥生時代の遺構と遺物

F地区において検出した弥生時代の遺構は、掘立柱建物37棟（確実に建物と判断できるもののみ）、竪穴住居1軒、周溝状遺構8基、井戸9基、土壇59基、溝18条である。紙数の制限上すべてを報告できないため、比較的状況の良い遺構を抽出して説明を行なうことにする。

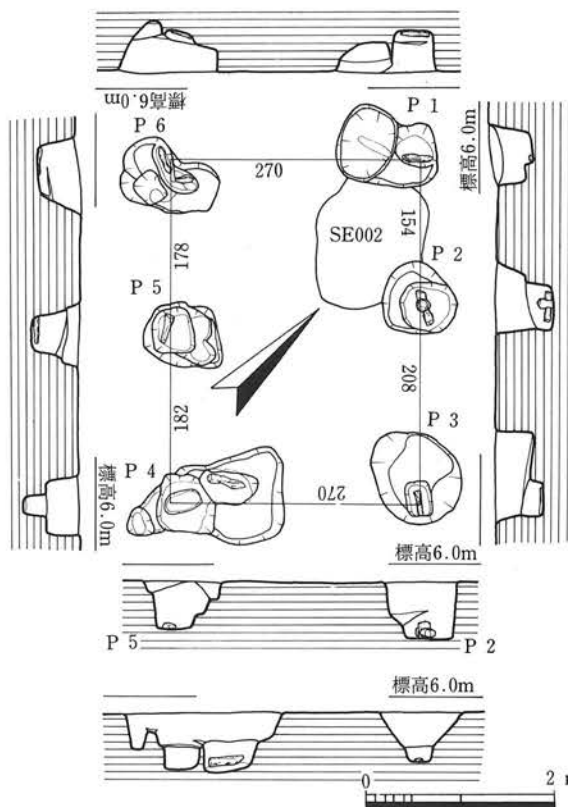


Fig. 23 S B 010掘立柱建物実測図(S=1/80) 2においてS E 002井戸と切り合い関係があり、井戸を切っている。柱穴からは弥生土器片が出土している。

S B 011掘立柱建物 (Fig.24)

AU-46、AV-45～47グリッドで検出した。梁行1間、桁行2間の南北棟建物で、主軸をN-50°-Wにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸1.0～1.35m、短軸0.8～0.95mの隅丸長方形を呈し、深さ約0.45～0.6mを測る。二段掘りの構造で、柱の立つ部分が一段低くなっており、その外方には平坦面をもつ。P 1、2、4、6で柱と横木が、P 3、5で横木が検出されている。横木は桁行方向に対して平行に置かれている。S B 026と切り合い関係があり、S B 026が切られている。

S B 011出土遺物 (Fig.25)

高坏 (10) P 2出土。復元口径22.0cmを測る。口縁部に横ナデ調整、体部内外面にはナデ調整を行なう。雲母及び1～5mmの砂粒を含む。黄赤褐色を呈する。

(1)掘立柱建物と出土遺物

S B 010掘立柱建物 (Fig.23)

AT-45、AU-44・45グリッドで検出した。梁行1間、桁行2間の南北棟建物で、主軸をN-42°-Wにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長さ約0.6～1.15m、幅約0.6～1.0mの不整長方形ないしは不整円形を呈し、深さ約0.4～0.6mを測る。柱掘方断面は二段掘りになっている。柱穴からは柱根が検出されており、P 2から直径約10cmの柱と横木が、その他の柱穴からは横木が検出されている。横木は桁行方向に対してP 1が直角に置かれており、それ以外では平行に置かれている。柱穴は一部に他の柱穴との切り合いがあるようであり、立て替えの可能性がある。また、P 1、P

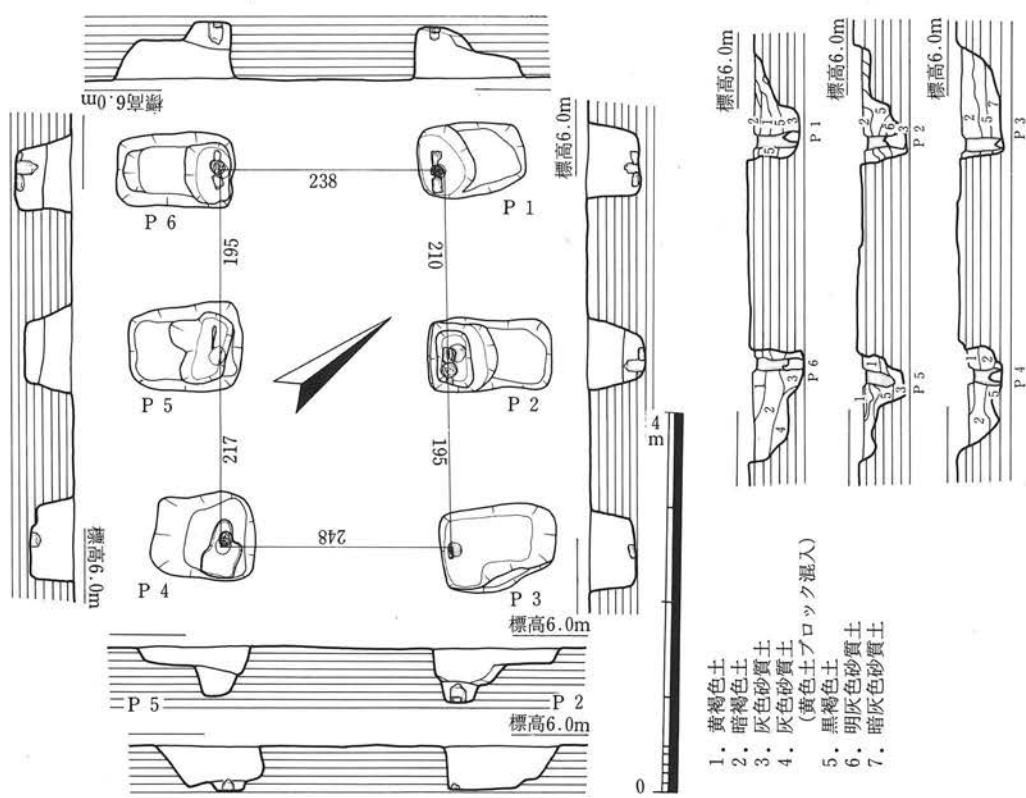


Fig. 24 S B011掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

甕 (11~14) 11はP 1出土。復元口径21.4cm。口縁部外面は横ナデ調整、内面はハケ目調整を行なう。胴部外面はハケ目調整、内面はナデ調整を行なう。淡黄灰色を呈する。12は復元口径26.4cm。口縁部外面は横ナデ調整、内面は不明瞭ながらハケ目調整を行なう。胴部外面は縦方向のハケ目調整、内面はナデ調整を行なう。外面は黒褐色、内面は黄褐色である。13・14はP 3出土の底部。13は復元底径9.8cmで、内外面にナデ調整を行ない、内面に指頭圧痕を有する。14は復元底径6.0cmで、外面はハケ目調整、内面はヘラケズリ調整である。2点とも外面暗黄褐色、内面暗黒褐色を呈する。

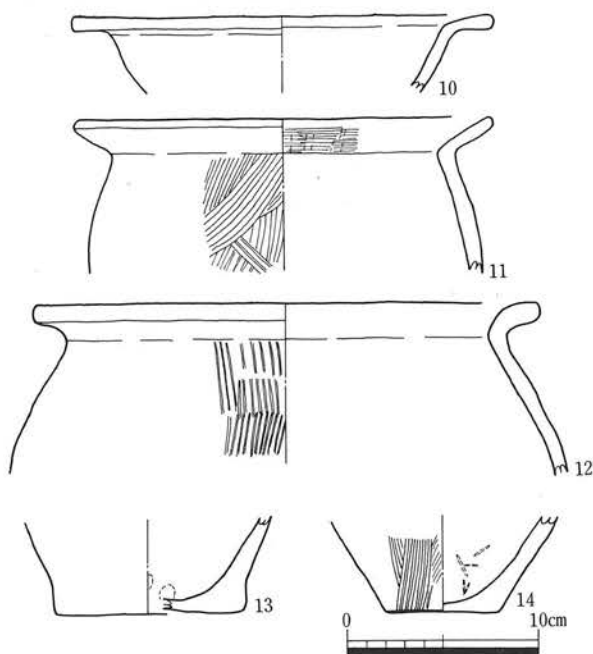


Fig. 25 S B011出土遺物実測図 (S = 1/4)

S B012掘立柱建物 (Fig.26)

AV-47、AW-46・47グリッドで検出した。梁行1間、桁行2間の南北棟建物で、主軸をN-47°-Wにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸0.75~1.65m、短軸0.68~1.1mの隅丸方形ないしは不整形方形を呈し、深さ約0.5~0.65mを測る。掘方断面は素掘りのもの、二段

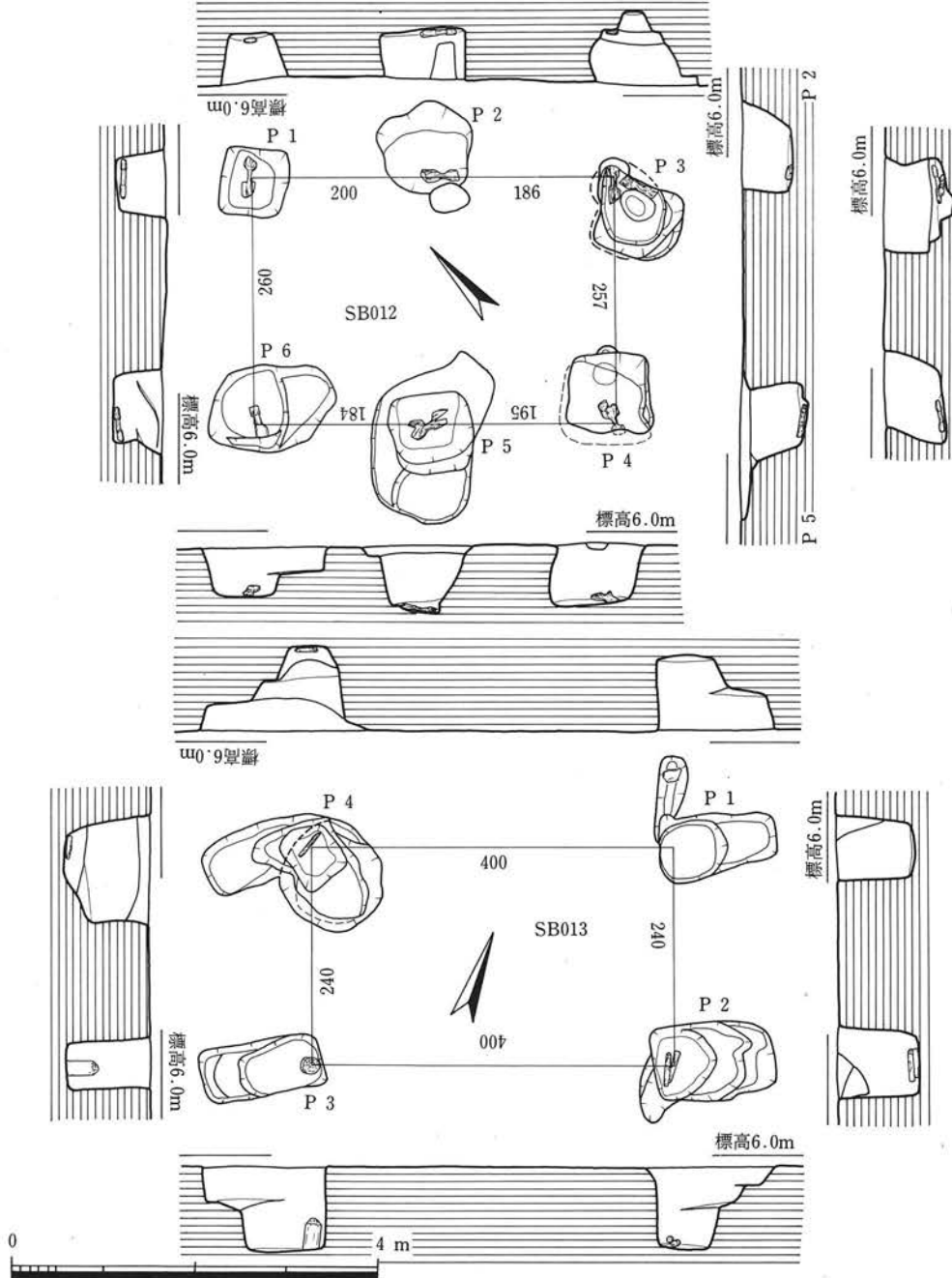


Fig. 26 S B012・S B013掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

掘りになっているものがある。すべての柱穴から残存状況の良い横木が検出されており、横木は、P 2・3においては桁行方向に対し平行に置かれ、それ以外の四隅の柱穴では直行して置かれている。P 2・6の一部は攪乱を受けている。他の遺構との切り合いはない。

S B012出土遺物 (Fig.27)

甕 (15) P 3 出土。復元口径27.4cm。口縁部は横ナデ調整、胴部内外面はナデ調整を行なう。外面は暗赤褐色、内面は黄赤褐色を呈する。

S B013掘立柱建物 (Fig.26)

AT-46、AU-46・47グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の東西棟建物で、主軸をN-70°-Eにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸1.3~1.5m、短軸0.6~0.8mの隅丸長方形を呈し、深さは0.9m前後である。柱掘方は二段ないしは三段掘りになっている。P 4からは直径20cm程度の柱が検出されている。P 2、4では細長い木材が検出されているが、その細さからいって横木とは考えにくく、枕木であると思われる。また、P 1、2には柱の抜き取り痕が認められた。P 4はS K030と切り合い関係を持ち、S K030に切られている。

S B013出土遺物 (Fig.27)

甕 (16~18) 3点ともにP 1 出土。16は復元口径26.0cm。口縁部は横ナデ調整、胴部内面はナデ調整、胴部外面は不明瞭ながらハケ目調整をナデ消している。外面は黄褐色、内面は淡黄褐色を呈する。17は復元口径25.0cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にハケ目調整を行ない、外面はややナデ消している。内外面ともに黄赤褐色を呈する。18はP 1 抜き取り痕出土である。底径9.5cm。胴部内外面はナデ調整、内底には指頭圧痕を有する。黄赤褐色を呈する。

S B015掘立柱建物 (Fig.28)

AV-49・50、AW-49~51、AX-50グリッドで検出した。梁行5間、北側桁行5間、南側桁行6間の東西棟建物で、主軸をN-53°-Eにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸0.55~3.43m、短軸0.4~0.8mの隅丸長方形ないしは隅丸方形を呈し、深さ0.3~0.53mを測る。一部に二段掘りのものもあるが、殆どのものは素掘りの柱穴である。P 1、6、8、9

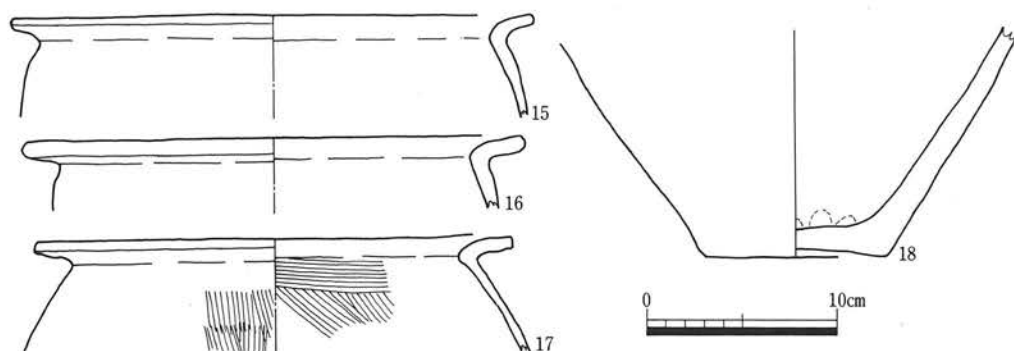


Fig. 27 S B012・S B013出土遺物実測図 (S = 1/4)

で柱根が検出されており、P 6-2 の柱は横木を持つ。P 4、6、8、10、12においては2個ないしは4個の柱穴が同時に掘り込まれている。これらの柱穴はまず全体を一段掘り下げ、その後各々の柱穴を掘り込み、柱を立てて同時に埋める工法がとられている。遺構面の削平により一段目の掘り込みが浅くなっているものもあるが、P 6、8の掘り方及び土層の堆積状況をみてもその工法が採られたことは明らかである。しかしながら、この工法は全体に及んでおらず、四隅の柱穴をはじめとして単独で掘り込まれた柱穴もあり、建物の規格、構築工法はかなり変則的である。S B014と重複関係にあるが、その前後関係は判断できなかった。

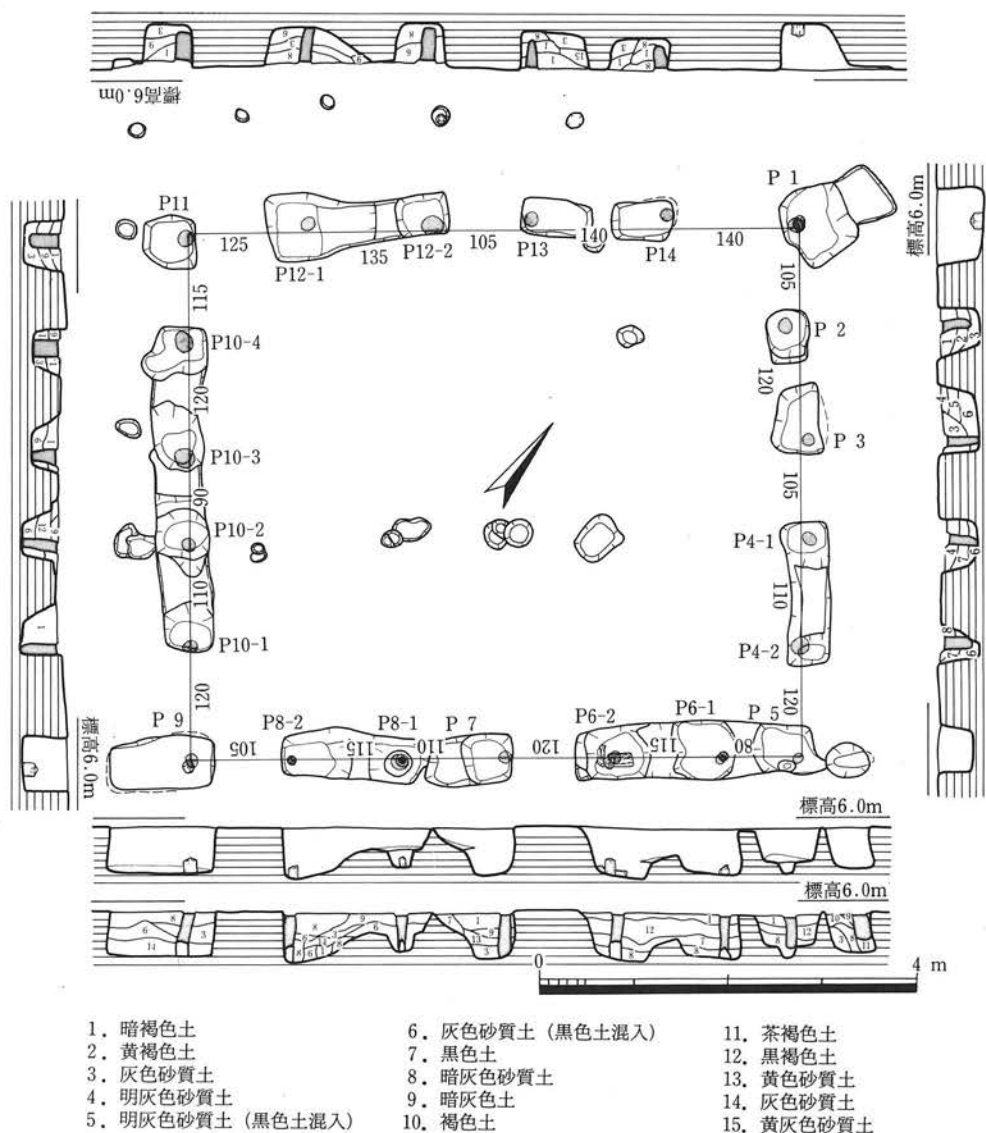


Fig. 28 S B015掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

S B015出土遺物 (Fig.29)

高坏 (19) P 1 出土。復元坏部口径20.4cm。
内外器面ともにヘラミガキ調整を行ない、比較的
精製である。暗赤褐色を呈する。

甕 (20) P 1 出土。復元口径22.4cm。口縁部
に横ナデ調整、胴部内面にはナデ調整、外面には
ハケ目調整を行ない、外器面には部分的に煤が付
着する。暗褐色を呈する。

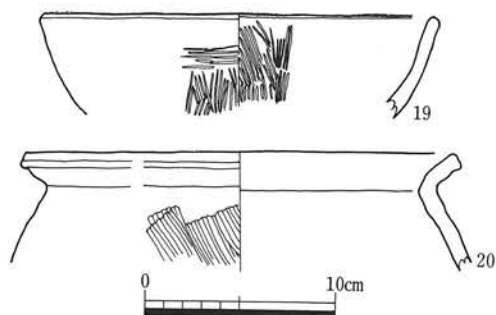


Fig. 29 S B015出土遺物実測図(S=1/4)

S B017掘立柱建物 (Fig.30)

AU-51・52、AV-51・52グリッドで検出した。梁行2間、桁行2間の南北棟建物で、主軸を
N-25°-Wにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。四隅の柱掘方は長軸約1.0~1.3m、短軸
0.6~0.75mの隅丸長方形を呈し、深さ0.6~0.9mを測る。掘方の長軸は桁行方向にほぼ平行で
ある。その他の柱掘方は一辺が0.5~0.75mの隅丸方形を呈し、深さ0.16~0.32mを測り、やや
浅くなっている。四隅の柱掘方は二段掘りになっており、P 1で柱と横木が、P 3、5、7で
横木が検出されている。横木は桁行方向に対してほぼ直角に置かれている。S B025・076と切
り合い関係にあり、いずれの建
物からも切られている。またS
B017と重複関係にあるが、柱穴
どうしの切り合いはない。

S B019掘立柱建物

(Fig.31)

AV-53、AW-53グリッドで検
出した。梁行1間、桁行2間の
南北棟建物で、主軸をN-33°-W
にとる。梁間・桁間・柱間は図
中のとおり。柱掘方は長軸
0.8~1.45m、短軸0.5~0.97m
の隅丸方形ないしは隅丸長方形
を呈し、深さ0.3~0.6mを測
る。P 3以外では横木が検出さ
れており、P 2、4、5では横
木の下に枕木を置いている。横
木はP 1、6においては桁行方

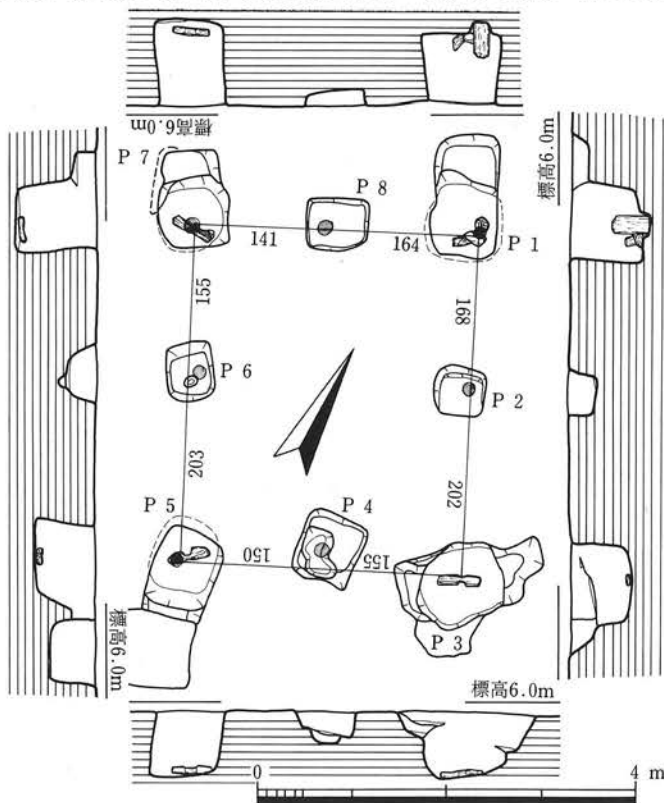


Fig. 30 S B017掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

向に直角に置かれており、それ以外の柱穴においては桁行方向に平行に置かれている。S B020と切り合い関係にあり、S B020に切られている。

S B025掘立柱建物 (Fig.31)

AU-52・53グリッドで検出した。梁間1間、桁間2間の南北棟建物で、主軸をN-38°-Wにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸0.9~1.5m、短軸0.75~0.85mの隅丸長

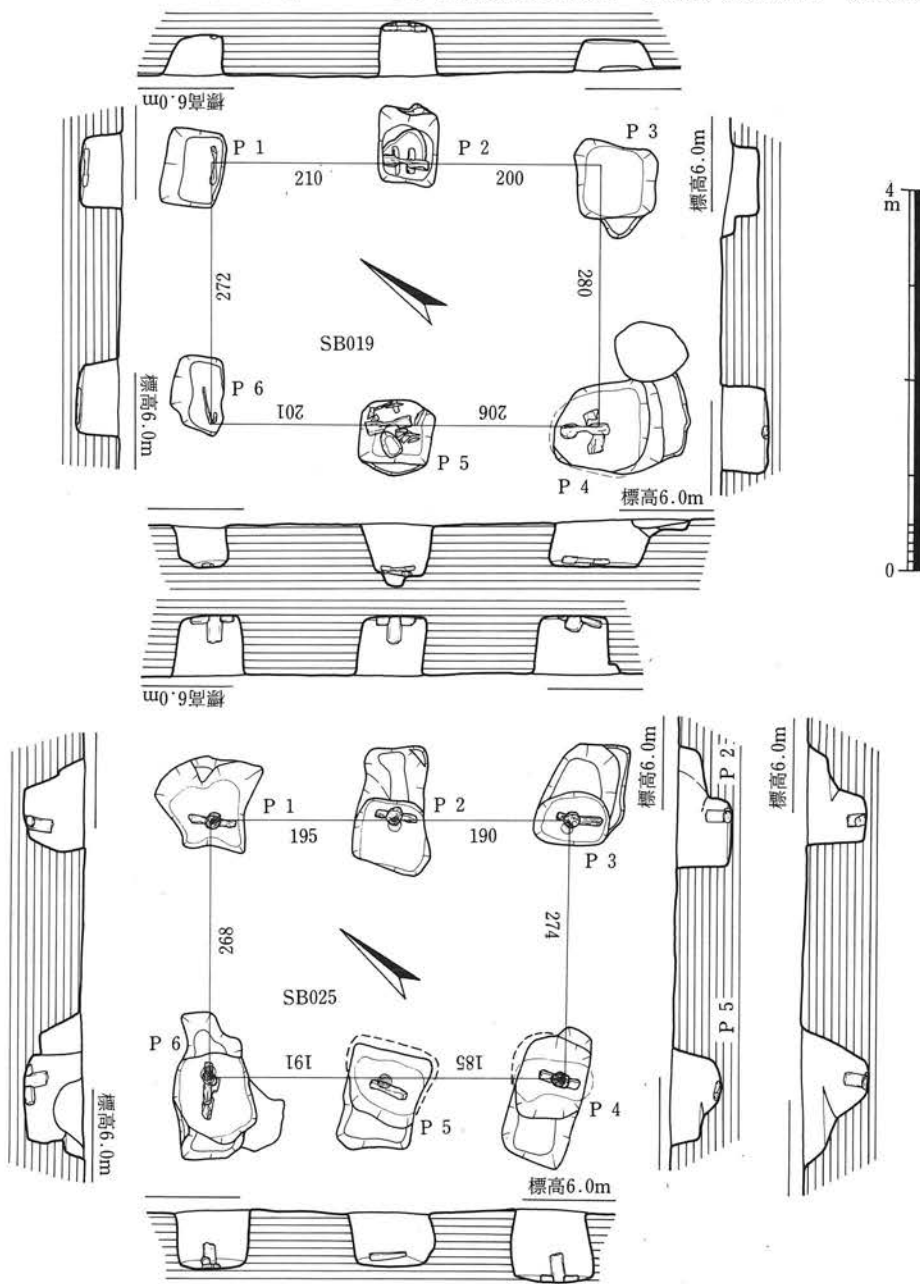


Fig. 31 S B019・S B025掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

方形を呈し、深さ0.55～0.7mを測る。すべて二段掘りの柱穴であり、P5で横木のみが、それ以外では、柱と横木が検出されている。横木は、P6以外はすべて桁行方向に平行に置かれている。また、P6の横木の直下にはSB017の横木が検出されている。SB017・SB077と切り合い関係を持ち、本建物が切っている。

S B044掘立柱建物 (Fig.32)

AW-62・63グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-44°-Wにとる。梁間・桁間は図中のとおり。柱掘方は長軸0.98～1.16m、短軸0.5～0.65mの隅丸長方形で、深さ0.5～0.7mを測る。掘方断面は一段から三段掘りのものがある。P3では横木が検出されている。その他は掘方から判断すると横木を持たない柱穴と思われる。P1からはほぼ完形の壺が検出されており、柱を抜いたのちに埋置したものと思われる。SB074・134と重複関係にあるが、柱穴の切り合いはない。

S B044出土遺物 (Fig.33)

甕 (21) P3出土。復元口径14.8cmを測る。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部内面にナデ調整、外面には不明瞭ながらハケ目調整が認められる。胎土には雲母と砂粒を混入する。

壺 (22) P1出土。ほぼ完形品で口径11.3cm、器高13.8cmを測る。口縁部付近に横ナデ調整、胴部内外面にナデ調整を行ない、内面には指頭圧痕を残す。外面には黒斑を有する。

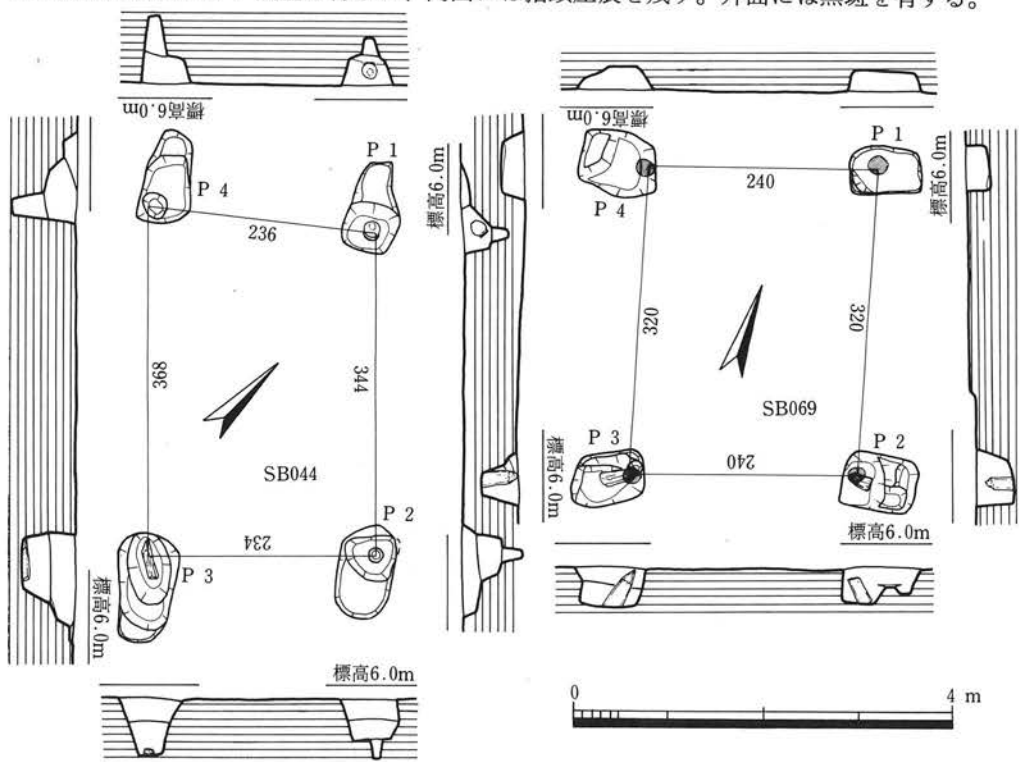


Fig. 32 S B044・S B069掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

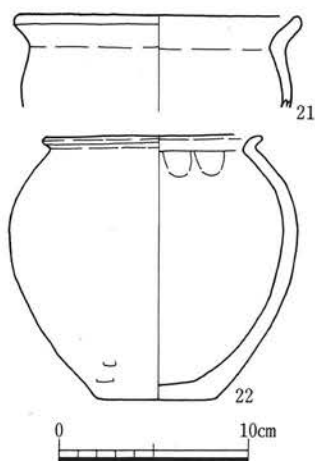


Fig. 33 S B044出土遺物実測図(S=1/4) 柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸1.0~1.4m、短軸0.7~1.0mの隅丸長方形ないしは方形を呈し、深さ0.3~0.55mを測る。掘方断面は殆どが二段掘りになっている。P1で柱、P2・6で横木、P3・4で柱と横木が検出されている。横木は桁行方向に対して、P2では直角に、P3・4では平行に、P6では斜めに置かれている。S B071・079と切り合い関係を持ち、本建物が切っている。

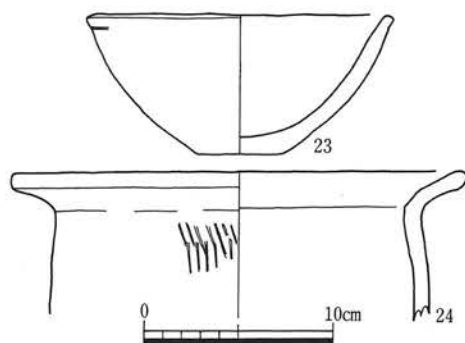
S B070出土遺物 (Fig.34)

鉢 (23) P2出土。復元口径15.4cm、器高7.3cm。全体にナデ調整を行う。暗灰褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。

甕 (24) P3出土。復元口径24cm。口縁部内外面には横ナデ調整、胴部内面にはナデ調整、外面には不明瞭ながらハケ目調整が認められる。暗黄赤褐色を呈する。

S B071掘立柱建物 (Fig.35)

AX-60、AY-60グリッドで検出した。梁行1間、桁行2間の南北棟建物で、主軸をN-16°-Eにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸1.08~1.62m、短軸0.96~1.48mの隅丸長方形ないしは長方形を呈し、深さ0.5~0.6mを測る。掘方断面は素掘りあるいは二段掘り



りないしは三段掘りになっている。すべての柱穴から、かなり丁寧に加工された横木が検出されているが、いずれも柱を伴ってはいない。検出した横木は、すべて桁行方向に対して平行に置かれている。また、P4はその南半部に大きく攪乱を受けている。建物の中央部には主軸に沿って小穴が存在しており、位置的にみて東柱の可能性も考えられる。S B070と切り合い関係にあり、本建物が

Fig. 34 S B070出土遺物実測図(S=1/4) 切られている。

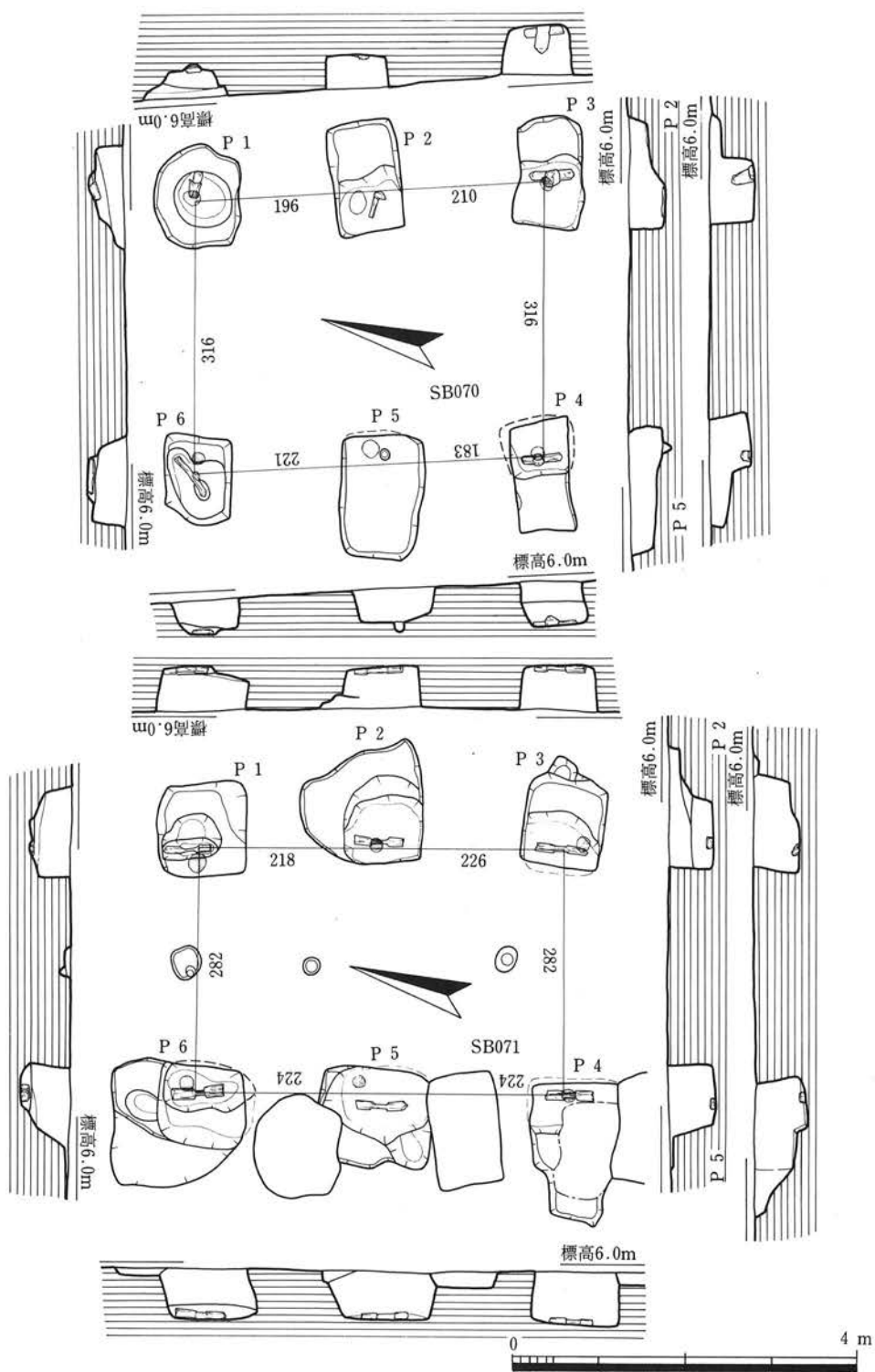


Fig. 35 S B070・S B071掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

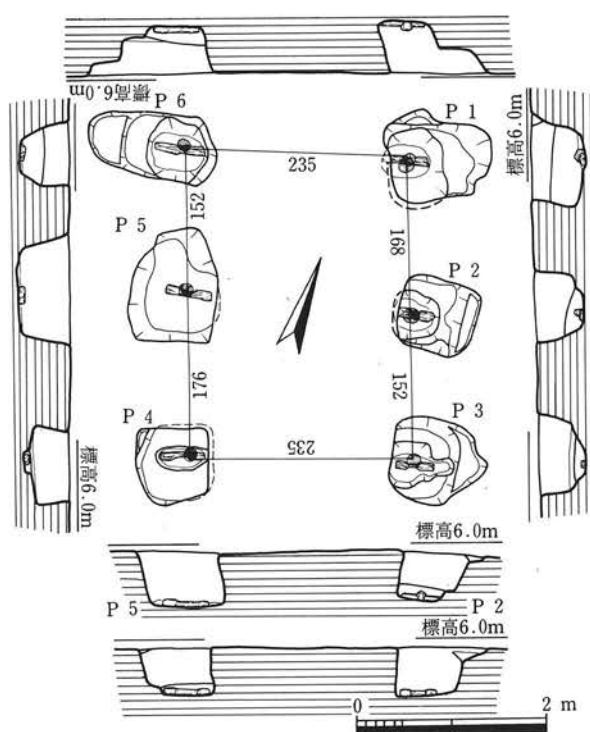


Fig. 36 S B 072掘立柱建物実測図 (S = 1/80)
係を持つが、柱穴の切り合いはな
い。

S B 073掘立柱建物 (Fig.37)

AW-61・62、AX-61グリッドで
検出した。梁行1間、桁行1間の
南北棟建物で、主軸をN-41°-Wに
とる。梁間・桁間は図中のとおり。
柱掘方は長軸1.0~1.3m、短軸
0.7~1.05mの隅丸方形ないしは
隅丸長方形を呈し、深さ
0.55~0.73mを測る。素掘りない
しは二段掘りになっている。いず
れの柱穴からも柱根が検出されて
いるが、横木は持たない。S B
074・129、S R 065 と切り合い関
係を持ち、本建物はS B 129・S R

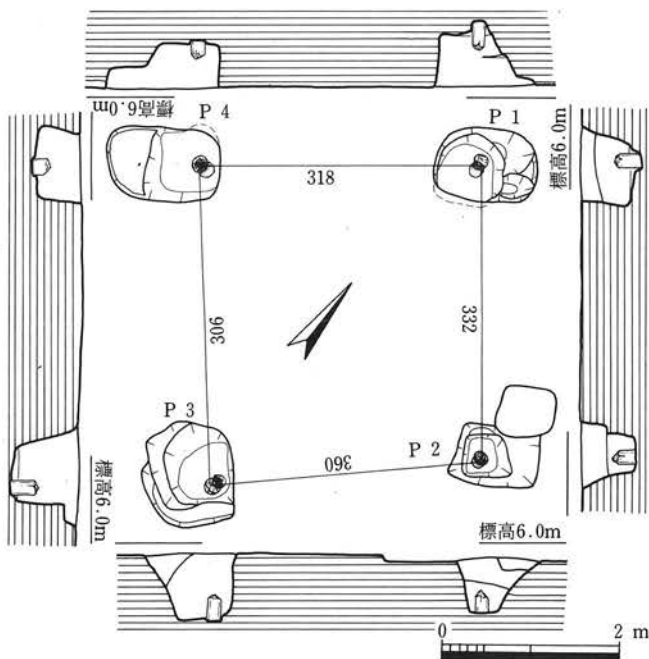


Fig. 37 S B 073掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

S B 072掘立柱建物 (Fig.36)

AX-61、AY-61グリッドで検出し
た。梁行1間、桁行2間の南北棟建物
で、主軸をN-22°-Wにとる。梁間・桁
間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長
軸0.8~1.4m、0.7~0.9mの隅丸方形
ないしは隅丸長方形を呈し、深さ0.5m
前後を測る。掘方断面は素掘りないし
は浅い二段掘りになっている。すべ
ての柱穴から比較的丁寧な加工を施した
横木が検出されている。P 1、2では
柱も若干残存する。P 5においては横
木の下に葦(?)の様な細長い植物が
横木の長軸方向に対して直角に敷かれ
ており、枕木の役割を果たしているも
のとする。横木は桁行方向に対して
直角に置かれている。S B 137と重複関

065を切っており、S B074に切られている。

S B074掘立柱建物 (Fig.39)

AX-62、AW-62グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-35°-Wにとる。 Fig. 38 S B075出土遺物実測図(S=1/4)
梁間・桁間は図中のとおり。柱掘方は一辺が0.5~0.8mの隅丸方形を呈し、深さ0.15~0.6mを測る。掘方は一段掘りないしは二段掘りになっており、P 1、2から柱根が検出されている。横木は持っていない。S B044と重複関係にある。S B073・S B134・S R065・S R066と切り合い関係を持ち、いずれの遺構も本建物に切られている。

S B075掘立柱建物 (Fig.39)

AX-62グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-14°-Wにとる。梁間・桁間は図中のとおり。柱掘方は長軸0.8~1.1m、短軸0.48~0.56mの隅丸長方形を呈し、掘方は一段ないしは二段掘りである。すべての柱穴から柱根が検出されている。横木は持っていない。S B137・S R066・067と切り合い関係を持ち、いずれの遺構も本建物に切られている。

S B075出土遺物 (Fig.38)

甕 (25) P 4 出土。復元口径23.6cm。口縁部内外面は横ナデ調整、胴部内面はナデ調整、外面は不明瞭ながらハケ目調整を行なう。砂粒を含み、暗赤黄褐色を呈する。

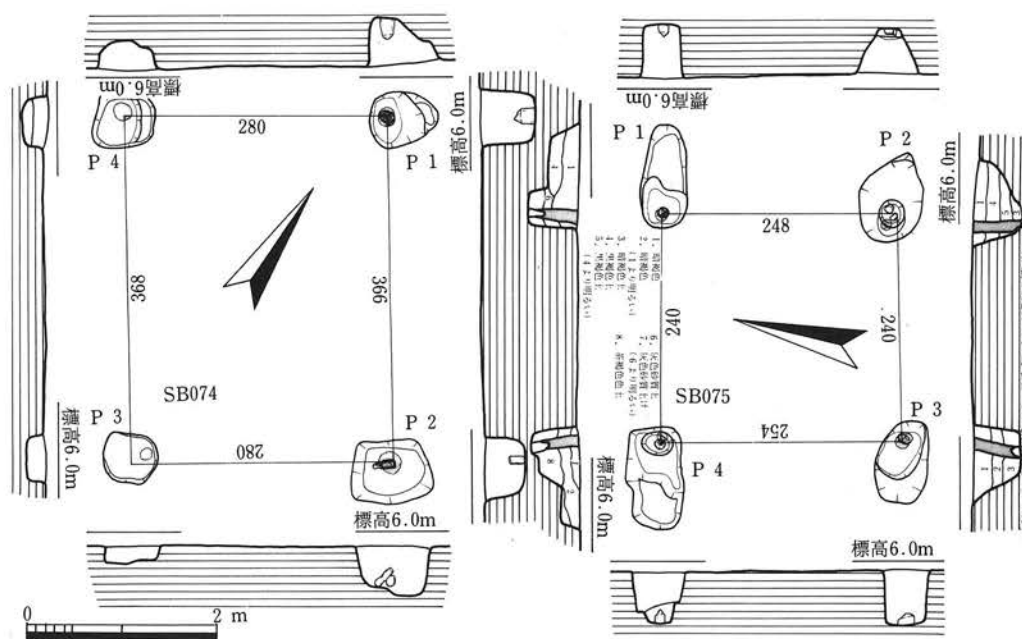


Fig. 39 S B074・S B075掘立柱建物実測図 (S=1/80)

S B 079掘立柱建物 (Fig.40)

AX-58・59、AY-58・59グリッドで検出した。梁行1間、桁行2間の南北棟建物で、主軸をN-15°-Wにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸1.04~1.46m、短軸0.85~1.05mの隅丸長方形を呈し、深さ0.35~0.52mを測る。柱穴自体は比較的浅いが、その殆どが二段掘りである。P 6以外の柱穴からは横木が検出されている。横木は桁行方向に対してほぼ直角に置かれている。S B 070と切り合い関係を持ち、本建物が切られている。

S B 083掘立柱建物 (Fig.41)

BD-63、BE-63・64グリッドで検出した。梁行1間、桁行2間の東西棟建物で、主軸をN-53°-Eにとる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は一辺0.53~0.86mの隅丸方形を呈し、深さ0.33~0.42mを測る。P 3からは枕木が検出されている。基本的には1×1間の建物と思われるが、東側にやや小さめの柱穴を持つ。他の遺構との切り合いはない。

S B 085掘立柱建物 (Fig.41)

BH-62・63グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-19°-Wにとる。柱掘方は長軸0.6~0.82m、短軸0.55m前後の隅丸長方形ないしは隅丸方形を呈し、深さ0.37~0.48mを測る。掘方は素掘りあるいは二段掘りである。S B 084と重複関係にある。

S B 086掘立柱建物 (Fig.41)

BH-63、BI-63・64グリッドで検出した。基本的には梁行・桁行ともに1間の東西棟建物と思われるが、北側梁筋に2個、西側桁筋に2個、東側桁筋に1個の柱穴を持つ。主軸をN-33°-E

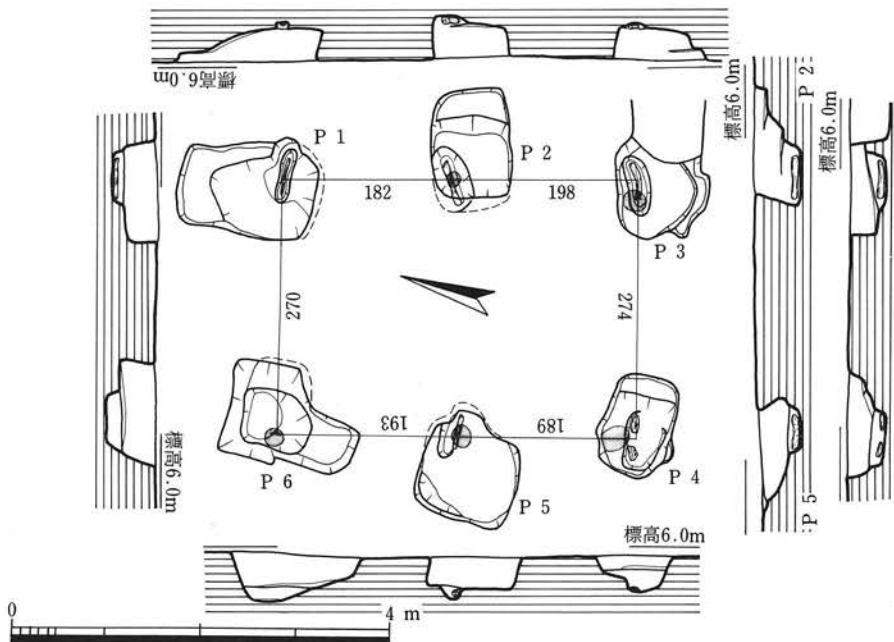


Fig. 40 S B 079掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

にとる。柱掘方は軸長0.45～0.7mの方形を呈し、深さ0.15～0.55mを測る。他の遺構との切り合い関係はないが、S B087と重複関係にある。

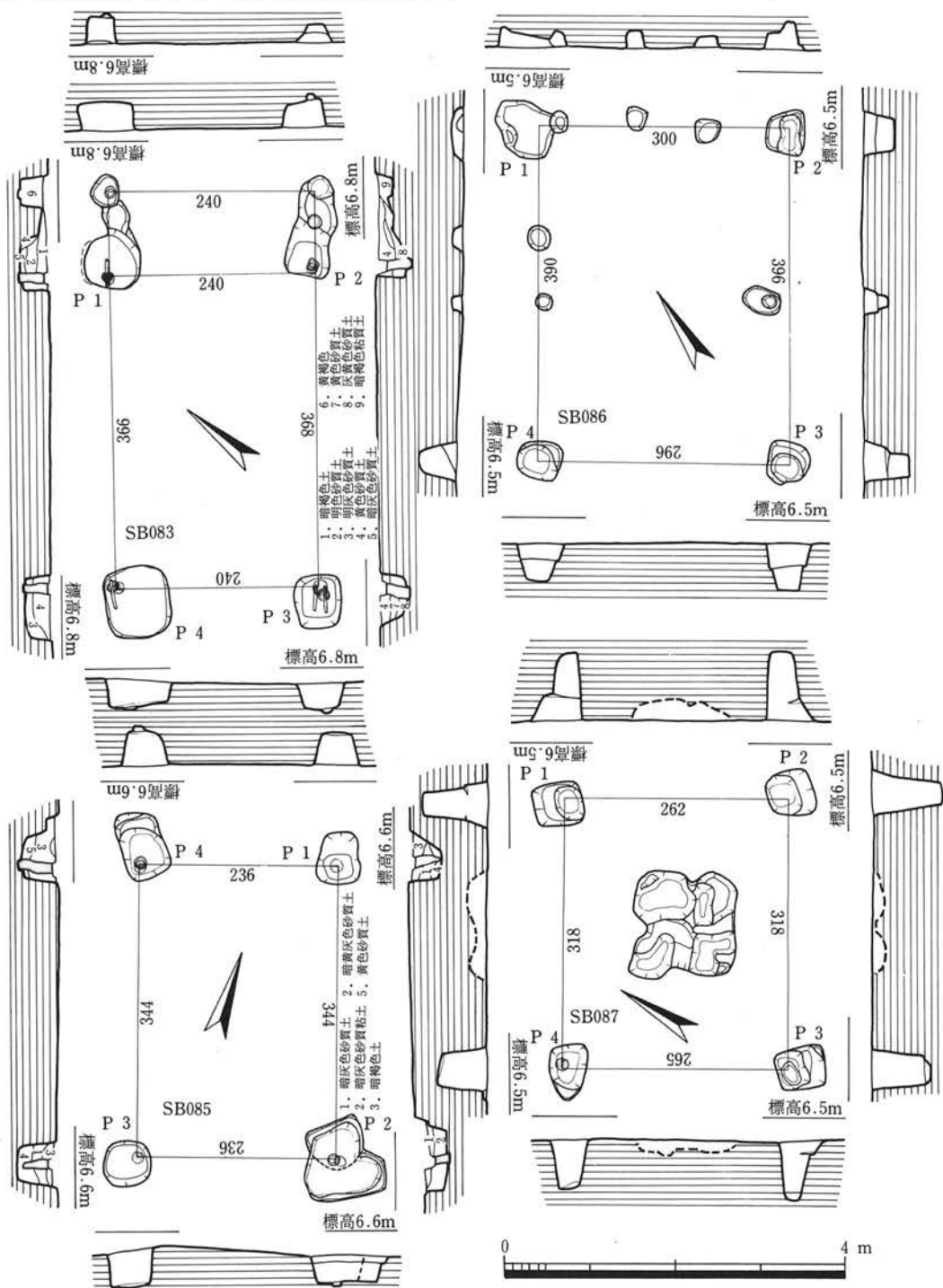
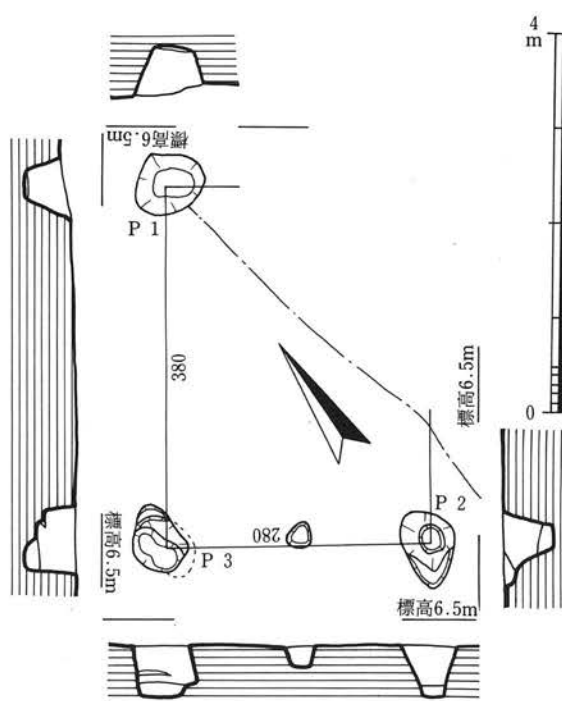


Fig. 41 S B083・S B085・S B086・S B087掘立柱建物実測図 (S = 1/80)



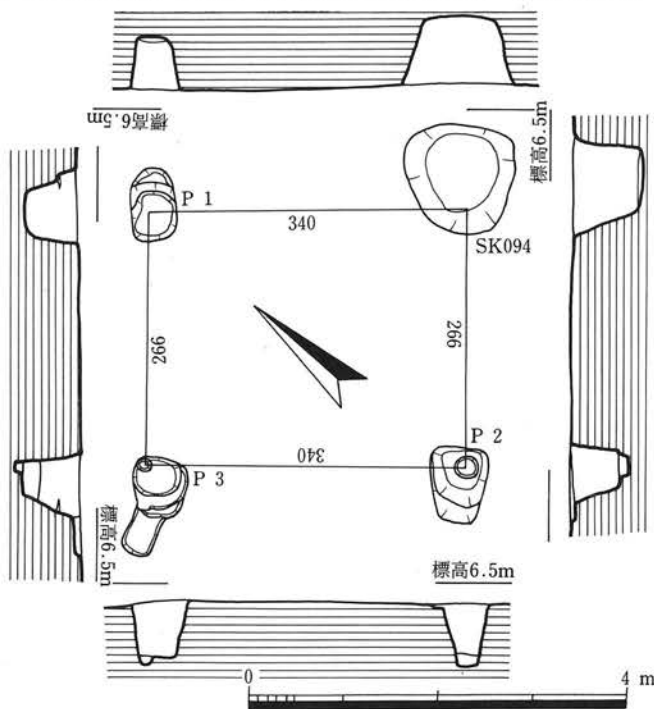
S B 087掘立柱建物 (Fig.41)

BI-63グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の東西棟建物で、主軸をN-58°-Eにとる。柱間は図中のとおり。柱掘方は一辺が0.46~0.67mの隅丸方形を呈し、深さ0.58~0.82mを測る。柱穴からは柱根は検出されていない。建物中央部には四隅の柱穴に対応する掘り込みが存在する。比較的浅い掘り込みであるが、位置的にみて東柱である可能性が高い。S B 086と重複関係にあるが、その前後関係は不明である。

S B 088掘立柱建物 (Fig.42)

BI-63・64、BJ-64グリッドで検出した。基本的には梁行1間、桁行1間の東西棟建物で、南側梁行が2間になっている。

Fig. 42 S B 088掘立柱建物実測図 (S = 1/80) 南東隅の柱穴は調査区外にある。主軸をN-33°-Eにとる。柱掘方は長さ0.57~0.79mの形状を呈し、深さ約0.5mを測る。他遺構との切り合い・重複関係はない。S B 086と主軸を同じくし、平行に並んでいる。



S B 128掘立柱建物 (Fig.43)

BJ-62グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-40°-Wにとる。長軸0.63~0.8m、短軸0.48~0.6mの隅丸長方形を呈し、深さ約0.6mを測る。東隅の柱穴をSK094との切り合いにより欠失している。SK094との前後関係は明らかに出来なかったが、建物が切られている可能性が高い。

Fig. 43 S B 128掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

S B 129掘立柱建物 (Fig.44)

AW-61・62、AX-61グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-38°-Wにとる。柱掘方は長軸0.8~1.2m、短軸0.7~0.95mの隅丸方形を呈し、深さ0.3~0.73mを測る。P1からは柱が検出されている。S R065・S B073と切り合い関係にあり、S R065を切り、S B073に切られている。

S B 137掘立柱建物 (Fig.45)

AX-61・62グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-48°-Wにとる。柱掘方は長軸0.66~1.25m、短軸0.52~0.78mの隅丸長方形ないしは隅丸方形を呈し、深さ0.6~0.8mを測る。各柱穴には柱の抜き

取り痕があるようで、いずれの柱穴から Fig. 44 S B 129掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

も柱根は検出されていない。S R066・S B075と切り合い関係にあり、本建物はS R066を切り、S B075に切られている。また、S B072と重複関係にある。

S B 137出土遺物

(Fig.46)

壺 (26) P4出土で、復元口径12.5cm、器高12.4cm。口縁部内外面は横ナデ調整、胴部外面はハケ目調整、内面はナデ調整を行なう。胎土には砂粒を含

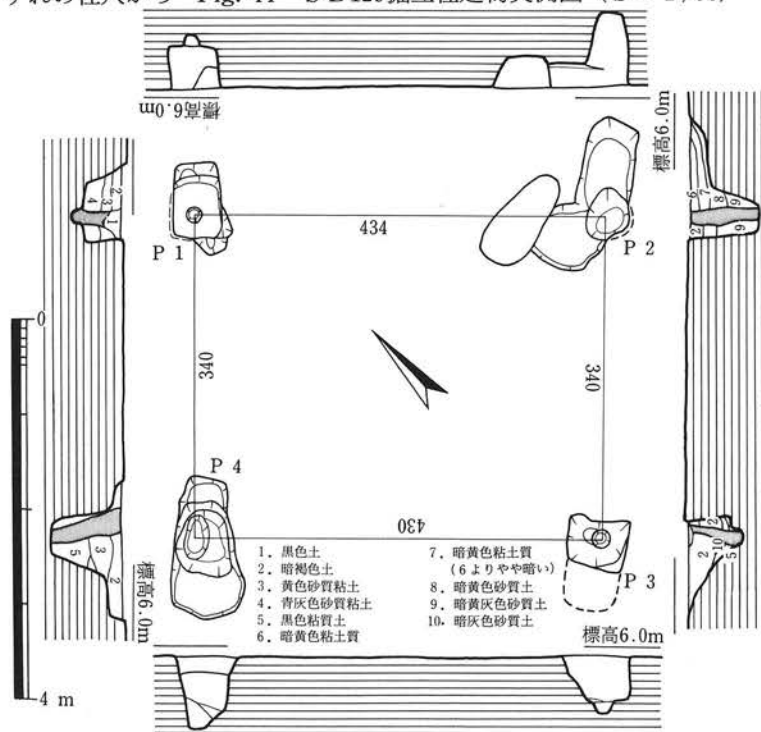
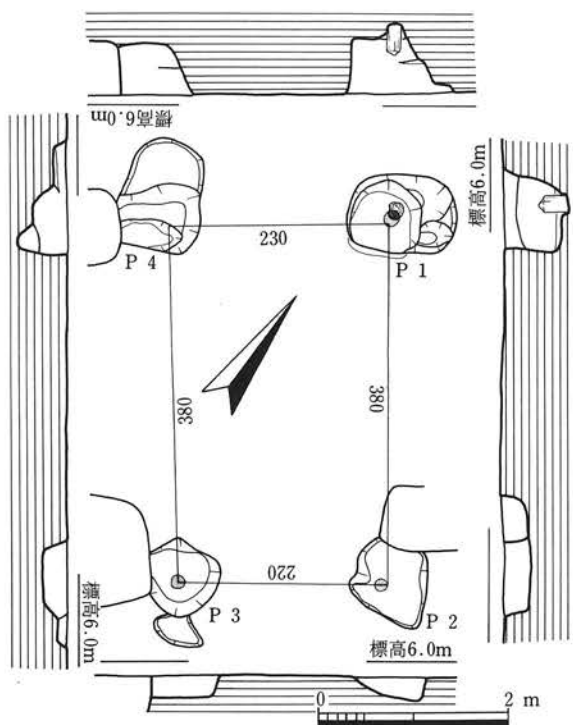


Fig. 45 S B 137掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

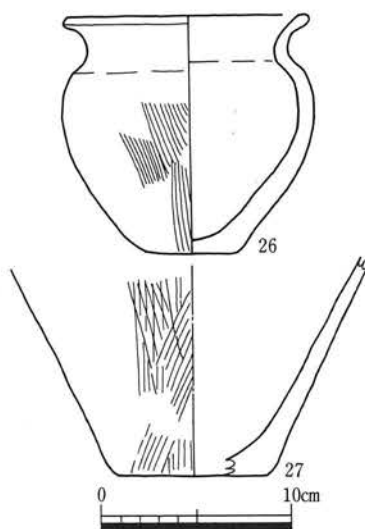
み、橙褐色を呈す。

甕 (27) P 2 出土。復元底径7.8cm。外面は不明瞭ながらハケ目調整、内面はナデ調整を行なう。胎土には砂粒を含み、黄褐色を呈する。

(2)周溝状遺構と出土遺物

S R 045周溝状遺構 (Fig.47)

AW-58・59、AX-58・59グリッドで検出した。平面形は軸長約4.2mの隅丸方形を呈し、溝幅約0.5m、深さ約0.2~0.3mを測る。溝底面はほぼ平坦であり、壁は上方にほぼ真っすぐに立上がる。周溝内部には小穴が四隅で検出されている。小穴と周溝には切り合いはなく、伴う可能性がある。周溝の内部及び南側で性格不明の掘り込みによって切られている。また、東側ではS B 079に切られている。 Fig. 46 S B 137出土遺物実測図(S=1/4)



S R 046周溝状遺構 (Fig.48)

AY-63・64、AZ-63・64グリッドで検出した。平面形は長軸5.3m、短軸4.7mの隅丸方形を呈し、溝幅0.8~1.2m、深さ0.3~0.4m前後を測る。外側の壁は垂直に立上がり、内側の壁はやや角度を付けながら立上がる。周溝内部には柱穴や墓壇など、何らかの施設の存在した形跡は認められない。S D 040と切り合い関係にあり、本遺構が切られている。

S R 046出土遺物 (Fig.49)

鉢 (28) 口径12.1cm、器高5cmを測る。口縁部付近には横ナデ調整、胴部内外面にナデ調整を行なう。やや丸味を帯びた口縁を有し、粗雑な刻み目が施されている。内外面に指頭圧痕を残す。黄褐色を呈する。

器台 (29) 復元底径12.1cm。外器面及び内面底部付近にハケ目調整、内面上部にナデ調整、裾部に横ナデ調整を行なう。褐色を呈する。

高坏 (30) 脚部のみ残存する。底径16.5cm。磨耗が激しく調整不明瞭。褐色を呈し、丹塗りの痕跡が認められる。

甕 (31~33) 31は復元口径29.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。外器面

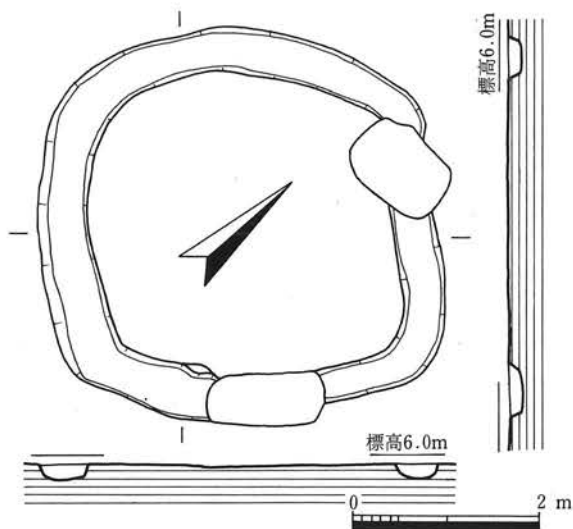


Fig. 47 S R 045周溝状遺構実測図(S=1/80)

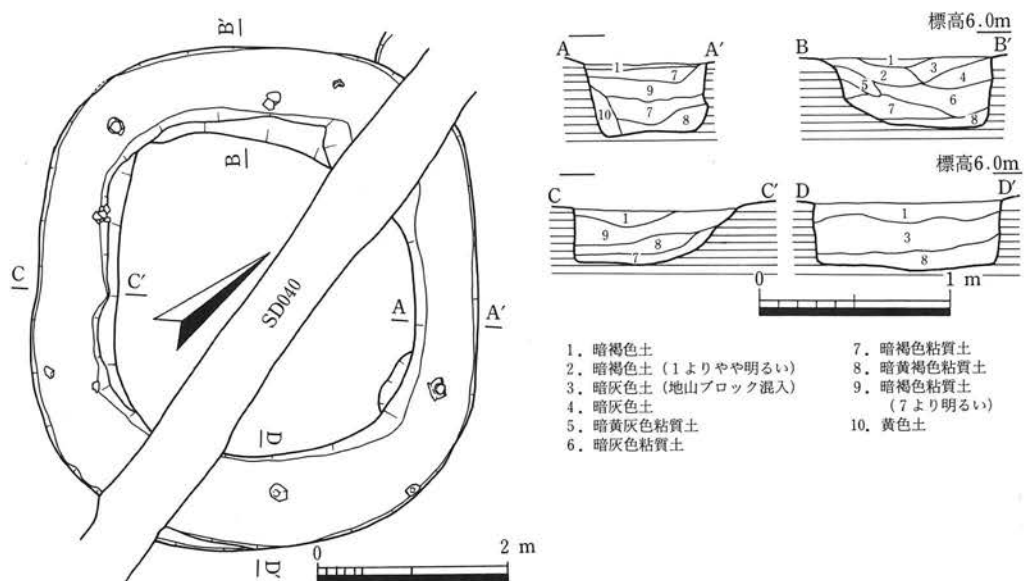


Fig. 48 S R046周溝状遺構実測図 (S = 1/80、土層断面図はS = 1/40)

全体に煤が付着する。内面は黄褐色、外面は暗褐色を呈する。32は底部。底径10.1cm。外面にハケ目調整、内面にはナデ調整を行なう。内面は暗褐色、外面は褐色を呈する。33は復元口径31.8cm。口縁直下に一条の突帯を有する。口縁部から突帯にかけては横ナデ調整、突帯部以下にはハケ目調整、内面にはナデ調整を行なう。内外器面とも黄褐色を呈し、外器面の一部に煤の付着が見られる。

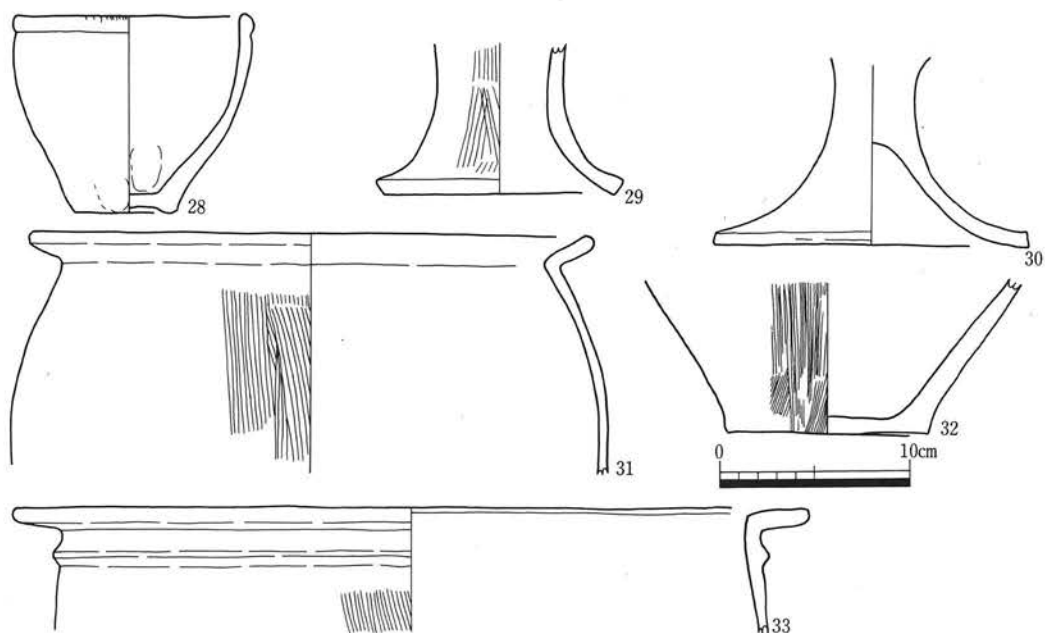


Fig. 49 S R046出土遺物実測図 (S = 1/4)

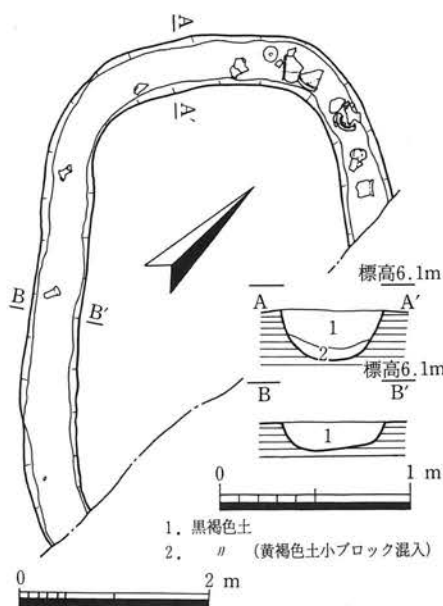


Fig. 50 S R047周溝状遺構実測図

(S=1/80 土層断面図はS=1/40)

混入する。

鉢 (37~39) 37は口径11.7cm、器高7.6cm。口縁付近に横ナデ調整、その他にはナデ調整を行なう。粗製の鉢である。38は口径14.3cm、器高7.2cm。体部外面にはハケ目調整、内面口縁部付近には横ナデ調整、体部内面にはナデ調整を行なう。褐色を呈する。39は口径18.6cm、器高10.3cm。内外面にハケ目調整を行い、口縁部内外面はハケ目調整をナデ消している。内底はナデ調整で、指頭圧痕を有する。暗褐色を呈する。

壺 (40・41・48) 40は丹塗りの複合口縁壺で、口径14.9cm。横ナデ調整を行い、ヘラミガキ調整の痕跡は認められない。41は丹塗りの袋状口縁壺で胴部を欠失する。口径10.1cm。口縁部は外面に横方向のヘラミガキ調整、内面に横ナデ調整、頸部は外面に縦方向のヘラミガキ調整、内面にナデ調整を行なう。48は口径24cm。胴部に刻目を有する一条の突帯を持つ。口縁外面上半部から内面にかけて横ナデ調整、胴部は外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。

高坏 (42) 坏部上半と脚部下半を欠失する。磨耗のため調整不明。赤褐色を呈する。

甕 (43~46) 43は口径29.2cm。黄褐色を呈する。44は復元口径28cm。暗褐色を呈する。45は復元口径22.4cm。暗褐色を呈する。以上3点は口縁内外面に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。43・44はハケ目調整の後に口縁直下にナデ調整を行なう。46は底径10.7cm。外面にハケ目調整、内面はナデ調整を行なう。

土製品 (47) 先端部を一部欠損し、残存長3.6cm、最大幅1.2cmで長楕円形を呈する。上方

S R047周溝状遺構 (Fig.50)

AZ-65、BA-64・65、BB-65グリッドで検出した。西半分は調査区外にあるが、平面形は長軸約3m、短軸約2mの隅丸長方形を呈すると思われる。溝幅は0.3m前後で、深さ0.1~0.15mを測る。溝断面は扁平なU字状を呈し、土層は自然堆積の状況であった。周溝内部には施設などの存在した痕跡は無い。比較的遺物の出土量も多く、その大半は周溝の北隅に集中する。他遺構との重複関係・切り合い関係は無い。

S R047出土遺物 (Fig.51)

器台 (34~36) いずれも器面調整はナデ調整及び横ナデ調整のみの粗製の器台である。34は受部径8.9cm、裾部径12.6cm、器高17.8cm。褐色を呈する。35は受部径・裾部径ともに10.5cm、器高16.9cm。暗褐色を呈する。36は受部径10.1cm、裾部径10.7cm、器高9.5cm。褐色を呈する。3点ともに胎土には砂粒と雲母を

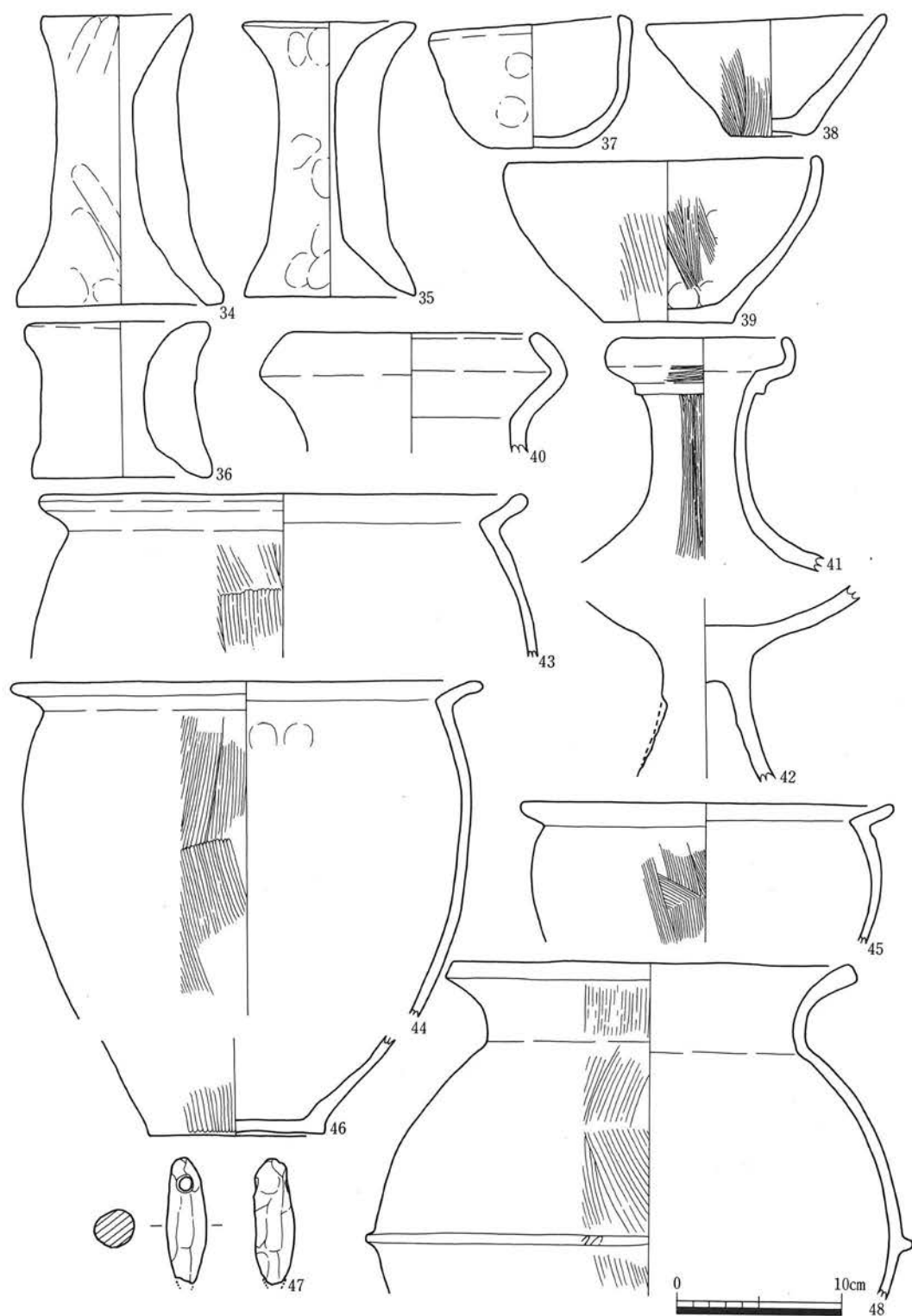


Fig. 51 S R047出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

には直径0.5cmの孔が焼成前に穿たれている。黄褐色を呈する。装飾品あるいは土鍾か。

S R065・S R066・S R067周溝状遺構 (Fig.52)

AW-61・62、AX-61～63、AY-62・63グリッドにかけて検出した。3基の周溝状遺構が連なった状態で存在する。平面形は、S R065が長軸5.7m、短軸3.6mの隅丸長方形、S R066が軸長3.3～4.0mの隅丸方形、S R067が軸長約3.0mの隅丸方形を呈し、S R067は北に延びる溝を伴っている。溝の深さは0.1～0.3mを測り、S R066が最も深い。断面は扁平なU字状ないしはレンズ状を呈する。遺構の切り合いは平面及び土層断面のいずれにおいても見つけることが出来ないこと、それぞれ単独の遺構として考えると溝が不自然な形状でしか終結しないこと、遺物の出土状況などから判断して、3基ともほぼ同時存在の遺構と考える。出土遺物の多くはS R065とS R066の結合部分に集中する。S B073・074・075・129・137と切り合い関係にあり、すべての建物に切られている。

S R066出土遺物 (Fig.53、54)

遺物はS R065・066の結合部分でその多くが出土したが、遺構ごとに分離できないためここではS R066出土の遺物として取り扱うこととする。

甕 (49～55) 49は底径9.0cm。外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。内面にヘラ状工具の痕跡を有する。外底に黒斑を有する。50は復元底径10cm。磨耗のため調整不明。51～55は口径25～34cm。基本的には口縁部に横ナデ調整、胴部は外面にハケ目調整、内面にナデ調整

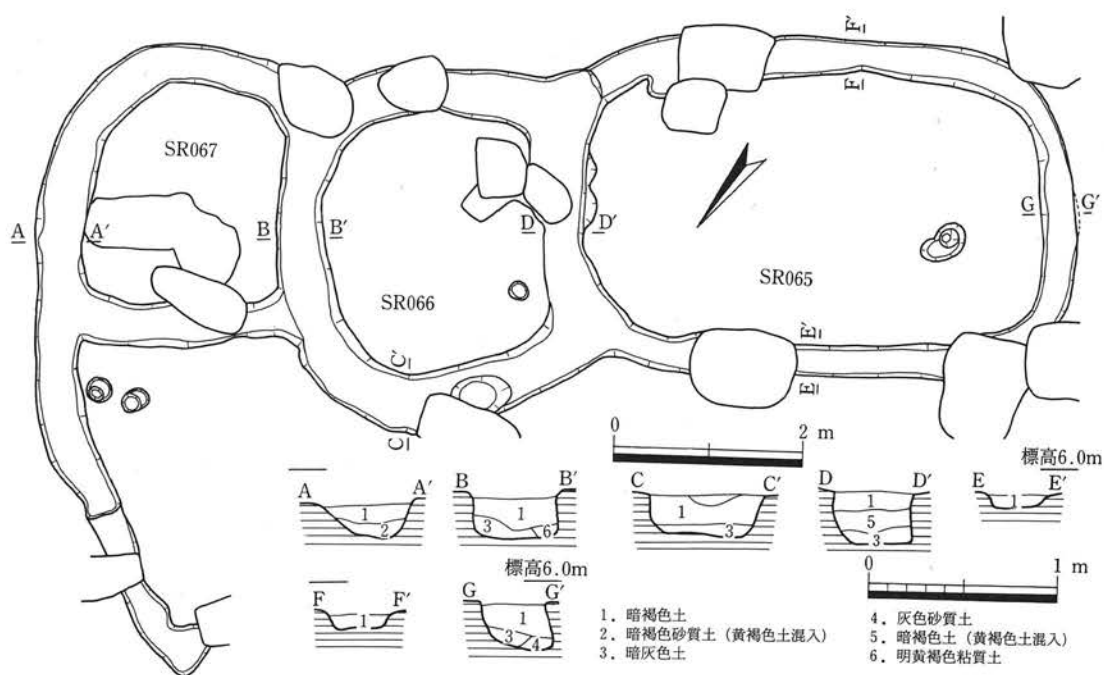


Fig. 52 S R065・S R066・S R067周溝状遺構実測図 (S = 1/80、土層断面図はS = 1/40)

を行なうが、52は胴部内面にハケ目調整が行なわれている。55は内器面に指頭圧痕を残す。51以外は外器面に煤の付着が著しい。

高坏 (56) 復元口径26.4cm、器高22.2cm、脚部径16.3cmを測る丹塗りの高坏である。口縁部内外面には横ナデ調整、外器面に縦方向のヘラミガキ調整、坏部内面には横方向のヘラミガ

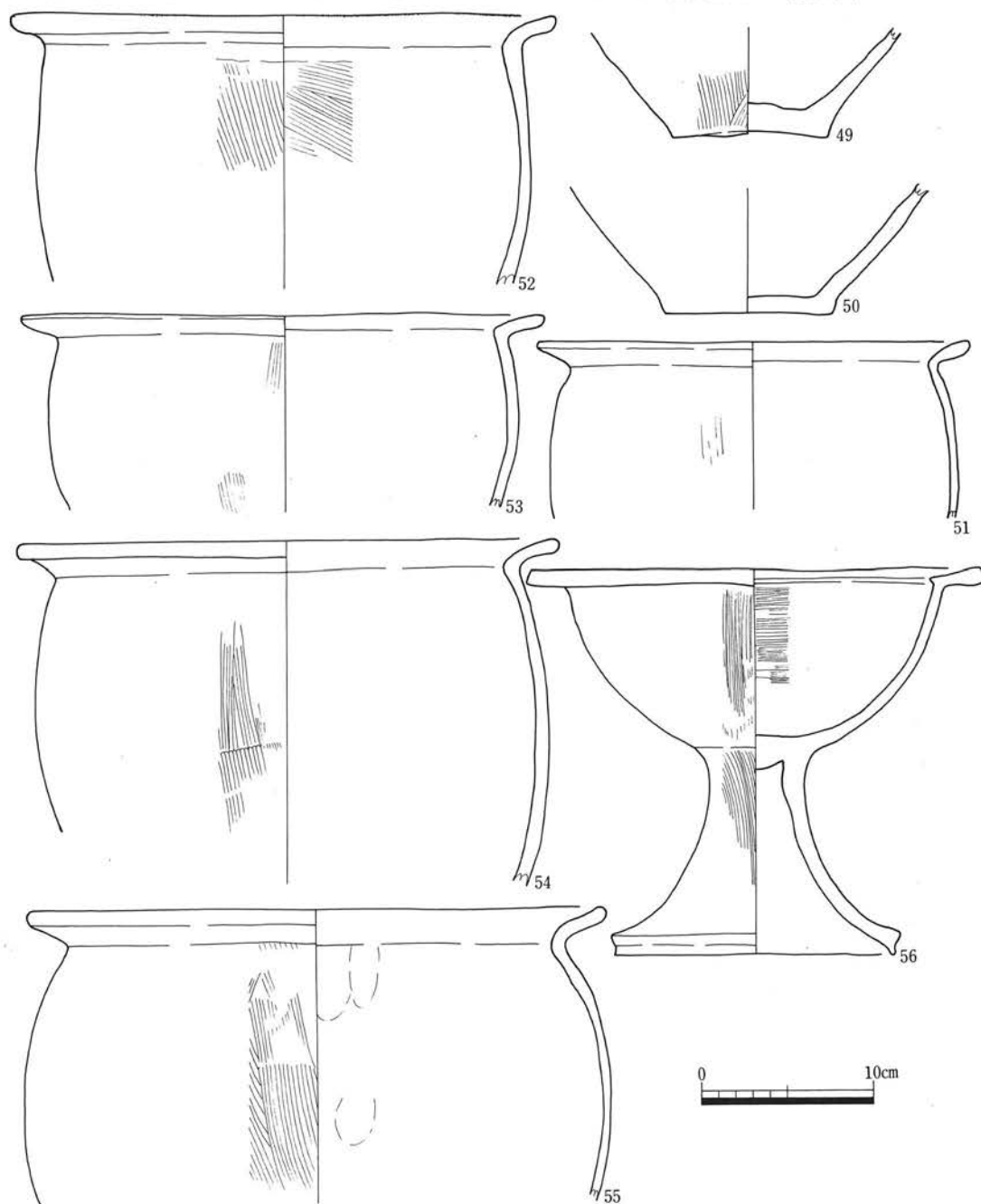


Fig. 53 S R066出土遺物実測図(1) (S = 1 / 4)

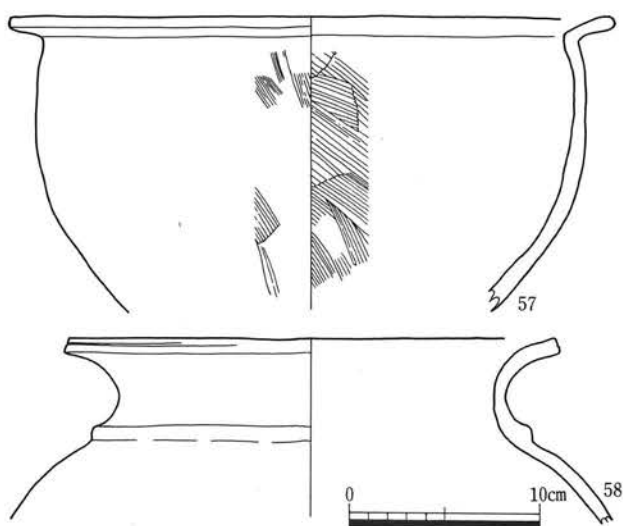


Fig. 54 S R066出土遺物実測図(2) (S = 1/4)

S R113周溝状遺構 (Fig.55)

CF-61・62、CG-61・62グリッドで検出した。一部調査区外にある。平面形は長軸約4 m、短軸3.7mの隅丸方形を呈し、深さ0.4m、溝幅0.6~0.7mを測る。溝断面はU字状を呈し、溝底面はほぼ平坦である。S D118に遺構北部を切られている。また、周溝北東隅で小穴との切り合いがあるが、その前後関係は確認できなかった。

S R113出土遺物 (Fig.56)

甕 (59・60) 59は復元口径33.2cm。口縁部に横ナデ調整、胴部は外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。外器面に煤の付着が見られる。暗茶褐色を呈する。60は復元口径31.8cm。茶褐色を呈する。調整は59と同様である。

壺 (61・62) 2点ともに丹塗りの袋状口縁壺である。61は口径8 cm。口縁部内外面には横方向のヘラミガキ調整、頸部外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はナデ調整を行なう。62は口縁部付近を欠失する。胴部径19.2cm、底径6.9 cm。外面は胴部上半部に縦方向のヘラミガキ調整、下半部に横方向のヘラミガキ調整を行なう。内面はナデ調整で指頭圧痕を残す。頸部には絞り痕が認められる。2点ともに精製の壺である。

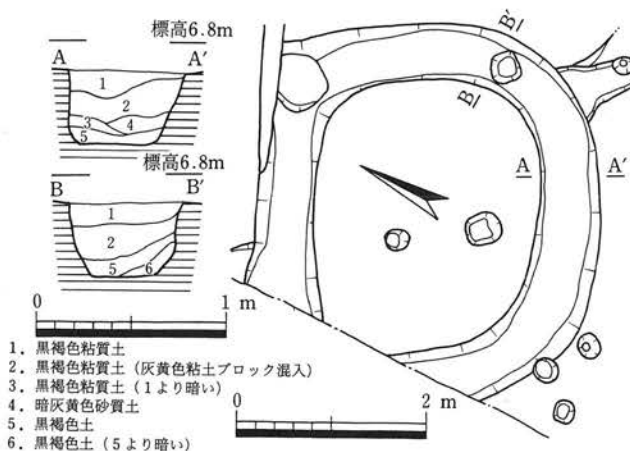


Fig. 55 S R113周溝状遺構実測図(S=1/80、土層断面図はS=1/40)

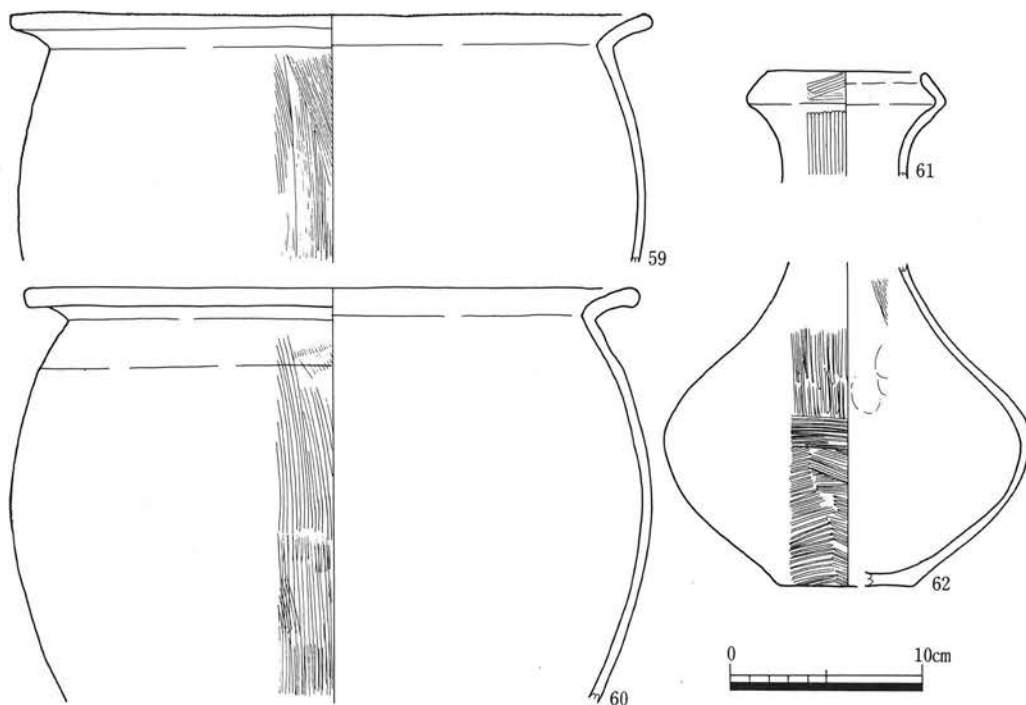


Fig. 56 S R113出土遺物実測図 (S = 1/4)

(3) 竪穴住居と出土遺物

S H051竪穴住居 (Fig.57)

AW-63、AX-63グリッドで検出した。平面形は基本的には長軸3.5m、短軸2.9mの隅丸長方形を呈すと思われる。遺構東隅において性格不明の落ち込みと切り合っており、土層によって本住居が切っていることを確認したが、住居のラインを明確にはできなかった。現存壁高は約20cmを測る。支柱穴・炉跡・壁溝などは確認されていない。遺構覆土は黒褐色土、暗灰色粘質土の2層に分層でき、床面は地山掘削の後に黄褐色土混じりの暗灰色粘質土を貼っている。遺物は床面上より出土している。本遺構の内容や遺跡全体における遺構の占地形態などを考慮すると竪穴住居でない可能性もあるが、ここでは竪穴住居として取り扱っておく。S B134と切り合い関係を持つが、その前後関係は確認できなかった。

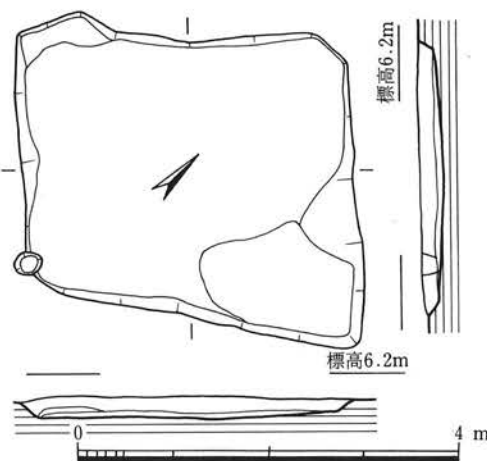


Fig. 57 SH051竪穴住居実測図 (S = 1/80)

S H051出土遺物 (Fig.58)

鉢 (63・64) 63は復元口径15.3cm、器高7.9cm。外面はナデ調整と指押さえ、内面はナデ調

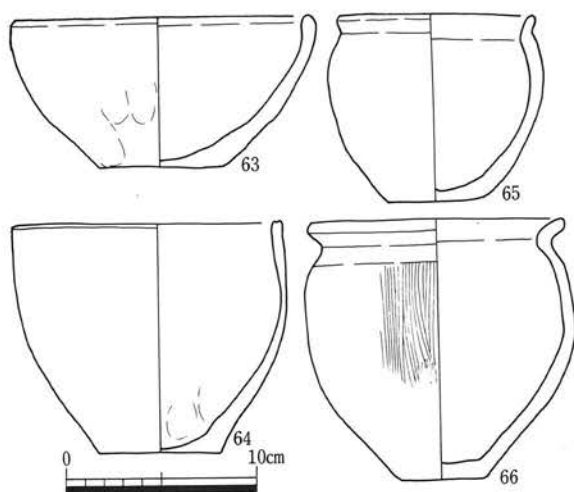


Fig. 58 S H051出土遺物実測図(S=1/4)

いは指によるナデ調整を行なう。暗黄褐色を呈する。

整を行なう。淡褐色を呈する。64は復元口径13.7cm、器高12.1cm。口縁部分に横ナデ調整、その他内外面にはナデ調整を行なう。内底に指頭圧痕を有する。茶褐色を呈する。

甕 (65・66) 65は復元口径10.2cm、器高9.6cm。全面に赤色顔料(?)が塗られている。内外面は調整不明瞭である。暗赤褐色を呈する。66は復元口径13.2cm、器高13.7cm。口縁部内外面には横ナデ調整、胴部外面は上半部にハケ目調整、下半部に縦ナデ調整、胴部内面は工具ある

(4)井戸と出土遺物

S E 002井戸 (Fig.59)

AU-45グリッドで検出した。平面形は長径約1.5m、短径1.2mの長楕円形を呈し、深さ1.3mを測る。断面は長方形状を呈し、壁はほぼ真つすぐに立上がる。井戸底面は平坦をなす。埋土は上から1～5層に分層できた。遺物は各層から出土したが、特に第5層(暗茶褐色砂質土)からは土器の良好な一括資料が得られており、土器とともに鋤・板状木製品などの木製品も出土している。本遺構はS B010掘立柱建物と切り合い関係を持ち、建物に切られている。

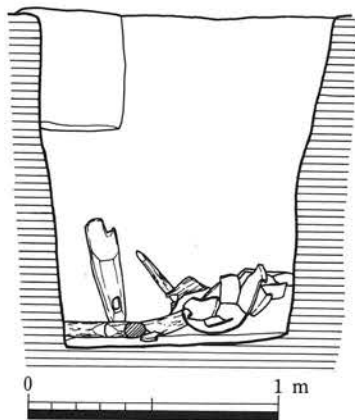
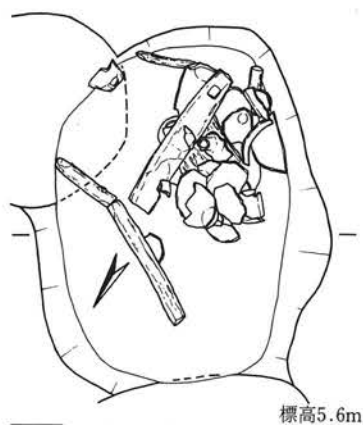


Fig. 59 S E002井戸実測図(S=1/30)

S E 002出土遺物 (Fig.60、61)

鉢(67～70) すべて5層出土。67は口径15.9cm、器高9.2cm。口縁外面には横ナデ調整、体部外面にはハケ目調整、体部内面にはナデ調整を行なう。体部内面中位には指頭圧痕を有する。68は口径16.5cm、器高11.9cm。外器面及び口縁部内面には横ナデ調整、体部内面にはナデ調整を行なう。内底付近には指頭圧痕を有し、底部には焼成後に穿孔が行なわれている。69は口径8.5cm、器高5.3cm。口縁付近には横ナデ調整、体部外面にはハケ目調整、

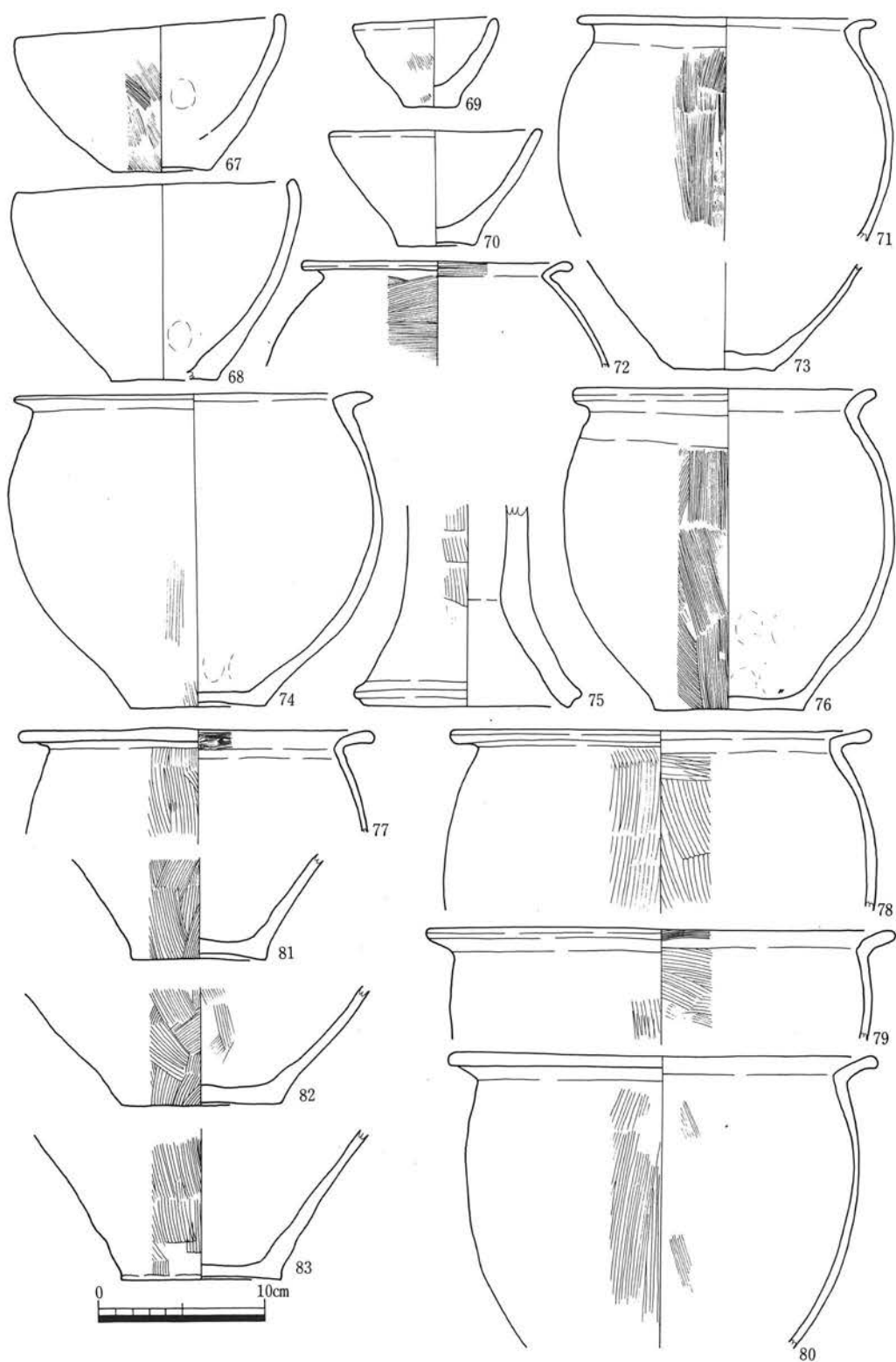


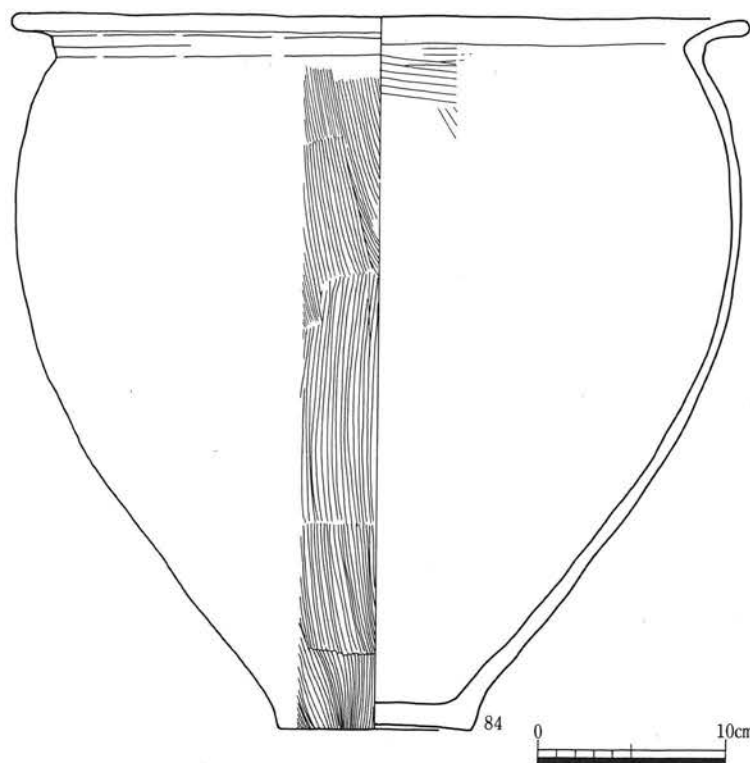
Fig. 60 S E002出土遺物実測図(1) (S = 1 / 4)

内面にはナデ調整を行なう。口縁外面に一部黒斑を有する。70は復元口径12.5cm、器高6.9cm。口縁外面に横ナデ調整、体部内外面にナデ調整を行なう。全点暗茶褐色を呈する。

壺 (72・73) 4層～5層出土。接点はないが、同一個体と思われる。丹塗りの短頸壺で、丹は口縁内面まで塗られている。復元口径16cm。外器面及び口縁内面は横方向のヘラミガキ調整、胴部内面はナデ調整を行なう。73は不明瞭であるが、外器面に縦方向のヘラミガキ調整が行なわれているようである。内面はナデ調整である。

器台 (75) 5層出土。裾部径13.8cm。外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。赤褐色を呈する。

甕 (71・74・76～84) 78～80・84は4～5層にかけて出土。それ以外は77をのぞいてすべて5層出土。71は復元口径16.8cm。頸部が上方に立上がり、やや壺よりの器形を持つ。頸部には横ナデ調整を行なう。74は復元口径19.2cm、器高18.8cm。内底に指頭圧痕、外底に黒斑を有する。76は口径17.6cm、器高19.2cm。内底付近に指頭圧痕を有する。以上3点は口縁部内外面に横ナデ調整、外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。77は復元口径20.8cm。口縁内面及び胴部外面にハケ目調整、その他にはナデ調整を行なう。78は復元口径25cm。口縁部内外面に横ナデ調整、その他にはハケ目調整を行なう。79は復元口径28cm。胴部外面及び口縁内面から胴部にかけてハケ目調整を行なう。80は復元口径25.5cm。口縁内外面に横ナデ調整、他には



ハケ目調整を行なう。以上はすべて褐色を呈する。81～83は甕の底部。基本的には外器面にハケ目調整、内器面にはナデ調整を行なうが、82は内面にハケ目調整、内底にはナデ調整を行なう。84は復元口径38.6cm、器高37.6cm。胴部外面及び口縁内面から頸部付近にかけてハケ目調整、その他にはナデ調整を行なう。外面には煤、内面には炭化物の付着が見られる。

Fig. 61 S E002出土遺物実測図(2) (S = 1/4)

S E 021井戸 (Fig.62)

AW-54で検出した。平面形は長軸1.8m、短軸1.6mの不整形を呈し、深さ約1.5mを測る。断面は内側にすばまる逆台形状を呈し、井戸底面は平坦をなす。埋土は黒褐色を基調としていたが、調査の状況により、分層するまでには至らなかった。遺物は底面から0.3~1.0mの位置に集中して出土しており、土器とともに建築部材と思われるものや木製品が出土している。土器では、壺・甕・鉢・高坏が出土しており、丹塗りのものが多い。特に、完形の丹塗り袋状口縁壺をはじめとして壺の出土が顕著である。

S E 021出土遺物 (Fig.63~65)

蓋 (85) 裾部径12.4cm、器高1.9cm。外面には丹が塗られている。外面には縦方向のヘラミガキ調整、内面にはナデ調整を行なう。裾付近に2個ずつ対称に焼成前穿孔が行なわれている。86の壺とセットになると思われる。

壺 (86~95) 86~90は無頸壺。86は口径12.1cm、器高10.6cm。丹塗りで、口縁内面から外器

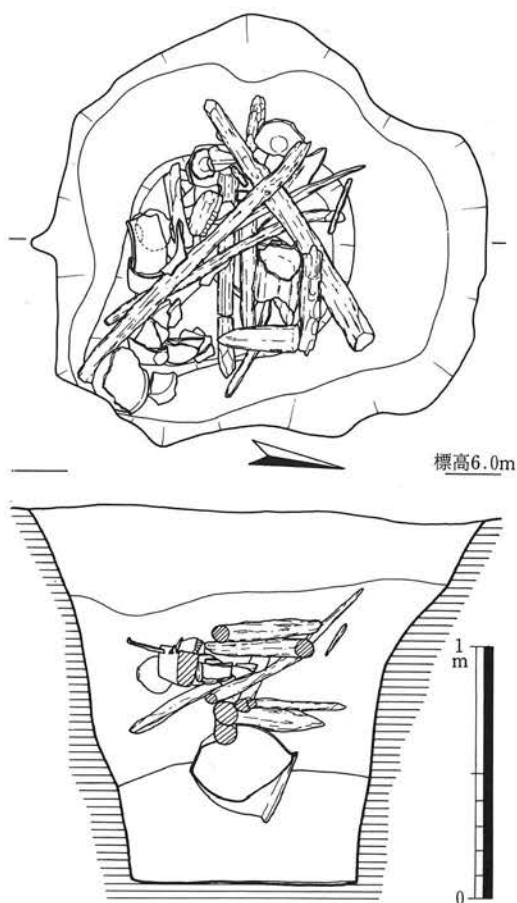


Fig. 62 S E 021井戸実測図 (S = 1/30)

面にかけて横方向のヘラミガキ調整、内面はナデ調整を行なう。口縁部に2個1組の焼成前穿孔を対称に行なっている。87は復元口径11cm、器高11cm。丹塗りで、口縁部から胴部上半にかけては横方向のヘラミガキ調整、胴部下半には縦方向のヘラミガキ調整、内面はナデ調整を行なう。内面には指頭圧痕を残す。88は口径12.4cm、器高11.7cm。丹塗りで、口縁内面から胴部上半にかけて不明瞭ながら横方向のヘラミガキ調整、胴部下半に縦方向のヘラミガキ調整、胴部内面に指と工具によるナデ調整を行なう。89は口径13.6cm。外器面は磨耗のため調整不明瞭、内器面はナデ調整を行なう。口縁部に焼成前穿孔を行なう。内面は灰褐色、外面は淡橙色を呈する。90は口径15.3cm、器高16.4cm。口縁部には横ナデ調整、胴部は外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。内面には指頭圧痕を残す。外底付近に黒斑が認められる。91・92は丹塗りの袋状口縁壺。91は復元口径10cm。口縁上半部に横ナデ調整、下半部に横方向のヘラミガキ調整、頸部に縦方向のヘラミガキ調整、内面はナデ調整を行なう。92は完形品。口縁部及び胴部中位には横方向のヘラミガキ調整、頸部及び底部付近には縦方向のヘラミガキ調整を行なう。胴部下半には黒斑が認められる。93・94は

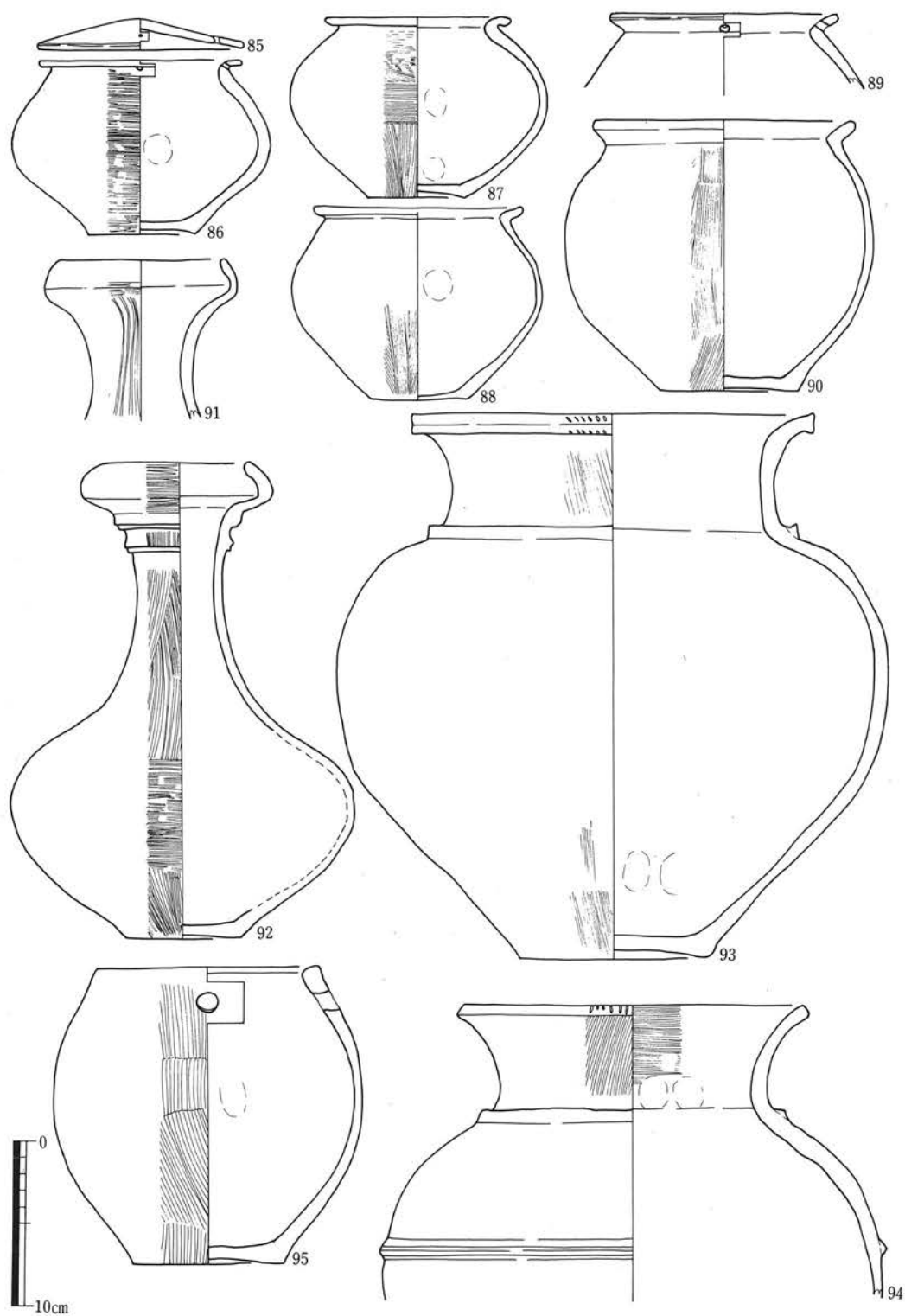


Fig. 63 S E 021出土遺物実測図(1) (S = 1 / 4)

広口壺。93は口径24.4cm、器高33.1cm。器面の磨耗が著しいが、口縁部から頸部内面には横ナ
 デ調整、頸部外面及び胴部外面にはハケ目調整を行なう。頸部と胴部の境に一条の突帯を持ち、
 口縁端部上下にはかすかに刻目が認められる。器面の一部には丹塗りの痕跡が認められる。94
 は口径20.8cmを測り、丹塗りである。器面の磨耗が著しいが、口縁部から頸部にかけて外面に

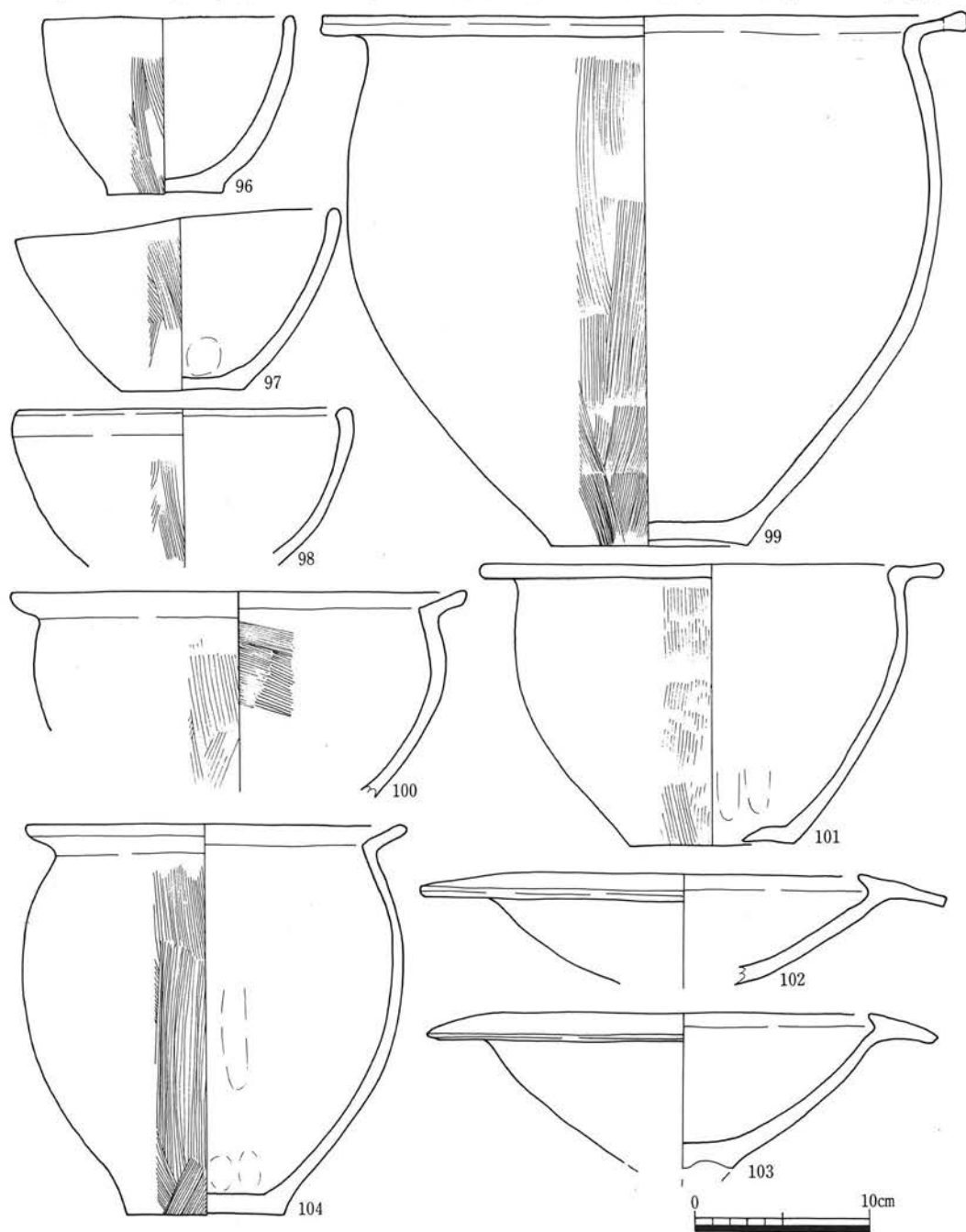


Fig. 64 S E 021出土遺物実測図(2) (S = 1 / 4)

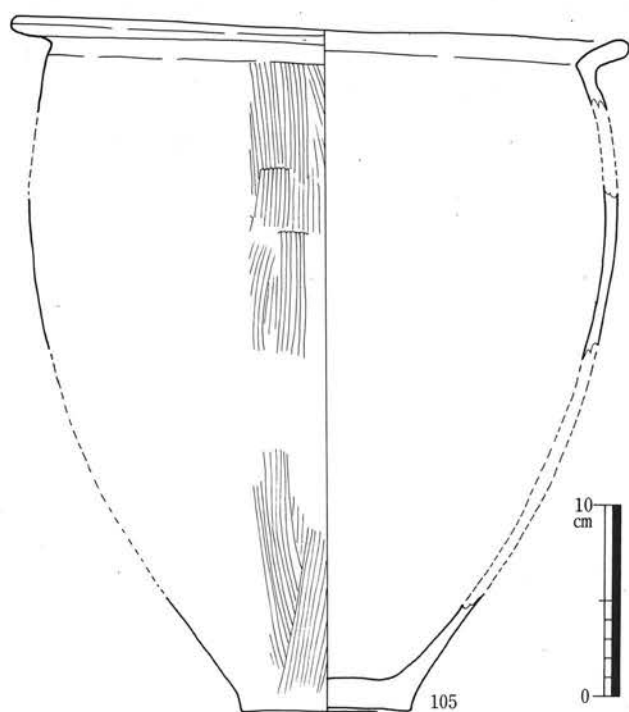


Fig. 65 S E021出土遺物実測図(3) (S=1/4)

10.4cm。外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。98は復元口径18.6cm。口縁部に横ナデ調整、体部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。外面に黒斑を有する。99は復元口径36.6cm、器高30.6cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。外面に煤が付着する。器形的には甕に近い。100は復元口径26.5cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面に縦ハケ目調整、内面に横ハケ目調整を行なう。101は復元口径25.8cm、器高16cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面は上位に横ナデ調整、その他はナデ調整を行なう。底部中央には焼成後穿孔を行なう。

高坏 (102・103) 2点ともに丹塗りで、坏部のみが残存する。102は坏部外径30.2cm。口縁部及び内面に横ナデ調整、外面は不明瞭であるが縦方向のヘラミガキ調整が行なわれている。口縁上面には暗文を有する。103は坏部外径29.4cm。調整は不明瞭であるが、102と同様であると思われる。口縁上面には暗文を有する。

甕 (104・105) 104は口径22.4cm、器高22.4cm。口縁部には基本的に横ナデ調整を行なうが、口縁内面の一部にハケ目調整が行なわれている。胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。105は口径31.7cm、器高36.6cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にはナデ調整を行なう。部分的に器面の剝離が著しい。外面には煤の付着が認められる。

縦ハケ目調整、内面は縦ハケ目調整、胴部内面はナデ調整、外面は調整不明である。口縁端部に刻目を施す。頸部及び胴部中位に突帯を有する。95は復元口径13.4cm、器高18.1cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。口縁部に焼成前穿孔を行なっている。穿孔の状況や井戸からの出土であることを考慮すると釣瓶である可能性が高い。

鉢 (96～101) 96は口径14.2cm、器高10.2cm。口縁部に横ナデ調整、体部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。外底に黒斑を持つ。97は口径18.3cm、器高

S E 022井戸 (Fig.66)

AV-53・54グリッドで検出した。長径1.6m、短径1.3mの楕円形を呈し、深さ0.85mを測る。西部分で傾斜を持つ以外はほぼ真っすぐに落ち、底面に近づくにつれて若干外方に広がっている。井戸底面は平坦をなしている。遺構埋土は黒褐色を基調としていた。全体的に遺物の出土量は少なかったが、底面直上から杓子の未製品が出土している。他の遺構との切り合い・重複関係はない。

S E 022出土遺物 (Fig.67)

手捏 (106) 口径3.7cm、器高5cm。口縁はやや内湾しながら上方に立上る。

壺 (107) 袋状口縁壺で、復元口径12.1cm。口縁外面に横ナデ調整、頸部にハケ目調整、内面はナデ調整を行なう。外面に丹塗りの痕跡が認められる。

甕 (108) 復元口径16.3cm、器高21.6cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。外器面に黒斑を有する。器面の剝離が著しい。

鉢 (109・110) 109は口縁部を欠失する。口縁部にナデ調整、胴部内外面にハケ目調整を行なう。110は復元口径24.6cm、器高9.4cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。外底部においては器面の剝離が著しい。

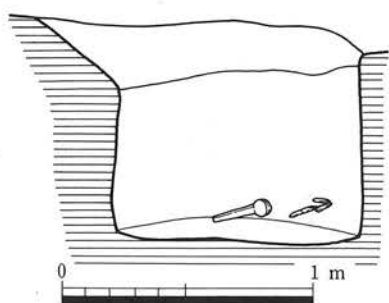
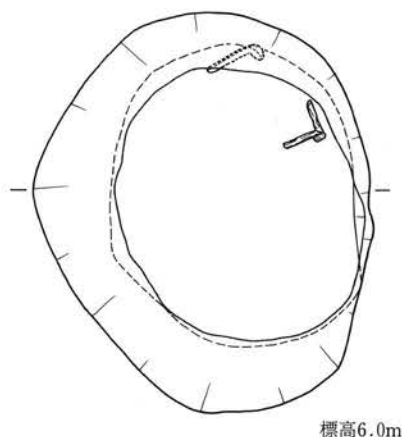


Fig. 66 S E 022井戸実測図 (S=1/30)

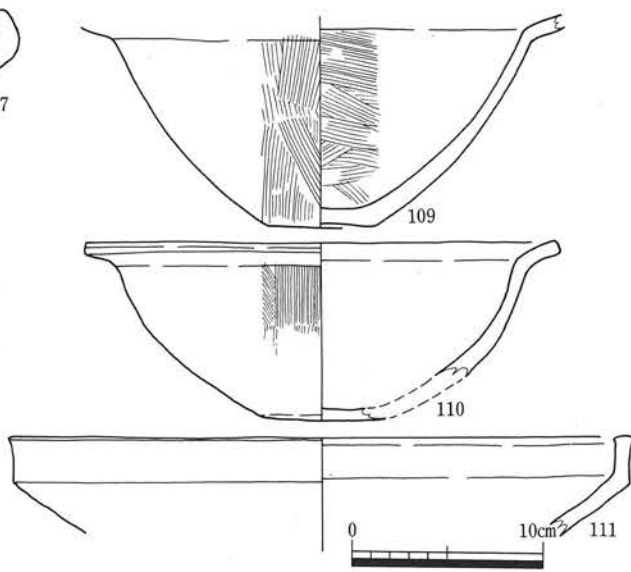
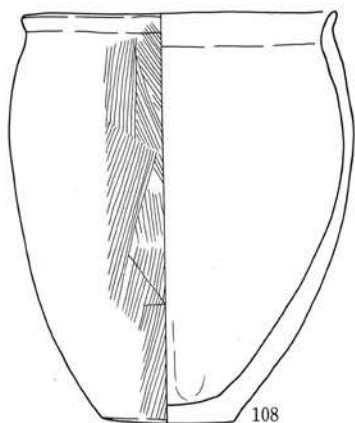


Fig. 67 S E 022出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

高坏(111) 坏部のみが残存する。復元口径33cm。器面の磨耗が著しいが、口縁部に横ナデ調整、体部内外面にナデ調整を行なう。

S E 023井戸 (Fig.68)

AV-55、AW-55グリッドで検出した。平面形は長径1.6m、短径1.3mの楕円形を呈する。遺構の西半部は水路によって上部の1/3程度が削平を受けている。深さ約1mを測り、井戸底面はほぼ平坦になっている。遺構埋土は黒褐色土を基調としていたが、調査の方法上分層は出来な

かった。遺物は、検出面から約30cm以下に集中しており、その上面においては自然木が比較的大量に検出されている。出土遺物のなかでは、竖杵・鋤・編籠・建築部材など比較的死存状況の良好な木製品が土器とともに出土している。また井戸底面直上より大小2個の壺が出土している。

S E 023出土遺物 (Fig.69)

甕(112~115) 112は復元口径22.2cm。口縁部外面及び口縁内面上半部には横ナデ調整、その他にはハケ目調整を行なう。外器面に煤の付着が見られる。113は復元口径26.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にハケ目調整を行なう。外器面に煤の付着が見られる。114は口径19.5cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面には指及び工具によるナデ調整を行なう。115は復元底径8.2cm。外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。

手捏(116) 口径7.1cm、器高4.6cm。碗状を呈し、外面に黒斑を有する。

支脚(117~120) 受部に張り出しを持たないもの(117・118)と袋状の張り出しを持つもの(119・120)がある。120は裾部径11.3cm、器高10.2cm。117は外面にハケ目調整、内面にナデ調整、118~120は受部及び内器面にナデ調整、その他の部分にはハケ目調整を行なっている。

器台(121) 受部径9.8cm。内外面ともにナデ調整を行なう。外器面に指頭圧痕を残す。

鉢(122・123) 122は復元口径14.8cm、器高6.7

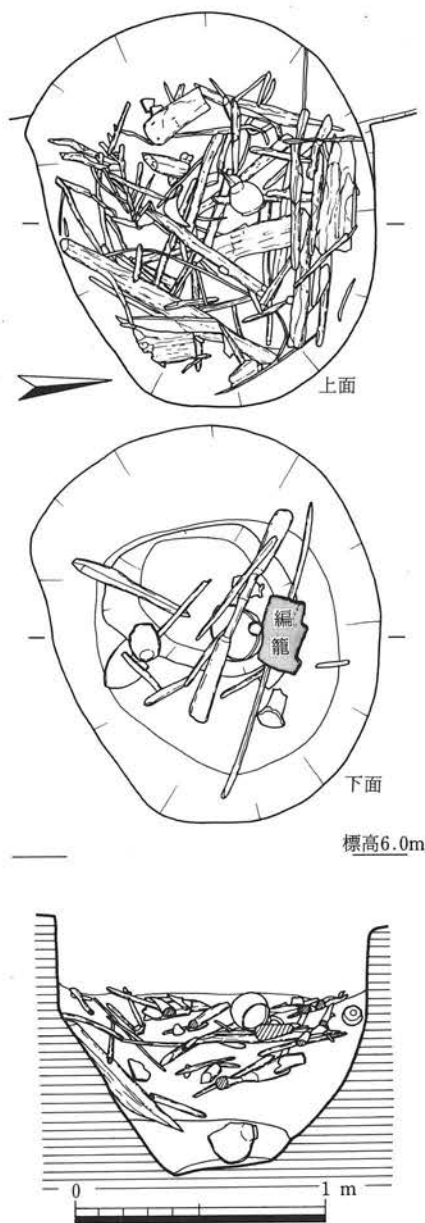


Fig. 68 S E 023井戸実測図(S = 1/30)

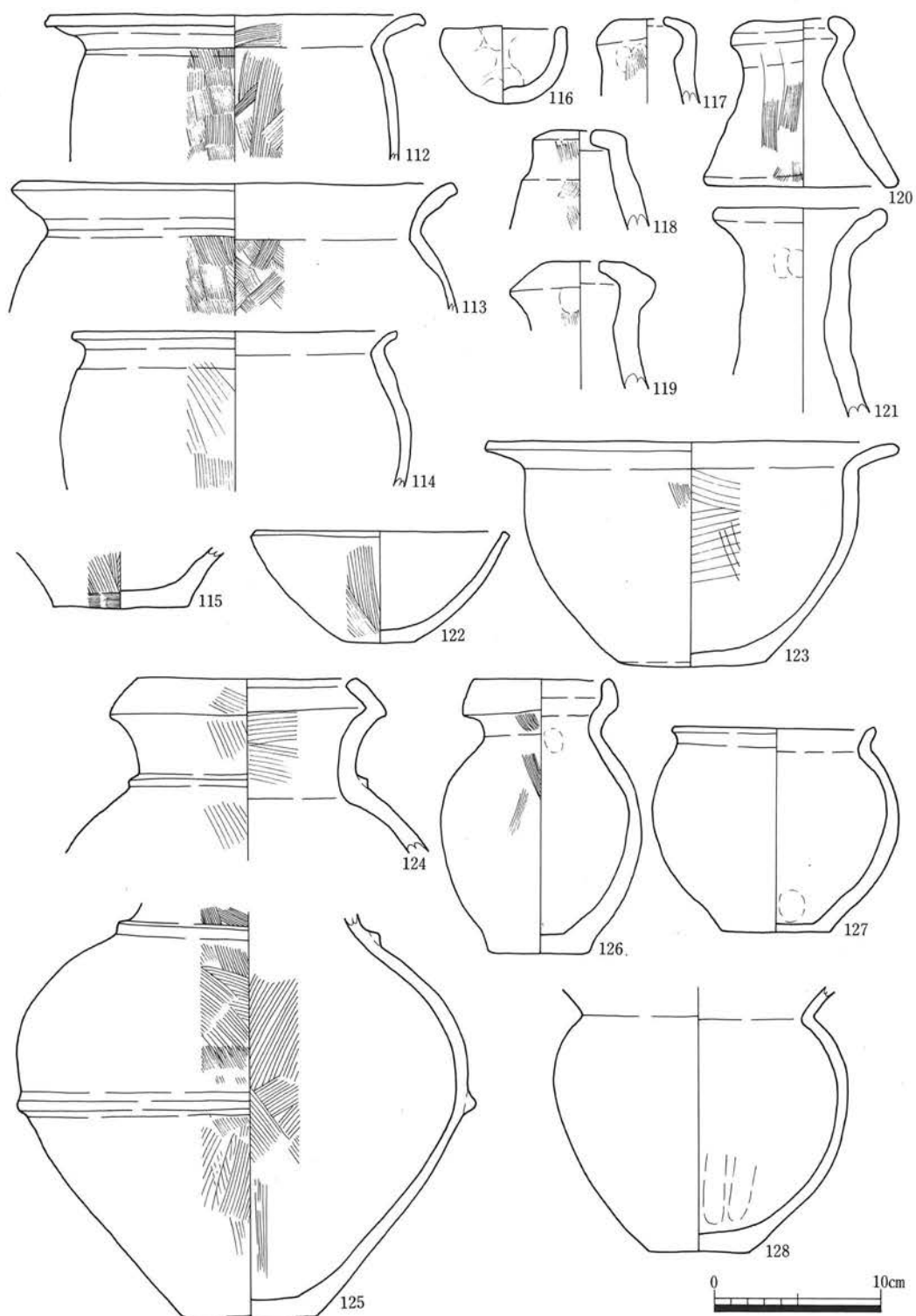


Fig. 69 S E023出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

cm。口縁部に横ナデ調整、体部外面にハケ目調整、体部内面にナデ調整を行なう。外器面には黒斑を有する。123は復元口径24.6cm、器高13.5cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面は磨耗のため調整不明瞭、内面は粗いハケ目調整を行なう。外底部付近に黒斑を有する。

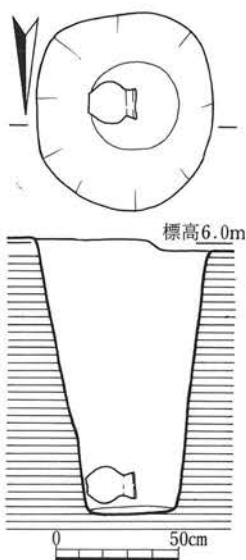
壺 (124~128) 124は復元口径13.2cm。口縁部が比較的屈曲する袋状口縁壺である。頸部と胴部の境界に一条の突帯を持つ。外器面にハケ目調整、内面は口縁部に横ナデ調整、頸部にハケ目調整、胴部にはナデ調整を行なう。125は井戸底面直上出土で、口縁部を欠失する。頸部と胴部の境界及び胴部中位にそれぞれ一条の突帯を持つ。内外器面ともにハケ目調整を行なう。126は井戸底面直上出土でほぼ完形品である。口径7.8cm、器高16.5cm。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部外面に不明瞭ながらハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。口縁外面の一部に丹塗りの痕跡が見られる。127は口径11.9cm、器高12.3cm。不明瞭であるが内外面ともにナデ調整と思われる。外器面の一部に丹塗りの痕跡が見られる。128は口縁の一部を欠失する。磨耗のため外器面は調整不明瞭、内器面はナデ調整を行なう。

S E 054井戸 (Fig.70)

BA-62・63、BB-63グリッドで検出した。平面形は直径約0.8mの円形を呈し、深さ1.1mを測る。断面形は逆台形状を呈し、底面は平坦をなす。遺構埋土は黒褐色土である。出土遺物は遺構底面からやや浮いた状態で検出された壺以外はほとんどない。

S E 054出土遺物 (Fig.72)

壺 (129) 残存器高13.6cm。口縁部に横ナデ調整、外面は頸部及び胴部にハケ目調整、内器面にはナデ調整を行なう。明茶褐色を呈する。



S E 109井戸 (Fig.71)

CC-59・60グリッドで検出した。平面形は長軸3.1m、短径2.5mの楕円形を呈し、深さ1.2mを測る。遺構西側においては、底面から壁に立てかけられた状態で木材が検出されている。木材の上半部は半分は裁断されている。梯子の役割を果たすものである可能性もあるが、その性格は明らかに出来なかった。また、ここでは井戸として報告したが、梯子状の木材の存在や遺構の形状から貯蔵穴の可能性も指摘できる。

S E 109出土遺物 (Fig.72)

甕 (130~133) 130は底部。外面は不明瞭ながらハケ目調整、内面ナデ調整を行なう。131は復元口径19.6cm。口縁部に刻み目を施し、口縁部に横ナデ調整、外器面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。132は復元口径19.4cm。断面三角形の口縁と突帯に刻目を施す。外器面は磨耗の

ため調整不明瞭であるが、内面はナデ調整を行なう。133は底部で、外器面は磨耗のため調整不明。内器面はナデ調整を行なう。

蓋 (134) 裾部径25.3cm、器高13.7cm器面の磨耗が著しく、外器面は調整不明。内器面はナデ調整を行なう。

鉢 (135) 復元口径27.9cm、器高20.2cm。器面の磨耗が著しいが、外器面にはヘラミガキ調整、内面にナデ調整、断面三角形の口縁に刻目を施す。底部はやや上げ底気味である。

S E 133井戸 (Fig.71)

BK-61グリッドで検出した。平面形は長軸1 m、短軸0.8mの不整形を呈し、深さ約1.4mを測る。断面は基本的には底すばまりのU字状であるが、掘方上部において横方向に深く挟り込みが見られる。井戸底面はほぼ平坦をなし、底面付近から土器がかたまって出土している。

S E 133出土遺物 (Fig.72)

鉢 (136~138) 136は復元口径22.7cm、器高15.5cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。137は復元口径21.5cm、器高14cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。外面の一部に丹塗り痕が認められる。138は復元口径12.8cm、器高7.9cm。体部は内外面ともにナデ調整を行なう。

壺 (139) 復元口径17.4cm、器高16.9cm。口縁部外面に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。外面には煤の付着が見られる。

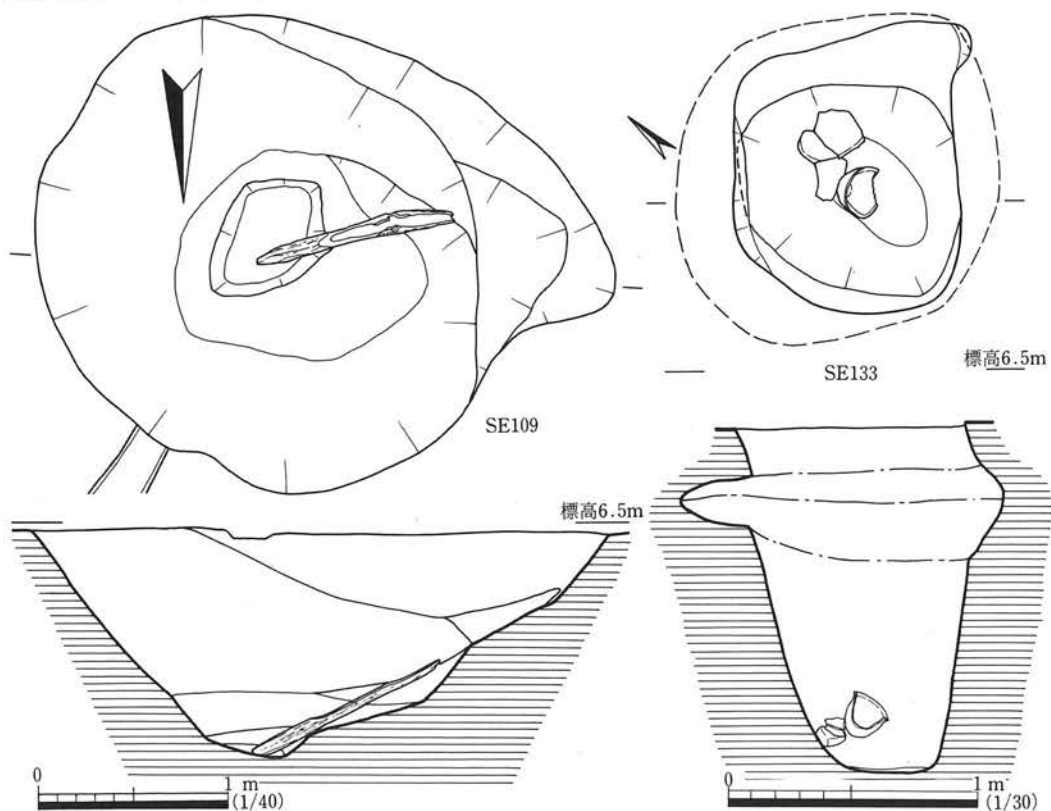


Fig. 71 S E 109・S E 133井戸実測図 (S = 1/40、S = 1/30)

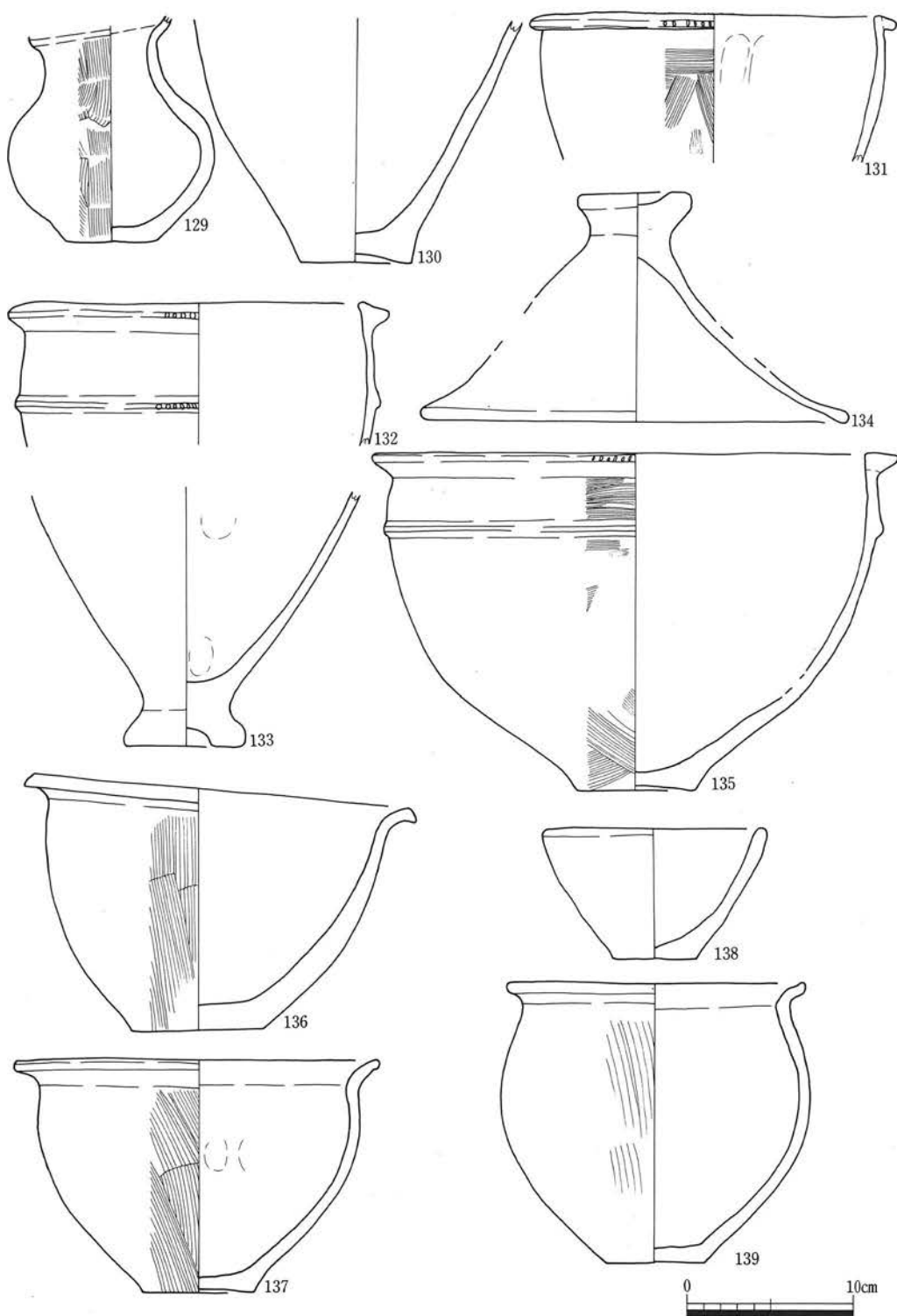


Fig. 72 S E054・S E109・S E133出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

(5)土壌と出土遺物

S K 041土壌 (Fig.73)

AY-64グリッドで検出した。平面形は長径1.1m、短径0.8mの楕円形を呈し、深さ約0.2mを測る。断面は扁平な逆台形状を呈し、遺構底面は平坦をなす。遺構東部に集中して遺物が出土している。

S K 041出土遺物 (Fig.74)

器台 (140・141) 140は受部径15.2cm。褐色を呈する。141は受部径14.6cm、器高19.8cm、裾部径16.2cm。褐色を呈する。調整はいずれも同じで、口縁部及び裾部には横ナデ調整、胴部内外面にはハケ目調整を行なう。

蓋 (142) 復元口径17.8cm、器高4.5cm。外面はへら状工具によるナデ調整、内面にハケ目調整、裾部に横ナデ調整、天井部内面にナデ調整を行なう。

鉢 (143) 復元口径18cm、器高8.9cm。口縁部に横ナデ調整、体部内外面にナデ調整を行なう。外器面に黒斑を有し、内外器面に指頭圧痕が認められる。

甕 (144・145) 144は復元口径31.2cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にハケ目調整を行なう。145は復元口径34.6cm。口縁部外面及び胴部内面にナデ調整、胴部外面にハケ目調整を行なう。

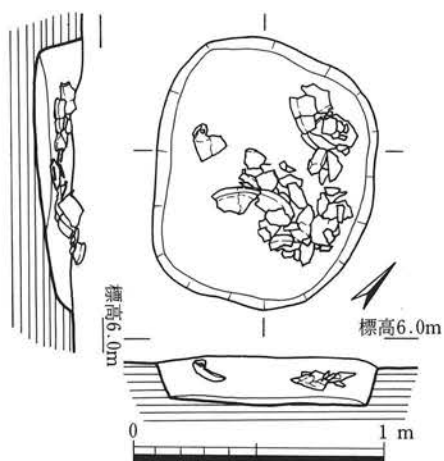


Fig. 73 S K 041土壌実測図 (S=1/30)

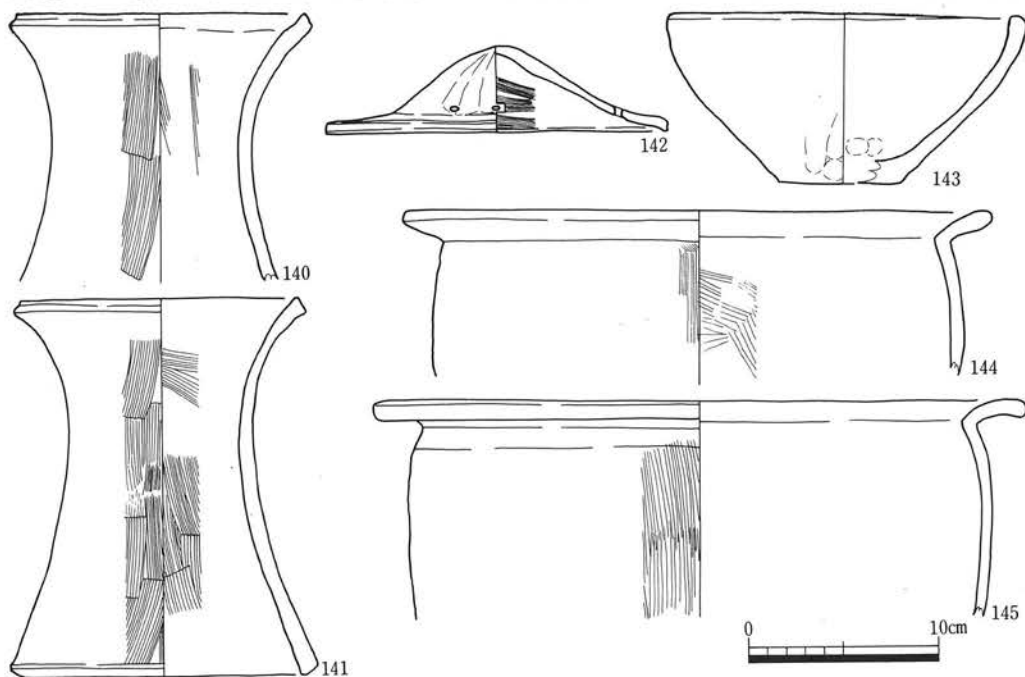
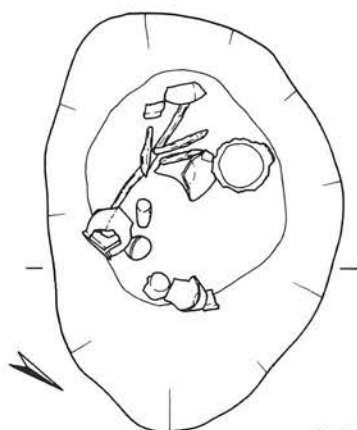


Fig. 74 S K 041出土遺物実測図 (S=1/4)



標高6.4m

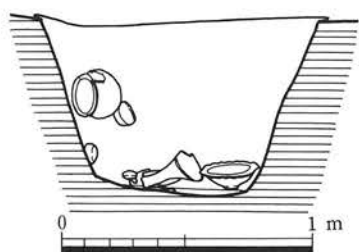
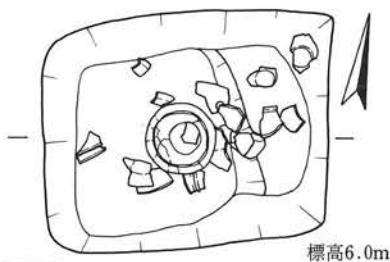


Fig. 75 SK094土壌実測図 (S=1/30)

高坏 (149・150) 149は復元口径27.5cm。口縁部は一部を残してすべて打ち欠かれている。内外面ともに丹塗りで口縁部及び内器面には横方向のヘラミガキ調整、外器面は不明瞭であるが縦方向のヘラミガキ調整と思われる。150は復元裾部径18.4cm。裾部内面に横ナデ調整、脚部外面及び内面中位にハケ目調整を行なう。



標高6.0m



Fig. 76 SK131土壌実測図 (S=1/30)

なう。口縁部内面にもハケ目調整の痕跡が見られる。

SK094土壌 (Fig.75)

BJ-62・63グリッドで検出した。平面形は長径1.8m、短径1.4mの楕円形を呈し、深さ0.7mを測る。断面は逆台形状を呈し、遺構底面はほぼ平坦をなす。遺構埋土は4層に分層でき、いずれも黒褐色土を基調としており、堆積の状況は自然堆積であった。口縁部を意識的に打ち欠いた様な高坏などが遺構底面から出土している。

SK094出土遺物 (Fig.77)

手捏 (146) 口径5.3cm、器高7cm。体部中位に一ヶ所焼成前穿孔を有する。底部付近に黒斑が認められる。

鉢 (147) 口径11.1cm、器高6.1cmの完形品である。口縁部に横ナデ調整、その他はナデ調整を行なう。

壺 (148) ほぼ完形で口径17.3cm、器高17.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にはナデ調整を行なう。口縁部直下はハケ目調整の後ナデ消す。

甕 (151~153) 151は復元口径28.6cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にはナデ調整を行なう。152は復元口径33cm。調整は151同様である。外器面に煤の付着が見られる。153は外器面にハケ目調整、内器面及び外底にナデ調整を行なう。

SK131土壌 (Fig.76)

AV-58グリッドで検出した。平面形は長軸1.6m、短軸0.9mの隅丸長方形を呈し、深さ0.6mを測る。掘方は二段掘り状になっており、平面形・断面形ともに掘立柱建物の柱穴とよく似ている。遺構埋土は黒褐色土の単一層である。遺構底面より若干浮いた状態で土器が出土している。

SK131出土遺物 (Fig.78)

手捏 (154・155) 154は復元口径6.8cm、器高5.1cm。

外面に黒斑を有する。155は口径9.4cm、器高5.9cm。外面には指による整形痕が明瞭に残っており、内面には粗いハケ目調整を行なう。

壺 (156・157) 156は復元口径11.5cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にはナデ調整を行なう。胴部内面上位には指頭圧痕が認められる。157は複合口縁壺で、口径21cm。頸部と胴部の境界に二条の突帯を持つ。口縁部外面及び内器面には横方向のハケ目調整、外器面には縦方向のハケ目調整を行なう。外器面の一部に丹塗り痕が認められる。

鉢 (158) 復元口径10.8cm。口縁部に横ナデ調整、体部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。胴部外面中位に黒斑を有する。

甕 (159～164) 159は底径8.3cm。やや尖り気味の底部である。ナデ調整を行なう。160は復元口径16.6cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。161は復元口径21cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整を行なう。内面はハケ目調整の後にナデ調整を行なっている。胴部外面には黒斑を有する。162は復元口径15.5cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。163は口径14.6cm、器高17.8cm。やや尖り気味の底部を持つ。口縁部内面には横方向のハケ目調整、胴部外面には縦方向のハケ目調整、胴部内面には板状工具によるナデ調整を行い、内底に指頭圧痕を有する。164は復元口径35.2cm。口縁直下に一条の突帯を有する。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にはハケ目調

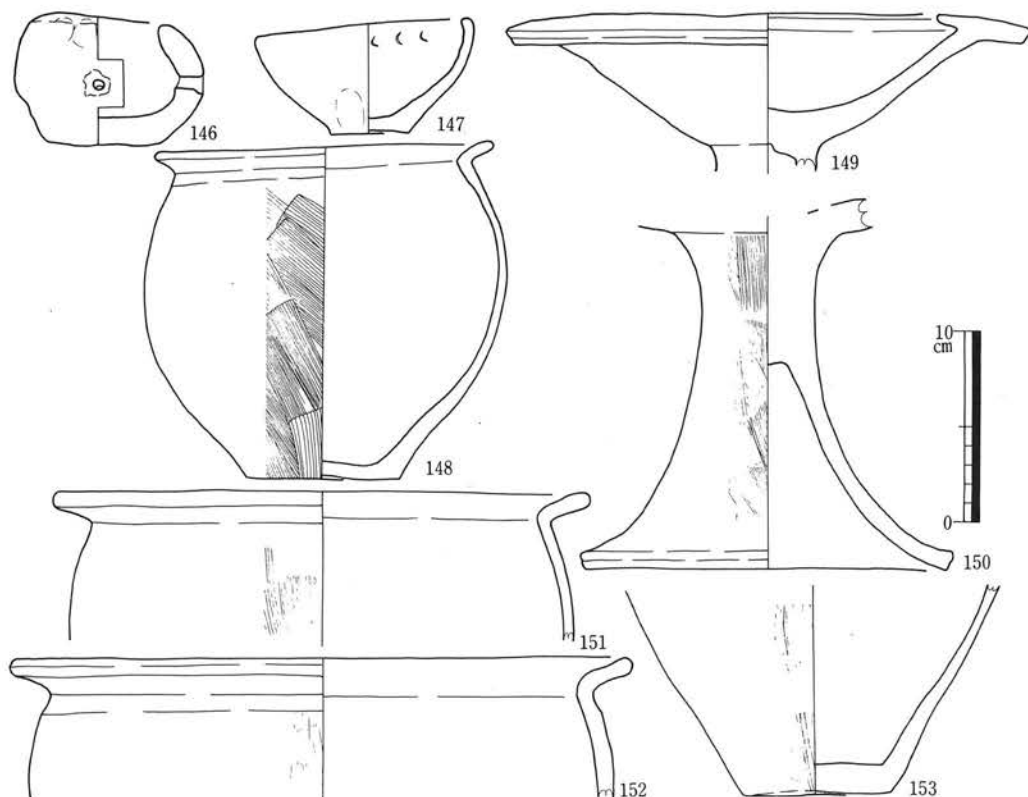


Fig. 77 S K094出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

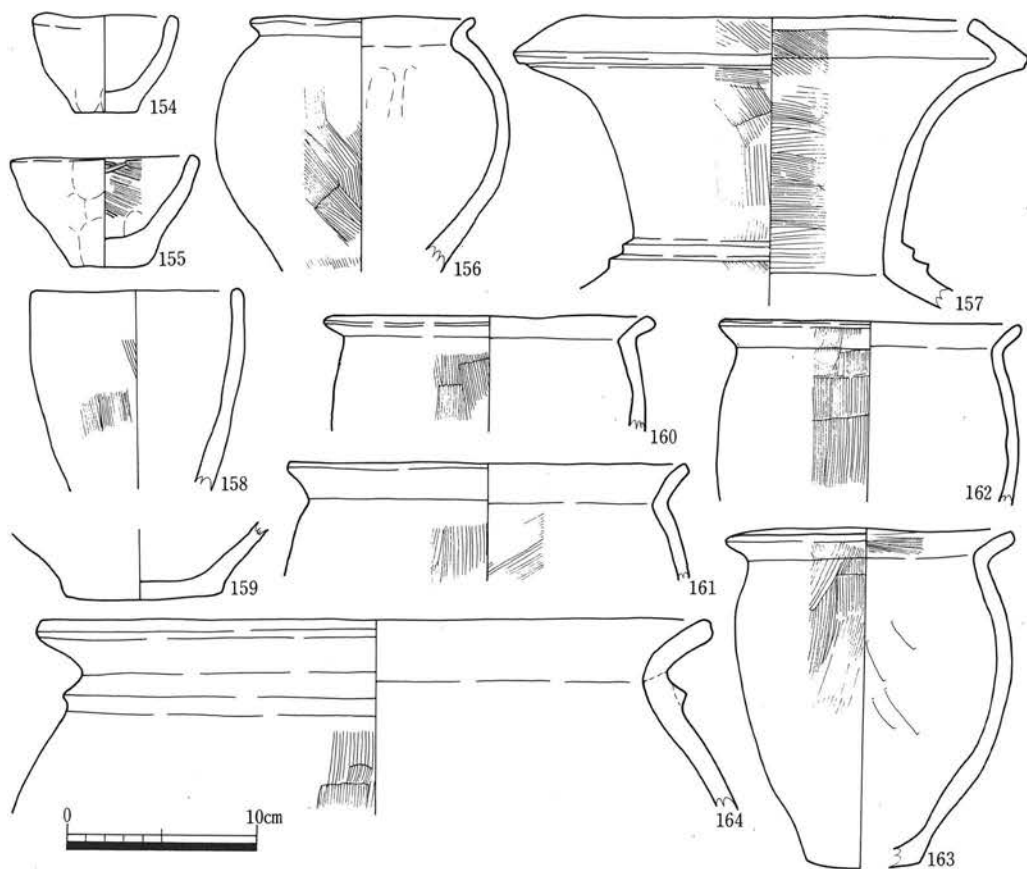


Fig. 78 S K131出土遺物実測図(S=1/4)

整、内面にはナデ調整を行なう。

(6)溝と出土遺物

S D001溝 (Fig.79、89)

AU-43、AV-44・45、AW-45・46グリッドで検出した。溝の北端及び中央部は攪乱を受け、

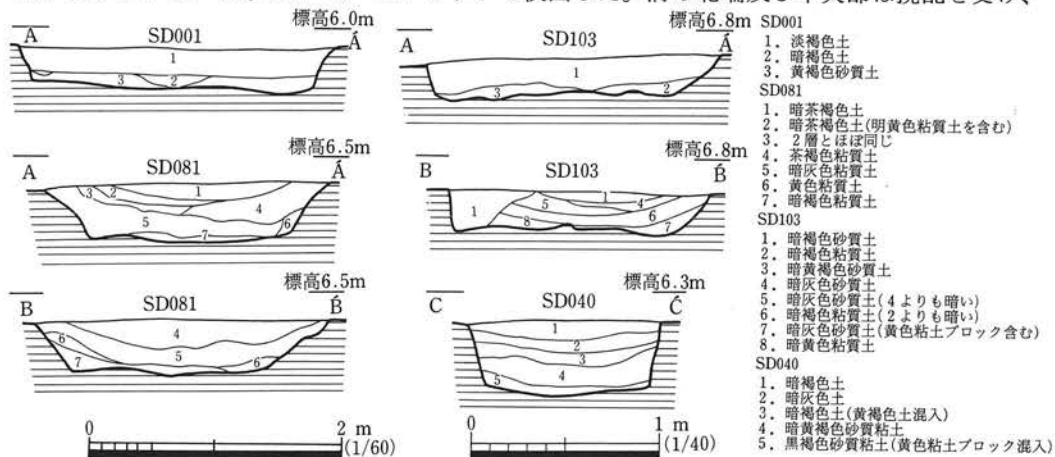


Fig. 79 S D001・S D040・S D081・S D103溝土層断面図(S=1/40, 1/60)

溝の西半部は削平により一部消失している。溝は残存状況の良いところで幅2.5m、深さ0.3mを測る。掘立柱建物との切り合い・重複関係はない。溝底面直上より遺物が出土している。

S D001出土遺物 (Fig.80)

甕 (165~167) 165は復元口径20.2cm。口縁部に横ナデ調整、胴部は内外面ともにハケ目調整を行なう。外器面には煤の付着が見られる。166は外面にハケ目調整、内面及び外底にナデ調整を行なう。167は外面にハケ目調整、内面及び外底にナデ調整を行なう。内面に煤の付着が見られる。

壺 (168) 口径19.5cm。頸部上位に二条、胴部中位に一条の突帯を有し、外面は口縁部から頸部に横ナデ調整、胴部にハケ目調整、内面は横ナデ調整あるいはナデ調整を行なう。

手捏 (169) 口径6.8cm、器高4.3cm。外面に黒斑を有する。

鉢 (170) 復元口径10cm。口縁部に横ナデ調整、体部内外面にナデ調整を行なう。

支脚 (171・172) 171は裾部径11.1cm、器高10.7cm。裾部に横ナデ調整、他はナデ調整を行なう。172は裾部径13.2cm、器高10.2cm。内外面にナデ調整を行なう。指頭圧痕を有する。

S D040溝 (Fig.79, 88)

AV-64~BG-61グリッドにかけて検出した。幅0.8~1 m、深さ0.4~0.8mを測る。遺構南部

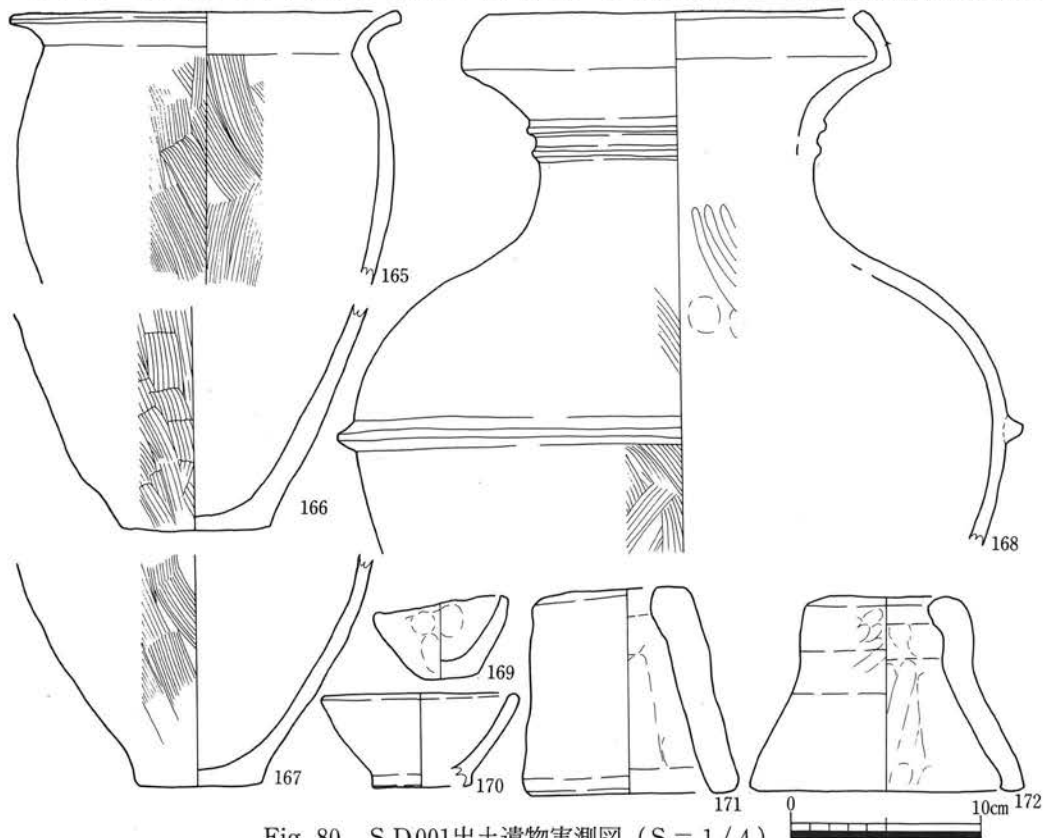


Fig. 80 S D001出土遺物実測図 (S = 1/4)

においてはS R046と切り合い関係にあり、本溝が切っている。遺構中央部においては土壌状の落ち込みがあり、鍬が出土している。土壌状の落ち込みは溝との切り合い関係が認められず、出土土器も同時期のものであったため、本溝に伴うものとする。掘立柱建物との切り合い・重複関係はない。

S D040出土遺物 (Fig.81、82)

高坏 (173) 口縁端部を欠失する。口縁部には横ナデ調整、外面はハケ目調整、内面はナデ調整を行なう。

器台 (174) 受部径12.5cm、器高18.5cm、裾部径15.7cm。端部には横ナデ調整、外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。

手捏 (175~178) 175は口径4.9cm、器高3.4cm。台付鉢を模倣したものか。176は口径5.3cm、器高3.6cm。177は復元口径8.3cm、器高6.5cm。178は口径8.9cm、器高5.7cm。外面に黒斑を有する。

甕 (179~184) 179は復元口径17.2cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にハケ目調整を行なう。外面に煤の付着が見られる。180は復元口径17.6cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にハケ目調整を行なう。口縁外面直下はハケ目調整をナデ消している。181は復元口径15.4cm、器高13.4cm。口縁外面に横ナデ調整、胴部外面及び口縁内面にハケ目調整、胴部内面に板状工具によるナデ調整を行なう。182は復元口径19.4cm、器高17.6cm。調整は181と同様。183は復元口径21.4cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。184は復元口径28cm。口縁内面に横ナデ調整、他はハケ目調整を行なう。

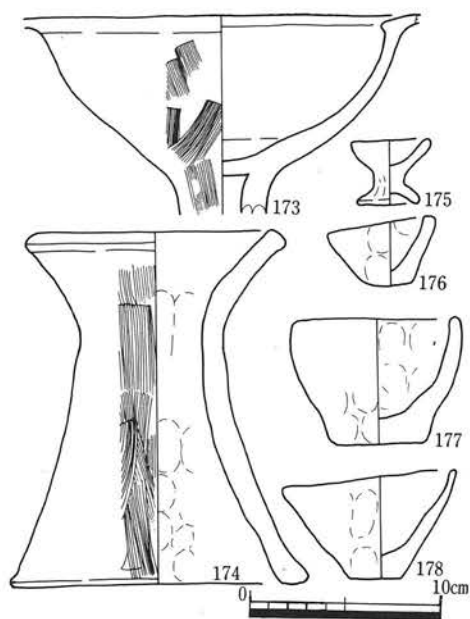


Fig. 81 S D040出土遺物実測図(1)(S=1/4)

鉢 (185~189) 185は復元口径11cm、器高7.8cm。外面にハケ目調整、内面にナデ調整、口縁部はハケ目調整をナデ消している。186は復元口径10cm、器高8.1cm。調整は185同様である。187は復元口径16.4cm。口縁部に横ナデ調整、内面にナデ調整、外面は調整不明。188は台付鉢と思われ、底径6.9cm。台部内外面にナデ調整、鉢部外面にはハケ目調整を行なう。189は口径30.9cm、器高13cm。口縁下に一条の突帯を有する。口縁部には横ナデ調整、体部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。内底付近にはヘラナデ調整の痕跡を残す。

壺 (190~192) 190は復元口径12.4cm、器高13.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面には不明瞭であるがヘラミガキ調整、内面にナデ調整を行なう。外

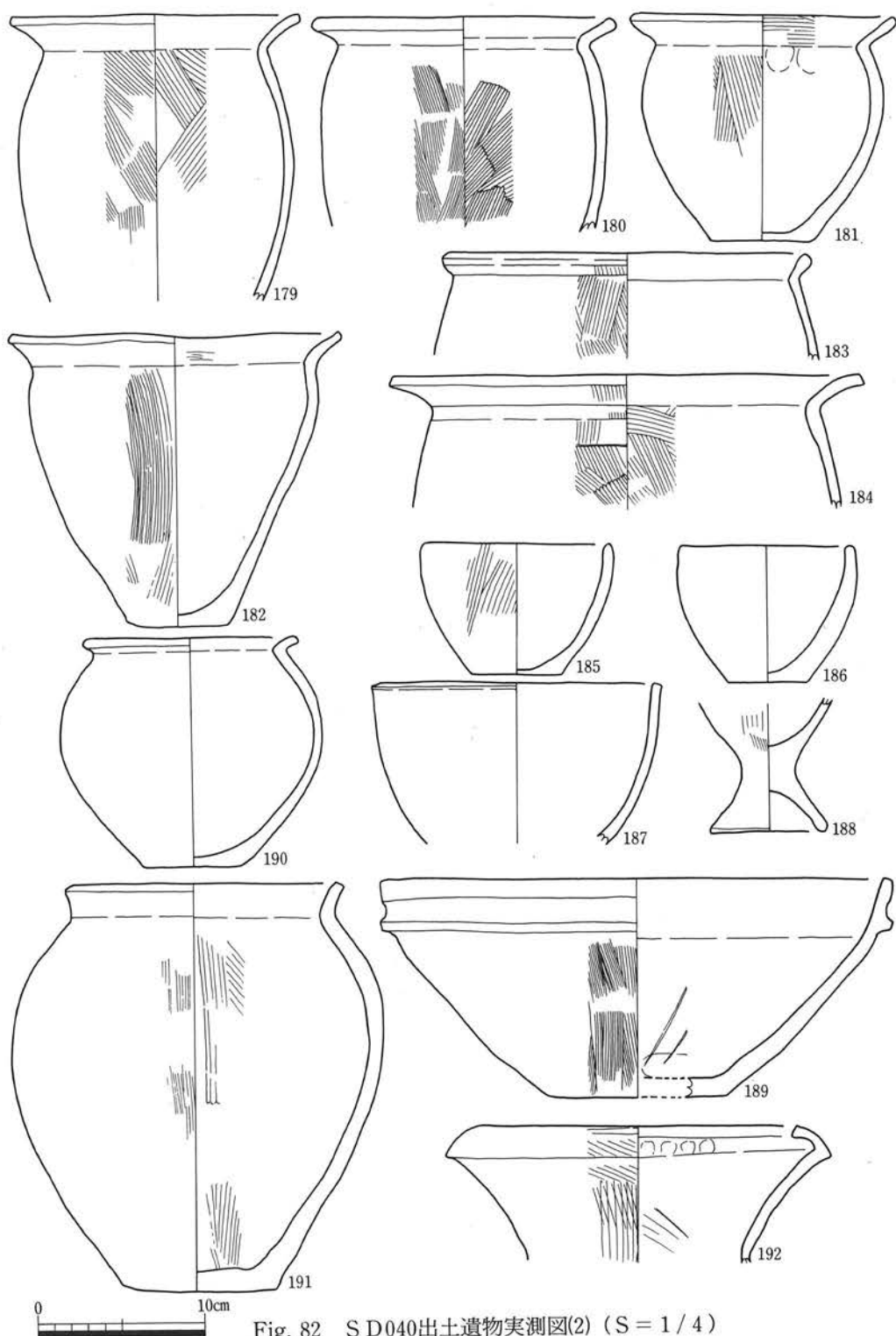


Fig. 82 S D040出土遺物実測図(2) (S = 1 / 4)

底に黒斑を有する。191は口径15.7cm、器高24.3cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にハケ目調整を行なう。外底付近にはヘラの痕跡が認められる。外面に丹塗りの痕跡を有する。192は複合口縁壺。復元口径19cm。外面は口縁部に横ハケ目調整、頸部に縦ハケ目調整、内面は横ナデ調整を行い、指頭圧痕を有する。

S D081溝 (Fig.79、88)

BM-61、BO-61、BP-61・62グリッドで検出した。幅約2.5m、深さ0.5mを測り、断面は扁平な逆台形状を呈する。遺構埋土はほぼ自然堆積の状況を呈している。残存状況は良くなかったが、底面直上から三又鍬が検出されている。掘立柱建物との切り合い・重複関係はない。

S D081出土遺物 (Fig.83)

器台 (193) 193は受部径16.4cm、器高29.3cm、裾部径16.9cm。外器面及び端部付近内面にハケ目調整、その他にはナデ調整を行なう。裾部内面には指押さえ痕を残す。

甕 (194) 復元口径30cm。磨耗のため調整不明。

壺 (195・196) 195は復元口径11.6cm。内面にナデ調整を行なう。外面には部分的に丹塗り痕を残すが、調整は不明。196は復元口径9.7cm。口縁部に横ナデ調整、頸部外面にはハケ目調

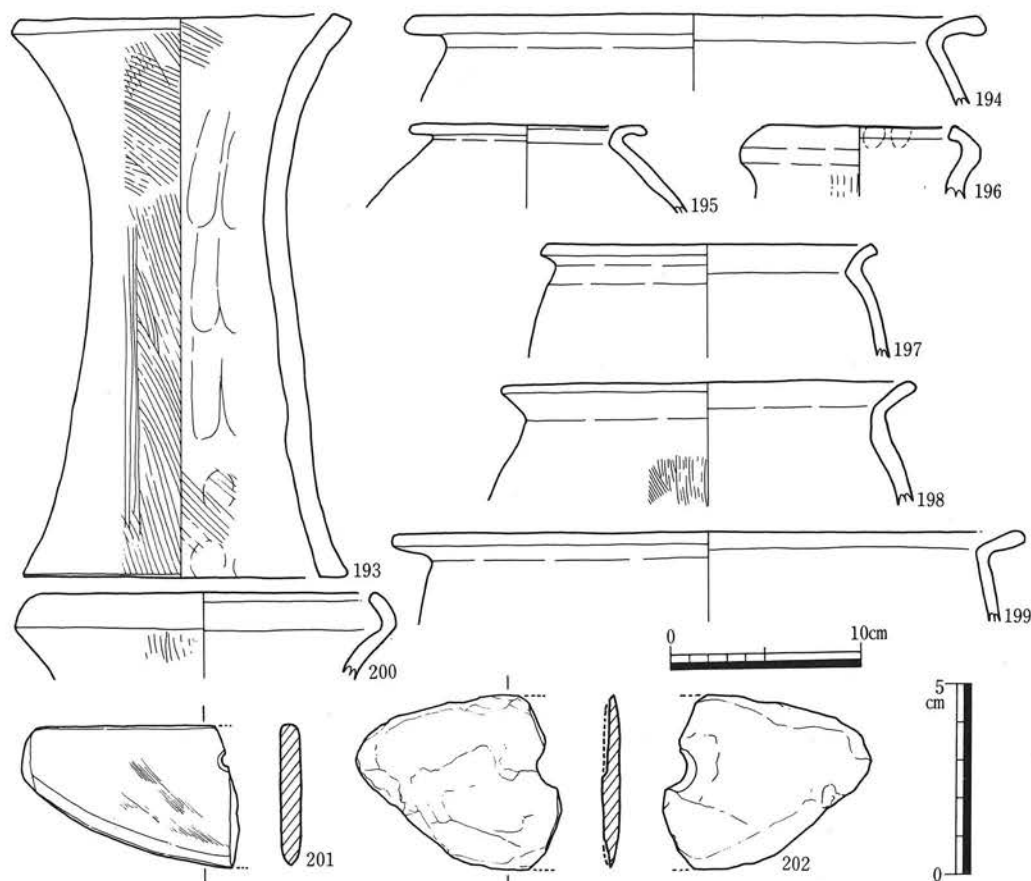


Fig. 83 S D081・S D103出土遺物実測図 (S=1/4、石器はS=1/2)

整、内面にナデ調整を行なう。

石庖丁 (201・202) 201は残存長5.1cm、最大幅3.7cm、最大厚0.5cm。粘板岩系の石材と思われる、比較的丁寧な研磨が行なわれている。202は残存長5cm、最大幅4.6cm、最大厚0.4cm。器面の剝離が著しい。石材は不明。

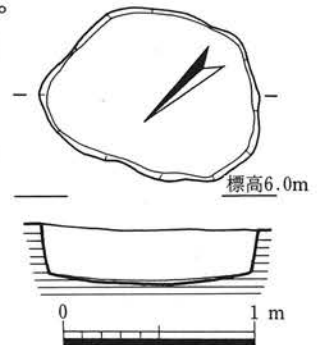
S D 103溝 (Fig.79、88)

BT～BX-62グリッドで検出した。幅約2.5m、深さ0.3m 前後を測る。断面は逆台形状を呈する。埋土の堆積は自然堆積の状況である。溝の南端部においては小穴・土壌等と切り合っており複雑な状況を呈する。溝の中央部においてS B 147と切り合い関係にあり、本溝が切っている。その他の掘立柱建物との切り合い・重複関係はなかった。

S D 103出土遺物 (Fig.83)

甕 (197～199) 197は復元口径17.2cm。磨耗が著しく調整不明。198は復元口径19cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。内面にはかすかにハケ目調整の痕跡を残す。199は復元口径33cm。磨耗が著しく調整不明瞭である。

壺 (200) 袋状口縁壺で、復元口径17.6cm。頸部にハケ目調整、その他には横ナデ調整を行なう。器面の磨耗が激しい。



3. 古墳時代の遺構と遺物

(1) 土壌と出土遺物

S K 152土壌 (Fig.84)

AY-68グリッドで検出した。平面形は長径1.15m、短径0.9m の不正楕円形で、深さ約0.3m を測る。断面は逆台形状をなす。S K 153と切り合い関係にあり、本遺構が切っている。

S K 152出土遺物 (Fig.85)

甕 (203) 復元口径14cm、器高22.6cm。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部外面にナデ調整、胴部外面にヘラケズリ調整を行ない、外器面に黒斑を有する。

壺 (204) 二重口縁壺の口縁で、復元口径27.4cm。口縁部外面にハケ目調整、その他には横ナデ調整を行なう。口縁屈曲部には刻目が認められる。

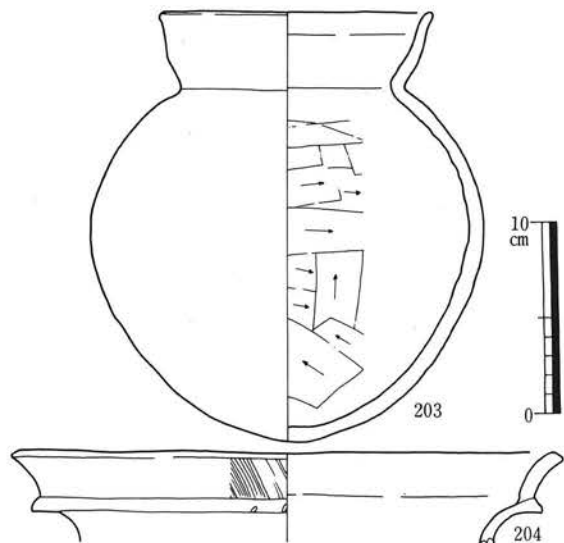


Fig. 85 S K 152出土遺物実測図 (S = 1/4)

4. 平安時代の遺構と遺物

(1) 土壌と出土遺物

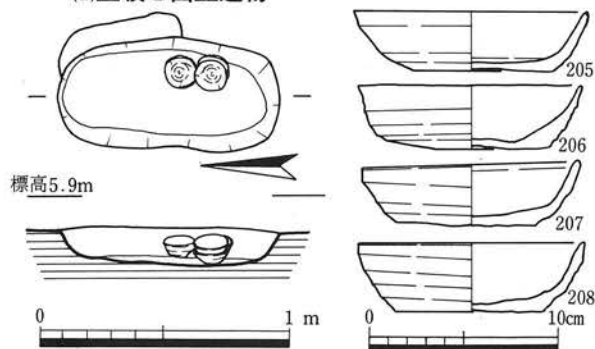


Fig. 86 S K 003土壌実測図及び出土遺物実測図

(遺構S=1/30、遺物S=1/4)

は土壌として報告しておく。

S K 003出土遺物 (Fig.86)

坏 (205～207) すべて土師器である。205は口径12.2cm、器高3.7cm。206は口径11.8cm、器高3.4cm。207は口径11.5cm、器高3.5cm。208は口径11.8cm、器高3.7cm。4点ともに体部内外面に横ナデ調整、内底にナデ調整を行なう。底部は回転ヘラ切り離しである。明褐色を呈する。

S K 003土壌 (Fig.86)

AV-44グリッドで検出した。平面形は長軸0.9m、短軸0.45mの隅丸長方形を呈し、深さ0.15mを測る。掘方断面は扁平な逆台形状を呈し、遺構底面は平坦をなす。遺構北東部において完形の土師器坏が4個体かたまって出土している。その内の2点は重なった状態で検出されている。土壌墓の可能性もあるが、ここで

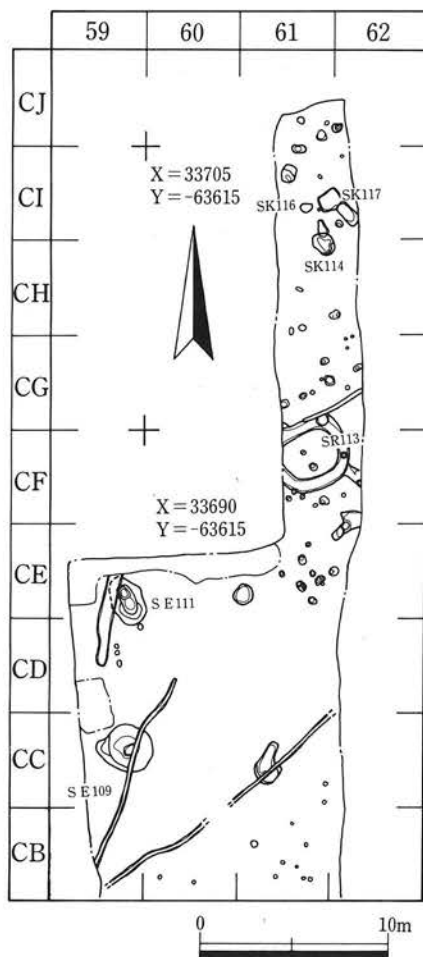


Fig. 87 村徳永遺跡F地区遺構配置図(1)(S=1/400)

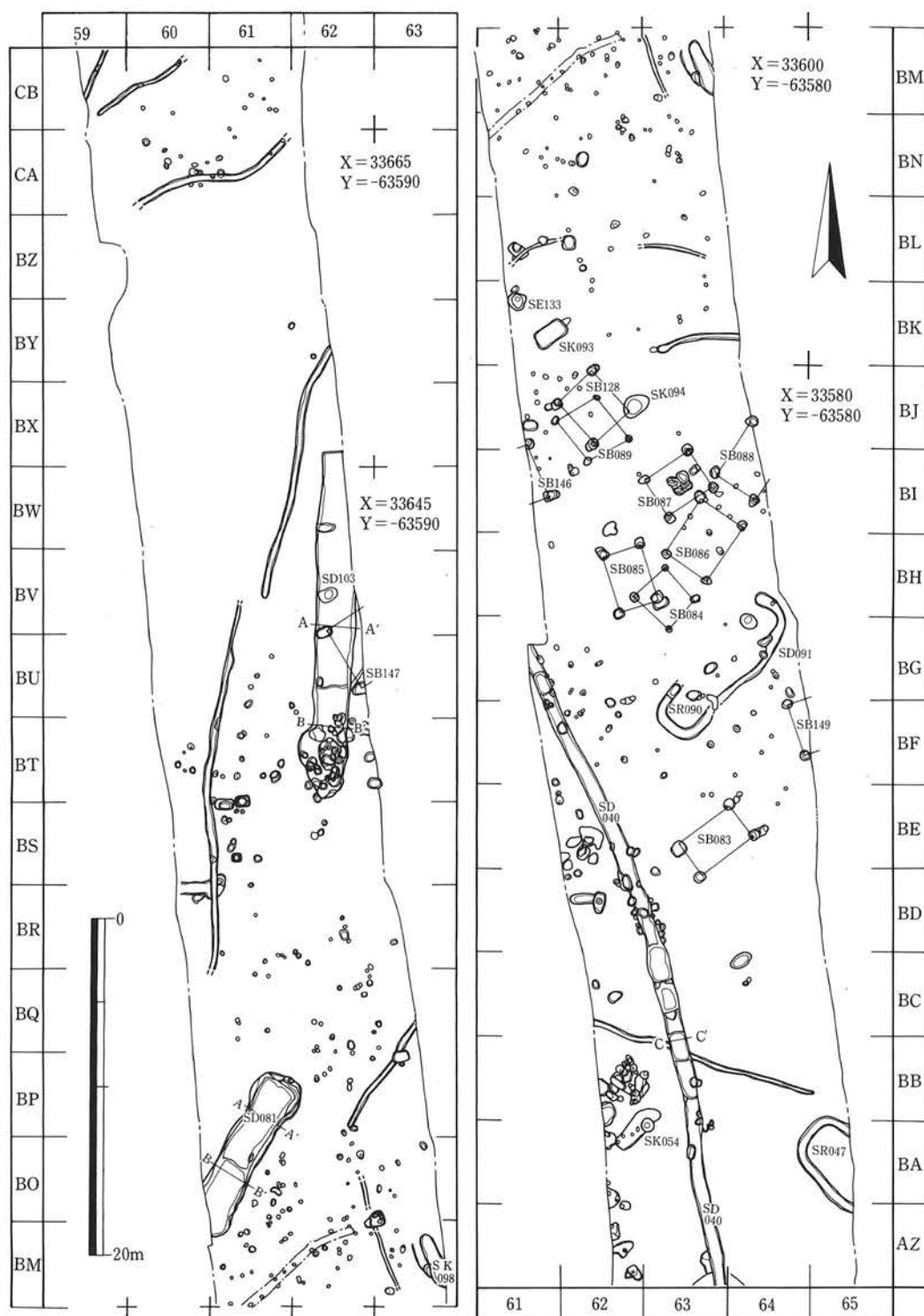
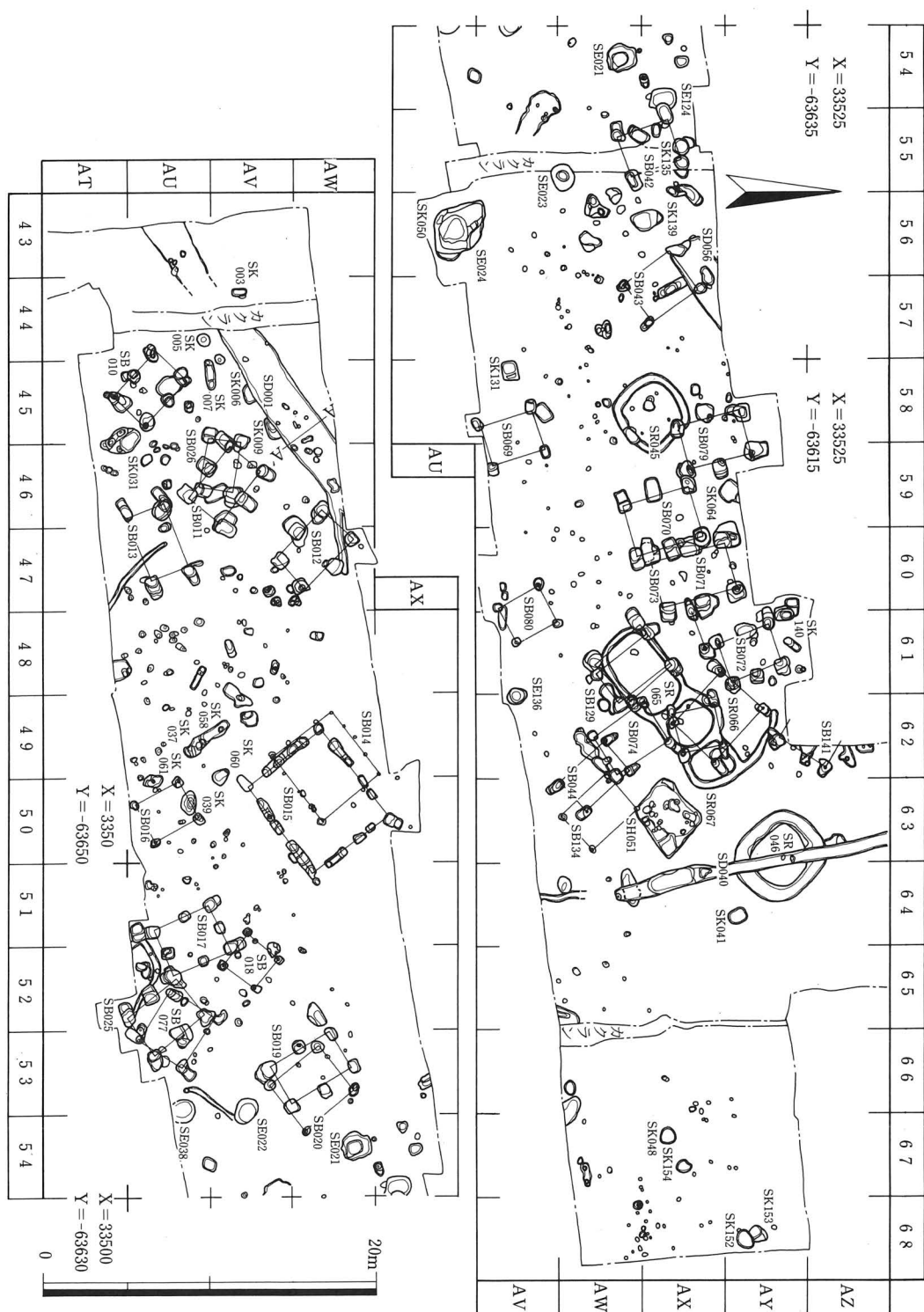


Fig. 88 村徳永遺跡F地区遺構配置図(2) (S = 1/400)



VI. 調査の記録 — G 地区 —

G 地区は F 地区の北側に延びる調査区であり、調査区の幅も狭いため断片的な調査にならざるをえなかった。調査区が長いため、さらに 3 区に区分けを行なった。南側から CX-60・61 グリッドまでを 1 区、1 区より北側の調査区を 2 区、2 区と接して西側に延びる調査区を 3 区とし、1 区に 100 番台、2 区に 200 番台、3 区に 300 番台の遺構番号を与えた。本地区で検出した遺構は殆ど弥生時代のものであり、弥生時代の遺構・遺物の中から抽出して報告を行なう。

1. 弥生時代の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物と出土遺物

S B 331 掘立柱建物 (Fig.90)

DQ-36、DR-36 グリッドで検出した。梁行 1 間、桁行 1 間の南北棟建物で、主軸を N-2°-E にとる。柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸 0.95~1.45m、短軸 0.6~0.8m の隅丸長方形を呈し、深さ 0.5~0.65m を測る。柱掘方断面はすべて二段掘りになっており、建物の外方に平坦面を持つ。P 1、P 2 では枕木状のものが、P 4 では横木が検出されているが、いずれも細いものである。横木は桁行方向に対して直角に置かれている。他の遺構との重複・切り合い関係はない。

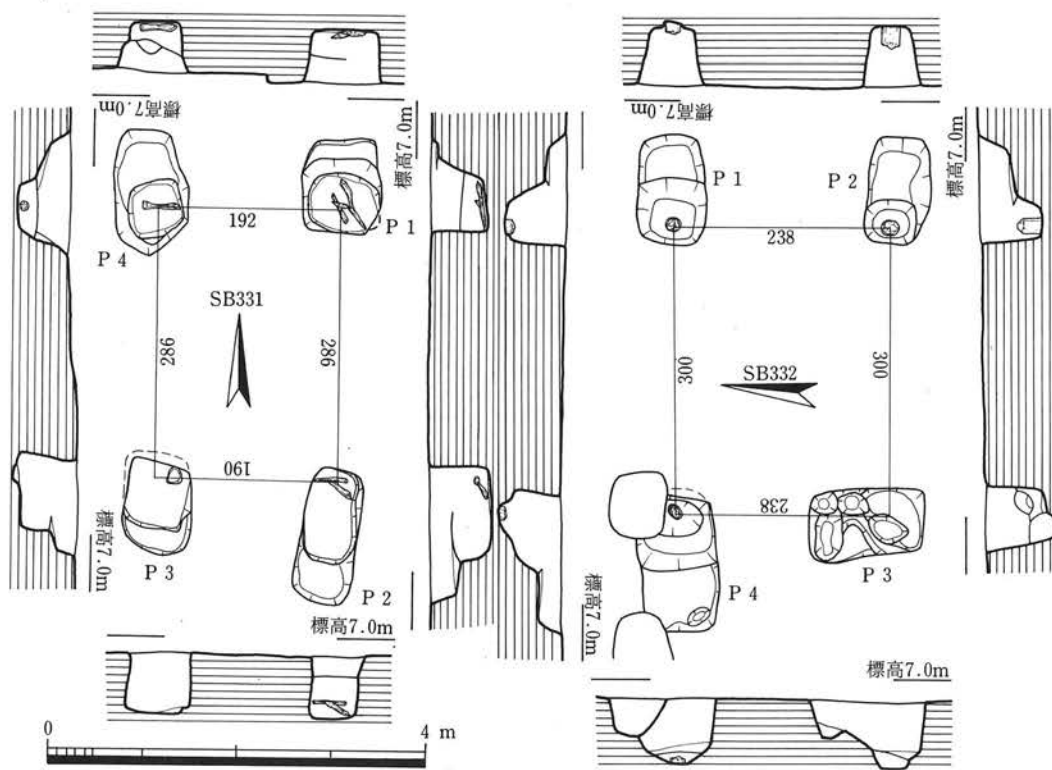


Fig. 90 S B 331・S B 332 掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

S B 331出土遺物 (Fig.91)

甕 (1) P 4 出土。復元底径 9 cm。外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。

手捏 (2) P 1 出土。復元口径 7.2 cm、器高 4.7 cm。指頭圧痕が明瞭に残る。

鉢 (3) P 2 出土。復元口径 7.3 cm、器高 5 cm。内外面ともにナデ調整を行なう。

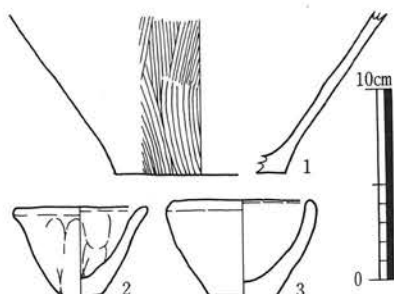


Fig. 91 S B 331出土遺物実測図 (S=1/4)

S B 332掘立柱建物 (Fig.90)

DN-37、DO-37グリッドで検出した。梁行 1 間、桁行 1 間の東西棟建物で、主軸を N-85°-E にとる。柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸 1.15~1.45 m、短軸 0.7~0.85 m の隅丸長方形を呈し、深さ 0.7 m 前後を測る。柱掘方断面は基本的には二段掘りになっており、建物の外方に平坦面を持つが、P 3 だけは掘方の長軸を梁行方向に平行にとっており、掘方断面も他のものとは異なっている。P 3 以外では直径 20 cm 弱の柱根が検出されている。S B 333 と切り合い関係にあり、本建物が切られている。

S B 333掘立柱建物 (Fig.92)

DO-36・37、DP-36グリッドで検出した。北西部が調査区外になっており、全体の規格は明らかに出来なかった。検出部分から推測すると、梁行 5 間、桁行 7 間の南北棟建物で、主軸を N-7°-W にとると思われる。梁間・桁間・柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸 0.55~2 m、短軸 0.5~0.9 m の隅丸長方形ないしは隅丸方形を呈し、深さ 0.2~0.8 m を測る。掘方断面は素掘りないしは二段掘りである。P 7~P 11 では直径 10~15 cm 程度の柱根が検出されているが、横木等は持たない。本建物の北側と西側の柱穴においては、F 地区で検出した S B 015 と同様の建築工法が採られているものがある。西側桁筋の土層図では柱穴の切り合いが考えられるものの、別の建物の柱穴であることが現時点では確認できず、すべての柱根が柱筋にのっていることや F 地区においても類似する S B 015 が存在することなどを考慮すると、同時存在の柱穴である可能性が高いと思われる。P 13~15 が本建物に伴うかどうかは判断できなかった。S B 332 と切り合い関係にあり、本建物が切っている。

S B 333出土遺物 (Fig.93)

甕 (4~7) 4 は P 1 出土。復元口径 33 cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。5 は P 9 出土。復元口径 17.4 cm。調整は 4 と同様だが、口縁部内面には板状工具によるナデ調整を行なう。6 は P 4 出土。復元口径 20.6 cm。調整は 4 と同様。7 は P 12 出土。復元口径 20.2 cm。調整は基本的に 4 と同様。口縁部外面及びその直下には板状工具による横ナデ調整の様である。

鉢 (8・9) 8 は P 9 出土。復元口径 26 cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内面にナデ調整、

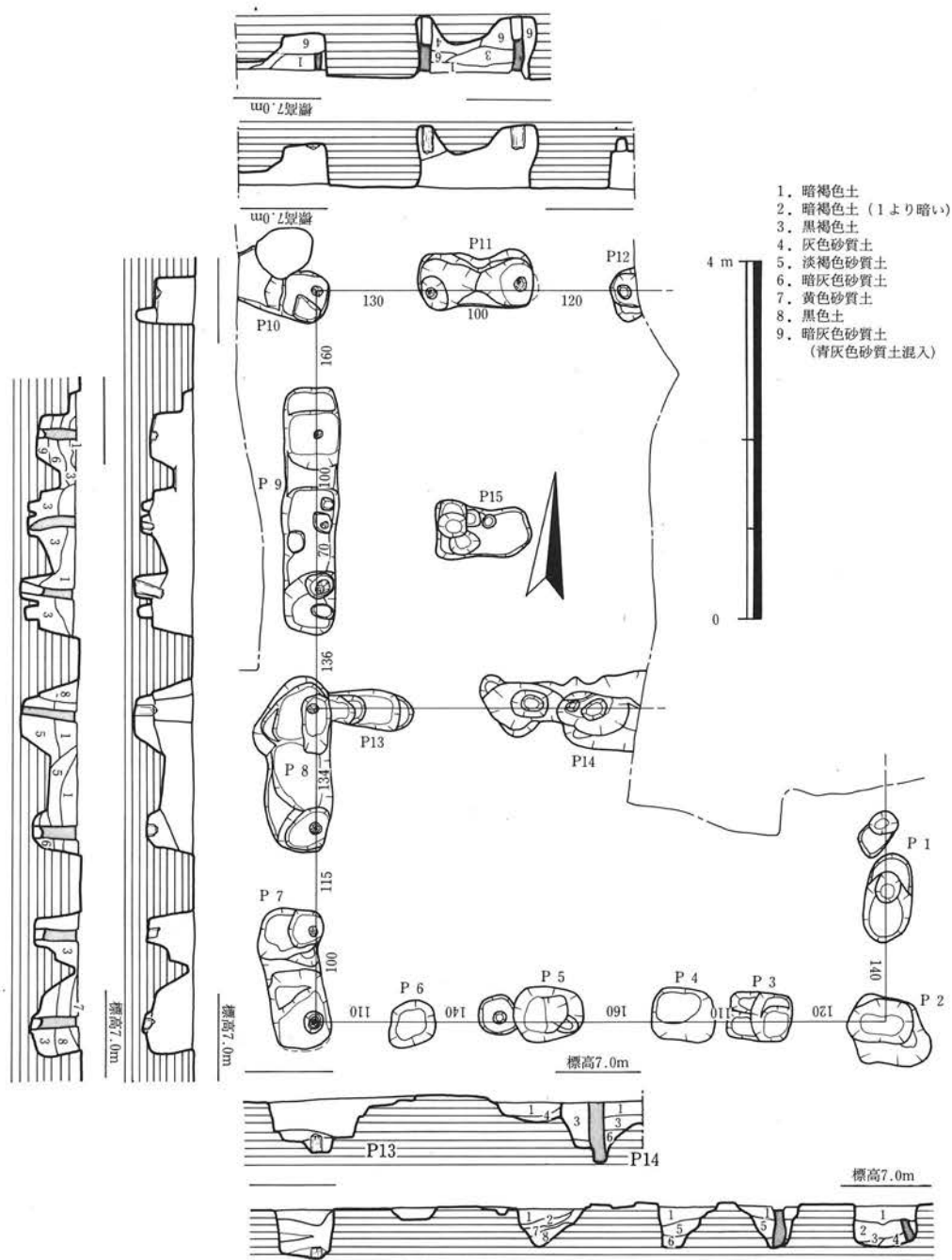


Fig. 92 S B333掘立柱建物実測図 (S=1/80)

外面は不明。9はP9出土。口径7.8cm、器高6.3cm。口縁部に横ナデ調整、その他はナデ調整を行なう。外器面に黒斑を有する。

紡錘車 (10) P3出土。石製紡錘車である。直径4.9cm、厚さ0.4cm、穿孔外径0.9cm、穿孔内径0.4cm。穿孔は主に一方向から行なわれている。

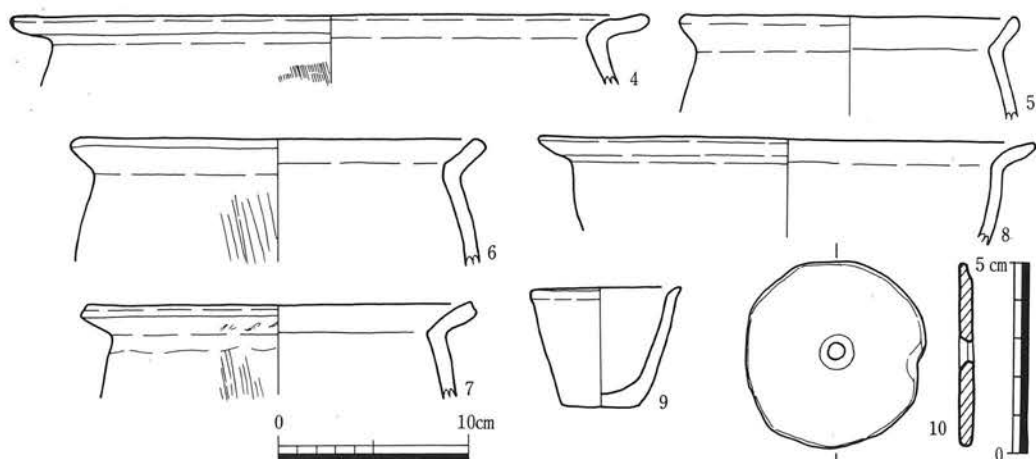


Fig. 93 S B333出土遺物実測図 (S = 1/4, 石製品はS = 1/2)

S B335掘立柱建物 (Fig.94)

DT-35・36、DU-35グリッドで検出した。北東隅の柱穴は調査区外にある。梁行1間、桁行1間の東西棟建物で、主軸をN-81°-Wにとる。柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸1.15m、短軸0.75~1.05mの隅丸長方形で、深さ0.7~0.8mを測る。掘方断面はP2のみが二段掘りになっている。すべての柱穴において20cm程度の柱根を検出した。横木などはない。S B336・337

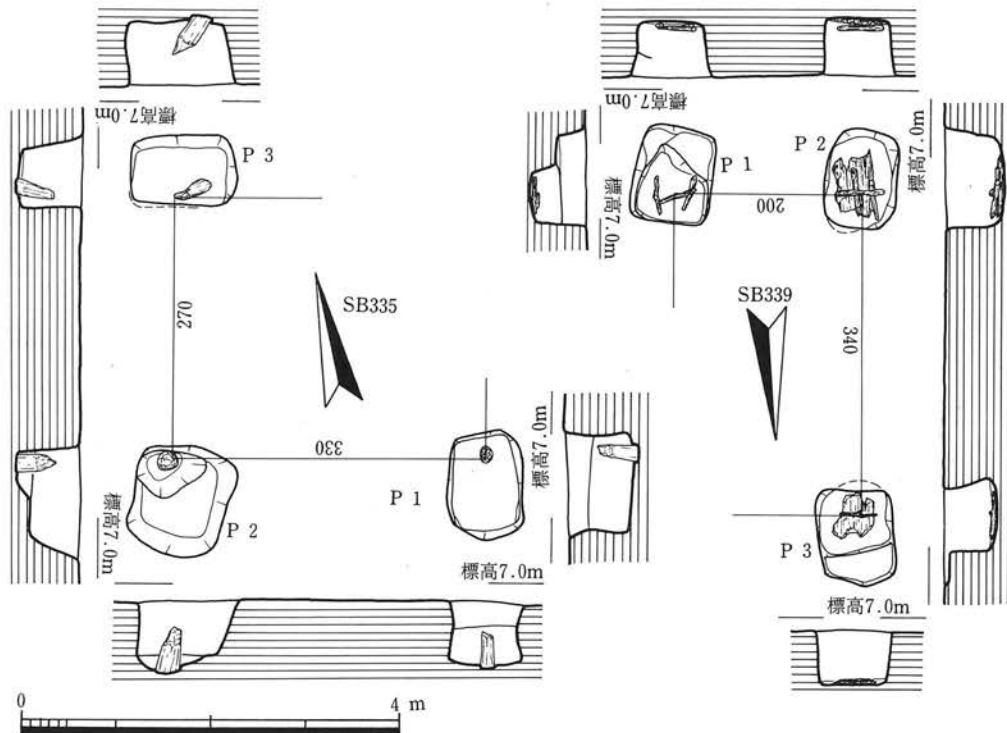


Fig. 94 S B335・S B339掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

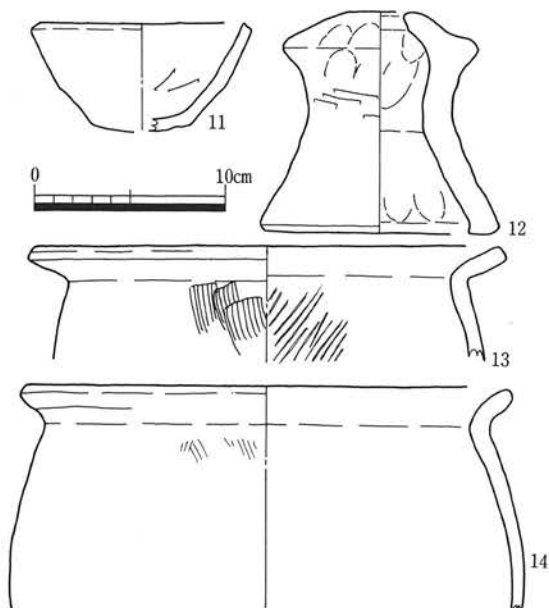
と重複関係にある。

S B335出土遺物 (Fig.95)

鉢 (11) P 1 出土。復元口径10.6cm。
全面にナデ調整を行なう。外底の剥離が著しい。

支脚 (12) P 1 出土。復元裾部径12.2cm、器高11.5cm。屈曲部は外方に張り出している。ナデ調整を行い、指頭圧痕が明瞭に残る。外面中位に板ナデ調整痕を持つ。

甕 (13) P 2 出土。復元口径24.4cm。
口縁部に横ナデ調整、胴部にハケ目調整を行なう。



S B339掘立柱建物 (Fig.94)

DV-35、DW-35グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-4°-Eにとる。柱間は図中のとおり。柱掘方は長軸約1.05m、短軸約0.8mの隅丸長方形を呈し、深さ0.5~0.7mを測る。P 1では横木と枕木、P 2では横木と枕木の下に厚さ1~2cm程度の礎板、P 3では横木(?)と厚さ1~2cmの礎板が検出されている。横木は梁行方向に平行に置かれている。S B378と重複関係にある。

Fig. 95 S B335・S B339出土遺物実測図(S=1/4)

S B339出土遺物 (Fig.95)

甕 (14) P 3 出土。復元口径25.2cm。
口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にはナデ調整を行なう。外面には煤の付着が見られる。

(2) 竪穴住居と出土遺物

S H102竪穴住居 (Fig.96)

CK-56・57グリッドで検出した。平面形は推定長軸5.1m、短軸3.6mの隅丸長方形を呈し、現存壁高は0.2mを測る。南隅は調査区外にある。支柱穴は主軸方向に2本存在し、深さはP 1が0.43m、P 2が0.52mを測る。柱穴間は2mを測る。柱穴間のP 1より0.7×0.45cmの楕円形の炉跡がある。深さは0.21mで、炉跡の覆土には焼土

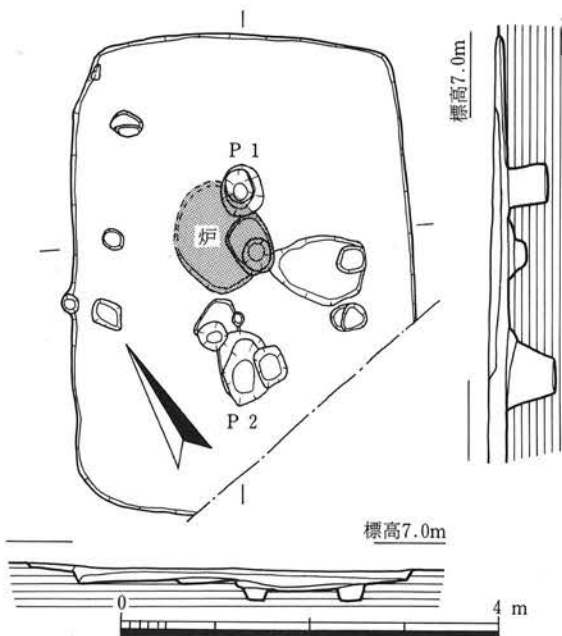


Fig. 96 S H102竪穴住居実測図(S=1/80)

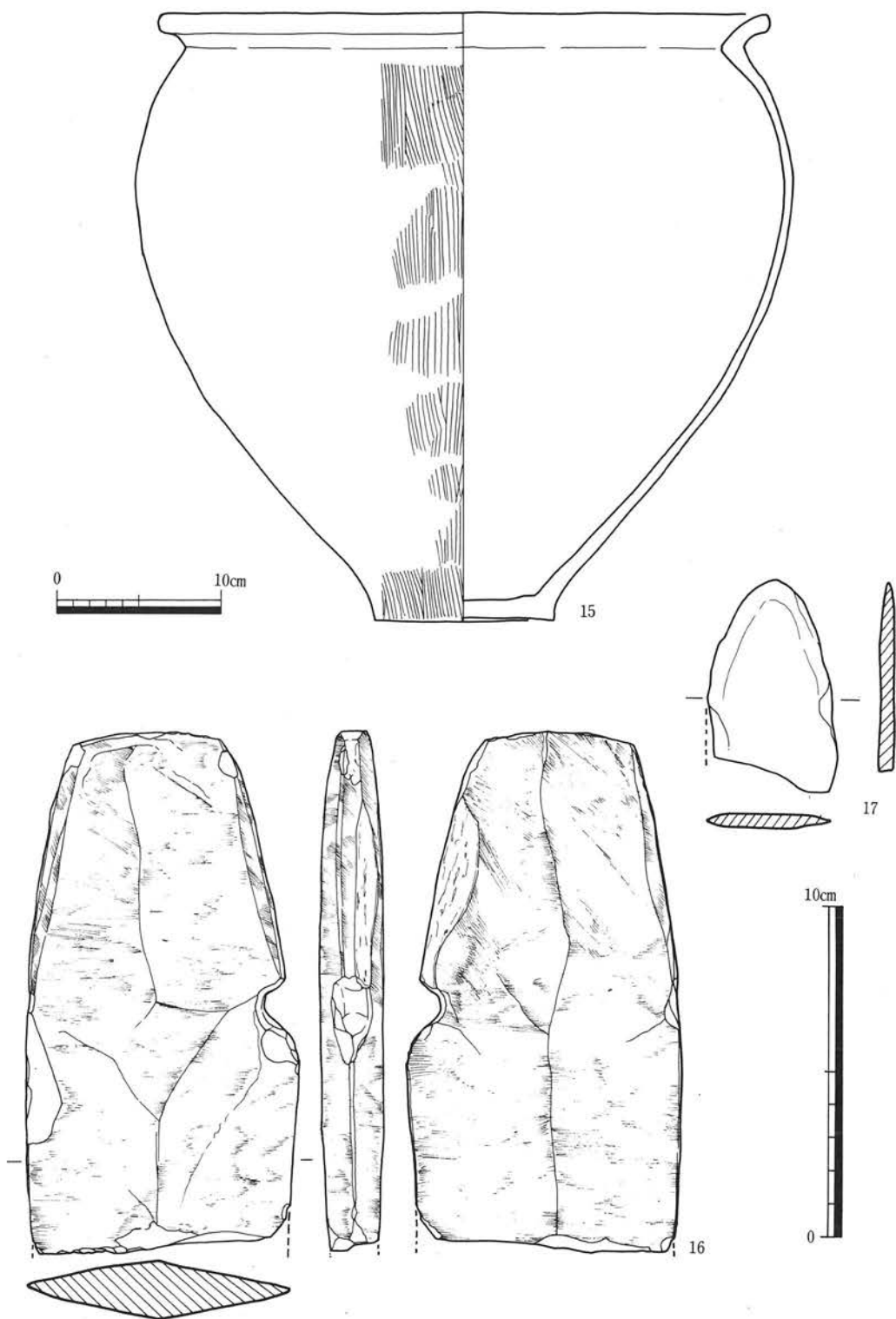


Fig. 97 SH102出土遺物実測図 (S = 1/4, 石器はS = 1/2)

が混入しており、その上面には炭化層が広がっていた。ベッドや壁溝はない。床面は淡黄褐色粘質土混じりの黒褐色土による貼り床である。炉跡周辺では土器が、北隅では不明石製品が床面直上から出土している。

S H102出土遺物 (Fig.97)

甕 (15) 復元口径37cm、器高36.5cm。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。外面に煤の付着が見られる。

不明石製品 (16・17) 16は残存長15.7cm、最大幅8.3cm、最大厚1.9cm。約半分を欠失していると思われる。残存部中位両側には袈りが入る。全面にやや粗い研磨が行なわれており、稜をつくっている。袈りより下方には両側に刃部が研ぎ出されている。17は残存長6.4cm、最大幅3.8cm、最大厚0.4cm。磨耗が激しいが、両側に刃部がつくられているようである。磨製石剣の先端部か。

S H307竪穴住居 (Fig.98)

DP-42・43グリッドで検出した。大半が調査区外にあり、全体形は不明だが、南北に長い隅丸長方形を呈すると思われる。短軸は4.96mを測る。残存壁高は約10cmを測る。床面は暗灰色黄色粘質土による貼り床である。住居の中心と思われる位置には方形に溝をめぐらした炉跡が存在する。炉跡には焼土混じりの炭化層及びその上面に焼土混じりの灰層が堆積していた。支柱穴は検出できなかった。遺構北東部には粘土貼りつけによる高さ6cm程度のベッド状遺構が設けられており、北西部には深さ、幅ともに7cm程度の壁溝が掘り込まれている。また、北西部に存在する円形の土壇と住居の関係は明らかに出来なかった。遺物は出土しなかった。遺構南部においてS E353に切られている。

S H308竪穴住居

(Fig.99)

DP-41・42グリッドで検出した。南隅部分をS H309に切られ消失している。平面形は推定長軸4.9m、短軸3.7の隅丸長方形を呈し、残存壁高は最も残りの良いところで5cm程度である。支柱穴は主軸方向に2本存在し、P 1は0.56×1mの楕

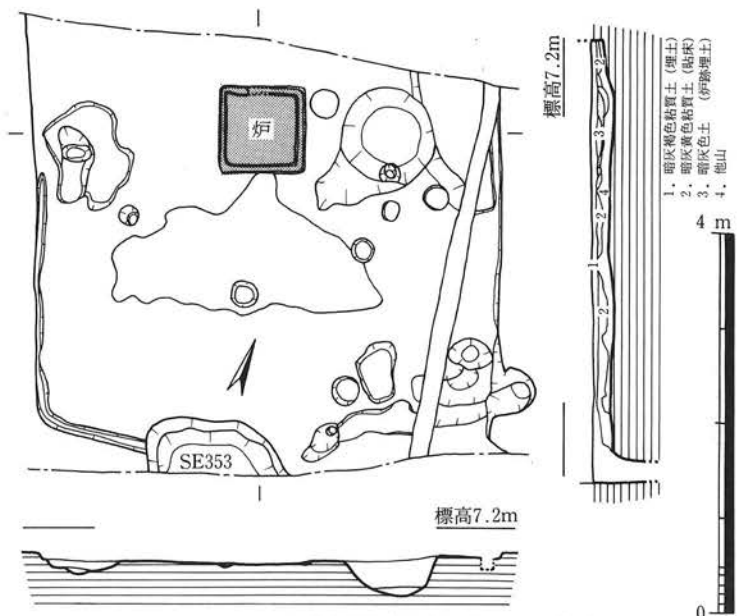


Fig. 98 S H307竪穴住居実測図 (S = 1/80)

円形で深さ約0.5m、P 2 は0.3×0.42m の円形で深さ0.68m を測る。柱穴中央の0.4×0.35m の落ち込みは深さ0.1m 程度であり、炉跡と考えられるが断定するには至らなかった。住居北半には幅約5 cm、深さ約3 cmの壁溝がめぐっている。

S H308出土遺物 (Fig.100)

壺 (18) 床面上出土で、外面丹塗りの袋状口縁壺である。復元口径9 cm。口縁部に横ナデ調整、頸部内面にナデ調整を行なう。頸部外面はヘラミガキ調整か。

S H309竪穴住居 (Fig.99)

DO-41・42、DP-41・42グリッドで検出した。長軸約6.0m、短軸4.55m を測り、やや北壁のラインが乱れるが、ほぼ隅丸長方形を呈する。残存壁高は4～11cmを測る。床面は粘性を持つ暗灰黄色砂質土で整地している。住居中央に0.74×0.63m の炉跡があり、深さ7 cmを測る。炉跡内には炭化層とその上面に焼土混じりの暗灰褐色粘質土が堆積し、炭化層は炉跡を越えて拡がっている。炉跡の南東側には屋内土壌が存在するが、遺物は出土しなかった。炉跡の北東側に位置する土壌は当初、屋内土壌と考えていたが、P 1 に対応する主柱穴がこの土壌により消失している可能性があることや住居北東壁のラインを若干壊していること等から判断して住居を切っている可能性が高いと思われる。しかしながら、土層断面の精査によってもその切り合

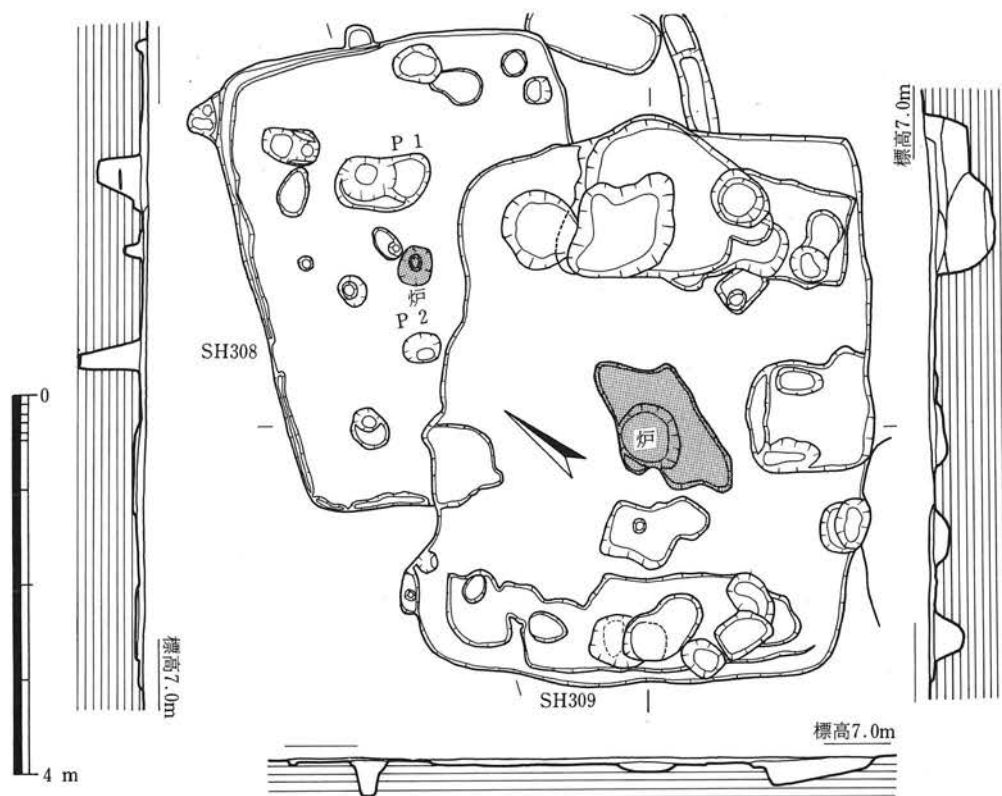


Fig. 99 S H308・S H309竪穴住居実測図 (S = 1/80)

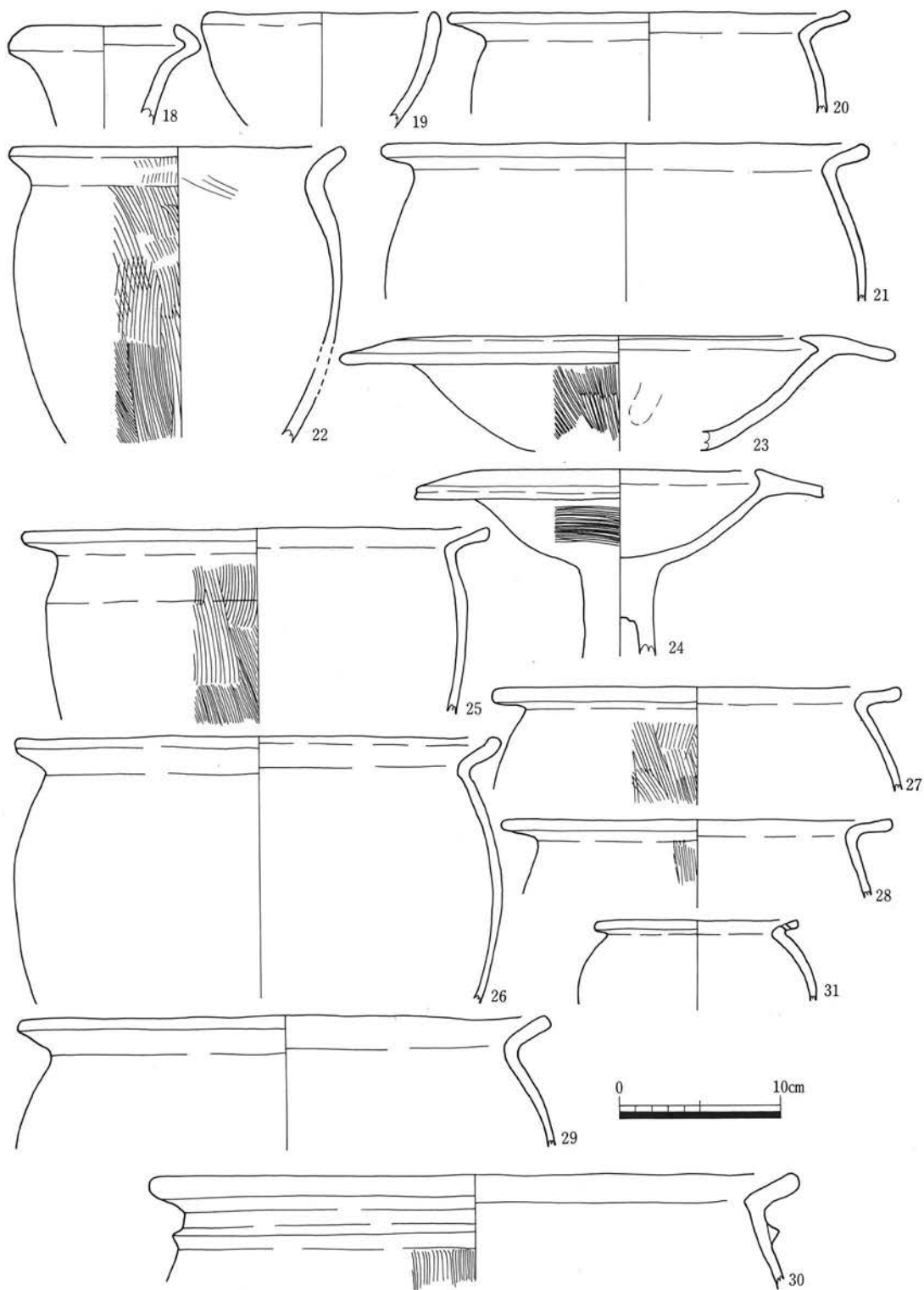


Fig. 100 S H308・S H309、その他出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

いが判断できず、決定するに至らなかった。出土遺物についてはここで報告しておく。

S H309出土遺物 (Fig.100)

19～22は住居床面直上出土で、23～32は北東側土壌出土である。

鉢 (19) 復元口径14cm。口縁部から体部内面には横ナデ調整、体部外面にナデ調整を行なう。内外面には黒斑を有する。

甕 (20～22、25～30) 20は復元口径24.4cm。磨耗のため調整不明。21は復元口径29.4cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内面にナデ調整、外面は不明瞭ながらハケ目調整がみられる。22は復元口径20.2cm。口縁端部から口縁内面に横ナデ調整。胴部内面はナデ調整だが、屈曲部にハケ目調整が残る。外器面はハケ目調整を行い、口縁外面はハケ目調整をナデ消している。25は復元口径28.6cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内面にナデ調整、胴部外面にハケ目調整。26は復元口径29.4cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内面にナデ調整、外面は調整不明。27は復元口径24.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整。28は復元口径23.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内面にナデ調整、胴部外面には不明瞭ながらハケ目調整を行なう。29は復元口径32.4cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内面にナデ調整、外面は調整不明。30は復元口径39.6cm。口縁直下に一条の突帯を持つ。口縁部に横ナデ調整、内面にナデ調整、突帯下にハケ目調整を行なう。

高坏 (23・24) 2点とも丹塗りの高坏である。23は坏部外径34.6cm。外面には縦方向のヘラミガキ調整、内面にナデ調整を行い、口縁上面には暗文を施す。24は坏部外径25.4cm。磨耗が著しく調整は不明瞭であるが、坏部内外器面は横方向のヘラミガキ調整、脚部は縦方向のヘラミガキ調整と思われる。

口縁上面は暗文がかすかに認められる。

壺 (31) 復元口径12.4cm。外面に横ナデ調整、内面にナデ調整。口縁部に穿孔を行なう。

S H310竪穴住居

(Fig.101)

DN-40、DN-39～41、DP-41グリッドで検出した。平面形は長軸6.1m、短軸5.3mの隅丸方形を呈し、現存壁高10～15cmを測る。床

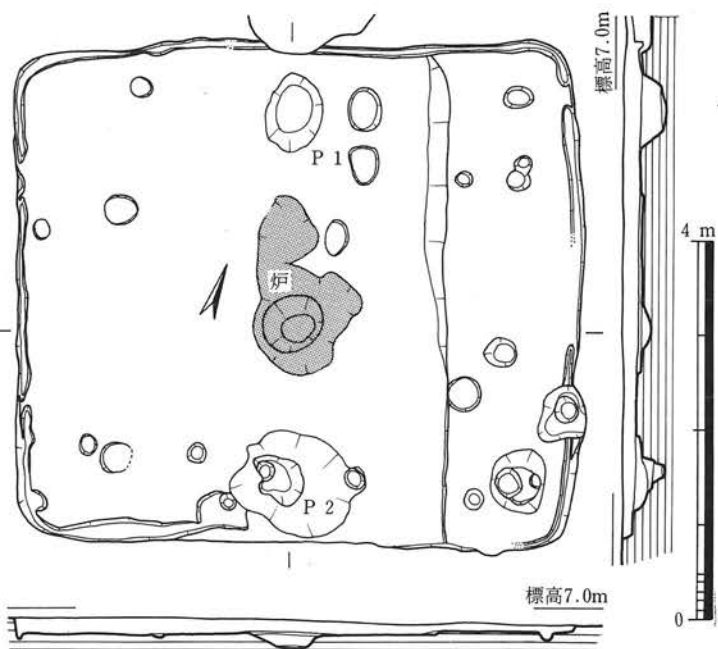


Fig. 101 S H310竪穴住居実測図 (S = 1/80)

面は暗黄褐色粘質土を貼っている。住居の中央に0.6×0.68mの円形の炉跡があり、内部には炭化層が堆積していた。炭化層は炉跡を越えて拡がっている。炉跡の南北には2本の支柱穴が存在し、深さはP1・P2ともに約30cmを測る。遺構東部には暗黄褐色粘質土を4cmほど貼ったベッド状遺構がある。住居南壁の一部を除いて幅10～20cm、深さ5cm前後の壁溝が巡っている。北壁でSK317に、また、南西コーナーでは2個のピットに切られており、2か所で細長い攪乱を受けており、壁溝の一部を削平している。

S H310出土遺物 (Fig.102)

36以外はすべて床面直上出土の土器である。

甕 (32～37) 32は復元口径32.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整。33は復元口径31.4cm。調整は32同様。34は復元口径30cm。口縁外面及び胴部内面にナデ調整、口縁内面及び胴部外面にハケ目調整。35は底部で、外面にハケ目調整、内面にナデ調整、内底には工具によるナデ調整を行なう。36は復元口径17.2cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。37は外面にハケ目調整、内面にナデ調整及び指押さえを行なう。

鉢 (38・39) 38は復元口径11.2cm。外面にナデ調整、内面に横ナデ調整。外面に黒斑を有する。39は復元口径19.6cm。体部中位以下にハケ目調整、その他にはナデ調整を行なう。

高坏 (40) 坏部外径は25.6cm。内外面ともに丹塗りであり、内面は不明瞭ながらヘラミガキ調整。外面はナデ調整か。口縁上面に暗文を施す。



Fig. 102 S H310出土遺物実測図 (S = 1/4)

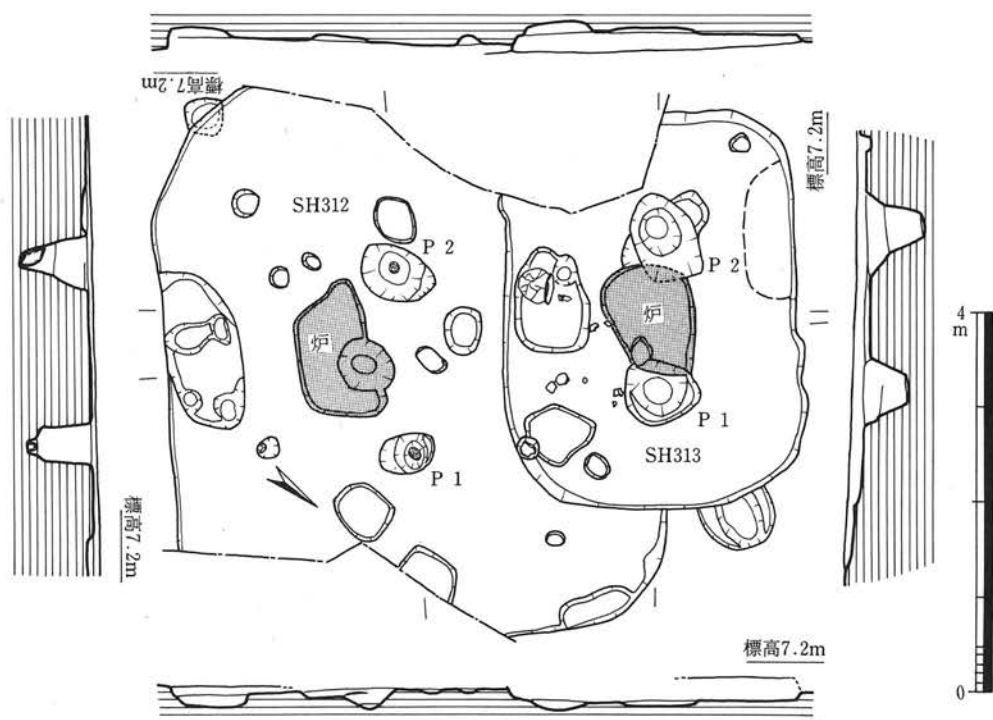


Fig. 103 S H312・S H313竪穴住居実測図 (S = 1/80)

S H312竪穴住居 (Fig.103)

DQ-53・54、DR-53・54グリッドで検出した。南隅は調査区外にある。長軸4.2m、短軸3.1mの隅丸長方形を呈し、残存壁高10～20cmを測る。主柱穴は二本を検出した。P 1は0.7×0.8mの

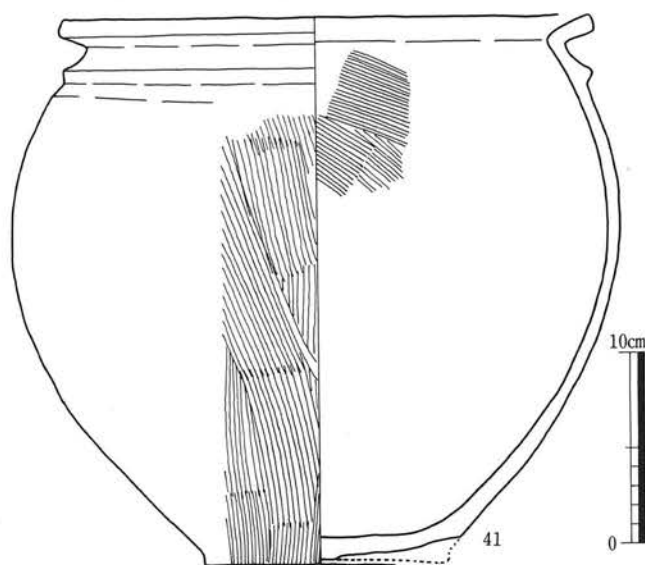


Fig. 104 S H312出土遺物実測図 (S = 1/4)

楕円形、P 2は0.7×0.95mの円形で、深さはそれぞれ約0.5m、0.6mを測る。柱穴の中央に1.15×1m、深さ5cm程度の炉跡があり、炭化層が充填していた。炉跡に南隣して屋内土壙が存在し、完存に近い甕が出土している。ベッド状遺構や壁溝は存在しない。床面は暗褐色土で床を貼っている。住居北西隅でS K320と、南側ではS H313切り合っており、いずれも本住居が切っている。

S H312出土遺物 (Fig.104)

甕 (41) 復元口径27.3cm、器高28.6cm。口縁下に一条の突帯を持つ。口縁部に横ナデ調整、胴部外面及び胴部内面上半にハケ目調整、胴部内面下半にナデ調整を行なう。

S H313竪穴住居 (Fig.103)

DQ-53・54、DR-53・54グリッドで検出した。西壁・東壁が調査区外にあり、北壁はS H312に切られているため、全体の法量は不明であるが、全体形は隅丸方形を呈すると思われる。主柱穴は2本を検出した。P 1は $0.62 \times 0.45\text{m}$ の楕円形、P 2は $0.8 \times 0.6\text{m}$ の楕円形を呈し、それぞれ深さは0.7m、0.75mを測る。いずれの柱穴からも柱根が検出されている。柱穴の中央からは直径約0.6mの円形の炉跡が検出されている。炉跡内には炭化層が充填されていた。炉跡の南側には屋内土壌が存在する。ベッド状遺構・壁溝は存在しない。床面は暗褐色土で床を貼っている。遺物は殆ど出土しなかった。

(3)井戸と出土遺物

S E 353井戸 (Fig.105)

DO-43、DP-43グリッドで検出した。遺構の南半は調査区外にあり、全体形は不明だが、おそらく直径1.5mの不整円形を呈すると考えられる。井戸底面が調査区外にあるため完掘できなかった。遺構埋土は黒褐色土である。検出面から0.5~0.6mの地点で、土器ともに杓子の未製品が検出されている。S H307と切り合い関係にあり、本遺構が切っている。



Fig. 105 S E 353井戸実測図(S=1/40)

S E 353出土遺物 (Fig.106)

甕 (42) 復元口径38.8cm、器高43.3cm。口縁下に一条の突帯を持つ。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。外面には煤の付着が著しい。

壺 (43) 袋状口縁壺で、復元口径8cm。口縁部には横ナデ調整を行い、頸部外面には縦方向のヘラミガキ調整を行なっている。内面はナデ調整である。

器台 (44) 受部径16cm。外面及び内面上部にハケ目調整、内面はナデ調整を行い指頭圧痕を残す。

(4)土壌と出土遺物

S K 320土壌 (Fig.107)

DR-53グリッドで検出した。平面形は長軸3.56m、短軸1.66mの隅丸長方形を呈し、深さ0.54mを測る。壁はほぼ垂直に立上がり、遺構底面はほぼ平坦をなす。S H312、S B330と切り合い関係にあり、いずれの遺構にも切られている。

S K 320出土遺物 (Fig.108)

甕 (45~47) すべての口縁は断面三角形で、胴部上位に一条の突帯を持ち、口縁及び突帯に

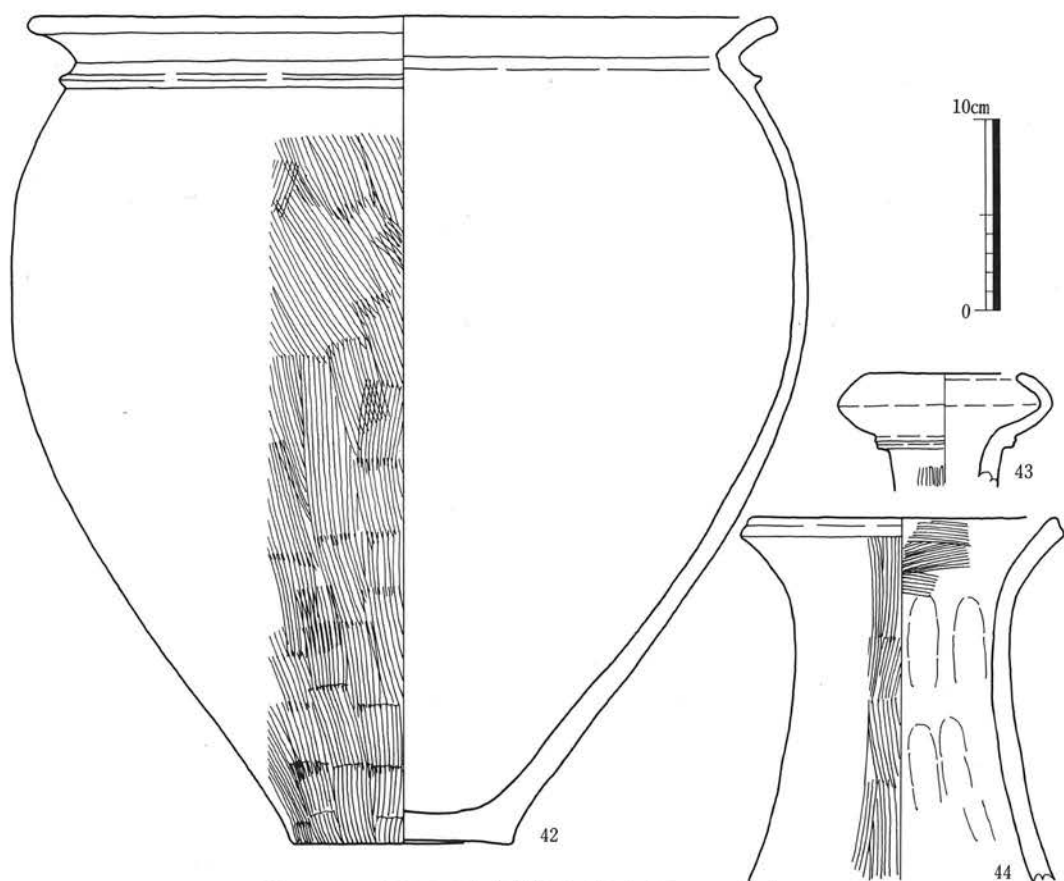


Fig. 106 S E353出土遺物実測図 (S = 1/4)

刻目を持つ。45は復元口径30.6cm。磨耗のため調整不明。46は復元口径27.2cm。外面に横ナデ調整。内面にナデ調整を行い、指頭圧痕を残す。47は復元口径20.8cm。調整は46と同様。

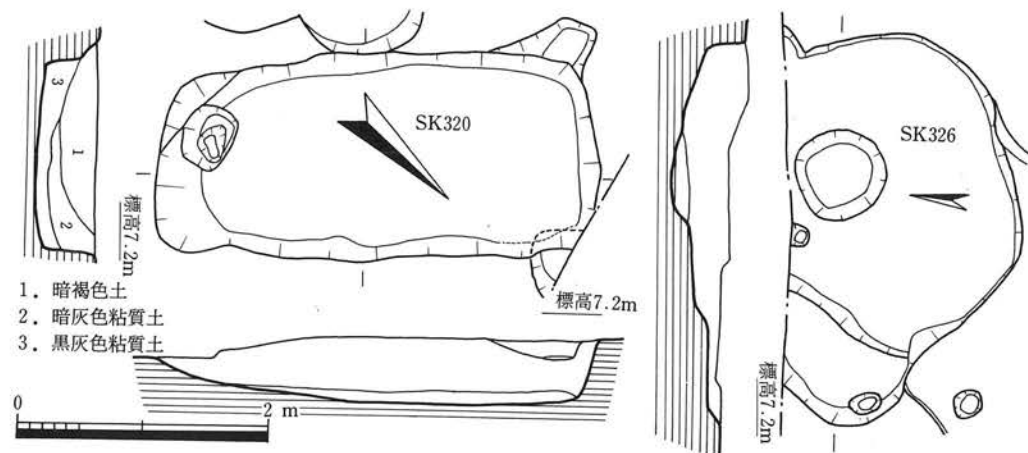


Fig. 107 S K320・S K326土壌実測図 (S = 1/60)

S K 326土壙 (Fig.107)

DQ-49、DR-49グリッドで検出した。北半部は調査区外にあるため、全体形は不明である。検出最大長3.14m、深さ0.6mを測る。西部は平坦面を持ち、二段掘り状になっている。遺構底面には円形に掘り込みが行なわれている。遺構南西部をSH303に切られている。

S K 326出土遺物 (Fig.108)

甕 (48~52) 断面三角形の口縁を持ち、胴部上位には一条の突帯を有する。口縁及び突帯には刻目を施す。48は復元口径21.2cm。口縁部から突帯間及び内面上位に横ナデ調整、他にはナデ調整を行なう。49は復元口径22.4cm。外面には横ナデ調整、内面にナデ調整を行なう。内面上位には指頭圧痕を有する。50は復元口径23.1cm。内外器面ともにナデ調整を行なう。口縁上面から内面にかけて黒斑を有する。51は内外面にナデ調整を行ない、底部中央に穿孔をもつ。52は外面にハケ目調整、外底部付近には指押さえ、内面にナデ調整を行なう。

S K 355土壙 (Fig.109)

DP-41グリッドで検出した。平面形は長軸1.3m、短軸0.95mの隅丸長方形を呈し、深さ0.55mを測る。断面は摺り鉢状をなしており、中央をさらに一段掘り込んでいる。遺構埋土は黒褐色土の単一層であった。他の遺構との切り合い関係はない。

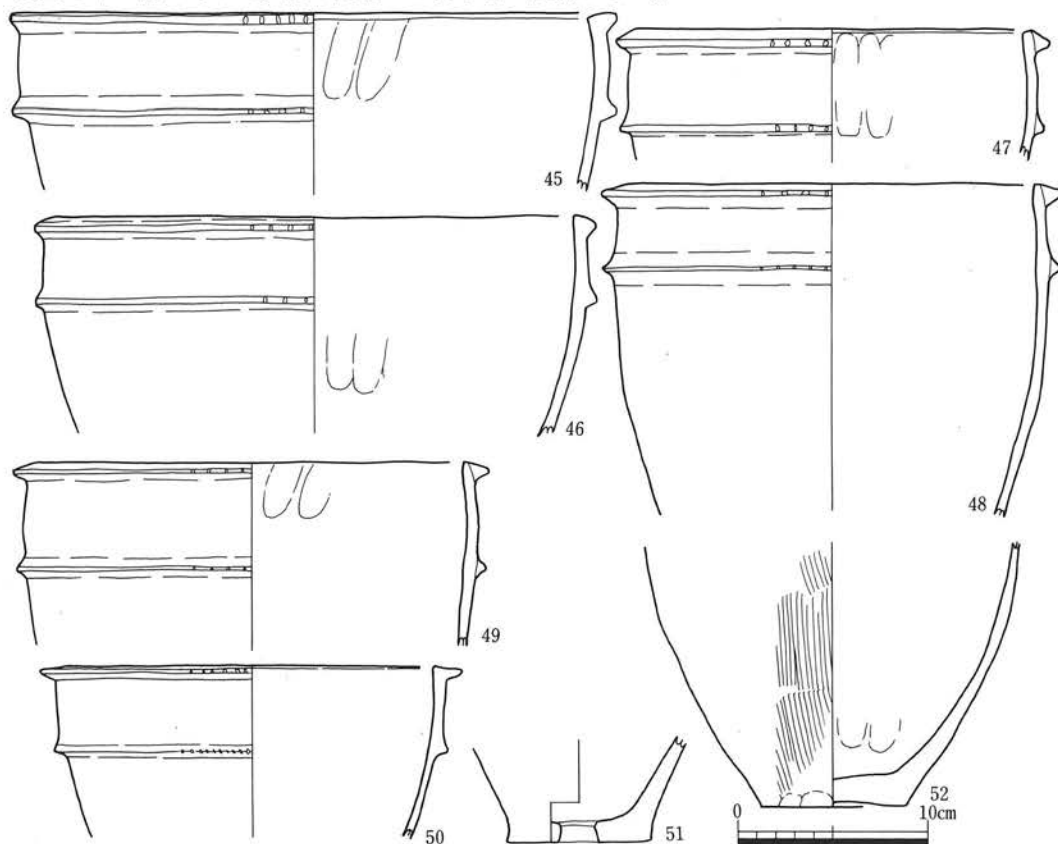


Fig. 108 S K 320・S K 326出土遺物実測図 (S = 1/40)

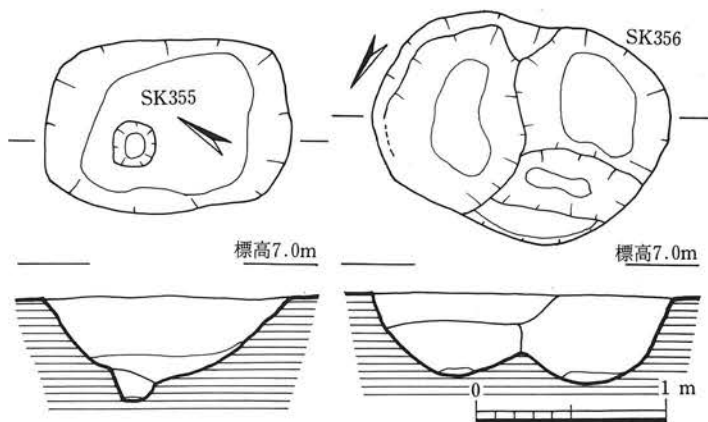


Fig. 109 S K 355・S K 356土壌実測図 (S = 1/40)

甕 (55・56) 復元口径30.2cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。56は復元口径22cm、器高24.5cm。口縁部付近及び胴部外面上半部に横ナデ調整、胴部外面下半部に縦ナデ調整、その他にナデ調整を行なう。内底に指頭圧痕を有する。

S K 356土壌 (Fig.109)

DO-38、DP-38グリッドで検出した。平面形は長軸1.58m、短軸1.15mの楕円形を呈し、0.45mを測る。遺構底面は平坦ではなく、遺構が切り合った状況を呈しているが、遺物の出土状況から考えてひとつの遺構と思われる。遺構埋土は黒褐色の単一層である。

S K 356出土遺物 (Fig.111)

甕 (57~63) 57は復元口径25.9cm。58は復元口径30.2cm。59は復元口径24.4cm。60は復元口径24.2cm。61は復元口径18.8cm。57・58は口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴

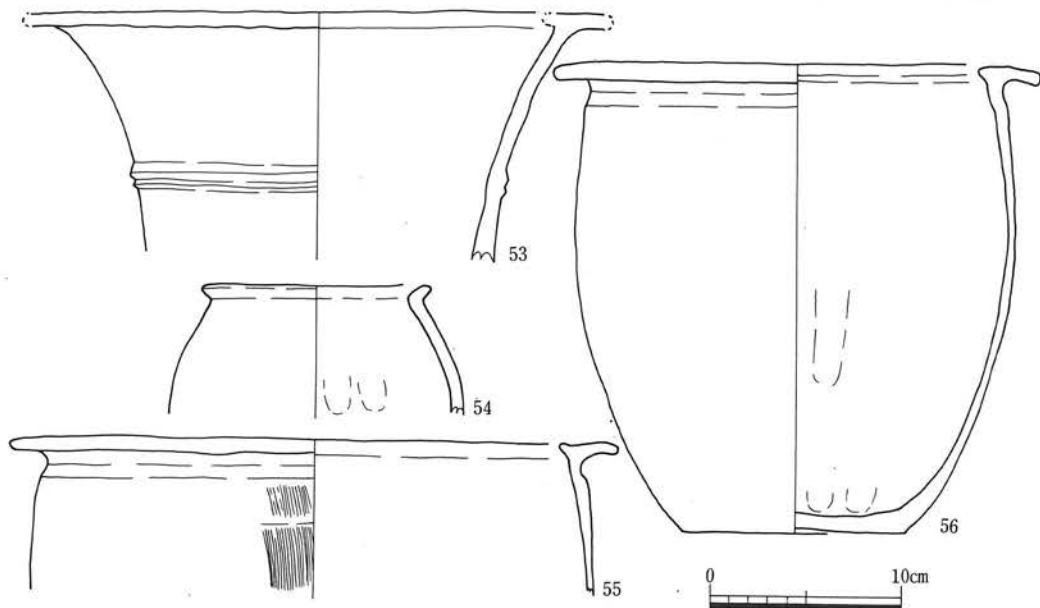


Fig. 110 S K 355出土遺物実測図 (S = 1/4)

S K 355出土遺物

(Fig.110)

壺 (53・54) 53は口縁部が磨耗しており、残存口縁外径30.8cm。頸部中位に二条の三角突帯を持つ。磨耗が著しいが、内外面にナデ調整を行なう。54は復元口径11.6cm。磨耗のため調整不明である。

部内面にナデ調整を行なう。59～61は口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にナデ調整を行なう。
62は外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。内底付近には指頭圧痕を残す。63は外面に
縦ナデ調整、内面にナデ調整を行なう。

蓋 (64) 頭部径4.5cm。外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。

壺 (65) 復元口径28.6cm。器面には横ナデ調整を行なう。

鉢 (66・67) 66は復元口径14.4cm、器高7.9cm。内面にナデ調整、外面は磨耗のため調整不
明。67は口径12.6cm、器高7.6cm。内面にナデ調整、外面は磨耗のため調整不明。

器台 (68・69) 68は裾部径10.4cm、器高13.4cm。外面は受部及び裾部に横ナデ調整、体部

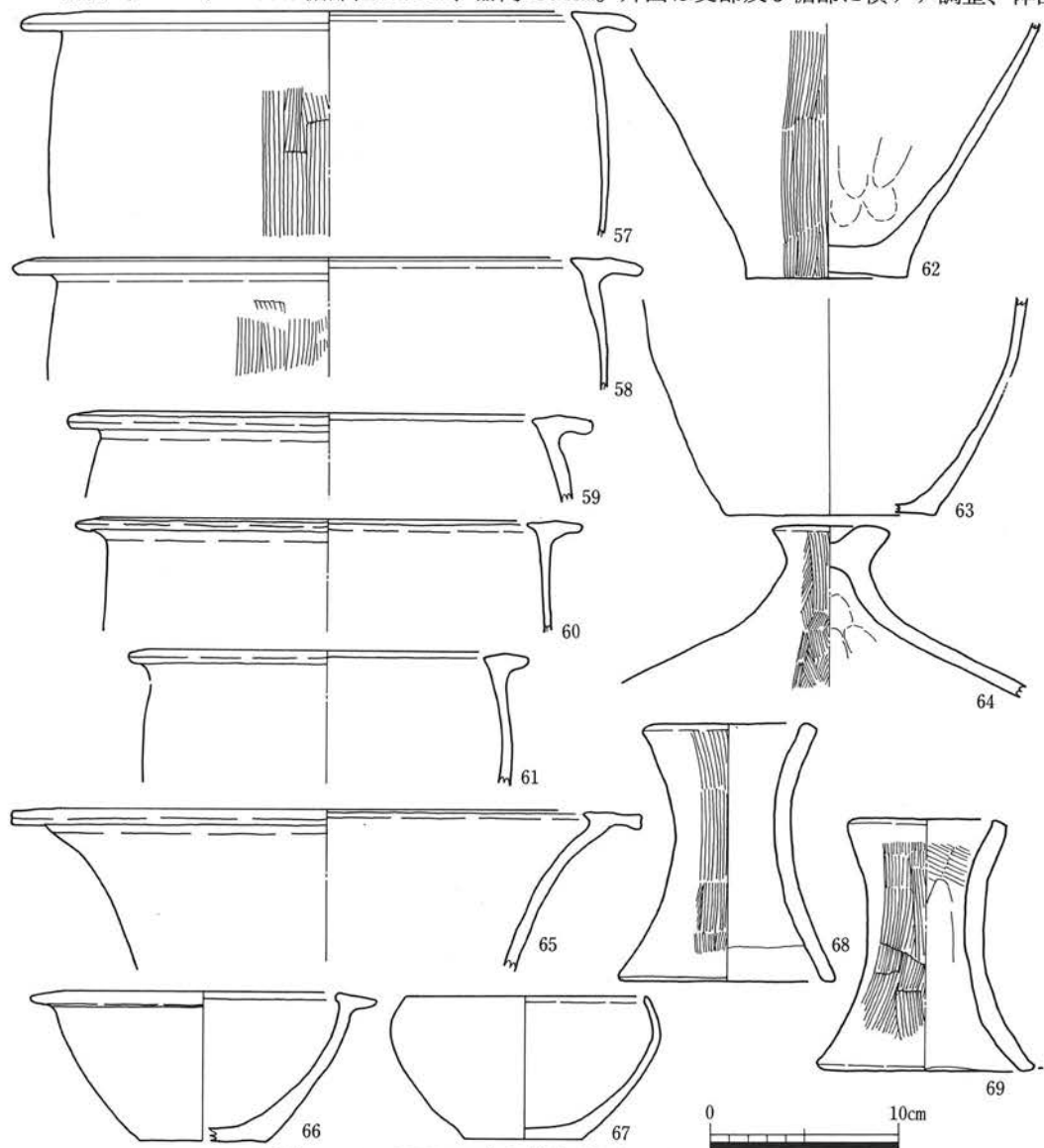


Fig. 111 SK356出土遺物実測図 (S = 1/4)

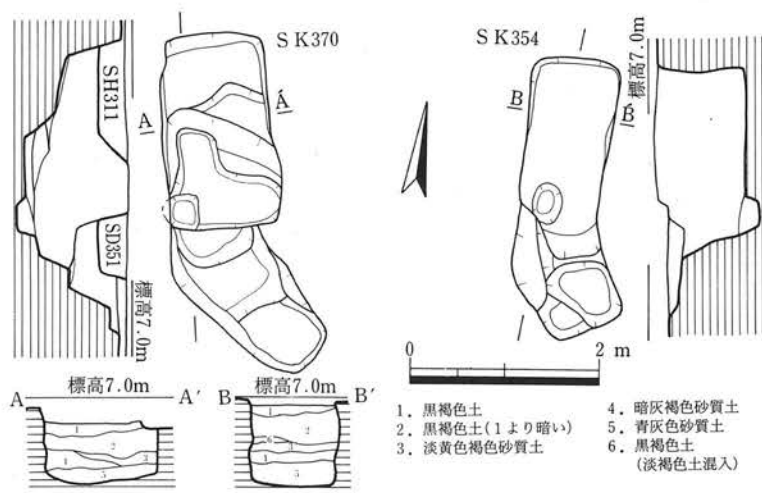


Fig. 112 S K 354・S K 370土壌実測図 (S = 1/80)

S K 354・S K 370土壌 (Fig.112)

DQ-46・47グリッドで検出した。S K 354は長軸2.08m、短軸1.16mの隅丸長方形を呈し、深さ1.2mを測る。掘方は三段掘りになっており、南隅に円形の落ち込みを持つ。S K 370は長軸1.86m、短軸0.9mの隅丸長方形を呈し、深さ1.1mを測る。掘方は素掘りであり、南側に円形の落ち込みを持つ。S K 354はS H 304に切られており、S K 370はS H 311及びS D 351のいずれからも切られている。遺物は殆ど出土しなかった。この2基の遺構は、その掘方形状が掘立柱建物の柱穴の掘方に類しており、遺構埋土は地山の小ブロックを含んでおり、堆積の状況も人為的な様相がうかがえる。遺構内部の南側にある円形の落ち込みも柱痕と考えられないこともない。しかしながら、その全体形が不明であること、他の掘立柱建物の柱穴よりもかなり大型であること、土層断面により柱痕跡などが確認できなかったこと、住居に切られた掘立柱建物は他に存在していないことなどの不安材料も多く、掘立柱建物である可能性は高いが、断定出来ないため、土壌として報告しておく。

(5)溝と出土遺物

S D 321溝 (Fig.113)

DQ-51・52、DR-51・52グリッドで検出した。東側は調査区外にあり、西側はS H 301に切られているため全体形は不明である。幅約1m、深さ0.1m程度である。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直に立上がる。北側の一部は誤って地山を掘っているため溝のラインを壊している。遺構埋土は黒褐色土の単一層であった。S R 322を切っており、S H 301に切られている。

S D 321出土遺物 (Fig.114)

甕 (70～74) 70は復元口径33.5cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面に不明瞭ながらハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。71は復元口径32.4cm。調整は70と同様である。72は復元口径27.2cm。胴部外面にハケ目調整の後に横ナデ調整、内面にナデ調整、口縁外面に横ナデ調整、

にハケ目調整、内面は受部付近にハケ目調整がみられるが、その他にはナデ調整を行なう。69は裾部径11.4cm、器高13.7cmを測る。外面の調整は68と同様。内面はナデ調整を行なう。

口縁内面にハケ目調整を行なう。73は復元口径30cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にナデ調整を行なう。74は外面にハケ目調整。内面にナデ調整、内底に指頭圧痕を残す。

鉢 (75) 復元口径20.8cm。外面にハケ目調整の後ナデ調整、内面にナデ調整を行なう。

高坏 (76) 坏部上半を欠失する。脚部径15.4cm。器面の磨耗が著しいが、坏部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。脚部外面は調整不明、内面の一部にハケ目調整を行なう。

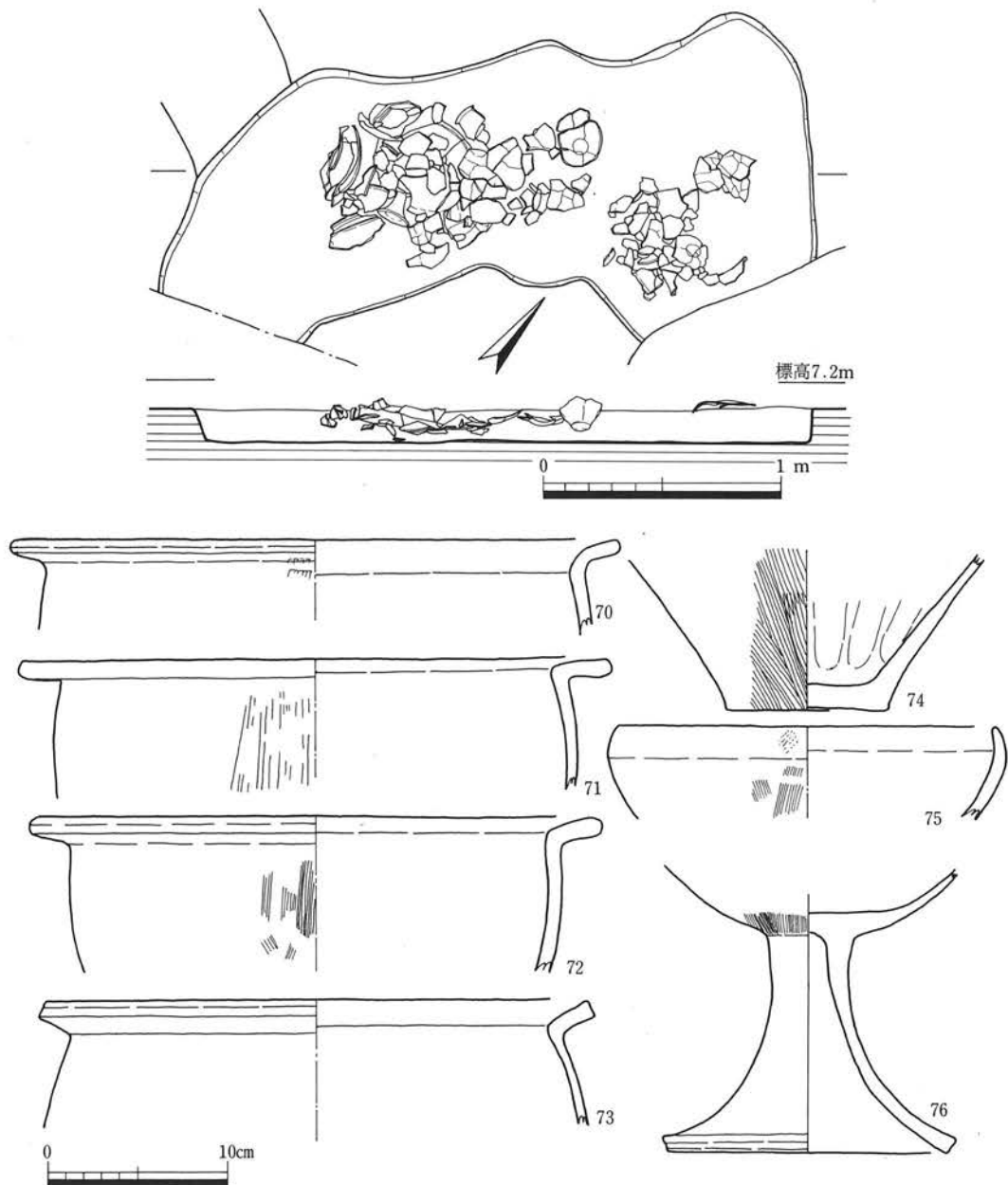


Fig. 113 S D 321溝実測図及び出土遺物実測図 (遺構 S = 1 / 30、遺物 S = 1 / 4)

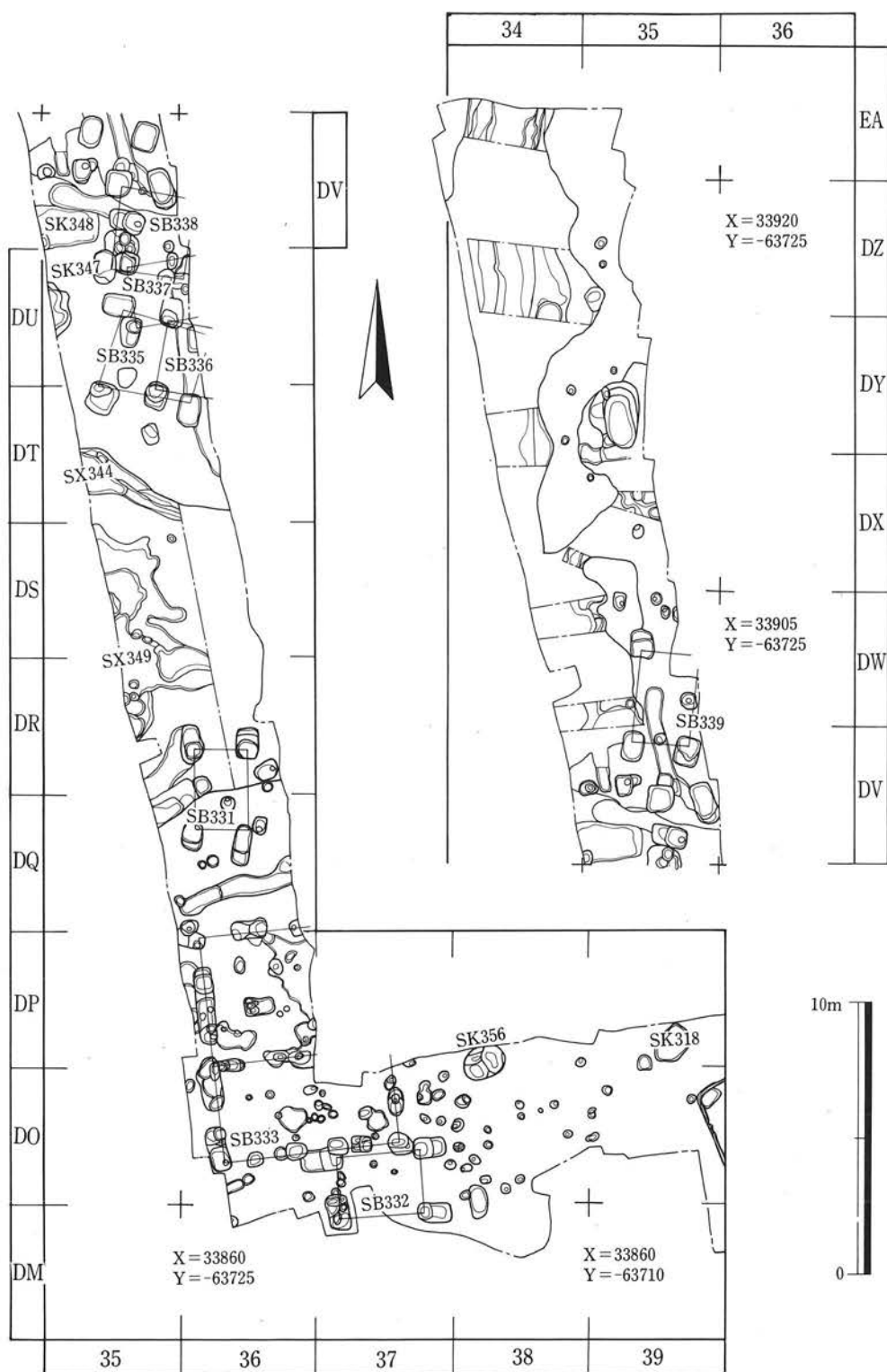


Fig. 114 村徳永遺跡G地区遺構配置図(1) (S = 1 / 250)

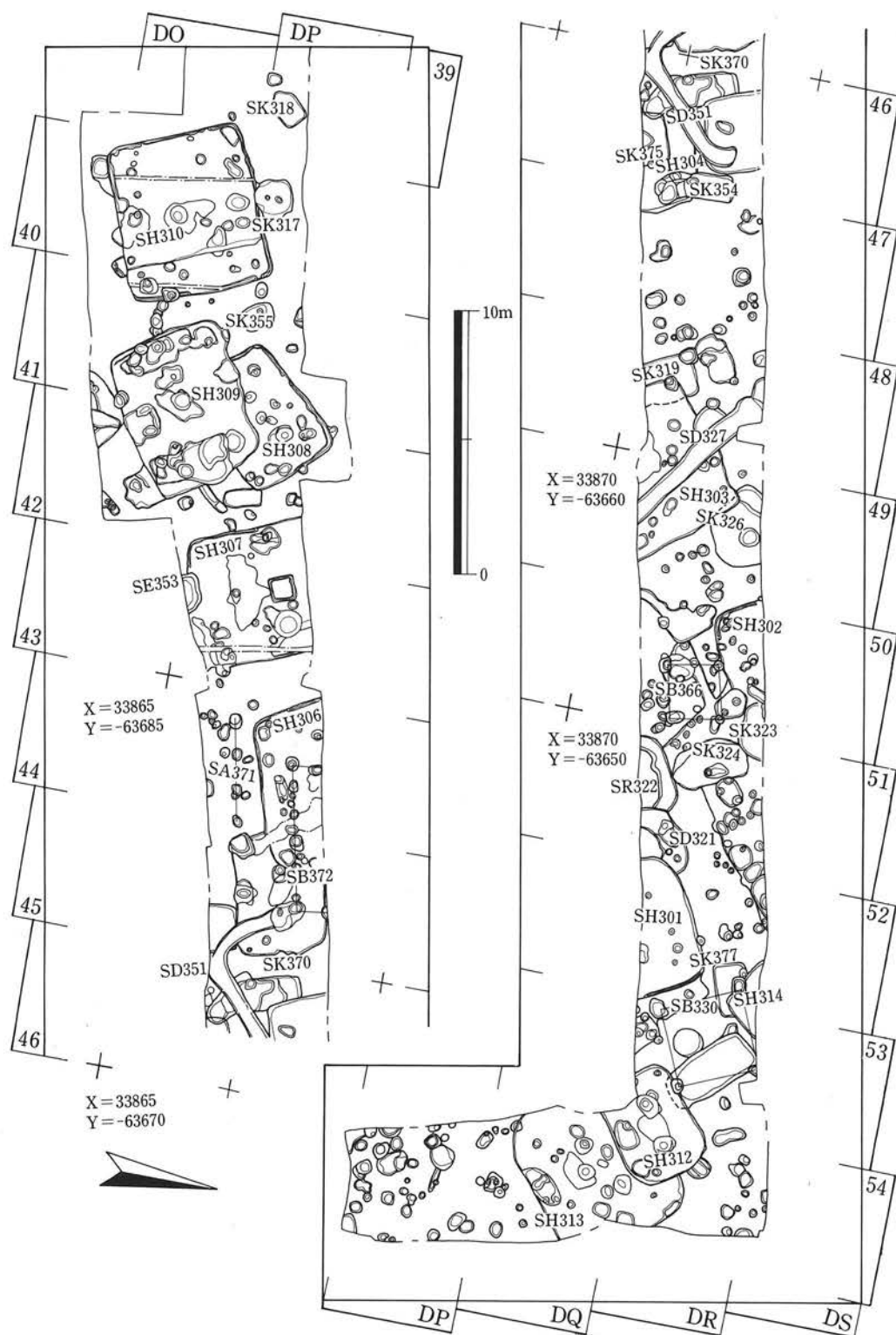


Fig. 115 村徳永遺跡G地区遺構配置図(2) (S = 1/250)

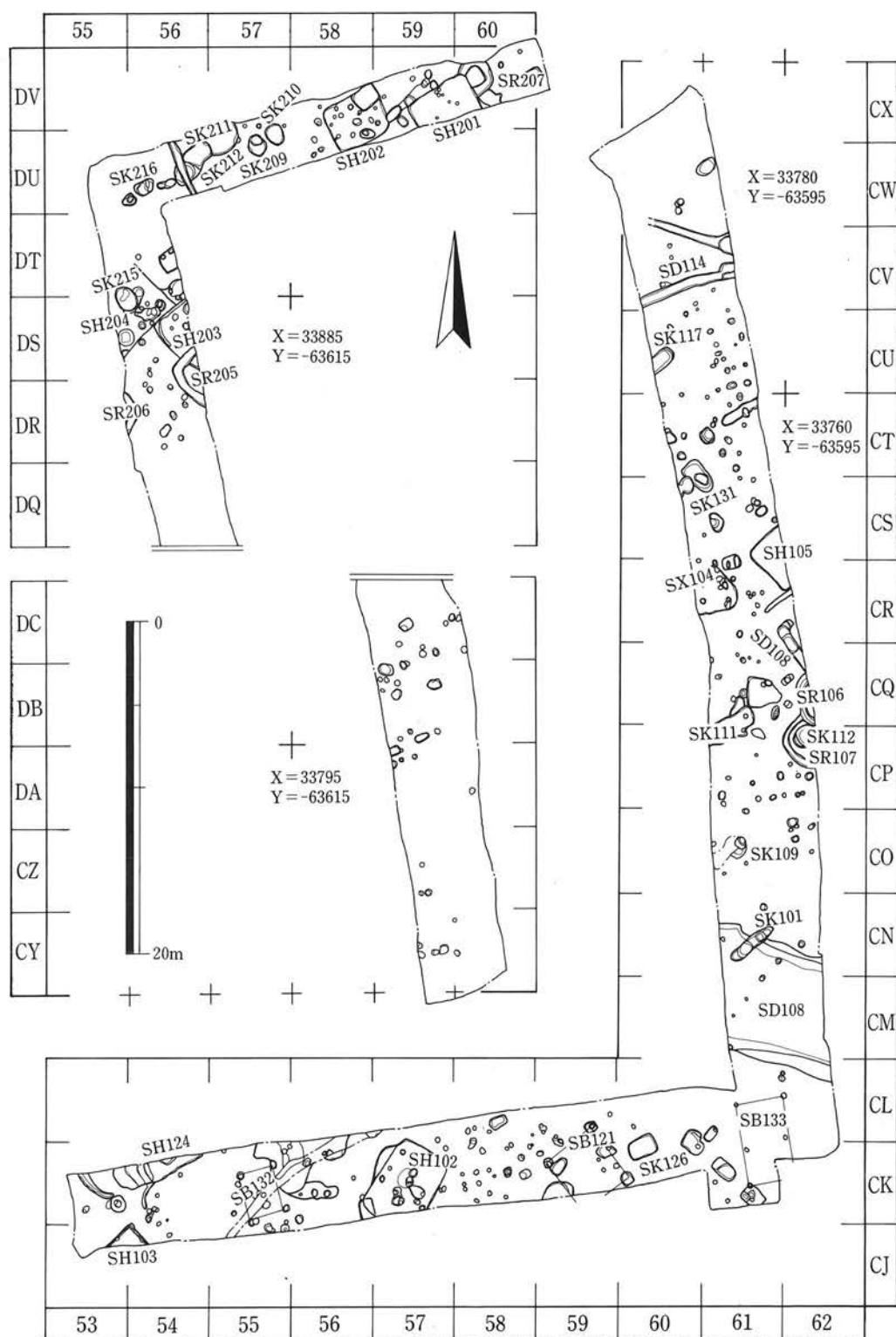


Fig. 116 村徳永遺跡G地区遺構配置図(3) (S = 1 / 250)

VII. 調査の記録 — H 地区 —

H地区は、F地区の西方に位置している比較的小さい調査区である。遺構検出面は削平により長方形に3分割されていた。遺構自体もやや削平を受けており、残存状況はそれほど良好ではなかった。検出した遺構はすべて弥生時代のものである。

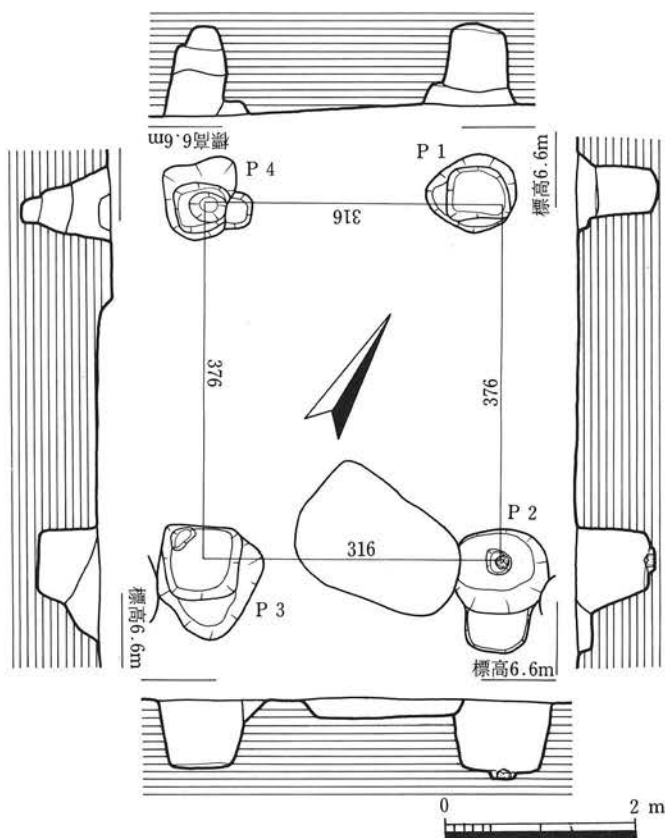
1. 弥生時代の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物と出土遺物

S B044掘立柱建物

(Fig.117)

BW-38・39、BX-38・39グリッドで検出した。梁行1間、桁行1間の南北棟建物で、主軸をN-30°-Wにとる。柱間は図中のとおり。柱掘方は一辺が0.7~1 mの隅丸方形を呈し、深さ0.7~1 mを測る。P2では柱根が検出されているが、その他の柱穴からは検出されていない。SK020に切られており、SB037・048と重複関係にある。柱穴内から遺物は出土しなかった。



(2) 竪穴住居と出土遺物

S H004竪穴住居

(Fig.118)

Fig. 117 S B044掘立柱建物実測図 (S = 1/80)

BY-37・38グリッドで検出した。平面形は長軸4 m、短軸2.7mの隅丸長方形を呈する。遺構北東部は他の遺構（柱穴である可能性が高い）に切られており、住居のラインを消失する。現存壁高は約0.2mを測る。主柱穴・炉跡・壁溝などは検出されなかった。遺構覆土は黒褐色土の1層である。地山掘削の後に暗褐色土で床を貼っている。遺構南壁中央の土壌は本住居に伴うものであり、遺物はここから出土しているもの以外はない。遺構北西部においてはSJ005・007に切られており、北東部においては先述のとおり柱穴と思われる遺構に切られている。

S H004出土遺物 (Fig.118)

甕 (1) 復元口径29.2cm。口縁部外面に横ナデ調整、胴部外面及び口縁部内面にハケ目調

整、胴部内面にナデ調整を行なう。外面に煤が付着する。

高坏（2） 丹塗りの高坏で、復元口径27.1cm。口縁端部に横ナデ調整、外面は磨耗のため調整不明。内面は不明瞭ながらミガキ調整である。口縁上面には暗文を施す。

鉢（3） 復元口径9.2cm、器高4.6cm。口縁部に横ナデ調整、内外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。

(3)井戸と出土遺物

S E 001井戸 (Fig.119)

BX-39、BY-39グリッドで検出した。平面形は直径約1mの円形で、深さ1.1mを測る。埋土は3層に分層でき、自然堆積の状況を呈していた。遺物の出土は少なかったが、底面直上から竪杵が検出されており、その他石斧の柄や槌や木戈などが出土している。

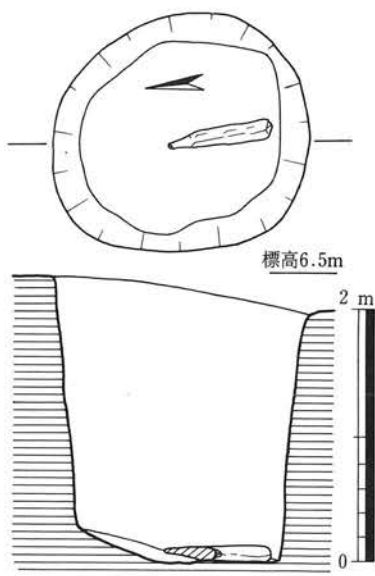


Fig. 119 S E 001井戸実測図及び出土遺物実測図（遺構 S = 1/30、遺物 S = 1/4）

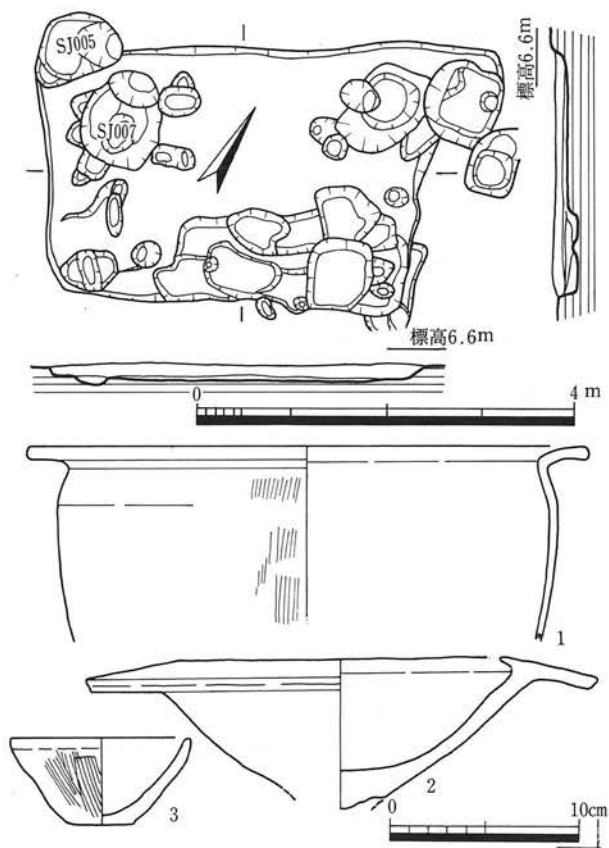
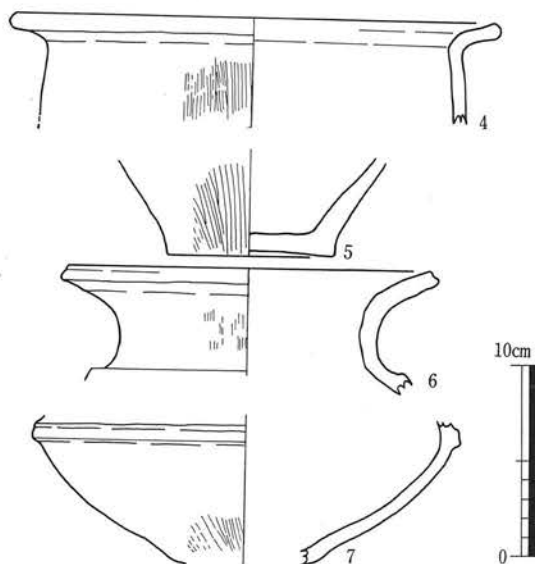


Fig. 118 S H 004竪穴住居実測図及び出土遺物実測図（遺構 S = 1/80、遺物 S = 1/4）



S E 001出土遺物 (Fig.119)

甕 (4・5) 4は復元口径30.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。外面に煤が付着する。5は外面にハケ目調整、内面にナデ調整を行なう。

壺 (6・7) 6は広口壺で、復元口径19cm。器面の磨耗が著しく頸部にかすかにハケ目調整がみられる以外は調整不明。部分的に丹塗りの痕跡が認められる。7は丹塗りの壺底部で、外面に縦方向のヘラミガキ調整、内面にナデ調整を行なう。胴部中位に突帯を持つ。

(4)甕棺墓と出土遺物

S J 005甕棺墓 (Fig.120)

BY-37グリッドで検出した。小児棺である。墓墳の平面形は長軸0.9m、短軸0.65mの楕円形を呈する。複式棺で上甕の上半部を欠失する。上甕・下甕とも日常用甕を使用した接口式合口甕棺墓で、接口部には白色粘土で目張りが施されている。主軸をN-45°-Eにとり、35°の角度で埋置されている。SH004・S J 007と切り合い関係にあり、本甕棺墓が切っている。

S J 006甕棺墓 (Fig.121)

BY-37グリッドで検出した。複式小児棺である。他の遺構との切り合いが激しく、墓墳のラインは明確に出来なかったが、墓墳平面形は長径約1mの楕円形を呈すると思われる。上甕・下甕は日常用甕を使用しており、上甕口縁部は打ち欠かれている。覆口式合口甕棺墓であり、黄灰色粘土で目張りされている。主軸をN-66°-Eにとり、23°の角度で埋置されている。

S J 007甕棺墓 (Fig.121)

BY-37グリッドで検出した。石蓋単棺の小児棺である。墓墳は長径1.2m、短径0.9mの不整楕円形を呈する。棺には日常用甕を使用している。主軸をN-4°-Wにとり、50°の角度で埋置されている。本甕棺はSH004を切っており、S J 005に切られている。

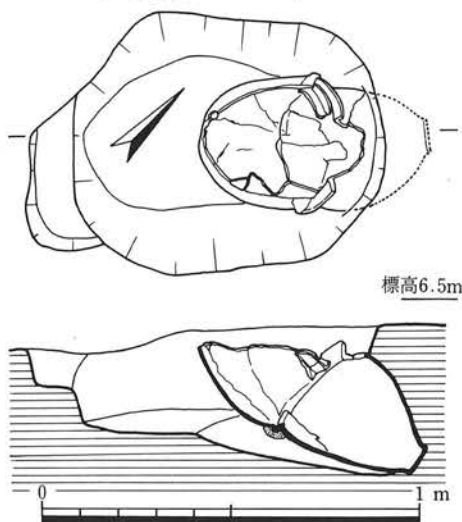


Fig. 120 S J 005甕棺墓実測図(S=1/20)

S J 005・006・007甕棺 (Fig.121)

8はS J 005上甕で、復元口径31cm、器高34.3cm。9はS J 005下甕で、復元口径34cm、器高35.7cm。10はS J 006上甕で、口縁部を欠失する。残存器高35.1cm。11はS J 006下甕で、口径34.8cm、器高39.2cm。12は復元口径33cm、器高35.5cm。いずれも口縁部内外面に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整を行なう。いずれの棺内からも出土遺物は皆無であった。

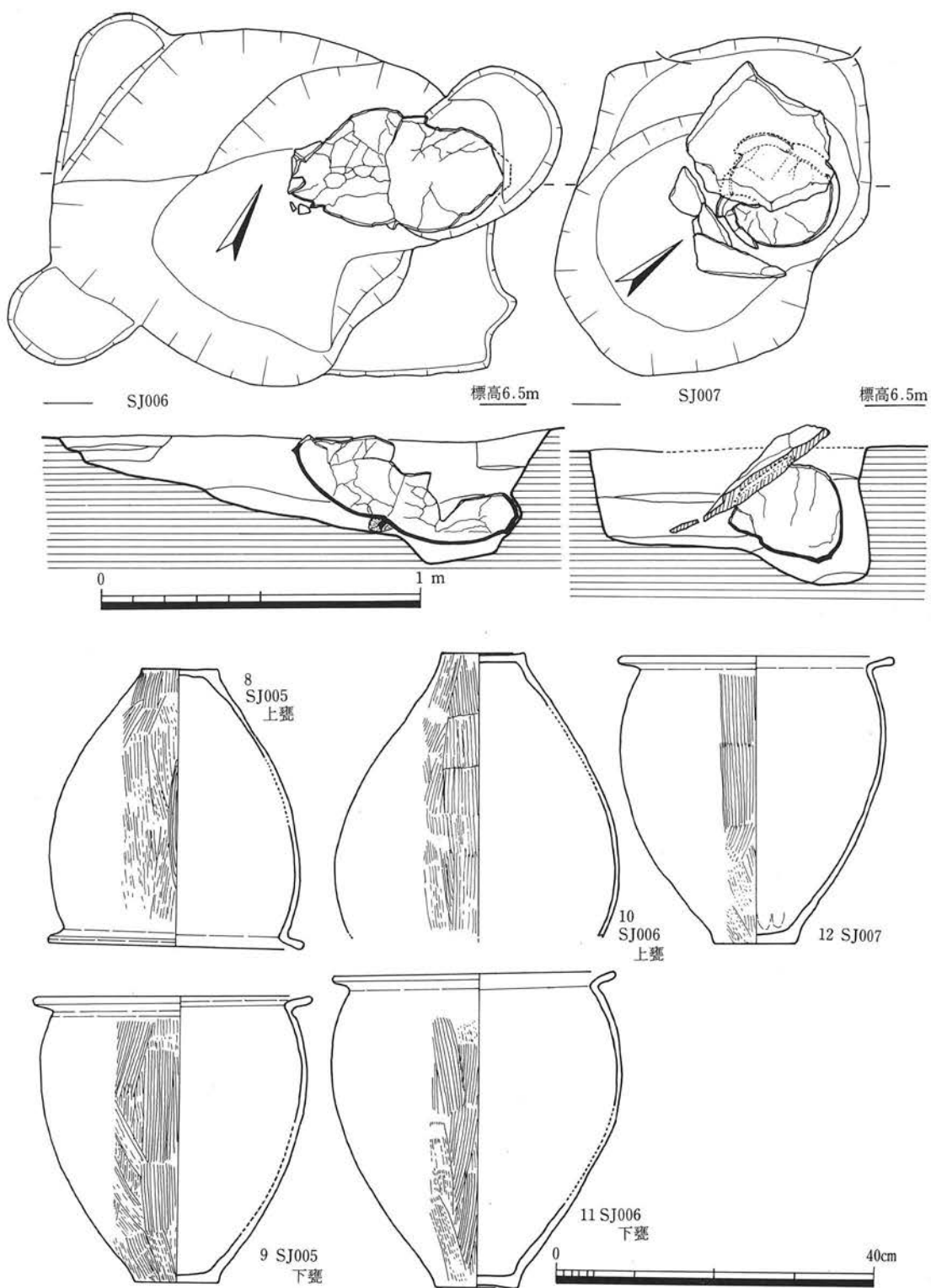


Fig. 121 S J 006・S J 007甕棺墓実測図及び出土甕棺実測図(遺構 S = 1/20、甕棺 S = 1/8)

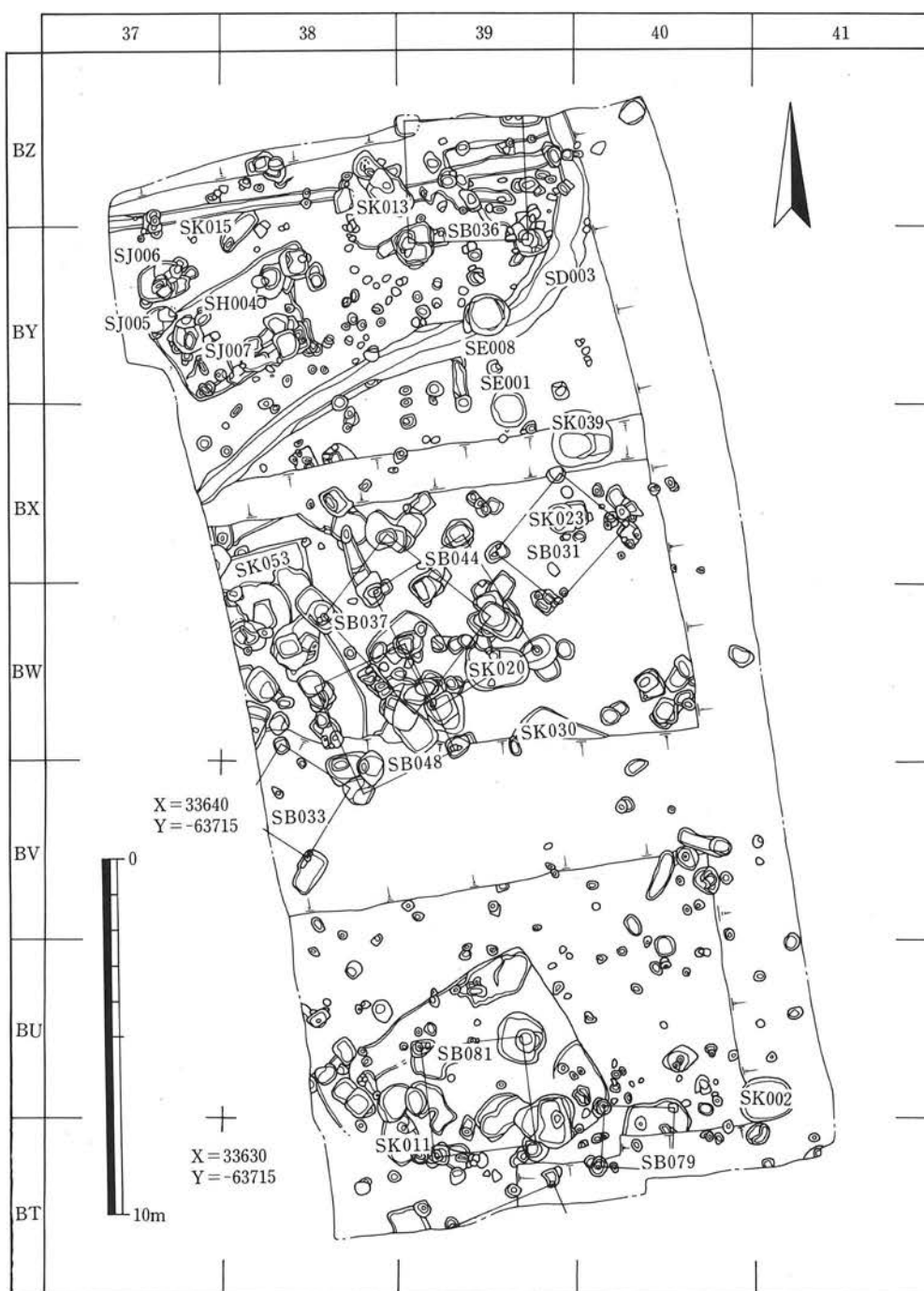


Fig. 122 村徳永遺跡H地区遺構配置図 (S = 1/200)

VIII. その他の出土遺物

本章においては、遺構に伴わない出土遺物、報告できなかった遺構からの出土遺物、編集の都合上、遺構と同時に報告できなかった出土遺物の中から、状況の良いものを抽出して報告を行なう。

1. 土製品及び石製品、石器 (Fig.123、124)

鐸形土製品 (1・2) 2点ともにG地区遺構検出面出土。1はSH301付近で出土した。器高6.7cm、最大厚4.5cm、復元幅4.7cm。方錐状を呈し、下部の一部を欠失する。上面には各隅に1個ずつ計4個の穿孔がある。穿孔は焼成前に両側から行なわれており、途中でかなり細くなっている。内面にはナデ調整、外面はヘラ状工具によるナデ調整と思われる。淡黄褐色～淡赤黄褐色を呈する。2は残存高8cm、残存幅4.1cm。形状は1と同様のものであるが、1よりやや大きくなると思われる。内外面ともにナデ調整。外面の一部に赤色顔料を塗布したような痕跡を持つ。丹塗りか。淡黄褐色を呈する。

紡錘車 (3) G地区3区P1出土。石製で、厚さ0.6cm。

石庖丁 (4) G地区SH303床面直上出土。残存長8.3cm、最大幅3.3cm、厚さ0.6cm。

砥石 (5・6) 5はG地区SH124床面上出土。砂岩系の石材で表裏左右の四面を使用している。6はG地区SH312床面直上出土。砂岩系の石材で、表裏を使用している。

2. 木製品 (Fig.124～126)

石斧柄 (7) H地区SE001出土。台部長9.1cm、幅3cm、厚さ2.4cm。柄を欠失する。

木戈 (8) H地区SE001出土。刃部の両端と柄の殆どを欠失する。刃部は残存長14.4cm、最大幅3.5cm、最大厚1.2cm。柄の断面は方形状を呈する。

槌 (9・10) 9はF地区SE002出土。全長38.8cm、槌部径6.2cm、握部径3.3cm。端部にはケズリ痕を残す。槌部上方は使用によるものか、やや窪んでいる。10はF地区SE133出土。全長41.7cm、槌部径5.8cm、握部径2.7cm。両端部にケズリ痕を残す。

杓子 (11・12) 2点とも未製品である。11はF地区SE022出土。残存長21cm、柄幅1.8cm、杓部幅8cm。柄は断面方形を呈し、上部を欠失する。12はG地区SE353出土。完成品で、全長52.9cm、杓部幅12.1cm。柄断面はほぼ方形をなす。2点とも成形は完了しているが、杓部の割り抜きが行なわれていない。

鍬 (13・14・15・16) 13・16はF地区SE002第5層出土。13は平鍬で、刃部の約半分を欠失する。全長42.2cm、復元最大幅13.7cm、最大厚1.4cm。方形柄孔を有する。16は平鍬で、先端部を欠失する。残存長67.9cm、最大幅11.4cm、最大厚1.5cm。比較的大型で、方形柄孔を持ち、部分的にケズリ痕が残る。14はF地区SE023出土。平鍬で、推定長43.7cm、最大幅10.3cm、最大厚1.4cm。方形柄孔を持つ。15はF地区SD040出土。平鍬で、頭部から基部にかけてなら

かにひろがり、先端部を欠失する。残存長38.1cm、最大厚1.7cmを測る。

鋤 (17・18) 2点ともF地区S E023出土。17は二又鉞か。肩部に張り出し部を持ち、刃部先端を欠失する。残存長47.3cm。18は残存長68.2cm。刃部先端と柄端部を欠失する。逆二等辺三角形の身部を持つ一木造りの長柄鋤で、身は角度をもって削りだされている。柄断面は隅丸形状をなす。柄端部の状況から考えて、握部は組合せになると思われる。

竖杵 (19・20・21) 19はF地区S E023出土。完形品で、全長103.9cm、搦部径9.3cm、握部径3.4cm。搦部は使用のためやや磨耗する。握部は稜によって二分されている。20はF地区S E021出土。搦部のみが残存し、残存長34.5cm、搦部径8.7cm。搦部の磨耗が著しい。21はH地区S E001出土。残存長42.2cm、搦部径8.9cm。搦部は使用による磨耗が著しい。

梯子 (22) F地区S E024出土。上部を欠失し、残存長109.4cm、最大幅11.6cm。丸太を利用し、二ヶ所に足架けの挟り込みをつくっている。先端部は面取りを行ない、若干先を尖らせている。上部には穿孔を行なっている。紐架け用の孔か。

建築材 (23) F地区S E021出土。柱材と考えられる。残存長113.5cm、最大幅12.2cm。断面はほぼ円形で、全体に比較的丁寧な面取りを行なう。柱上方には二ヶ所に建築材をかませるための加工が施されている。この内上部の加工は紐で縛るための削り込みが両側につくられている。これら二ヶ所の加工面はほぼ直角をなしている。上面は磨耗が著しい。

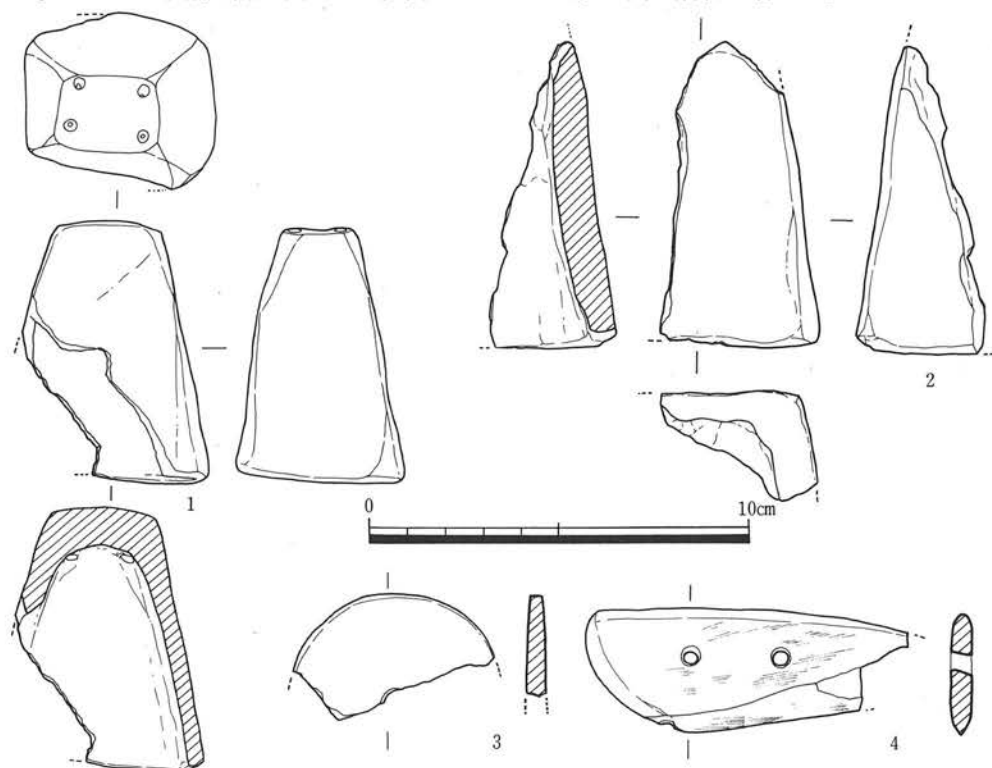


Fig. 123 その他の出土遺物実測図(1) (S = 1/2)

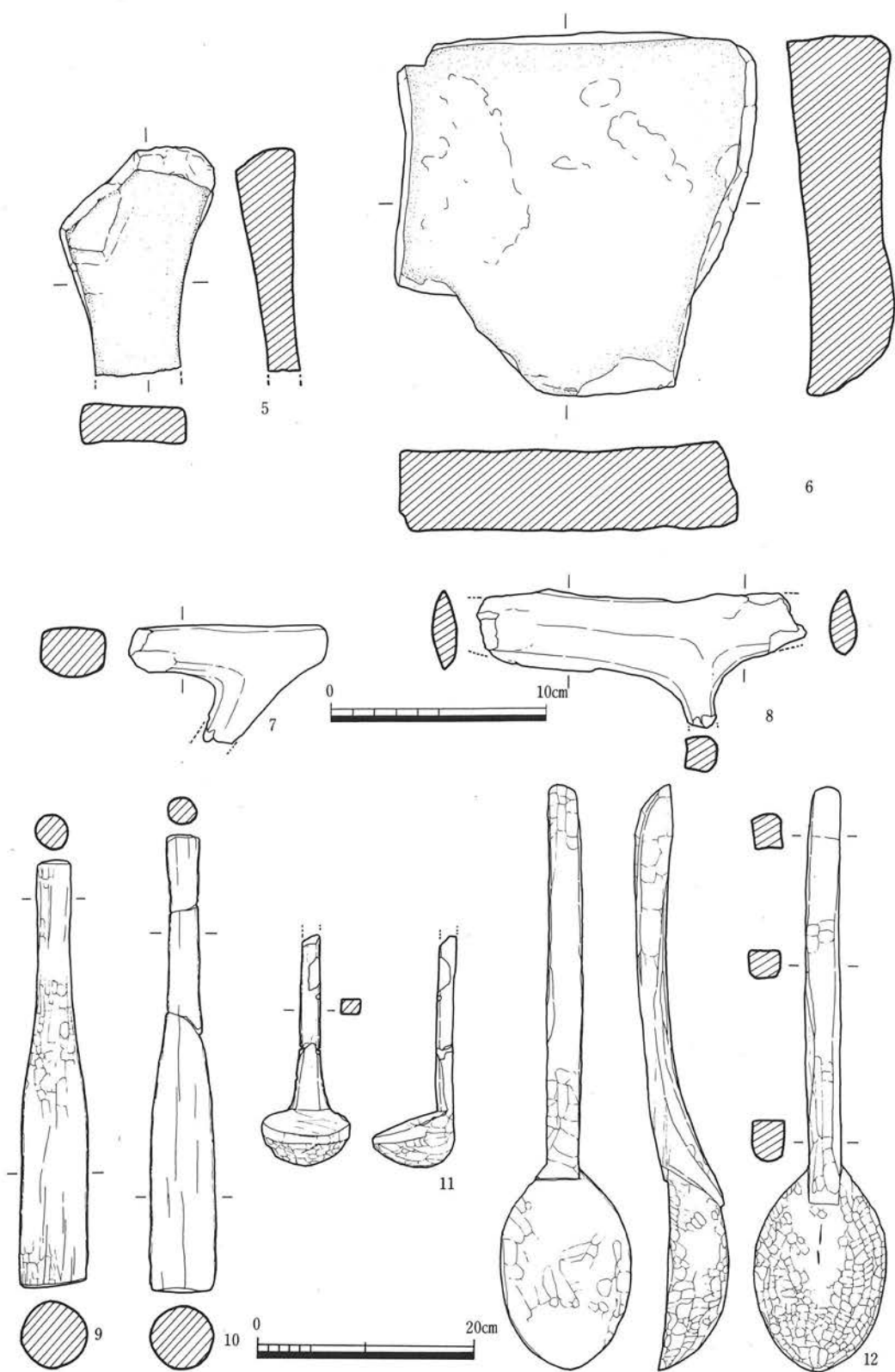


Fig. 124 その他の出土遺物実測図(2) (5～8はS = 1/3、9～12はS = 1/6)

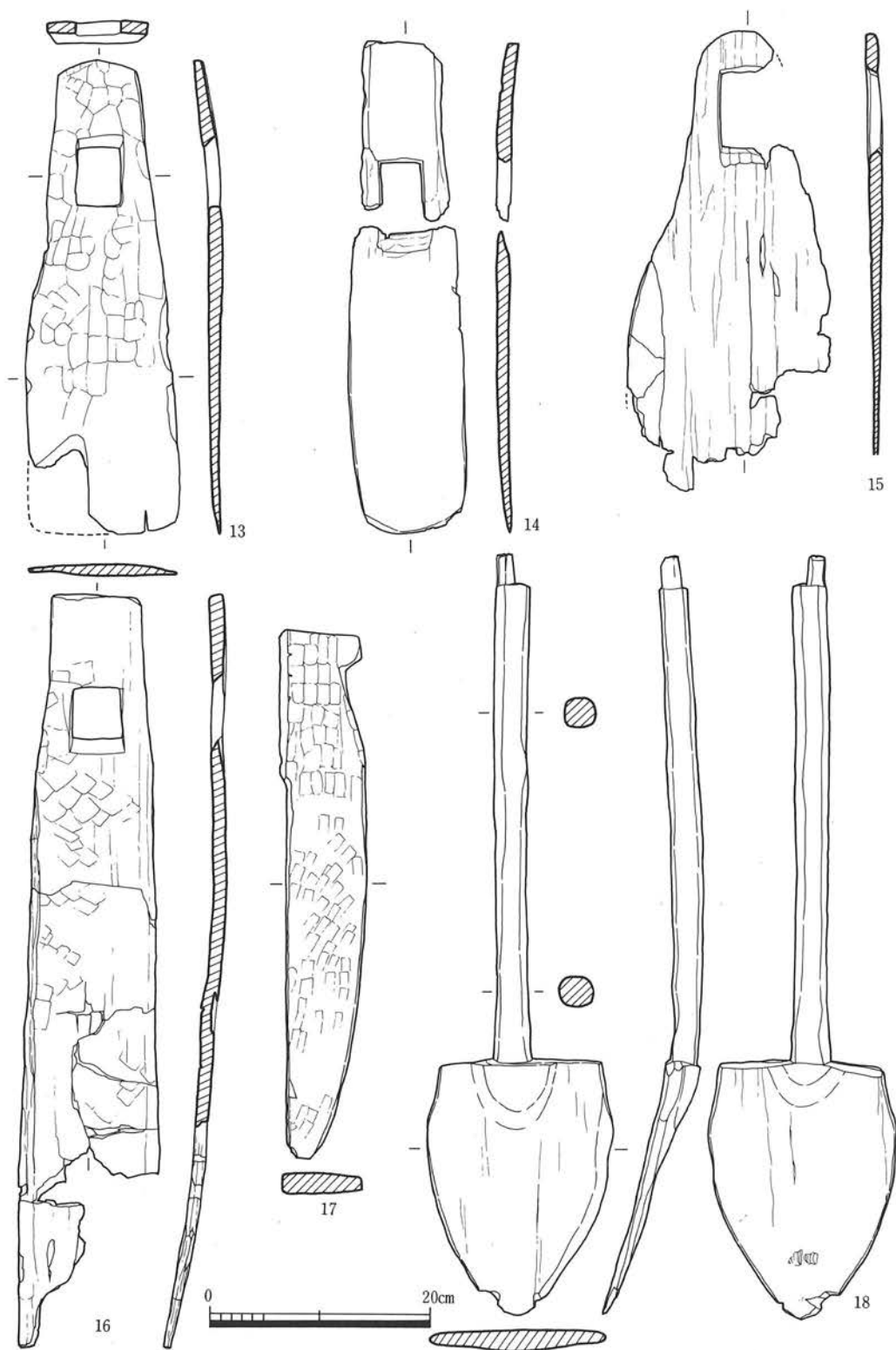


Fig. 125 その他の出土遺物実測図(3) (S = 1 / 6)

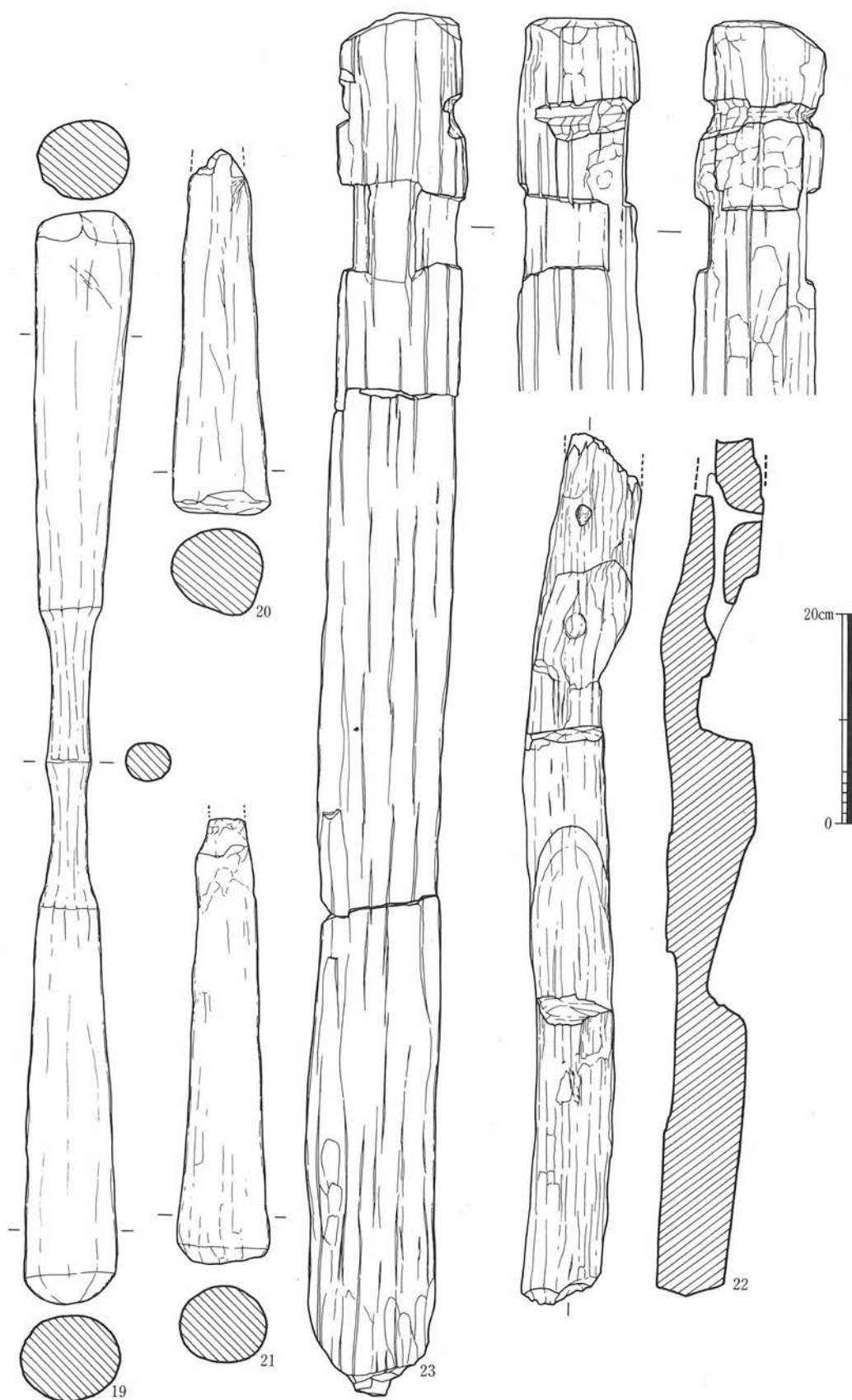


Fig. 126 その他の出土遺物実測図(4) (S = 1 / 6)

IX. 小 結

今回発掘調査を行なった村徳永遺跡E・F・G・H地区からは縄文時代晩期から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が検出されている。ここでは遺跡の主要をなす弥生時代の遺構・遺物についてまとめることとする。

今回、多数を検出した掘立柱建物は、他遺構との切り合いや柱穴出土の土器から判断して、弥生時代後期前半のものと考えられる。検出した掘立柱建物の大部分は、F地区の南半部とG地区の西端部に集中する。建物の規模は1間×1間、1間×2間が殆どであるが、2間×2間が1棟、その他にはF地区S B 015やG地区S B 333のような特異な規格のものも存在する。

この中で特に注目されるのは、先に述べたF地区S B 015、G地区S B 333であろう。規格・建築工法ともに他のものとは異なっており、非常に興味深い資料である。当初、規格・工法の違いから他の建物よりも時期の新しいものである可能性も考えたが、建物方位や柱掘方・柱構造の一部が他のものと類似していること、柱穴からの出土遺物は弥生時代後期のもののみであることや遺構の配置状況を考えると、弥生時代の所産であること以外に考えられない。

掘立柱建物は切り合い・重複関係を持っており、すべてが同時存在でないことは明白である。F地区においては建物の配置状況からみて、S D 001からS B 042までの一群、それよりS D 040までの一群、S D 040以东の一群という大きく3グループにまとめられる。各々のグループにおいては切り合い・重複関係・建物の方位偏差から推測して、2～4時期に分離できそうである。しかしながら、3群間における同時存在の建物に分離するまでには至らなかった。

このF地区において検出した溝のなかで特にS D 001、S D 040、S D 081、S D 103の存在は注目される。S D 001、S D 081、S D 103は出土遺物から判断してほぼ同時期と考えられ、検出の状況から推測して、分断しながらつなっていた可能性がある。これらの溝と掘立柱建物は、S D 103とS B 147以外に切り合い関係はなく、先述した3群の建物はすべて溝の東側に存在しており、溝のラインに対して建物の主軸がほぼ直行ないしは平行に配置されている状況がうかがえる。またS D 040も時期的には他の溝と同一と考えられ、建物との切り合い関係はない。溝の東側の建物は、西側の建物に比べてやや規模が小さくなっており、西側に存在するような1間×2間の建物は存在しない。部分的な検出のため断定は出来ないが、掘立柱建物がこれらの溝に何らかの規制を受けている可能性は高いといえよう。

G地区においても掘立柱建物は切り合い・重複関係により2～4時期に分離出来そうであるが、調査区の狭小さにより確実なグルーピングは出来なかった。

H地区で検出した掘立柱建物はすべて1間×1間である。調査区が狭く地点もやや離れており、他地区との関係は判断できないが、掘立柱建物はこの地点までは広がっている。

弥生時代の掘立柱建物については近年その調査例が増加しているが、本遺跡で検出した掘立

柱建物は神埼町^{かわよりよしはら}川寄吉原遺跡において検出されたものに良く似ており、柱穴掘方や柱構造など類似点が多い。川寄吉原遺跡における掘立柱建物は、「高倉の他に高床住居的な建物も含まれる」と考えられており、低湿地における住居形態の一例として興味深い。これに対し、本遺跡の掘立柱建物は竪穴住居と併存しており、高床倉庫と考えたほうが妥当であろう。しかしながら、竪穴住居と掘立柱建物には出土遺物から判断して若干の時期差が認められる部分もあり、これら建物と住居の時期については詳細な検討が必要である。また、今回掘立柱建物として報告したF地区S B015、G地区S B333についてもその構造的な問題から、高床倉庫とするには疑問点も多く、平地式住居あるいはその他の構築物と考えられる可能性も少なくないため、今後、建築学からの検討も必要であろう。

竪穴住居はその殆どをG地区で検出した。平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形で、主柱穴を確認したものはすべて2本柱の構造のものであった。炉跡は殆どが円形であるが、G地区S H307においては方形の炉跡が確認されている。

周溝状遺構は主にF地区で多く検出した。このような遺構は各地で報告されており、遺物の出土が比較的少ないものが多いようであるが、今回検出したものは、まとめて遺物が出土している。時期を明確に出来たものは、弥生時代中期末から後期にかけてのもので、掘立柱建物より先行する遺構である。その性格については現在のところ言及できないが、丹塗り土器が出土しているものや、周溝内部に小穴を持つものがあり、良好な資料を提供している。

遺物においては良好な一括資料が多く得られており、それらの土器とともに木器も多く出土した。木器は鍬・鋤をはじめとして農具・工具が出土している。またH地区S E001からは木戈と考えられる木製品が出土しており、同様のものが千代田町^{たくだにしぶん}託田西分貝塚で報告されている。

土器・木器の出土量に比べ、石器の出土量は非常に少ない。特に弥生時代後期の遺構から出土した伐採具・工具関係の石器は皆無に等しい。木器・柱根の出土量、加工技術、あるいは出土石器のなかで砥石の占める割合が比較的大きいことを考えれば、鉄器の存在が予想される。その他、出土遺物のなかで注目されるのは鐔形土製品であろう。佐賀市域においては初めての出土例であるが、吉野ヶ里遺跡群、神埼町^{かわよりわかみや}川寄吉原・^{としだやなぎ}川寄若宮・^{ゆくわ}利田柳・^{はらこ}的遺跡、中原町^{がきんぼんだに}原古賀三本谷遺跡、千代田町^{やすなが}託田西分貝塚など、県内において十数例の鐔形土製品が出土している。県内においては東部地区にその出土が集中するようであり、鳥栖市^{やすなが}安永田遺跡出土の銅鐔鋳型の存在を考え合わせれば、非常に興味深い。

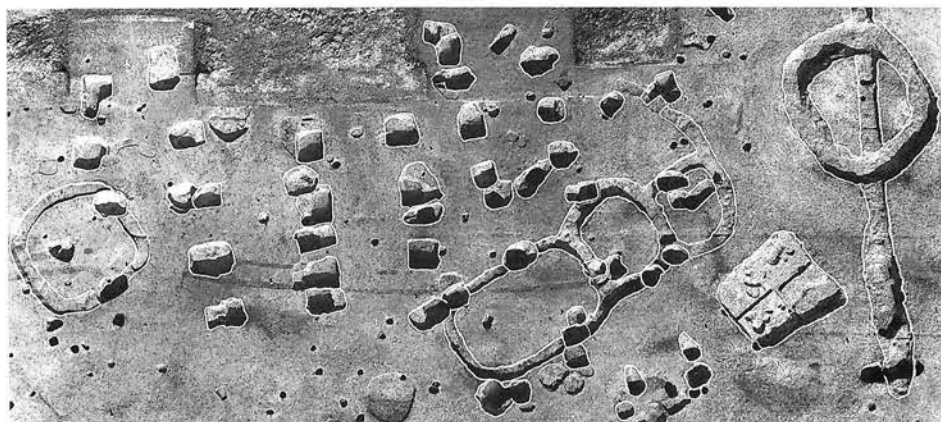
さて、今回の調査により、当地における弥生集落の存在が明らかになったが、部分的な発掘調査のため、その全体規模、遺構（特に竪穴住居と掘立柱建物）の占地形態など不明な部分が多い。遺跡の範囲もF地区東西部分が集落の南辺部にあたることは確実であるが、それ以外の範囲確定は出来なかった。しかしながら、今後も広い範囲にわたって近隣の調査が予定されており、その調査結果をまとめて遺跡の規模、内容について詳細な検討を行いたい。



PL. 1-1 村徳永遺跡F地区 全景



PL. 1-2 F地区 掘立柱建物群



PL. 1-3 F地区 周溝状遺構群及び掘立柱建物群



PL. 2-1 F地区SB011掘立柱建物 P-1



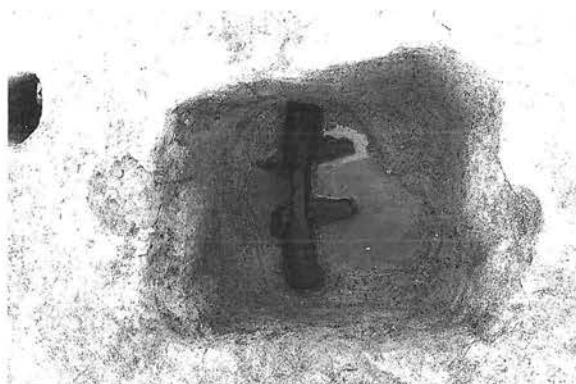
PL. 2-2 F地区SB015掘立柱建物



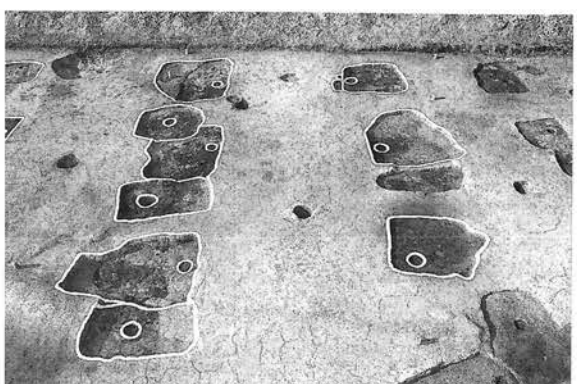
PL. 2-3 F地区SB017掘立柱建物 P-3



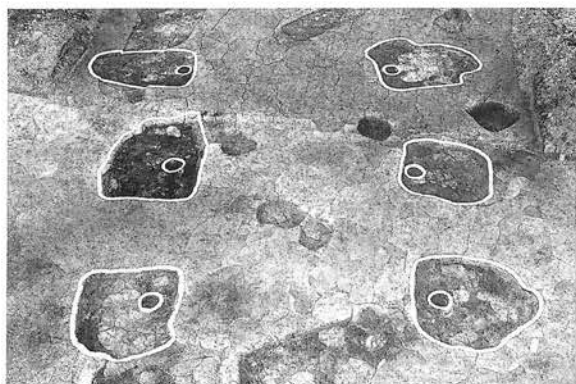
PL. 2-4 F地区SB019掘立柱建物 P-2



PL. 2-5 F地区SB019掘立柱建物 P-2



PL. 2-6 F地区SB071掘立柱建物



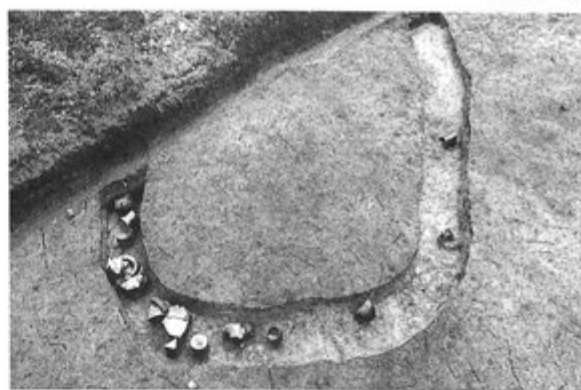
PL. 2-7 F地区SB072掘立柱建物



PL. 2-8 F地区SB072掘立柱建物 P-5



PL. 3-1 F地区SB073掘立柱建物



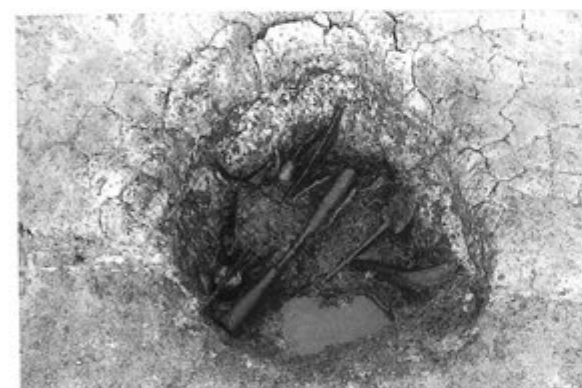
PL. 3-2 F地区SR047周溝状遺構



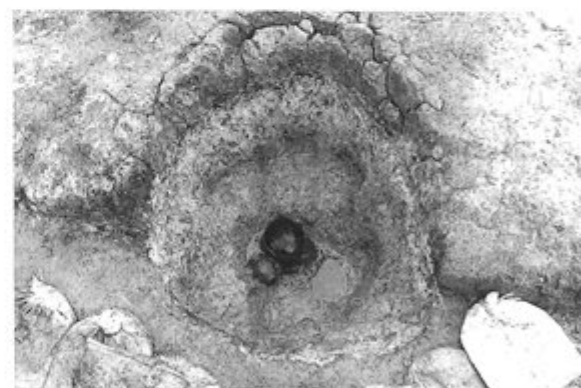
PL. 3-3 F地区SE002井戸



PL. 3-4 F地区SE021井戸遺物出土状況



PL. 3-5 F地区SE023井戸



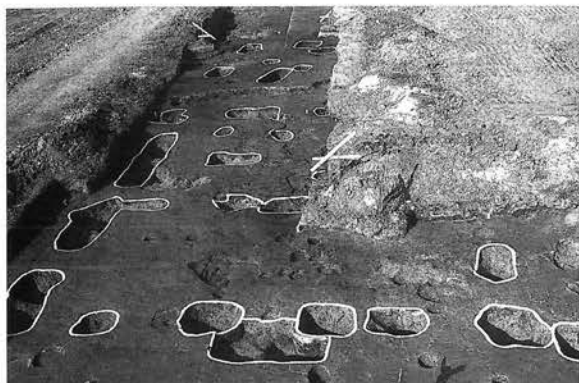
PL. 3-6 F地区SE023井戸



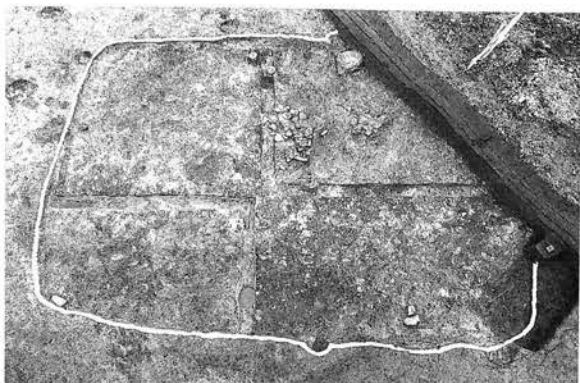
PL. 3-7 F地区SK031土壇



PL. 3-8 F地区SK094土壇



P L. 4—1 G地区S B333掘立柱建物



P L. 4—2 G地区SH102竖穴住居



P L. 4—3 G地区SH307竖穴住居



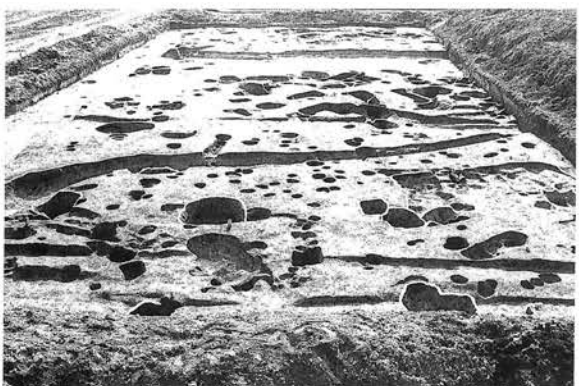
P L. 4—4 G地区SH310竖穴住居



P L. 4—5 G地区SH312竖穴住居



P L. 4—6 G地区SD321溝



P L. 4—7 H地区全景



P L. 4—8 H地区SH004竖穴住居

村徳永遺跡収蔵品目録

番 号	名 称	種 別	時 代	まきき(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コンテ番号	A・Bの別
MTN-E-001	小皿	土 師 器	鎌 倉	2 5	口径 8.8 _± 底径 7.7 _± 器高 1.1	SE002	1989.0	1-173	1	A
MTN-E-002	碗	瓦	鎌 倉	不明	口径16.2 _± 底径 — 器高 —	SE002	1989.07	1-172	1	A
MTN-E-003	碗	青 磁	鎌 倉	5 0	口径16.0 _± 底径 5.7 器高 6.7	SE002	1989.08	1-144	1	A
MTN-E-004	碗	青 磁	鎌 倉	4 0	口径15.6 底径 5.5 器高 6.3	SE002	1989.07	1-166	1	A
MTN-E-005	碗	青 磁	鎌 倉	不明	口径15.8 _± 底径 — 器高 —	SE002	1-170	10-13	1	A
MTN-E-006	碗	青 磁	鎌 倉	不明	口径16.8 _± 底径 — 器高 —	SE002	1-171	10-14	1	A
MTN-E-007	坏	土 師 器	鎌 倉	7 0	口径13.8 底径 9.5 器高 3.4	SD003	1989.07	2-157	1	A
MTN-E-008	坏	土 師 器	鎌 倉	8 0	口径13.2 _± 底径 8.8 器高 4.0	SK005	1989.08	3-150	1	A
MTN-E-009	坏	土 師 器	鎌 倉	1 5	口径13.3 _± 底径 8.3 _± 器高 3.4	SK005	1989.07	3-214	1	A
MTN-E-010	壺	陶 器	鎌 倉	不明	口径 — 底径12.5 _± 器高10.5 _±	SK005	1989.07	3-168	1	A
MTN-E-011	壺	弥生土器	弥 生	7 0	口径12.8 底径 7.3 器高13.3	SK006	1989.08	4-145	1	A
MTN-E-012	碗	青 磁	鎌 倉	4 5	口径16.4 _± 底径 5.9 器高 6.7	SK007	1989.08	5-149	1	A
MTN-E-013		瓦 器	鎌 倉	2 0	口径17.0 _± 底径 4.6 _± 器高 7.0	SK008	1989.07	6-218	1	A
MTN-E-014		瓦 器	鎌 倉	3 5	口径15.8 _± 底径 6.4 _± 器高 6.4	SK008	1989.07	6-219	1	A
MTN-E-015	小皿	土 師 器	鎌 倉	完形	口径 8.9 底径 7.0 器高 1.6	SK009	1989.08	8-153	1	A
MTN-E-016	小皿	土 師 器	鎌 倉	完形	口径 8.4 底径 6.8 器高 1.9	SK009	1989.08	8-152	1	A
MTN-E-017	坏	土 師 器	鎌 倉	7 0	口径12.5 底径 8.8 器高 3.5	SK009	1989.08	7-262	1	A
MTN-E-018		瓦 器	鎌 倉	不明	口径 — 底径 5.1 器高 6.8 _±	SK009	1989.08	8-215	1	A
MTN-E-019		瓦 器	鎌 倉	5 0	口径16.3 _± 底径 6.8 器高 6.1	SK009	1989.08	7-143	1	A
MTN-E-020		瓦 器	鎌 倉	完形	口径16.3 底径 5.9 器高 6.8	SK009	1989.08	7-140	1	A

村徳永遺跡 (E 地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	土 質 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘時期	埋藏年代	コナリ番号	A・Bの別
MTN-E-021		瓦 器	鎌 倉	9 0	口径17.0 底径 7.4 器高 6.6	SK009	1989.08	7-141	14-25	1	A
MTN-E-022		瓦 器	鎌 倉	8 5	口径17.2 底径 6.3 器高 7.3	SK009	1989.08	7-142	14-26	1	A
MTN-E-023	鍋	土師質土器	鎌 倉	不明	口径 — 底径 — 器高 9.1	SE009	1989.08	8-216	14-27	1	A
MTN-E-024	鍋	土師質土器	鎌 倉	不明	口径 — 底径 — 器高 7.0	SK009	1989.08	8-217	14-28	1	A
MTN-E-025	鍋	土師質土器	鎌 倉	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SK009	1989.08	—	—	1	B
MTN-E-026	坏	土 師 器	鎌 倉	4 0	口径 — 底径 — 器高 —	SK010	1989.07	—	—	2	B
MTN-E-027	鍋	土師質土器	鎌 倉	不明	口径 — 底径 — 器高 6.4	SK010	1989.07	9-229	—	2	B
MTN-E-028	皿	青 磁	鎌 倉	8 5	口径11.1 底径 6.1 器高 3.1	SK010	1989.07	9-167	—	2	B
MTN-E-029	碗	青 磁	鎌 倉	不明	口径15.8 底径 — 器高 5.2	SK010	1989.07	9-228	—	2	B
MTN-E-030	滑石製品	石 製 品	鎌 倉	不明	口径 — 底径 — 器高10.8	SK010	1989.07	9-230	—	2	B
MTN-E-031	碗	瓦 器	鎌 倉	4 0	口径17.0 底径 6.6 器高 6.8	SK021	1989.07	10-146	16-30	2	A
MTN-E-032	碗	青 磁	鎌 倉	3 5	口径16.2 底径 5.3 器高 6.9	SK021	1989.07	10-148	16-29	2	A
MTN-E-033	小皿	土 師 器	鎌 倉	7 0	口径 8.2 底径 6.0 器高 1.0	SD024	1989.07	11-223	17-31	2	A
MTN-E-034	小皿	土 師 器	鎌 倉	3 0	口径 8.4 底径 6.9 器高 1.3	SD024	1989.07	11-222	17-32	2	A
MTN-E-035	小皿	土 師 器	鎌 倉	1 5	口径 9.5 底径 7.4 器高 1.5	SD024	1989.07	11-221	17-33	2	A
MTN-E-036	坏	土 師 器	鎌 倉	4 0	口径15.8 底径10.5 器高 3.0	SD024	1989.08	11-164	17-34	2	A
MTN-E-037		瓦 器	鎌 倉	3 0	口径15.9 底径 5.1 器高 6.6	SD024	1989.07	11-220	17-35	2	A
MTN-E-038	小皿	青 磁	鎌 倉	4 0	口径10.0 底径 4.0 器高 2.5	SD024	1989.07	12-162	17-36	2	A
MTN-E-039	碗 (高台部)	青 磁	鎌 倉	不明	口径 — 底径 5.9 器高 —	SD024	1989.07	12-160	17-36	2	A
MTN-E-040	碗 (高台部)	青 磁	鎌 倉	不明	口径 — 底径 4.0 器高 —	SD024	1989.07	12-161	17-38	2	A

村徳永遺跡 (E地区) I 種

番号	名称	種別	時代	容量(%)	法	重量 (cm.g)	遺構名	出土年月	発掘番号	発掘ig番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-E-041	碗 (口縁部)	青磁	鎌倉	不明	口径16.2# 底径 — 器高 —	—	SD024	1889.07	12-159	17-39	2	A
MTN-E-042	碗 (口縁部)	青磁	鎌倉	不明	口径 — 底径 — 器高 —	—	SD024	1889.07	11-165	—	2	B
MTN-E-043	碗 (口縁部)	白磁	鎌倉	不明	口径16.0# 底径 — 器高 —	—	SD024	1889.07	12-163	17-40	2	A
MTN-E-044	甕	弥生土器	弥生	不明	口径 — 底径11.6 器高30.0#	—	SJ036	1889.0	13-232	8-9	3	A
MTN-E-045	甕	弥生土器	弥生	不明	口径 — 底径9.5 器高25.0#	—	SJ037	1889.08	14-158	8-8	2	A
MTN-E-046	甕	弥生土器	弥生	不明	口径 — 底径11.8 器高34.4#	—	SJ038	1889.08	15-233	8-10	4	A
MTN-E-047	甕	弥生土器	弥生	70	口径18.6# 底径8.4 器高18.3	—	SJ039	1889.08	16-147	6-7	5	A
MTN-E-048	甕	弥生土器	弥生	不明	口径26.6# 底径 — 器高9.7#	—	SK039	1889.08	17-280	8-6	5	A
MTN-E-049	皿	土師器	平安	60	口径12.8# 底径8.2# 器高2.3	—	SD040	1889.07	18-175	18-41	5	A
MTN-E-050	坏	土師器	平安	60	口径12.4# 底径7.8 器高3.9	—	SD040	1889.07	18-156	18-42	5	A
MTN-E-051	坏	土師器	平安	不明	口径 — 底径7.9 器高 —	—	SD040	1889.07	18-178	—	5	B
MTN-E-052		土師器	平安	不明	口径 — 底径9.0# 器高 —	—	SD040	1889.0	18-177	18-43	5	A
MTN-E-053		土師器	平安	40	口径12.7# 底径6.9# 器高5.5	—	SD040	1889.07	18-154	18-44	5	A
MTN-E-054		黒色土器	平安	不明	口径 — 底径7.2# 器高 —	—	SD040	1889.08	18-155	18-45	5	A
MTN-E-055		黒色土器	平安	不明	口径 — 底径8.4 器高 —	—	SD040	1889.0	18-174	18-46	5	A
MTN-E-056		黒色土器	平安	不明	口径 — 底径9.4# 器高 —	—	SD040	1889.0	18-176	18-47	5	A
MTN-E-057	鉢	弥生土器	弥生	35	口径13.8# 底径5.2# 器高6.8	—	SE044	1889.0	19-224	3-4	5	A
MTN-E-058	鉢	弥生土器	弥生	70	口径12.5# 底径5.6 器高8.3	—	SE044	1889.07	19-151	3-5	5	A
MTN-E-059	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径31.6# 底径 — 器高3.4#	—	SE044	1889.07	19-226	3-1	5	A
MTN-E-060	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径 — 底径8.2 器高5.0#	—	SE044	1889.07	19-225	3-3	5	A

村徳永遺跡 (E地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	残 量 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	当番Fig番号	コンテナー番号	A・Bの別
MTN-E-061	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径30.8㎜ 底径 — 器高 3.6㎝	SE044	1989.07	19-227	3-2	5	A
MTN-E-062	小皿	土 師 器	鎌 倉	完形	口径 8.3 底径 6.9 器高 1.3	SK096	1989.08	20-261	—	5	B
MTN-E-063	滑石製品	石 製 品	鎌 倉	完形	口径 — 底径 — 器高 —	SE002	1989.07	—	—	1	B
MTN-E-064	土錘	土 製 品	鎌 倉	完形	口径 — 底径 — 器高 —	SK039	1989.08	—	—	5	B
MTN-E-065	勾玉状土製品	土 製 品	—	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SD083	1989.08	—	—	5	B

村徳永遺跡 (E地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	質 量 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘経緯	発掘fig番号	コンナ番号	A・Bの別
MTN-F-001	手型	弥生土器	弥 生	完形	口径6.8 底径3.0 器高4.3	SD001	1989.09	2-207	80-169	1	A
MTN-F-002	鉢	弥生土器	弥 生	20	口径10.0㎜ 底径4.2㎜ 器高4.8	SD001	1989.08	2-206	80-170	1	A
MTN-F-003	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径19.5㎜ 底径 — 器高27.9㎝	SD001	1989.08	1-77	80-168	1	A
MTN-F-004	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径20.2㎜ 底径 — 器高14.1㎝	SD001	1989.08	3-212	80-165	1	A
MTN-F-005	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径6.5 器高12.0㎝	SD001	1989.09	2-209	80-167	1	A
MTN-F-006	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径7.8 器高11.6㎝	SD001	1989.09	3-211	80-166	1	A
MTN-F-007	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径7.9 器高8.6㎝	SD001	1989.08	2-210	—	1	A
MTN-F-008	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径17.4㎜ 器高 — 器高3.3㎝	SD001	1989.08	4-450	—	1	A
MTN-F-009	支脚	弥生土器	弥 生	70	口径8.1 器高11.1㎜ 器高10.7	SD001	1989.07	2-208	80-171	1	A
MTN-F-010	支脚	弥生土器	弥 生	30	口径6.2 器高13.2㎜ 器高10.2	SD001	1989.07	4-449	80-172	1	A
MTN-F-011	甕	縄文土器	縄 文	不明		SE002	1989.09	7-33	—	2	B
MTN-F-012	鉢	弥生土器	弥 生	80	口径8.5 底径3.3 器高5.3	SE002	1989.08	6-26	60-69	2	A
MTN-F-013	鉢	弥生土器	弥 生	25	口径12.5㎜ 底径4.7 器高6.9	SE002	1989.	6-27	60-70	2	A
MTN-F-014	鉢	弥生土器	弥 生	90	口径15.9 底径6.0 器高9.2	SE002	1989.	6-24	60-67	2	A
MTN-F-015	鉢	弥生土器	弥 生	完形	口径16.5 底径6.4 器高11.9	SE002	1989.	6-23	60-68	2	A
MTN-F-016	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径16.0 底径 — 器高6.3	SE002下層	1989.09	8-577	60-72	2	A
MTN-F-017	壺 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径6.2 器高6.4㎝	SE002	1989.09	11-583	60-73	2	A
MTN-F-018	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径16.8㎜ 底径 — 器高13.2㎝	SE002	1989.	7-32	60-71	2	A
MTN-F-019	甕	弥生土器	弥 生	95	口径17.6 底径9.0 器高19.2	SE002	1989.	6-25	60-76	2	A
MTN-F-020	甕	弥生土器	弥 生	60	口径19.2㎜ 底径8.2 器高18.8	SE002	1989.	9-30	60-74	2	A

村徳永遺跡 (F地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	厚 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘層	明治器Fi番号	工ナリ番号	A・Bの別
MTN-F-021	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.2㎝ 底径 — 器高17.5㎝	SE002埋土下層	1989.09	7-31	60-80	3	A
MTN-F-022	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径20.8㎝ 底径 — 器高8.8㎝	SE002埋土下層	1989.	10-34	—	3	B
MTN-F-023	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.0㎝ 底径 — 器高10.8㎝	SE002埋土下層	1989.	8-574	60-78	3	A
MTN-F-024	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径20.8㎝ 底径 — 器高6.1㎝	SE002埋土下層	1989.08	8-575	60-77	3	A
MTN-F-025	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径28.0㎝ 底径 — 器高6.6㎝	SE002埋土下層	1989.09	8-576	60-79	3	A
MTN-F-026	甕	弥生土器	弥 生	40	口径38.6㎝ 底径10.0 器高37.6	SE002埋土下層	1989.09	5-50	61-84	3	A
MTN-F-027	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径8.8 器高20.3㎝	SE002埋土下層	1989.09	12-49	—	4	B
MTN-F-028	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径9.0 器高21.1㎝	SE002埋土下層	1989.09	9-28	—	4	B
MTN-F-029	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径9.2 器高6.0㎝	SE002	1989.	8-579	60-81	4	A
MTN-F-030	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径9.6 器高8.7㎝	SE002	1989.	11-580	60-83	4	A
MTN-F-031	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径8.7 器高7.0㎝	SE002	1989.	11-581	60-82	4	A
MTN-F-032	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径9.5 器高12.3㎝	SE002	1989.	11-582	—	4	A
MTN-F-033	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径13.8 器高12.0㎝	SE002	1989.	10-35	60-75	4	A
MTN-F-034	坏	土師器	平 安	90	口径11.5 底径7.4 器高3.5	SK003	1989.08	13-181	86-207	4	A
MTN-F-035	坏	土師器	平 安	完形	口径11.8 底径7.8 器高3.7	SK003	1989.08	13-182	86-208	4	A
MTN-F-036	坏	土師器	平 安	90	口径12.2㎝ 底径7.5 器高3.7	SK003	1989.08	13-183	86-205	4	A
MTN-F-037		土師器	平 安	90	口径11.8 底径8.7 器高3.4	SK003	1989.08	14-184	86-206	4	A
MTN-F-038	碗	青磁	鎌倉	不明	口径 — 底径6.0 器高4.8㎝	SK009	1989.07	15-185	—	4	B
MTN-F-039	鍋 (高台部)	土師質土器	鎌倉	不明	口径44.8㎝ 底径 — 器高12.3㎝	SK009	1989.07	15-186	—	4	B
MTN-F-040	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径26.4㎝ 底径 — 器高9.2㎝	SB011	1989.0	16-513	25-12	5	A

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	系図番号	写真fig番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-041	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径21.4㎝ 底径 — 器高 8.2㎝	S B 0 1 1 P 1	1989.	16-517	25- 11	5	A
MTN-F-042	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.8㎝ 器高 5.1㎝	S B 0 1 1 P 3	1989.	16-515	25- 13	5	A
MTN-F-043	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.0㎝ 器高 5.0㎝	S B 0 1 1 P 3	1989.	16-516	25- 14	5	A
MTN-F-044	鉢 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径22.0㎝ 底径 — 器高 4.1㎝	S B 0 1 1 P 2	1989.	16-514	25- 10	5	A
MTN-F-045	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径27.4㎝ 底径 — 器高 5.3㎝	S B 0 1 2 P 3	1989.10	17-526	27- 15	5	A
MTN-F-046	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.0㎝ 底径 — 器高 6.1㎝	S B 0 1 3 P 3	1989.09	18-518	27- 17	5	A
MTN-F-047	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径26.0㎝ 底径 — 器高 3.8㎝	S B 0 1 3 P 1	1989.09	18-520	27- 16	5	A
MTN-F-048	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.5 器高11.6㎝	S B 0 1 3 P 1	1989.	18-519	27- 18	5	A
MTN-F-049	高 坏	弥生土器	弥 生	不明	口径20.4㎝ 底径 — 器高 5.3㎝	S B 0 1 5 P 1	1989.10	19-593	29- 19	5	A
MTN-F-050	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径22.4㎝ 底径 — 器高 6.2㎝	S B 0 1 5 P 1	1989.10	19-594	29- 20	5	A
MTN-F-051	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 6.3㎝	S B 0 1 5	1989.10	19-595	—	5	B
MTN-F-052	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径27.6㎝ 底径 — 器高 4.0㎝	S B 0 1 8 P 4	1989.08	20-512	—	5	B
MTN-F-053	鉢	弥生土器	弥 生	完形	口径14.2 底径 6.6 器高10.2	S E 0 2 1	1989.09	21-517	64- 96	5	A
MTN-F-054	鉢	弥生土器	弥 生	9 5	口径18.3 底径 7.0 器高10.4	S E 0 2 1	1989.09	22- 57	64- 97	5	A
MTN-F-055	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径18.6㎝ 底径 — 器高 —	S E 0 2 1	1989.09	21- 52	64- 98	5	A
MTN-F-056	鉢	弥生土器	弥 生	7 0	口径25.8㎝ 底径 9.3㎝ 器高16.0	S E 0 2 1	1989.09	23- 3	64-101	5	A
MTN-F-057	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径26.5㎝ 底径 — 器高11.4㎝	S E 0 2 1	1989.	25- 4	64-100	5	A
MTN-F-058	鉢	弥生土器	弥 生	6 5	口径36.6㎝ 底径12.0㎝ 器高30.6	S E 0 2 1	1989.	30- 47	64- 99	6	A
MTN-F-059	壺 (丹塗)	弥生土器	弥 生	7 0	口径11.0㎝ 底径 6.0 器高11.0	S E 0 2 1	1989.09	24- 54	63- 87	7	A
MTN-F-060	壺 (丹塗)	弥生土器	弥 生	9 0	口径12.1 底径 6.5 器高10.6	S E 0 2 1	1989.09	24- 55	63- 86	7	A

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率(%)	法 量 (cm.g)	遺 構 名	出土年月	発掘Fig番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-061	壺 (丹塗)	弥生土器	弥 生	8 0	口径12.4 底径6.0 器高11.7	SE021	1989.09	24-53	63-88	7 A
MTN-F-062	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径13.6# 底径 — 器高5.0#	SE021	1989.09	24-56	63-89	7 A
MTN-F-063	壺	弥生土器	弥 生	8 0	口径15.3 底径8.3# 器高16.4	SE021	1989.09	28-2	63-90	7 A
MTN-F-064	壺	弥生土器	弥 生	4 0	口径13.4# 底径9.0 器高18.1	SE021	1989.09	25-5	63-95	7 A
MTN-F-065	蓋	弥生土器	弥 生	5 0	口径12.4 底径 — 器高1.9	SE021	1989.09	25-6	63-85	7 A
MTN-F-066	袋状口縁壺 (丹塗)	弥生土器	弥 生	完形	口径8.2 底径6.0 器高28.9	SE021	1989.09	26-48	63-92	7 A
MTN-F-067	袋状口縁壺 (丹塗)	弥生土器	弥 生	不明	口径10.0 底径 — 器高9.7#	SE021	1989.09	25-7	63-91	7 A
MTN-F-068	広口壺	弥生土器	弥 生	不明	口径20.8# 底径 — 器高17.9#	SE021	1989.09	21-22	63-94	8 A
MTN-F-069	広口壺	弥生土器	弥 生	7 0	口径24.4 底径11.4 器高33.1	SE021	1989.09	27-8	63-93	8 A
MTN-F-070	甕	弥生土器	弥 生	9 0	口径22.4 底径9.0 器高22.4	SE021	1989.09	28-1	64-104	9 A
MTN-F-071	甕	弥生土器	弥 生	4 0	口径31.7 底径9.0# 器高36.6	SE021	1989.09	29-551	65-105	9 A
MTN-F-072	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径29.4 胴径 — 器高8.8#	SE021	1989.09	31-9	64-103	1 0 A
MTN-F-073	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径30.2 胴径 — 器高6.5#	SE021	1989.09	31-10	64-102	1 0 A
MTN-F-074	手埴	弥生土器	弥 生	8 0	口径3.7 底径2.9 器高5.0	SE022	1989.	32-14	67-106	1 1 A
MTN-F-075	鉢	弥生土器	弥 生	4 0	口径24.6# 底径6.5 器高9.4	SE022	1989.	32-13	67-110	1 1 A
MTN-F-076	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径5.6 器高11.0#	SE022	1989.	32-12	67-109	1 1 A
MTN-F-077	袋状口縁壺	弥生土器	弥 生	不明	口径12.1# 底径 — 器高5.3#	SE022	1989.	34-578	67-107	1 1 A
MTN-F-078	甕	弥生土器	弥 生	6 0	口径16.3# 底径7.0 器高21.6	SE022	1989.	32-11	67-108	1 1 A
MTN-F-079	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径33.0# 底径 — 器高5.1#	SE022	1989.	33-570	67-111	1 1 A
MTN-F-080	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 胴径12.8# 器高5.2#	SE022	1989.	34-584	——	1 1 B

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	装 着 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出 土 年 月	発掘番号	コナチ番号	A・Bの別
MTN-F-081	手型	弥生土器	弥 生	9 0	口径 7.1 底径 — 器高 4.6	SE023	1989.09	38-41	1 2	A
MTN-F-082	鉢	弥生土器	弥 生	3 0	口径14.8 底径 4.2 器高 6.7	SE023	1989.09	35-213	1 2	A
MTN-F-083	鉢	弥生土器	弥 生	5 5	口径24.6 底径 9.0 器高13.5	SE023	1989.09	35-44	1 2	A
MTN-F-084	壺	弥生土器	弥 生	9 0	口径 7.8 底径 5.5 器高16.5	SE023	1989.09	36-592	1 2	A
MTN-F-085	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径13.2 底径 — 器高10.5 底径 —	SE023	1989.09	35-45	1 2	A
MTN-F-086	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.0 器高24.5 底径 —	SE023	1989.09	36-36	1 2	A
MTN-F-087	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	完形	口径11.9 底径 6.4 器高12.3	SE023	1989.09	38-42	1 2	A
MTN-F-088	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.0 器高 —	SE023	1989.09	38-43	1 2	A
MTN-F-089	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径19.5 底径 — 器高 9.4 底径 —	SE023	1989.08	35-46	1 2	A
MTN-F-090	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径25.8 底径 — 器高 7.7 底径 —	SE023	1989.08	37-585	1 2	A
MTN-F-091	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径22.2 底径 — 器高 8.7 底径 —	SE023	1989.08	37-587	1 2	A
MTN-F-092	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径16.6 底径 — 器高 6.1 底径 —	SE023	1989.08	37-588	1 2	B
MTN-F-093	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.2 器高 3.4 底径 —	SE023		37-589	1 2	A
MTN-F-094	支脚	弥生土器	弥 生	完形	口径 11.3 器高10.2	SE023		38-37	1 3	A
MTN-F-095	支脚	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高 7.6 底径 —	SE023		38-39	1 3	A
MTN-F-096	支脚	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高 5.2 底径 —	SE023		38-40	1 3	A
MTN-F-097	支脚	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高 5.8 底径 —	SE023	1989.09	37-590	1 3	A
MTN-F-098	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 9.8 底径 — 器高12.6 底径 —	SE023		38-38	1 3	A
MTN-F-099	浅鉢	縄文土器	縄 文	不明	口径19.0 底径 — 器高 5.5 底径 —	SK024	1989.10	39-566	1 3	A
MTN-F-100	壺	縄文土器	縄 文	不明	口径19.0 底径 — 器高 5.5 底径 —	SK024	1989.10	39-567	1 3	A

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	青 銅 器 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	器物番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-101	壺	縄文土器	縄 文	不明	口径15.5 底径 — 器高 9.5	SK024	1989.10	39-568	22- 6	1 3 A
MTN-F-102	甕	縄文土器	縄 文	不明	口径20.1 底径 — 器高17.9	SK024	1989.10	40- 18	22- 1	1 3 A
MTN-F-103	甕	縄文土器	縄 文	不明	口径21.8 底径 — 器高19.3	SK024	1989.10	40- 20	22- 2	1 3 A
MTN-F-104	甕 (底部)	縄文土器	縄 文	不明	口径 — 底径 7.4 器高 5.5	SK024	1989.10	40- 19	22- 4	1 3 A
MTN-F-105	甕 (底部)	縄文土器	縄 文	不明	口径 — 底径10.4 器高 4.3	SK024	1989.10	39-569	22- 3	1 3 A
MTN-F-106	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明		SK024	1989.10	—	—	1 3 B
MTN-F-107	方柱状片刃石斧	石 器	縄 文	完形	長さ 7.0 幅 2.1 重量 3.8 重量 302	SK024	1989.10	41- 21	22- 9	1 3 A
MTN-F-108	石斧	石 器	縄 文	刃部欠失	長さ17.2 幅 7.4 重量 2.7 重量 600	SK024	1989.10	41-601	22- 8	1 3 A
MTN-F-109	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.1 器高 7.7	SK031	1989.09	42-187	—	1 4 A
MTN-F-110	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径16.0 底径 — 器高 7.2	SE038	1989.09	43- 29	—	1 4 A
MTN-F-111	甕	弥生土器	弥 生	不明		SK039	1989.08	—	—	1 4 B
MTN-F-112	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明		SD040	1989.09	—	—	1 4 B
MTN-F-113	手捏	弥生土器	弥 生	完形	口径 4.9 底径 3.0 器高 3.4	SD040	1989.10	44- 85	81-175	1 4 A
MTN-F-114	手捏	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 4.6	SD040	1989.09	44- 86	—	1 4 B
MTN-F-115	手捏	弥生土器	弥 生	完形	口径 5.3 底径 2.5 器高 3.6	SD040	1989.10	44- 83	81-176	1 4 A
MTN-F-116	手捏	弥生土器	弥 生	60	口径 8.3 底径 4.4 器高 6.5	SD040	1989.09	44- 81	81-177	1 4 A
MTN-F-117	手捏	弥生土器	弥 生	完形	口径 8.9 底径 2.6 器高 5.7	SD040	1989.10	44- 82	81-178	1 4 A
MTN-F-118	台付鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.9 器高 7.8	SD040	1989.10	44- 84	82-188	1 4 A
MTN-F-119	鉢	弥生土器	弥 生	50	口径10.0 底径 4.8 器高 8.1	SD040	1989.09	44- 80	82-186	1 4 A
MTN-F-120	鉢	弥生土器	弥 生	50	口径11.0 底径 5.3 器高 7.8	SD040	1989.10	52-112	82-185	1 4 A

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘記録	写真F-ig番号	コナチ番号	A・Bの別
MTN-F-121	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径16.4㎝ 底径 — 器高9.2㎝	S D O 4 0	1989.10	48-88	82-187	1 4	A
MTN-F-122	鉢	弥生土器	弥 生	3 0	口径30.9㎝ 底径11.0㎝ 器高13.0	S D O 4 0	1989.09	45-93	82-189	1 5	A
MTN-F-123	壺	弥生土器	弥 生	5 0	口径12.4㎝ 底径6.0 器高13.8	S D O 4 0	1989.10	47-94	82-190	1 5	A
MTN-F-124	壺	弥生土器	弥 生	8 5	口径15.7 底径9.0 器高24.3	S D O 4 0	1989.10	53-113	82-191	1 5	A
MTN-F-125	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径19.0㎝ 底径 — 器高8.2㎝	S D O 4 0		55-585	82-192	1 5	A
MTN-F-126	甕	弥生土器	弥 生	4 0	口径15.4㎝ 底径5.8㎝ 器高13.4	S D O 4 0	1989.09	44-79	82-181	1 5	A
MTN-F-127	甕	弥生土器	弥 生	6 0	口径19.4㎝ 底径6.0 器高17.6	S D O 4 0	1989.10	46-90	82-182	1 5	A
MTN-F-128	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	6 0	口径21.4㎝ 底径 — 器高6.3㎝	S D O 4 0	1989.09	54-453	82-183	1 5	A
MTN-F-129	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	6 0	口径17.2㎝ 底径 — 器高17.0㎝	S D O 4 0	1989.09	46-89	82-179	1 5	A
MTN-F-130	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	6 0	口径17.6㎝ 底径 — 器高12.5㎝	S D O 4 0	1989.09	51-109	82-180	1 5	A
MTN-F-131	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	6 0	口径28.0㎝ 底径 — 器高9.9㎝	S D O 4 0	1989.09	54-451	82-184	1 5	A
MTN-F-132	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	6 0	口径25.8㎝ 底径 — 器高8.8㎝	S D O 4 0	1989.09	54-452	—	1 5	B
MTN-F-133	底部一括 1	弥生土器	弥 生	6 0	口径 — 底径7.4㎝ 器高12.4㎝	S D O 4 0	1989.10	51-108	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 2	弥生土器	弥 生	6 0	口径 — 底径7.0㎝ 器高10.1㎝	S D O 4 0	1989.10	47-95	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 3	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径8.6 器高15.1㎝	S D O 4 0	1989.10	50-104	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 4	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径7.6 器高9.7㎝	S D O 4 0	1989.10	49-103	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 5	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径7.6㎝ 器高9.1㎝	S D O 4 0	1989.10	49-101	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 6	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径9.4㎝ 器高8.0㎝	S D O 4 0	1989.10	51-107	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 7	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径8.6㎝ 器高10.9㎝	S D O 4 0	1989.10	48-96-2	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 8	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径7.7 器高7.5㎝	S D O 4 0	1989.10	51-106	—	1 6	B

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発見率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構	名	出土年月	発掘番号	写真Fig.番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-133	底部一括 9	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.2 器高16.9	SD040		1989.10	45- 87	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 10	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.9 器高 7.9	SD040		1989.10	49-100	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 11	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.0 器高 8.1	SD040		1989.10	48- 99	—	1 6	B
MTN-F-133	底部一括 12	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.0 器高10.0	SD040		1989.09	50-105	—	1 6	B
MTN-F-134	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高10.3	SD040		1989.10	48- 97	81-173	1 7	A
MTN-F-135	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高12.8	SD040		1989.10	49-102	—	1 7	B
MTN-F-136	器台	弥生土器	弥 生	5 0	口径 12.4 器高 15.7 器高18.5	SD040		1989.10	55-205	81-174	1 7	A
MTN-F-137	器台	弥生土器	弥 生	9 0	口径 9.7 器高 12.5 器高17.2	SD040		1989.10	45- 88	—	1 7	B
MTN-F-138	器台	弥生土器	弥 生	7 0	口径 10.0 器高 13.0 器高18.1	SD040		1989.09	47- 92	—	1 7	B
MTN-F-139	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 11.4 器高 — 器高14.7	SD040		1989.09	52-111	—	1 7	B
MTN-F-140	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高 15.8 器高16.5	SD040		1989.09	52-110	—	1 7	B
MTN-F-141	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高 9.9 器高13.1	SD040		1989.09	46- 91	—	1 7	B
MTN-F-142	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高 8.8 器高10.1	SD040		1989.10	47-96-1	—	1 7	B
MTN-F-143	石甕丁	石 器	弥 生	不明	長さ 5.6 幅 4.6 穿孔径 0.5	SD040		1989.09	55-602	—	1 7	B
MTN-F-144	小玉	ガラス製品	弥 生	完形		SD040		1989.08	—	—	1 7	B
MTN-F-145	鉢	弥生土器	弥 生	6 5	口径18.0 底径 6.5 器高 8.9	SK041		1989.09	56-189	74-143	1 8	A
MTN-F-146	蓋	弥生土器	弥 生	5 0	口径17.8 器高 4.5	SK041		1989.09	56-188	74-142	1 8	A
MTN-F-147	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径34.6 底径 — 器高11.4	SK041		1989.09	57-277	74-145	1 8	A
MTN-F-148	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径27.1 底径 — 器高 8.7	SK041		1989.09	58-459	—	1 8	A
MTN-F-149	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.8 底径 — 器高 7.1	SK041		1989.09	58-460	—	1 8	A

村徳永遺跡 (F地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	形 状 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	写真番号	A・Bの別
MTN-F-150	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径32.0㎝ 底径 — 器高 5.3㎝	SK041	1989.09	58-461	—	1 8 B
MTN-F-151	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径27.3㎝ 底径 — 器高 7.3㎝	SK041	1989.09	59-462	—	1 8 B
MTN-F-152	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径32.0㎝ 底径 — 器高 6.6㎝	SK041	1989.09	60-562	—	1 8 B
MTN-F-153	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径31.2㎝ 底径 — 器高 8.6㎝	SK041	1989.09	60-563	74-144	1 8 A
MTN-F-154	器台	弥生土器	弥 生	7 5	口径 14.8㎝ 口径 16.2㎝ 器高19.8	SK041	1989.09	56-191	74-141	1 8 A
MTN-F-155	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 15.2㎝ 口径 — 器高14.0㎝	SK041	1989.09	56-190	74-140	1 8 A
MTN-F-156	器台	弥生土器	弥 生	5 0	口径 9.6㎝ 口径 10.4㎝ 器高15.5㎝	SD042	1989.09	61- 78	—	1 9 B
MTN-F-157	壺	弥生土器	弥 生	9 5	口径11.3 底径 6.2 器高13.8	SB044 P1	1989.09	62-342	33- 22	1 9 A
MTN-F-158	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径14.8㎝ 底径 — 器高 4.9㎝	SB044 P3	1989.11	63-524	33- 21	1 9 A
MTN-F-159	鉢	弥生土器	弥 生	9 5	口径12.1 底径 5.0 器高10.5	SB046	1989.10	64- 73	49- 28	1 9 A
MTN-F-160	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径29.3㎝ 底径 — 器高12.5㎝	SB046		65-431	49- 31	1 9 A
MTN-F-161	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径31.8㎝ 底径 — 器高 6.4㎝	SB046		65-430	49- 33	1 9 A
MTN-F-162	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	底径 8.5 器高 6.5㎝	SB046		65-435		1 9 B
MTN-F-163	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径10.1 器高 7.9㎝	SB046	1989.10	64- 76	49- 32	1 9 A
MTN-F-164	高坏 (脚部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 16.5 器高10.0㎝	SB046	1989.10	64- 74	49- 30	1 9 A
MTN-F-165	器台 (榫部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 12.1㎝ 器高 8.0㎝	SB046	1989.10	64- 75	49- 29	1 9 A
MTN-F-166	鉢	弥生土器	弥 生	完形	口径11.6 底径 5.2 器高 7.6	SR047	1989.09	66- 63	51- 37	2 0 A
MTN-F-167	鉢	弥生土器	弥 生	完形	口径14.3 底径 4.5 器高 7.2	SR047	1989.09	66- 62	51- 38	2 0 A
MTN-F-168	鉢	弥生土器	弥 生	6 0	口径18.6㎝ 底径 8.0㎝ 器高10.3	SR047	1989.09	67- 66	51- 39	2 0 A
MTN-F-169	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径10.1 底径 — 器高13.6㎝	SR047	1989.09	66- 61	51- 41	2 0 A

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	青 草 率(%)	法 量 (cm.g)	遺 構 名	出土年月	系統群	器高Fig群	コナ分群	A・Bの別
MTN-F-170	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径14.9 底径 — 器高 7.3g	S R O 4 7	1989.09	67-67	51-40	2 0	A
MTN-F-171	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径24.0 底径 — 器高20.4g	S R O 4 7	1989.09	68-65	51-48	2 0	A
MTN-F-172	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径28.0 底径 — 器高20.5g	S R O 4 7	1989.09	69-70	51-44	2 0	A
MTN-F-173	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径22.4g 底径 — 器高 8.5g	S R O 4 7	1989.09	70-71	51-45	2 1	A
MTN-F-174	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径33.2g 底径 — 器高 6.5g	S R O 4 7	1989.09	71-427	—	2 1	B
MTN-F-175	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径31.8g 底径 — 器高 5.1g	S R O 4 7	1989.09	71-429	—	2 1	B
MTN-F-176	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径28.2g 底径 — 器高10.0g	S R O 4 7	1989.09	70-72	51-43	2 1	A
MTN-F-177	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径10.7 器高 5.9g	S R O 4 7	1989.09	71-436	51-46	2 1	A
MTN-F-178	高坏	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 — 器高10.0g	S R O 4 7	1989.09	66-64	51-42	2 1	A
MTN-F-179	器台	弥生土器	弥 生	9 5	口径 10.1 口径 10.7 器高 9.5	S R O 4 7	1989.09	67-69	51-36	2 1	A
MTN-F-180	器台	弥生土器	弥 生	7 0	口径 9.6 口径 8.3 器高15.9	S R O 4 7	1989.09	72-59	—	2 1	B
MTN-F-181	器台	弥生土器	弥 生	4 0	口径 10.5 口径 10.5 器高16.9	S R O 4 7	1989.09	72-16	51-35	2 1	A
MTN-F-182	器台	弥生土器	弥 生	5 0	口径 8.9 口径 12.6 器高17.8	S R O 4 7	1989.09	72-17	51-34	2 1	A
MTN-F-183	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 10.6 器高13.3g	S R O 4 7	1989.09	67-68	—	2 1	B
MTN-F-184	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 9.5 器高13.5g	S R O 4 7	1989.09	72-15	—	2 1	B
MTN-F-185	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 9.4 器高 6.8g	S R O 4 7	1989.09	72-60	—	2 1	B
MTN-F-186	土製品	土 製 品	弥 生	完形	長さ 3.6g 幅 1.2 穿孔径 0.5	S R O 4 7	1989.09	72-600	51-47	2 1	A
MTN-F-187	鉢	弥生土器	弥 生	2 5	口径 — 底径 — 器高12.4	S K O 5 0	1989.10	73-195	—	2 2	B
MTN-F-188	甕	弥生土器	弥 生	5 0	口径16.6 底径 8.0 器高16.2	S K O 5 0	1989.09	73-192	—	2 2	B
MTN-F-189	甕	弥生土器	弥 生	5 0	口径25.6 底径 8.8 器高26.4	S K O 5 0	1989.09	74-123	—	2 2	B

村徳永遺跡 (F 地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	容 量 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出 土 年 月	発掘番号	記録番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-190	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径30.2㎝ 底径 — 器高10.8㎝	SK050	1989.09	75-240	—	2 2	B
MTN-F-191	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径31.2㎝ 底径 — 器高 8.5㎝	SK050	1989.09	76-438	—	2 2	B
MTN-F-192	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.0 器高 8.6㎝	SK050	1989.09	77-564	—	2 2	B
MTN-F-193	底部	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SK050	1989.09	73-193	—	2 2	B
MTN-F-194	器台	弥生土器	弥 生	4 0	口径 9.0㎝ 器高 10.4㎝ 器高11.5㎝	SK050	1989.09	73-194	—	2 2	B
MTN-F-195	鉢	弥生土器	弥 生	6 0	口径15.3㎝ 底径 6.7 器高 7.9	SH051	1989.11	78-252	58-63	2 3	A
MTN-F-196	鉢	弥生土器	弥 生	7 0	口径13.7㎝ 底径 6.5 器高12.1	SH051	1989.11	78-251	58-64	2 3	A
MTN-F-197	甕	弥生土器	弥 生	6 5	口径10.2㎝ 底径 4.7 器高 9.6	SH051	1989.11	78-266	58-65	2 3	A
MTN-F-198	甕	弥生土器	弥 生	6 5	口径13.2㎝ 底径 4.5 器高13.7	SH051	1989.11	78-250	58-66	2 3	A
MTN-F-199	手捏	弥生土器	弥 生	完形	口径 5.9 底径 3.1 器高 6.6	SK053	1989.10	79-196	—	2 3	B
MTN-F-200	鉢	弥生土器	弥 生	3 0	口径11.0㎝ 底径 4.8㎝ 器高 6.4	SK053	1989.10	79-197	—	2 3	B
MTN-F-201	支脚	弥生土器	弥 生	不明	口径 3.0 底径 — 器高 4.9㎝	SK053	1989.10	80-556	—	2 3	B
MTN-F-202	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径19.6㎝ 底径 — 器高 8.5㎝	SK053	1989.10	80-552	—	2 3	B
MTN-F-203	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径22.4㎝ 底径 — 器高 5.9㎝	SK053	1989.10	80-553	—	2 3	B
MTN-F-204	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径30.2㎝ 底径 — 器高 6.2㎝	SK053	1989.10	81-463	—	2 3	B
MTN-F-205	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径35.0㎝ 底径 — 器高 5.7㎝	SK053	1989.10	81-464	—	2 3	B
MTN-F-206	底部	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.8㎝ 器高 3.6㎝	SK053	1989.10	80-554	—	2 3	B
MTN-F-207	底部	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.6㎝ 器高 8.1㎝	SK053	1989.10	80-555	—	2 3	B
MTN-F-208	甕	弥生土器	弥 生	9 5	口径 — 底径 5.3㎝ 器高13.6㎝	SE054	1989.10	82-198	72-129	2 3	A
MTN-F-209	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径51.0㎝ 底径 — 器高 5.5㎝	SR065	1989.11	83-356	—	2 4	B

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出 土 年 月	発掘番号	発掘位置番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-210	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径31.8㎝ 底径 — 器高15.4㎝	SR066	1989.11	84-269	54-57	2 4	A
MTN-F-211	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径25.6㎝ 底径 — 器高9.5㎝	SR066	1989.11	85-533	54-58	2 4	A
MTN-F-212	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径31.1㎝ 底径 — 器高20.1㎝	SR066	1989.11	86-235	53-54	2 4	A
MTN-F-213	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径25.0 底径 — 器高10.3㎝	SR066	1989.11	87-434	53-51	2 4	A
MTN-F-214	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径30.6 底径 — 器高11.0㎝	SR066	1989.11	87-433	53-53	2 4	A
MTN-F-215	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径31.4 底径 — 器高14.6㎝	SR066	1989.11	85-532	53-52	2 4	A
MTN-F-216	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径31.6 底径 — 器高16.5㎝	SR066	1989.11	88-530	—	2 4	B
MTN-F-217	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径34.0 底径 — 器高17.0㎝	SR066	1989.11	89-253	53-55	2 4	A
MTN-F-218	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SR066	1989.11	—	—	2 5	B
MTN-F-219	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.0 器高 6.4㎝	SR066	1989.11	87-437	53-49	2 5	A
MTN-F-220	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径10.0㎝ 器高 7.3㎝	SR066	1989.11	88-531	53-50	2 5	A
MTN-F-221	高坏	弥生土器	弥 生	7 0	口径28.4㎝ 器高 16.3㎝ 器高22.2	SR066	1989.11	90-180	53-56	2 5	A
MTN-F-222	鉢	弥生土器	弥 生	2 5	口径15.4㎝ 底径 4.6 器高 7.3	SB070 P 2	1989.10	91-351	34-23	2 6	A
MTN-F-223	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径24.0 底径 — 器高 7.5㎝	SB070 P 3		92-525	34-24	2 6	A
MTN-F-224	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.6㎝ 底径 — 器高 5.8㎝	SB075 P 4	1989.11	93-511	38-25	2 6	A
MTN-F-225	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径16.6㎝ 底径 — 器高 5.6㎝	SB079	1989.11	94-527	—	2 6	B
MTN-F-226	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 9.7㎝ 底径 — 器高 3.8㎝	SD081	1989.11	95-446	83-196	2 6	A
MTN-F-227	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径11.6㎝ 底径 — 器高 4.5㎝	SD081	1989.10	95-445	83-195	2 6	A
MTN-F-228	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径30.0㎝ 底径 — 器高 4.1㎝	SD081	1989.10	95-444	83-194	2 6	A
MTN-F-229	底部	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.2 器高 7.3㎝	SD081	1989.11	95-448	—	2 6	B

村徳永遺跡 (F 地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	発見率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	所在地	カフナ番号	A・Bの別
MTN-F-230	高坏 (短部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 17.2 器高14.9g	S D 0 8 1	1989.11	95-447	——	2 6	B
MTN-F-231	器台	弥生土器	弥 生	8 0	口径 16.4 口径 16.9 器高29.3	S D 0 8 1	1989.11	96-179	83-193	2 6	A
MTN-F-232	石甕丁	石 器	弥 生	不明	口径 5.1 口径 3.7 口径 0.5 口径 0.5	S D 0 8 1	1989.11	96-603	83-201	2 6	A
MTN-F-233	石甕丁	石 器	弥 生	不明	口径 5.0 口径 4.6 口径 0.4 口径 1.1	S D 0 8 1	1989.11	96-604	83-202	2 6	A
MTN-F-234	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径26.8口径 — 器高 6.2g	S R 0 9 0	1989.11	97-432	——	2 6	B
MTN-F-235	器台	弥生土器	弥 生	5 0	口径 14.4 口径 15.6 器高22.4	S D 0 9 1	1989.10	98- 58	——	2 6	B
MTN-F-236	手埴	弥生土器	弥 生	完形	口径 5.3 口径 6.0 器高 7.0	S K 0 9 4	1989.10	99-121	77-146	2 7	A
MTN-F-237	鉢	弥生土器	弥 生	完形	口径11.1 口径 4.0 器高 6.1	S K 0 9 4	1989.10	101-119	77-147	2 7	A
MTN-F-238	壺	弥生土器	弥 生	完形	口径17.3 口径 8.0 器高17.8	S K 0 9 4	1989.10	99-120	77-148	2 7	A
MTN-F-239	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径28.6口径 — 器高 7.9g	S K 0 9 4	1989.10	100-557	77-151	2 7	A
MTN-F-240	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径33.0口径 — 器高 7.4g	S K 0 9 4	1989.10	100-558	77-152	2 7	A
MTN-F-241	底部	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 7.8 器高10.8g	S K 0 9 4	1989.10	100-559	77-153	2 7	A
MTN-F-242	底部	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 8.2 器高 4.8g	S K 0 9 4	1989.10	100-560	——	2 7	B
MTN-F-243	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径27.5口径 — 器高 8.3g	S K 0 9 4	1989.10	101-118	77-149	2 7	A
MTN-F-244	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 18.4口径 器高18.8g	S K 0 9 4	1989.10	101-117	77-150	2 7	A
MTN-F-245	支脚	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 13.2口径 器高13.6g	S K 0 9 4	1989.10	102-561	——	2 7	B
MTN-F-246	甕	弥生土器	弥 生	9 0	口径20.0口径 7.2口径 器高19.5	S K 0 9 8	1989.10	103-268	——	2 8	B
MTN-F-247	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径18.2口径 — 器高 7.2g	S K 0 9 8	1989.10	104-468	——	2 8	B
MTN-F-248	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径20.4口径 — 器高11.7g	S K 0 9 8	1989.10	104-467	——	2 8	B
MTN-F-249	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.0口径 — 器高12.5g	S K 0 9 8	1989.10	104-465	——	2 8	B

村徳永遺跡 (F 地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	青 銅 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	果 物 番号	結合Fig番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-250	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径28.2㎝ 底径 — 器高18.2	SK098	1989.10	105-471	—	28	B
MTN-F-251	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径33.0㎝ 底径 — 器高8.4㎝	SK098	1989.10	106-470	—	28	B
MTN-F-252	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径37.6 底径 — 器高16.0	SK098	1989.10	106-469	—	28	B
MTN-F-253	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径10.0㎝ 器高8.3㎝	SK098	1989.10	104-466	—	28	B
MTN-F-254	器台	弥生土器	弥 生	80	口径9.7 底径12.0㎝ 器高12.8	SK098	1989.10	103-122	—	28	B
MTN-F-255	石匚丁	石 器	弥 生	不明		SK098	1989.10	—	—	28	B
MTN-F-256	砥石	石 器	弥 生	不明		SD101	1989.10	—	—	28	B
MTN-F-257	手捏	弥生土器	弥 生	完形	口径5.5 底径3.3 器高3.1	SD103	1989.10	107-203	—	28	B
MTN-F-258	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径17.6㎝ 底径 — 器高4.6㎝	SD103	1989.10	108-441	83-200	28	A
MTN-F-259	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径17.2㎝ 底径 — 器高8.0㎝	SD103	1989.10	108-442	83-197	28	A
MTN-F-260	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径19.0㎝ 底径 — 器高6.5㎝	SD103	1989.10	108-439	83-198	28	A
MTN-F-261	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径33.0㎝ 底径 — 器高4.8㎝	SD103	1989.10	108-440	83-199	28	A
MTN-F-262	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径6.2 器高4.2㎝	SD103	1989.10	108-443	—	29	B
MTN-F-263	甕	縄文土器	縄 文	不明	口径14.4 底径 — 器高6.1㎝	SE109	1989.10	109-131	—	29	B
MTN-F-264	甕	縄文土器	縄 文	不明		SE109	1989.10	109-132	—	29	B
MTN-F-265	高坏	縄文土器	縄 文	不明	口径 — 口径 — 器高5.0㎝	SE109	1989.10	110-133	—	29	B
MTN-F-266	鉢	弥生土器	弥 生	40	口径27.9㎝ 底径7.1 器高20.2	SE109	1989.10	110-128	72-135	29	A
MTN-F-267	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径19.6㎝ 底径 — 器高7.6㎝	SE109	1989.10	111-135	72-131	29	A
MTN-F-268	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径19.4㎝ 底径 — 器高8.5㎝	SE109	1989.10	111-136	72-132	29	A
MTN-F-269	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径6.8 器高15.5㎝	SE109	1989.10	110-134	72-133	29	A

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発見率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コンテナ番号	A・Bの別
MTN-F-270	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.6 $\frac{1}{4}$ 器高14.5 $\frac{1}{2}$	SE109	1989.10	109-130	29	A
MTN-F-271	釜	弥生土器	弥 生	40	口径25.3 $\frac{3}{4}$ 器高5.4	SE109	1989.10	109-129	29	A
MTN-F-272	甕	縄文土器	縄 文	50	口径 — 底径 — 器高 —	SE111下層	1989.10	—	30	B
MTN-F-273	甕 (口縁部)	縄文土器	縄 文	50	口径18.8 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 7.6 $\frac{1}{2}$	SE111	1989.10	112-572	30	B
MTN-F-274	甕 (口縁部)	縄文土器	縄 文	50	口径22.2 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 5.6 $\frac{1}{2}$	SE111上層	1989.10	112-573	30	B
MTN-F-275	甕 (口縁部)	縄文土器	縄 文	50	口径28.2 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 4.3 $\frac{1}{2}$	SE111上層	1989.10	112-571	30	B
MTN-F-276	甕 (底部)	縄文土器	縄 文	50	口径 — 底径 7.6 器高 8.0 $\frac{1}{2}$	SE111上層	1989.10	113-204	30	B
MTN-F-277	石 斧	石 器	縄 文	50		SE111上層	1989.10	—	30	B
MTN-F-278	石 斧	石 器	縄 文	50		SE111上層	1989.10	—	30	B
MTN-F-279	釜 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 8.0 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 6.0 $\frac{1}{2}$	SR113	1989.10	114-248	30	A
MTN-F-280	釜	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.9 $\frac{1}{4}$ 器高17.0 $\frac{1}{2}$	SR113	1989.10	114-292	30	A
MTN-F-281	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径31.8 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高21.7 $\frac{1}{2}$	SR113	1989.10	115-341	30	A
MTN-F-282	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径33.2 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高13.0 $\frac{1}{2}$	SR113	1989.10	116-343	30	A
MTN-F-283	甕	弥生土器	弥 生	80	口径23.8 $\frac{1}{2}$ 底径 6.6 器高24.6 $\frac{1}{2}$	SK114	1989.11	117-126	30	B
MTN-F-284	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径22.8 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高19.2 $\frac{1}{2}$	SK114	1989.11	118-529	30	B
MTN-F-285	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.9 $\frac{1}{4}$ 器高 9.9 $\frac{1}{2}$	SK116	1989.10	119-201	31	B
MTN-F-286	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.6 $\frac{1}{4}$ 器高11.7 $\frac{1}{2}$	SK120	1989.10	120-202	31	B
MTN-F-287	鉢	弥生土器	弥 生	90	口径11.7 底径 6.0 器高 6.8	SK130	1989.10	121-125	31	B
MTN-F-288	鉢一括 1	弥生土器	弥 生	不明	口径20.0 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 7.5 $\frac{1}{2}$	SK130	1989.10	123-472	31	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径20.4 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 9.6 $\frac{1}{2}$	SK130	1989.10	123-473	31	B

村徳永遺跡 (F地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出 土 年 月	発掘Fig号	コナリ号	A・Bの別
MTN-F-289	鉢	弥生土器	弥 生	8 0	口径34.4㎝ 底径10.2 器高18.1	SK130	1989.10	122-247	3 1	B
MTN-F-290	壺一括	弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	123-475	3 1	B
		弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	123-475	3 1	B
MTN-F-291	口縁部一括	弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	124-478	3 1	B
		弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	124-479	3 1	B
		弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	124-480	3 1	B
		弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	125-481	3 1	B
		弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	125-482	3 1	B
MTN-F-292	底部一括	弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	123-476	3 1	B
		弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	123-477	3 1	B
		弥生土器	弥 生	不明		SK130	1989.10	125-483	3 1	B
MTN-F-293	器台	弥生土器	弥 生	8 0	口径12.2㎝ 底径15.4 器高18.0	SK130	1989.10	121-124	3 1	B
MTN-F-294	器台	弥生土器	弥 生	5 0	口径12.4㎝ 底径14.5 器高18.4㎝	SK130	1989.10	121-276	3 1	B
MTN-F-295	手捏	弥生土器	弥 生	5 0	口径6.8㎝ 底径3.4 器高5.1㎝	SK131	1989.11	126-354	3 2	A
MTN-F-296	手捏	弥生土器	弥 生	9 0	口径9.4 底径4.0 器高5.9	SK131	1989.11	126-264	3 2	A
MTN-F-297	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径10.8㎝ 底径 — 器高10.6㎝	SK131	1989.10	127-486	3 2	A
MTN-F-298	鉢 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径3.1 器高2.4㎝	SK131	1989.11	128-490	3 2	B
MTN-F-299	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径11.5㎝ 底径 — 器高13.3㎝	SK131	1989.11	127-487	3 2	A
MTN-F-300	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径21.0㎝ 底径 — 器高15.1㎝	SK131	1989.10	126-139	3 2	A
MTN-F-301	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径8.3 器高3.5㎝	SK131	1989.11	128-489	3 2	A

村徳永遺跡 (F 地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	量 率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出 土 年 月	登録番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-302	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径14.8 底径 6.0 $\frac{1}{2}$ 器高17.8	SK131	1989.10	1262670	3 2	A
MTN-F-303	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径15.5 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 9.5 $\frac{1}{2}$	SK131	1989.10	127-488	3 2	A
MTN-F-304	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径16.6 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 6.1 $\frac{1}{2}$	SK131	1989.10	127-484	3 2	A
MTN-F-305	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径21.0 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 6.0 $\frac{1}{2}$	SK131	1989.10	127-485	3 2	A
MTN-F-306	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径35.2 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高10.1 $\frac{1}{2}$	SK131	1989.10	128-491	3 2	A
MTN-F-307	鉢	弥生土器	弥 生	4 5	口径12.8 $\frac{1}{2}$ 底径 5.0 器高 7.9 $\frac{1}{2}$	SE133	1989.11	129-115	3 3	A
MTN-F-308	鉢	弥生土器	弥 生	6 0	口径21.5 $\frac{1}{2}$ 底径 6.6 器高14.0 $\frac{1}{2}$	SE133	1989.11	129-144	3 3	A
MTN-F-309	鉢	弥生土器	弥 生	8 0	口径22.7 $\frac{1}{2}$ 底径 8.0 $\frac{1}{2}$ 器高15.5 $\frac{1}{2}$	SE133	1989.11	129-116	3 3	A
MTN-F-310	壺	弥生土器	弥 生	4 5	口径17.4 $\frac{1}{2}$ 底径 6.0 $\frac{1}{2}$ 器高16.9	SE133	1989.11	130-137	3 3	A
MTN-F-311	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径16.2 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高18.7 $\frac{1}{2}$	SK135		131-169	3 3	B
MTN-F-312	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径16.4 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 6.4 $\frac{1}{2}$	SK135	1989.11	132-495	3 3	B
MTN-F-313	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.6 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 4.2 $\frac{1}{2}$	SK135	1989.11	132-494	3 3	B
MTN-F-314	壺 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.8 器高 5.1 $\frac{1}{2}$	SK135	1989.11	132-496	3 3	B
MTN-F-315	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径28.8 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 4.3 $\frac{1}{2}$	SK135	1989.11	132-492	3 3	B
MTN-F-316	高 杯	弥生土器	弥 生	不明	口径31.0 $\frac{1}{2}$ 底径 — 器高 3.9 $\frac{1}{2}$	SK135	1989.11	132-493	3 3	B
MTN-F-317	壺	弥生土器	弥 生	9 0	口径12.5 $\frac{1}{2}$ 底径 5.2 器高12.5	SB137 P 4	1989.11	133-246	3 4	A
MTN-F-318	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.4 器高 4.2 $\frac{1}{2}$	SB137 P 2	1989.11	134-521	3 4	B
MTN-F-319	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.8 $\frac{1}{2}$ 器高11.0 $\frac{1}{2}$	SB137 P 2	1989.11	134-522	3 4	A
MTN-F-320	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.5 底径 — 器高 7.4 $\frac{1}{2}$	SK139	1989.11	135-127	3 4	B
MTN-F-321	壺	弥生土器	弥 生	5 0	口径16.6 $\frac{1}{2}$ 底径10.8 $\frac{1}{2}$ 器高25.1	SK150	1989.11	136-138	3 4	B

村徳永遺跡 (F地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	重 量(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-F-322	甕	土 師 器	古 墳	8 0	口径14.0㎝ 丸底 器高22.6	SK152	1989.09	137-200	85-203	3 4 A
MTN-F-323	壺 (口縁部)	土 師 器	古 墳	不明	口径27.4㎝ 底径 — 器高 4.7㎝	SK152	1989.09	137-199	85-204	3 4 A
MTN-F-324	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.6㎝ 底径 — 器高 5.0㎝	SB179	1989.11	138-523	—	3 4 B
MTN-F-325	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径11.4 器高29.9㎝	P34	1989.	139-231	—	3 5 B
MTN-F-326	鉢	弥生土器	弥 生	7 0	口径13.2㎝ 底径 5.8 器高 7.7㎝	P61	1989.11	140-263	—	3 5 B
MTN-F-327	鉢	弥生土器	弥 生	9 0	口径 7.6㎝ 底径 4.2 器高 8.5㎝	表採	1989.11	141-359	—	3 5 B
MTN-F-328	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.4 器高 —	表採	1989.11	141-249	—	3 5 B
MTN-F-329	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径 7.2 底径 — 器高 6.3	表採	1989.11	141-265	—	3 5 B
MTN-F-330	土器破片一括	縄文・弥生	縄文・弥生	不明		SE109・表採	1989.10	—	—	3 6 B

村徳永遺跡 (F 地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	系図番号	写真F.ig番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-G-001	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径27.8 底径 — 器高16.1	SK101	1989.10	1-508		1	
MTN-G-002	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径33.1 底径 — 器高9.2	SK101	1989.10	1-507		1	
MTN-G-003	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.8 器高18.1	SK101	1989.10	2-509		1	
MTN-G-004	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.6 器高22.0	SK101	1989.10	3-510		1	
MTN-G-005	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径15.0 底径 — 器高14.2	SK101	1989.10	4-238		1	
MTN-G-006	鉢	弥生土器	弥 生	80	口径9.2 底径 4.0 器高5.0	SH102	1989.11	5-257		1	A
MTN-G-007	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.4 底径 — 器高8.2	SH102	1989.10	5-297		1	A
MTN-G-008	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径27.6 底径 — 器高4.3	SH102	1989.11	6-400		1	A
MTN-G-009	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.7 器高19.2	SH102	1989.11	6-401		1	A
MTN-G-010	甕	弥生土器	弥 生	60	口径37.0 底径11.0 器高36.5	SH102		7-377	97-15	2 (別置)	
MTN-G-011	不明石製品	石 器	弥 生	不明	口径15.7 底径 3.3 器高1.9	SH102	1989.11	5-244	97-16	1	A
MTN-G-012	不明石製品	石 器	弥 生	不明	口径 6.4 底径 3.8 器高0.4	SH102	1989.11	5-609	97-17	1	
MTN-G-013	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.0 器高9.0	SR107	1989.11	8-389		3	
MTN-G-014	甕破片一括	弥生土器	弥 生	不明	口径18.4 底径 — 器高8.0	SD108	1989.11	9-353			
		弥生土器	弥 生	不明	口径25.3 底径 — 器高4.6	SD108	1989.11	9-390			
		弥生土器	弥 生	不明	口径26.0 底径 — 器高4.7	SD108	1989.11	9-391		3	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径17.8 底径 — 器高7.8	SD108	1989.11	9-392			
		弥生土器	弥 生	不明		SD108	1989.11	9-393			
MTN-G-015	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径10.0 器高6.5	SK111	1989.11	10-336		3	B
MTN-G-016	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.2 器高9.5	SK111	1989.11	10-337		3	B

村徳永遺跡 (G地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	青 銅 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-G-017	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.0㎝ 底径 — 器高6.3㎝	SK117	1989.11	11 -335	3	
MTN-G-018	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.0 器高13.1㎝	SK117	1989.11	12 -503	3	
MTN-G-019	紡錘車	土製品	弥 生	完形		SK117	1989.11	12 -281	3	A
MTN-G-020	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径22.0㎝ 底径 — 器高 6.8㎝	SE118	1989.11	13 -386	3	
MTN-G-021	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径10.2㎝ 底径 — 器高 5.9㎝	SE118	1989.11	14 -385	3	
MTN-G-022	甕口縁部一括	弥生土器	弥 生	不明	口径19.0㎝ 底径 — 器高 4.7㎝	SE118	1989.11	14 -373		
		弥生土器	弥 生	不明	口径26.6㎝ 底径 — 器高 7.1㎝	SE118	1989.11	15 -397		
		弥生土器	弥 生	不明	口径28.3㎝ 底径 — 器高 8.3㎝	SE118	1989.11	15 -396	3	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径18.4㎝ 底径 — 器高 6.2㎝	SE118	1989.11	13 -387		
		弥生土器	弥 生	不明	口径20.4㎝ 底径 — 器高 7.0㎝	SE118	1989.11	13 -388		
		弥生土器	弥 生	不明	口径36.8㎝ 底径 — 器高 9.4㎝	SE118	1989.11	14 -372		
		弥生土器	弥 生	不明	口径30.8㎝ 底径 — 器高 6.9㎝	SH124	1989.11	16 -502	3	
MTN-G-023	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径10.2 底径 6.3 器高 2.7	SH124	1989.11	16 -528	3	
MTN-G-024	砥石	石製品	弥 生	不明		SK131	1989.11	17 -333	3	
MTN-G-025	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径16.0㎝ 底径 — 器高 6.3㎝	SK131	1989.11	—	3	A
MTN-G-026	紡錘車	土製品	弥 生	完形		SH201 床面	1989.11	—	3	B
MTN-G-027	甕	弥生土器	弥 生	不明		SR206	1989.11	18 -256	3	
MTN-G-028	鉢	弥生土器	弥 生	30	口径16.1㎝ 底径5.2㎝ 器高 8.4	SR206	1989.11	18 -291	3	
MTN-G-029	鉢	弥生土器	弥 生	80	口径18.9㎝ 底径8.7 器高10.3	SR206	1989.11	18 -293	3	
MTN-G-030	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径8.9 器高15.1㎝	SK212	1989.11	19 -349	4	
MTN-G-031	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径18.4㎝ 底径 — 器高 4.9㎝					

村徳永遺跡 (G地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	量 重 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出 土 年 月	発掘番号	所在地	コナリ番号	A・Bの別
MTN-G-032	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径21.6㎝ 底径 — 器高6.1㎝	SK 2 1 2	1989.11	20 -497		4	
MTN-G-033	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径27.0㎝ 底径 — 器高5.4㎝	SK 2 1 2	1989.11	20 -498		4	
MTN-G-034	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径7.45㎝ 器高6.85㎝	SK 2 1 2	1989.11	20 -499		4	
MTN-G-035	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径7.2 器高6.3㎝	SK 2 1 2	1989.11	21 -501		4	
MTN-G-036	支脚	弥生土器	弥 生	不明	—	SK 2 1 2	1989.11	—		4	B
MTN-G-037	鉢	弥生土器	弥 生	7 0	口径13.1㎝ 底径6.0 器高3.6	SK 2 1 6	1989.11	22 -279		4	
MTN-G-038	鉢	弥生土器	弥 生	—	口径18.2㎝ 底径 — 器高5.4㎝	SH 3 0 1	1989.11	24 -318		4	
MTN-G-039	甕	弥生土器	弥 生	4 0	口径20.5㎝ 底径7.4㎝ 器高14.9㎝	SH 3 0 1	1989.12	23 -295		4	
MTN-G-040	甕	弥生土器	弥 生	8 0	口径20.7㎝ 底径7.9 器高20.3㎝	SH 3 0 1	1989.12	23 -245		4	A
MTN-G-041	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径29.8㎝ 底径 — 器高13.3	SH 3 0 1	1989.12	24 -317		4	
MTN-G-042	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径30.4㎝ 底径 — 器高8.5	SH 3 0 1	1989.11	25 -454		4	
MTN-G-043	高坏	弥生土器	弥 生	不明	口径24.8㎝ 底径 — 器高16.0	SH 3 0 1	1989.12	26 -296		4	
MTN-G-044	鉢	弥生土器	弥 生	2 0	口径15.8㎝ 底径7.0㎝ 器高7.7	SH 3 0 2	1989.11	27 -320		4	
MTN-G-045	高坏	弥生土器	弥 生	2 0	口径34.6㎝ 底径 — 器高12.5㎝	SH 3 0 2	1989.11	27 -321		4	
MTN-G-046	鉢	弥生土器	弥 生	2 0	口径12.0㎝ 底径4.4㎝ 器高6.7	SH 3 0 3	1989.12	28 -319		4	
MTN-G-047	石包丁	石 器	弥 生	2 0	長さ8.5㎝ 幅3.3 厚0.6 重量0.5	SH 3 0 3	1989.12	28 -605		4	
MTN-G-048	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径30.2㎝ 底径 — 器高4.9㎝	SH 3 0 3	1989.12	29 -455		4	
MTN-G-049	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.8㎝ 底径 — 器高7.2㎝	SH 3 0 3	1989.12	29 -456		4	
MTN-G-050	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径9.05 器高7.2㎝	SH 3 0 3	1989.12	29 -457		4	
MTN-G-051	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径9.0㎝ 底径 — 器高6.2㎝	SH 3 0 8	1989.12	30 -298	100-18	5	A

村徳永遺跡 (G地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	量 (%)	法	量 (cm, g)	遺 構	名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-G-052	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 —	器高 —	SH308		1989.11	—	5	B
MTN-G-053	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径14.0 ^推 底径 —	器高 7.1 ^推	SH309		1989.11	31-503	5	A
MTN-G-054	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径12.4 ^推 底径 —	器高 5.1 ^推	SH309		1989.12	31-313	5	A
MTN-G-055	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径24.4 ^推 底径 —	器高 6.3 ^推	SH309		1989.12	32-306	5	A
MTN-G-056	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径29.4 ^推 底径 —	器高 9.7 ^推	SH309		1989.12	33-302	5	A
MTN-G-057	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径20.2 ^推 底径 —	器高18.9 ^推	SH309		1989.12	34-308	5	A
MTN-G-058	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径28.6 ^推 底径 —	器高11.6 ^推	SH309		1989.12	35-301	5	A
MTN-G-059	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径29.4 ^推 底径 —	器高16.7 ^推	SH309		1989.12	36-299	5	A
MTN-G-060	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径24.8 ^推 底径 —	器高 6.4 ^推	SH309		1989.12	33-303	5	A
MTN-G-061	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.8 ^推 底径 —	器高 4.7 ^推	SH309		1989.12	37-312	5	A
MTN-G-062	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径32.4 ^推 底径 —	器高 8.1 ^推	SH309		1989.12	38-305	5	A
MTN-G-063	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径39.6 ^推 底径 —	器高 6.6 ^推	SH309		1989.12	35-300	5	A
MTN-G-064	甕一括	弥生土器	弥 生	不明	口径29.4 ^推 底径 —	器高 9.9 ^推	SH309		1989.12	32-307	5	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径27.6 ^推 底径 —	器高 8.9 ^推	SH309		1989.12	34-309	5	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径30.4 ^推 底径 —	器高 5.1 ^推	SH309		1989.12	37-311	5	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径11.4	器高24.9 ^推	SH309		1989.12	31-315	5	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径15.2 ^推 底径 —	器高 2.8 ^推	SH309		1989.12	31-316	5	B
MTN-G-065	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径34.6 ^推 口径 —	器高 7.1 ^推	SH309		1989.12	36-294	5	A
MTN-G-066	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.4 ^推 底径 —	器高11.6 ^推	SH309		1989.12	38-304	5	A
MTN-G-067	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径29.4 ^推 底径 —	器高 4.9 ^推	SH309		1989.12	37-310	5	B

村徳永遺跡 (G地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	量 率(%)	法 量 (cm.g)	遺 構 名	出 土 年 月	系 列 群	手 續 群	コ ン テ ー ナ 群	A・Bの別
MTN-G-068	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SH309	1989.12	—	—	6	B
MTN-G-069	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径11.2雫 底径 — 器高 4.5雫	SH310	1989.12	40-324	102-38	5	A
MTN-G-070	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径19.6雫 底径 — 器高 8.0雫	SH310	1989.12	39-326	102-39	5	A
MTN-G-071	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 5.6雫	SH310	1989.11	41-426	—	5	B
MTN-G-072	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径17.2雫 底径 — 器高 6.2雫	SH310	1989.11	39-328	102-36	5	A
MTN-G-073	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径32.8雫 底径 — 器高 3.5雫	SH310	1989.11	41-418	102-32	5	A
MTN-G-074	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径31.4雫 底径 — 器高 4.5雫	SH310	1989.11	41-419	102-33	5	A
MTN-G-075	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径30.0雫 底径 — 器高 6.2雫	SH310	1989.12	40-322	102-34	5	A
MTN-G-076	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径10.2 器高11.7雫	SH310	1989.12	39-325	102-35	5	A
MTN-G-077	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.6雫 器高 5.7雫	SH310	1989.11	41-424	102-37	5	A
MTN-G-078	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.6雫 器高 7.6雫	SH310	1989.12	42-458	—	5	B
MTN-G-079	高坏 (坏部)	弥生土器	弥 生	不明	口径30.0雫 底径 — 器高 5.4雫	SH310	1989.12	40-323	102-40	5	A
MTN-G-080	甕	弥生土器	弥 生	完形	口径27.3 底径12.7 器高28.6雫	SH312	1989.12	43-236	104-41	7	A
MTN-G-081	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SH312	1989.12	—	—	8	B
MTN-G-082	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SH312	1989.11	—	—	8	B
MTN-G-083	砥石	石 器	弥 生	不明	長さ16.5雫 幅15.4 厚さ 3.7	SH312	1989.12	44-327	—	8	A
MTN-G-084	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SH313	1989.12	—	—	8	B
MTN-G-085	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 —	SH313	1989.11	—	—	8	B
MTN-G-086	投弾	土 製 品	弥 生	完形	口径 — 底径 — 器高 —	SH313	1989.11	—	—	8	B
MTN-G-087	石鏃	石 器	縄 文	完形	口径 — 底径 — 器高 —	S 314	1989.12	—	—	8	B

村徳永遺跡 (G地区) I 種

番号	名称	種別	時代	容量(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-G-088	鉢	弥生土器	弥生	75	口径13.8㎝ 底径5.9 器高7.9	SH315		1989.12	45-275	8	A
MTN-G-089	石斧	弥生	弥生	不明		SK317		1989.12	—	8	B
MTN-G-090	甕	弥生土器	弥生	不明	口径30.0㎝ 底径— 器高9.1㎝	SK320		1989.11	46-330	8	A
MTN-G-091	甕	弥生土器	弥生	不明	口径27.2㎝ 底径— 器高11.4㎝	SK320		1989.11	46-332	8	A
MTN-G-092	甕	弥生土器	弥生	不明	口径20.8㎝ 底径— 器高6.9㎝	SH320		1989.11	46-331	8	A
MTN-G-093	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径20.3㎝ 底径— 器高5.2㎝	SD321		1989.11	47-368	8	A
MTN-G-094	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径33.5㎝ 底径— 器高5.4㎝	SD321		1989.11	48-420	8	A
MTN-G-095	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径32.4㎝ 底径— 器高7.3㎝	SD321		1989.11	48-417	8	A
MTN-G-096	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径28.2㎝ 底径— 器高8.6㎝	SD321		1989.11	49-365	8	A
MTN-G-097	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径30.0㎝ 底径— 器高7.0㎝	SD321		1989.12	49-366	8	A
MTN-G-098	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径9.2㎝ 器高8.4㎝	SD321		1989.12	47-369	8	A
MTN-G-099	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径8.0 器高5.7㎝	SD321		1989.12	47-367	8	B
MTN-G-100	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径— 脚部径15.4 器高15.7㎝	SD321		1989.12	47-274	8	B
MTN-G-101	甕・高坏一括	弥生土器	弥生	不明		SD321		1989.12		9	B
MTN-G-102	石斧	弥生土器	弥生	不明		SK323		1989.11	—	10	B
MTN-G-103	石斧	弥生土器	弥生	不明		SK324		1989.12	—	10	B
MTN-G-104	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径20.0㎝ 底径— 器高8.6㎝	SK326		1989.11	50-254	10	A
MTN-G-105	甕	弥生土器	弥生	不明	口径21.2㎝ 底径— 器高17.5㎝	SK326		1989.11	51-348	10	A
MTN-G-106	甕	弥生土器	弥生	不明	口径22.4㎝ 底径— 器高9.7㎝	SK326		1989.12	50-347	10	A
MTN-G-107	甕	弥生土器	弥生	不明	口径19.4㎝ 底径— 器高9.1㎝	SK326		1989.11	52-504	10	A

村徳永道跡 (G地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	発見率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	コンテナー	A・Bの別
MTN-G-108	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径23.1㎝ 底径 — 器高 8.6㎝	SK326	1989.11	52-505	10	B
MTN-G-109	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.4 器高 5.5㎝	SK326	1989.11	52-506	10	A
MTN-G-110	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.6 器高13.7㎝	SK326	1989.11	50-346	10	A
MTN-G-111	石 器	石 器	弥 生	完形		SK326	1989.11	—	10	B
MTN-G-112	石 斧	石 器	弥 生	不明		SK326	1989.11	—	10	B
MTN-G-113	砥石	石 器	弥 生	完形		SK326	1989.11	—	10	B
MTN-G-114	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径18.4㎝ 底径 — 器高 6.2㎝	SD327	1989.11	53-345	10	B
MTN-G-115	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径26.0㎝ 底径 — 器高10.0㎝	SD327	1989.11	53-344	10	B
MTN-G-116	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.4㎝ 底径 — 器高 5.0㎝	SD327	1989.11	54-421	10	B
MTN-G-117	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.5㎝ 底径 — 器高 6.3㎝	SD327	1989.11	54-422	10	B
MTN-G-118	器台	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 14.8㎝ 器高14.8㎝	SD327	1989.11	53-237	10	B
MTN-G-119	手捏	弥生土器	弥 生	完形		SB331	1989.12	—	10	A
MTN-G-120	手捏	弥生土器	弥 生	25	口径 7.2㎝ 底径 2.2㎝ 器高 4.7㎝	SB331 P1	1989.12	55-358	10	A
MTN-G-121	鉢	弥生土器	弥 生	20	口径 7.3㎝ 底径 5.4㎝ 器高 5.0	SB331 P2	1989.12	55-357	10	A
MTN-G-122	鉢	弥生土器	弥 生	完形		SB331	1989.12	—	10	A
MTN-G-123	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 4.2 器高 2.5㎝	SB331 P3	1989.12	55-374	10	B
MTN-G-124	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 9.0㎝ 器高 8.4㎝	SB331 P4	1989.12	55-376	10	A
MTN-G-125	鉢	弥生土器	弥 生	80	口径 7.8 底径 4.0 器高 6.3	SB333 P9	1989.12	56-258	10	A
MTN-G-126	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径26.0㎝ 底径 — 器高 5.4㎝	SB333 P9	1989.12	57-547	10	A
MTN-G-127	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径27.2㎝ 底径 — 器高 9.1㎝	SB333 P9	1989.12	58-548	10	B

村徳永遺跡 (G地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発見率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘F18番	コナリ科	A・Bの別
MTN-G-128	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径33.0㎝ 底径 — 器高 3.7㎝	S B 3 3 3 P 1	1989.12	58-550	1 0	A
MTN-G-129	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径17.4㎝ 底径 — 器高 5.3㎝	S B 3 3 3 P 9	1989.12	57-546	1 0	A
MTN-G-130	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径20.6㎝ 底径 — 器高 6.5㎝	S B 3 3 3 P 4	1989.12	57-545	1 0	A
MTN-G-131	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径20.2㎝ 底径 — 器高 4.9㎝	S B 3 3 3 P 1 2	1989.12	58-549	1 0	B
MTN-G-132	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径19.4㎝ 底径 — 器高 5.0㎝	S B 3 3 3	1989.12	56-423	1 0	A
MTN-G-133	柿鉢車	弥生土器	弥 生	不明	口径4.9㎝ 底径 0.4㎝ 器高 0.9㎝	S B 3 3 5 P 3	1989.12	56-428	1 0	A
MTN-G-134	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径10.6㎝ 底径 — 器高 5.6㎝	S B 3 3 5 P 1	1989.12	59-357	1 0	A
MTN-G-135	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径24.4㎝ 底径 — 器高 6.0㎝	S B 3 3 5 P 2	1989.12	60-542	1 0	A
MTN-G-136	支脚	弥生土器	弥 生	不明	口径10.2㎝ 底径 12.2㎝ 器高 11.5㎝	S B 3 3 5 P 1	1989.12	60-543	1 0	A
MTN-G-137	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径6.0㎝ 底径 — 器高 4.1㎝	S B 3 3 7 P 3	1989.12	61-395	1 1	B
MTN-G-138	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径17.0㎝ 底径 — 器高 9.9㎝	S B 3 3 7 P 1	1989.12	62-539	1 1	B
MTN-G-139	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径14.8㎝ 底径 — 器高 5.2㎝	S B 3 3 7 P 4	1989.12	62-538	1 1	B
MTN-G-140	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径8.4㎝ 底径 — 器高 5.1㎝	S B 3 3 8 P 1	1989.12	63-541	1 1	B
MTN-G-141	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径17.2㎝ 底径 — 器高 4.1㎝	S B 3 3 8 P 2	1989.12	64-394	1 1	B
MTN-G-142	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.8㎝ 底径 — 器高 5.3㎝	S B 3 3 8 P 1	1989.12	63-540	1 1	B
MTN-G-143	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.2㎝ 底径 — 器高 11.8㎝	S B 3 3 9 P 3	1989.12	65-544	1 1	A
MTN-G-144	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径25.7㎝ 底径 — 器高 4.2㎝	S B 3 4 1	1989.12	66-536	1 1	B
MTN-G-145	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.0㎝ 器高 6.6㎝	S B 3 4 1	1989.12	66-535	1 1	B
MTN-G-146	甕 (胴部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 — 器高 9.1㎝	S B 3 4 2 P 2	1989.12	67-352	1 1	B
MTN-G-147	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径23.6㎝ 底径 — 器高 6.2㎝	S B 3 4 2 P 2	1989.12	52-504	1 1	B

村徳永遺跡 (G地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	量 率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出 土 年 月	発掘記号	コナリ号	A・Bの別
MTN-G-148	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径10.0 器高 4.6	S B 3 4 3	1989.12	69-537	1 1	B
MTN-G-149	鉢	弥生土器	弥 生	7 0	口径12.4 底径 4.7 器高 7.9	S K 3 4 6	1989.12	70-255	1 1	B
MTN-G-150	鉢	弥生土器	弥 生	7 5	口径14.6 底径 5.1 器高 8.3	S K 3 4 6	1989.12	70-273	1 1	A
MTN-G-151	壺	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.4 器高24.8	S K 3 4 6	1989.12	71-409	1 1	B
MTN-G-152	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径19.9 底径 — 器高 4.9	S K 3 4 6	1989.12	72-408	1 1	B
MTN-G-153	甕 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径29.2 底径 — 器高 8.9	S K 3 4 6	1989.12	72-407	1 1	B
MTN-G-154	底部一括	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.2 器高 9.2	S K 3 4 6	1989.12	70-402	1 1	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 7.3 器高 7.7	S K 3 4 6	1989.12	72-405	1 1	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径11.9 器高 6.6	S K 3 4 6	1989.12	72-406	1 1	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.6 器高 6.9	S K 3 4 6	1989.12	70-403	1 1	B
		弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 6.1 器高 6.1	S K 3 4 6	1989.12	70-404	1 1	B
MTN-G-155	石斧	石 器	弥 生	不明		S K 3 4 6	1989.12	—	1 1	B
MTN-G-156	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径15.9 底径 — 器高 2.7	S K 3 4 8	1989.12	73-398	1 2	B
MTN-G-157	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径15.0 底径 — 器高 7.0	S K 3 4 8	1989.12	73-339	1 2	B
MTN-G-158	甕	弥生土器	弥 生	不明	口径27.8 底径 — 器高14.0	S K 3 4 8	1989.12	73-380	1 2	B
MTN-G-159	鉢	弥生土器	弥 生	6 0	口径14.5 底径 6.5 器高 8.7	S X 3 4 9	1989.12	74-378	1 2	B
MTN-G-160	高 坏	弥生土器	弥 生	6 0	口径 — 口径 15.7 器高10.5	S X 3 4 9	1989.12	74-379	1 2	B
MTN-G-161	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	6 0	口径 8.0 底径 — 器高 6.1	S E 3 5 3	1989.11	75-384	1 2	A
MTN-G-162	甕	弥生土器	弥 生	7 0	口径38.8 底径11.8 器高43.3	S E 3 5 3	1989.11	76-591	1 3	A
MTN-G-163	高 坏 (脚部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 口径 16.6 器高 6.1	S E 3 5 3	1989.11	75-383	1 2	B

村徳永遺跡 (G地区) I 種

番号	名称	種別	時代	数量(%)	法	量 (cm, g)	遺構	名	出土年月	集積番号	発掘図号	コナリ号	A・Bの別
MTN-G-164	器台	弥生土器	弥	生	5 5	口径16.0㎝ 底径10.0㎝ 器高20.8㎝	SE353		1989.11	75-382	106-44	1 2	A
MTN-G-165	石直丁	弥生土器	弥	生	不明	口径36.0㎝ 底径10.0㎝ 器高4.6㎝	SE353		1989.11	57-546	—	1 2	B
MTN-G-166	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明		SK354		1989.11	—	—	1 2	B
MTN-G-167	壺	弥生土器	弥	生	不明	口径11.6㎝ 底径 — 器高6.8㎝	SK355		1989.11	77-339	110-54	1 4	A
MTN-G-168	壺	弥生土器	弥	生	不明	口径30.8㎝ 底径 — 器高13.1㎝	SK355		1989.11	77-338	110-53	1 4	A
MTN-G-169	甕	弥生土器	弥	生	5 0	口径25.5㎝ 底径11.6㎝ 器高24.5㎝	SK355		1989.11	78-371	110-56	1 4	A
MTN-G-170	甕	弥生土器	弥	生	不明	口径32.0㎝ 底径 — 器高8.0㎝	SK355		1989.11	79-370	110-55	1 4	A
MTN-G-171	鉢	弥生土器	弥	生	7 5	口径12.6㎝ 底径6.4㎝ 器高7.6㎝	SK356		1989.11	80-270	111-67	1 4	A
MTN-G-172	鉢	弥生土器	弥	生	2 5	口径14.4㎝ 底径7.0㎝ 器高7.9㎝	SK356		1989.11	80-271	111-66	1 4	A
MTN-G-173	鉢	弥生土器	弥	生	不明	口径17.4㎝ 底径 — 器高6.9㎝	SK356		1989.11	80-362	—	1 4	B
MTN-G-174	壺 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径33.0㎝ 底径 — 器高8.3㎝	SK356		1989.11	81-364	111-65	1 4	A
MTN-G-175	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径32.7㎝ 底径 — 器高11.9㎝	SK356		1989.11	84-414	111-57	1 4	A
MTN-G-176	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径33.5㎝ 底径 — 器高7.3㎝	SK356		1989.11	82-413	111-58	1 4	A
MTN-G-177	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径27.4㎝ 底径 — 器高4.8㎝	SK356		1989.11	85-606	111-59	1 4	A
MTN-G-178	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径27.1㎝ 底径 — 器高5.8㎝	SK356		1989.11	83-412	111-60	1 4	A
MTN-G-179	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径21.4㎝ 底径 — 器高7.1㎝	SK356		1989.11	81-381	111-61	1 4	A
MTN-G-180	甕 (底部)	弥生土器	弥	生	不明	口径 — 底径8.5㎝ 器高13.5㎝	SK356		1989.11	83-411	111-62	1 4	A
MTN-G-181	甕 (底部)	弥生土器	弥	生	不明	口径 — 底径11.1㎝ 器高11.5㎝	SK356		1989.11	83-410	111-63	1 4	A
MTN-G-182	甕一拵	弥生土器	弥	生	不明		SK356		1989.11	—	—	1 5	B
MTN-G-183	蓋	弥生土器	弥	生	不明	口径 — 口径4.5㎝ 器高8.5㎝	SK356		1989.11	80-363	111-64	1 6	A

村徳永遺跡 (G地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	青 瓦 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	系圖番号	写真Fig.番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-G-184	高环 (环部)	弥生土器	弥 生	不明		SK356	1989.11	—	—	16	B
MTN-G-185	器台	弥生土器	弥 生	80	口径 7.9 器高13.7	SK356	1989.11	80-361	111- 68	16	A
MTN-G-186	器台	弥生土器	弥 生	40	口径 7.0 器高13.4	SK356	1989.11	80-272	111- 69	16	A
MTN-G-187	支脚	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 器高 8.1 器高 6.7	SK356	1989.11	86-500	—	16	B
MTN-G-188	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径21.4 底径 — 器高 8.7	SD357	1989.12	87-278	—	16	B
MTN-G-189	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径19.8 底径 — 器高 5.0	SK364	1989.12	88-334	—	16	B
MTN-G-190	壺 (口縁部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 6.6 底径 — 器高 4.4	SK369	1989.12	89-340	—	16	B
MTN-G-191	甕	弥生土器	弥 生	不明		SK374	1989.12	—	—	16	B
MTN-G-192	鐏形土製品	土 製 品	弥 生	70	幅 4.5 高さ 6.7	遺構検出面	1989.11	90-360	123- 1	16	A
MTN-G-193	鐏形土製品か	土 製 品	弥 生	不明	幅 4.1 高さ 6.7	遺構検出面	1989.11	90-607	123- 2	16	B
MTN-G-194	紡錘車	石 製 品	弥 生	30	径 5.6 厚さ 0.6	P301	1989.12	90-608	123- 3	16	B
MTN-G-195	石庖丁	石 器	弥 生	不明		遺構検出面		—	—	16	B
MTN-G-196	紡錘車	石 製 品	弥 生	75		遺構検出面		—	—	16	B
MTN-G-197	石槍	石 器		完形		表採	1989.10	—	—	16	A
MTN-G-198	石庖丁	石 器	弥 生	不明		表採	1989.10	—	—	16	B
MTN-G-199	石斧	石 器	弥 生	不明		表採	1989.11	—	—	16	B
MTN-G-200	石斧	石 器	弥 生	不明		表採	1989.12	—	—	16	B
MTN-G-201	土器破片一括	縄文土器	縄 文			表採	1989.10	—	—	16	B
MTN-G-202	鉢	弥生土器	弥 生	不明	口径28.0 底径 — 器高 5.4	SE118	1989.12	57-547	93- 8	17	A

村徳永遺跡 (G地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	発 見 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構	名	出土年月	発掘番号	写真fig番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-H-001	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径30.8 $\pm$ 底径 — 器高 7.3 $\pm$	SE001	1989.11	1-284	—	1	A
MTN-H-002	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径25.2 $\pm$ 底径 — 器高 5.4 $\pm$	SE001	1989.11	1-285	119- 4	1	A
MTN-H-003	甕 (底部)	弥生土器	弥	生	不明	口径 — 底径 8.8 $\pm$ 器高 5.0 $\pm$	SE001	1989.11	1-283	119- 5	1	A
MTN-H-004	甕 (口縁部)	弥生土器	弥	生	不明	口径19.0 $\pm$ 底径 — 器高 6.0 $\pm$	SE001	1989.11	1-286	119- 6	1	A
MTN-H-005	甕 (下半部)	弥生土器	弥	生	不明		SE001	1989.11	2-237	119- 7	1	A
MTN-H-006	土器片	縄文土器	縄	文	不明		SD003	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-007	器台	弥生土器	弥	生	不明	裾部径14.7 $\pm$ 器高12.1 $\pm$	SD003	1989.11	3-290	—	1	A
MTN-H-008	土器片一括 (3点)	縄文土器	縄	文	不明		SH004	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-009	坏	弥生土器	弥	生	80	口径 9.2 $\pm$ 底径 3.5 器高 4.6	SH004	1989.11	5-260	118- 3	1	A
MTN-H-010	甕	弥生土器	弥	生	不明	口径29.2 $\pm$ 底径 — 器高10.2 $\pm$	SH004	1989.11	4-350	118- 1	1	A
MTN-H-011	高坏 (坏部)	弥生土器	弥	生	不明	口径27.1 $\pm$ 器高 8.2 $\pm$	SH004	1989.11	5-239	118- 2	1	A
MTN-H-012	石 器	石 器			完形	長さ 3.3 幅 2.0 厚さ 0.6	SH004	1989.11	6-596	—	1	A
MTN-H-013	使用痕剥片 (安山岩)	石 器				長さ 5.4 幅 7.2 厚さ 1.9	SH004	1989.11	6-597	—	1	A
MTN-H-014	石包丁	石 器	弥	生	不明		SH004	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-015	甕	弥生土器	弥	生	ほぼ完形	口径31.0 底径 9.5 器高34.3	SJ005	1989.11	7-241	121- 8	2 (別置)	A
MTN-H-016	甕	弥生土器	弥	生	ほぼ完形	口径34.0 底径10.4 器高35.7	SJ005	1989.11	8-242	121- 9	3 (別置)	A
MTN-H-017	甕	弥生土器	弥	生	70	口径 — 底径10.4 器高35.1 $\pm$	SJ006	1989.11	9-243	121-10	4 (別置)	A
MTN-H-018	甕	弥生土器	弥	生	90	口径34.8 底径10.4 器高39.2	SJ006	1989.11	10-234	121-11	5 (別置)	A
MTN-H-019	土器片一括 (6点)	縄文土器	縄	文	不明		SJ007	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-020	甕	弥生土器	弥	生	70	口径33.0 $\pm$ 底径 5.2 器高35.5	SJ007	1989.11	11-329	121-12	6 (別置)	A

村徳永遺跡 (H地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	考 査 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	写真番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-H-021	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SE008	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-022	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.3 器高 11.7g	SE008	1989.11	12-281	—	1	A
MTN-H-023	甕 (底部)	弥生土器	弥 生	不明	口径 — 底径 8.9 器高 8.1g	SE008	1989.11	12-281	—	1	A
MTN-H-024	投弾	土製品	弥 生	完形		SE008	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-025	砥石	石製品	弥 生	不明	長さ 5.4g 幅 4.4g 厚さ 2.9	SE008	1989.11	12-288	—	1	A
MTN-H-026	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SK011	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-027	石鏃	石 器		完形		SK013	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-028	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SK016	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-029	石包丁	石 器	弥 生	不明		SK016	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-030	土器片一拵	縄文土器	縄 文	不明		SK017	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-031	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SK023	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-032	甕	縄文土器	縄 文	不明		SK025	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-033	土器片一拵	縄文土器	縄 文	不明		SK025	1989.11	—	—	1	B
MTN-H-034	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SB033	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-035	土器片一拵	縄文土器	縄 文	不明		SK034	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-036	土器片一拵	縄文土器	縄 文	不明		SK035	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-037	土器片一拵	縄文土器	縄 文	不明		SB036	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-038	器台	弥生土器	弥 生	不明	器高 5.8g	SB036	1989.11	13-289	—	7	A
MTN-H-039	土器片一拵	縄文土器	縄 文	不明		SB037	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-040	甕	弥生土器	弥 生	90	口径 13.0g 底径 6.8 器高 15.6	SK039	1989.11	14-258	—	7	A

村徳永遺跡 (H地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	発見率(%)	法	量 (cm, g)	遺 構	名	出土年月	類別番号	コナリ番号	A・Bの別
MTN-H-041	土器片	縄文土器	縄 文	不明			SK042		1989.11	—	7	B
MTN-H-042	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SB044		1989.11	—	7	B
MTN-H-043	土器片	縄文土器	縄 文	不明			SK047		1989.11	—	7	B
MTN-H-044	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SB048		1989.11	—	7	B
MTN-H-045	砥石	石製品	弥 生	不明			SB048		1989.11	—	7	B
MTN-H-046	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SK050		1989.11	—	7	B
MTN-H-047	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SK052		1989.11	—	7	B
MTN-H-048	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SK053		1989.11	—	7	B
MTN-H-049	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SK056		1989.11	—	7	B
MTN-H-050	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SK068		1989.11	—	7	B
MTN-H-051	土器片	縄文土器	縄 文	不明			SK069		1989.11	—	7	B
MTN-H-052	鉢	弥生土器	弥 生	20	口径9.6㎝底径5.6㎝器高4.0㎝		SB082		1989.11	15-355	7	A
MTN-H-053	土器片	縄文土器	縄 文	不明			SB090		1989.11	—	7	B
MTN-H-054	土器片	縄文土器	縄 文	不明			SB091		1989.11	—	7	B
MTN-H-055	土器片	縄文土器	縄 文	不明			SB095		1989.11	—	7	B
MTN-H-056	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SB096		1989.11	—	7	B
MTN-H-057	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SB099		1989.11	—	7	B
MTN-H-058	投擲	土製品	弥 生	不明	長さ2.9㎝幅2.2		SB100		1989.11	6-599	7	A
MTN-H-059	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明			SB101		1989.11	—	7	B
MTN-H-060	土器片	縄文土器	縄 文	不明			SB103		1989.11	—	7	B

村徳永遺跡 (H地区) I種

番 号	名 称	種 別	時 代	変 形 率 (%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	写真記号	コナナ番号	A・Bの別
MTN-H-061	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SB104	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-062	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SB105	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-063	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SB106	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-064	土器片一括	縄文土器	縄 文	不明		SB107	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-065	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SB110	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-066	土器片	縄文土器	縄 文	不明		SB113	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-067	土器片	縄文土器	縄 文	不明		P6	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-068	砥石	石製品	弥 生	不明		P8	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-069	土器片	縄文土器	縄 文	不明		P9	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-070	石包丁	石 器	弥 生	不明		P15	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-071	石鏃	石器(鏃)		一部欠損	長さ2.6 幅1.7 厚さ0.6 重さ一	P24	1989.11	6-598	—	7	A
MTN-H-072	土器片一括	縄文土器	縄 文	一部欠損		検出面	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-073	土製鏃飾か	土製品		完形		検出面	1989.11	—	—	7	
MTN-H-074	土器片一括	縄文土器	縄 文			包含層	1989.11	—	—	7	B
MTN-H-075	石包丁	石 器	弥 生	完形		包含層	1989.11	—	—	7	A
MTN-H-076	堅杵	木製品	弥 生	不明		SE001	1989.11	—	—	8(5重)	A
MTN-H-077	縄	木製品	弥 生	不明		SE001	1989.11	—	—	8(5重)	A
MTN-H-078	石斧柄	木製品	弥 生	不明		SE001	1989.11	—	—	8(5重)	A
MTN-H-079	石斧柄	木製品	弥 生	不明		SE001	1989.11	—	—	8(5重)	A

村徳永遺跡 (H地区) I種

佐賀市文化財調査報告書32集

村徳永遺跡 —E・F・G・H—
地区の調査—

平成2年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 ㈲大同印刷
佐賀市天神1丁目1番32号

